

水産物輸出獎勵規則左ノ通定ム

昭和七年八月五日農林省令第十七號

水産物輸出獎勵規則

- 第一條 農林大臣ハ水産物ノ輸出増進ニ關スル事業ヲ獎勵スル爲本則ニ依リ毎年度豫算ノ範圍内ニ於テ獎勵金ヲ交付ス
- 第二條 獎勵金ハ水産組合、水産組合聯合會、重要物産同業組合又ハ營利ヲ目的トセサル法人若ハ組合ニシテ農林大臣ノ適當ト認ムルモノノ行フ左ニ掲クル施設ニ要スル費用ニ對シ之ヲ交付ス
- 一 海外ニ於ケル水産物ノ販路調査ノ委託、見本品ノ配布、水産物ノ試賣其ノ他水産物ノ海外ニ於ケル販路ノ開拓又ハ擴張ニ關スル施設
 - 二 輸出水産物ノ検査ニ關スル施設
 - 三 輸出水産物ノ製造指導員ノ設置其ノ他水産物ノ輸出増進ニ關シ農林大臣ノ適當ト認ムル施設
- 第三條 獎勵金ノ額ハ前條ノ費用ノ十分ノ四以内トス但シ同條第一號ノ施設中海外ニ於ケル水産物ノ販路調査ノ委託、見本品ノ配布、水産物ノ試賣ニ對スル獎勵金ノ額ハ其ノ費用ノ範圍内トス
- 第四條 獎勵金ノ交付ヲ受ケントスル者ハ申請書ニ左ニ掲ク

ル書類ヲ添附シ毎年二月末日迄ニ農林大臣ニ之ヲ提出スヘシ

- 一 事業計畫書
 - 二 收支豫算書
- 前項ノ書類ノ外農林大臣ハ必要ト認ムル書類ノ提出ヲ命スルコトアルヘシ
- 第五條 獎勵金ノ交付ヲ受ケタル者前條第一項各號ノ書類ニ記載シタル事項ニ重要ナル變更ヲ加ヘ又ハ事業ヲ讓渡セントスルトキハ農林大臣ノ認可ヲ受クヘシ
- 第六條 獎勵金ノ交付ヲ受ケタル者ハ事業成績書及收支決算書ヲ當該事業年度終了後三月以内ニ農林大臣ニ提出スヘシ
- 第七條 獎勵金ノ交付ヲ受ケタル者獎勵金ノ全部ヲ當該年度内ニ支出スルコト能ハサルトキハ其ノ殘額ヲ次年度ニ於テ行フ同一ノ事業ニ對シ支出スル義務アルモノトス
- 第八條 農林大臣ハ獎勵金ノ交付ヲ受ケタル者ニ對シ獎勵金ノ交付ノ日ヨリ三年間何時ニモ其ノ事業ニ關スル報告ヲ爲サシメ書類、帳簿又ハ業務執行ノ情況ヲ検査シ其ノ他監督上必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得
- 第九條 本則ニ依リ農林大臣ニ提出スヘキ書類ハ地方長官ヲ經由スヘシ但シ地區力道府縣ノ區域ヲ超ユルモノニ在リテハ此ノ限ニ在ラス
- 第十條 獎勵金ノ交付ヲ受ケタル者左ノ各號ノ一ニ該當スル

場合ニ於テハ農林大臣ハ既ニ交付シタル獎勵金ノ全部又ハ一部ノ還付ヲ命スルコトアルヘシ

- 一 本則ノ規定又ハ本則ノ規定ニ依ル處分ニ違反シタルトキ
- 二 獎勵金交付ノ條件ニ違反シタルトキ
- 三 事業施行ノ方法不適當ト認メタルトキ
- 四 支出額カ豫算額ニ比シ著シク減少シタルトキ

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第四條中二月末日迄トアルハ昭和七年度ニ限り九月三十日迄トス

農山漁村共同作業場獎勵規則左ノ通定

ム

昭和七年十月三日農林省令第二十八號

農山漁村共同作業場獎勵規則

- 第一條 農林大臣ハ農山漁村共同作業場獎勵ノ爲本則ニ依リ毎年度豫算ノ範圍内ニ於テ獎勵金ヲ交付ス
- 第二條 獎勵金ハ道府縣ノ左ニ掲クル補助金ニ對シ道府縣ニ之ヲ交付ス但シ其ノ補助金ニ對シ別ニ國庫ヨリ獎勵金、補助金又ハ助成金ノ交付ヲ受クヘキ場合ハ此ノ限ニ在ラス

ル書類ヲ添附シ毎年二月末日迄ニ農林大臣ニ之ヲ提出スヘシ

- 一 町村、農會、産業組合、農事實行組合其ノ他農林大臣ノ適當ト認ムル團體カ農山漁村經濟ノ更生ヲ圖ル目的ヲ以テ農業者、林業者又ハ漁業者ノ共同作業ニ供用スル建物ノ新設又ハ増設ニ要スル費用ニ對シ交付スル補助金
 - 二 前號ノ建物ニ附屬スル工作物又ハ器具機械ノ新設又ハ増設ニ要スル費用ニ對シ交付スル補助金
- 第三條 獎勵金ノ交付ヲ受ケントスル道府縣ハ申請書ニ左ニ掲クル書類ヲ添附シ毎年二月末日迄ニ農林大臣ニ之ヲ提出スヘシ
- 一 事業計畫書
 - 二 經費豫算書
 - 三 補助ニ關スル規程
- 前項ノ書類ノ外農林大臣ハ必要ト認ムル書類ノ提出ヲ命スルコトアルヘシ
- 第四條 獎勵金ノ交付ヲ受ケタル道府縣前條第一項各號ノ書類ニ記載シタル事項ニ重要ナル變更ヲ加ヘントスルトキハ農林大臣ノ認可ヲ受クヘシ
- 第五條 獎勵金ノ交付ヲ受ケタル道府縣ハ事業成績書及經費決算書ヲ翌年六月三十日迄ニ農林大臣ニ提出スヘシ
- 第六條 獎勵金ノ交付ヲ受ケタル道府縣ハ獎勵金ノ全部ヲ當該年度内ニ支出スルコト能ハサルトキハ之ヲ事業ト共ニ當該年度後ニ繰越シ支出スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ繰越ヲ爲シタルトキハ翌年度四月十五日迄ニ農林大臣ニ之ヲ報告スヘシ

第七條 獎勵金ノ交付ヲ受ケタル道府縣左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ農林大臣ハ獎勵金ノ全部又ハ一部ノ還付ヲ命スルコトアルヘシ

- 一 本則ノ規定ニ違反シタルトキ
- 二 獎勵金交付ノ條件ニ違反シタルトキ
- 三 事業施行ノ方法不適當ト認メタルトキ
- 四 支出額カ豫算額ニ比シ著シク減少シタルトキ

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第三條中二月末日迄トアルハ昭和七年度ニ限り十一月三十日迄トス

農山漁村經濟更生計畫助成規則左ノ通定ム

昭和七年十月六日農林省令第三十號

農山漁村經濟更生計畫助成規則

- 第一條 農林大臣ハ農山漁村ノ經濟更生計畫ノ助成ヲ爲ス爲本則ニ依リ毎年度豫算ノ範圍内ニ於テ助成金ヲ交付ス
- 第二條 助成金ハ左ニ掲ケル道府縣又ハ團體ノ費用ニ對シ之ヲ交付ス但シ其ノ費用ニ對シ別ニ國庫ヨリ獎勵金、補助金

又ハ助成金ノ交付ヲ受クヘキ場合ハ此ノ限ニ在ラス

一 農山漁村經濟更生ニ關スル委員會ヲ道府縣ニ設置スル爲要スル費用

二 農山漁村經濟更生ニ關スル事務ニ從事スル專任職員ヲ道府縣ニ設置スル爲要スル費用

三 農山漁村經濟更生計畫樹立ノ爲要スル町村又ハ町村農會其ノ他町村ノ區域ヲ地區トスル產業團體（特別ノ事情アル場合ニ於テハ市町村内ノ部落又ハ之ニ準スル區域ヲ地區トスル產業團體）ノ費用ニ對シ交付スル道府縣ノ補助金

四 農山漁村經濟更生ヲ促進スル爲農會、水産會其ノ他農林大臣ノ適當ト認ムル產業團體ノ行フ經濟更生活動ノ爲要スル費用又ハ之ニ對シ交付スル道府縣ノ補助金

第三條 助成金ノ交付ヲ受ケントスル者ハ申請書ニ左ニ掲ケル書類ヲ添附シ毎年二月末日迄ニ農林大臣ニ之ヲ提出スヘシ

- 一 事業計畫書
- 二 收支豫算書

前項ノ書類ノ外農林大臣ハ必要ト認ムル書類ノ提出ヲ命スルコトアルヘシ

第四條 助成金ノ交付ヲ受ケタル者前條第一項各號ノ書類ニ記載シタル事項ニ重要ナル變更ヲ加ヘントスルトキハ農林

大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第五條 助成金ノ交付ヲ受ケタル者ハ事業成績書及收支決算書ヲ翌年度六月三十日迄ニ農林大臣ニ提出 スル

第六條 助成金ノ交付ヲ受ケタル者助成金ノ全部ヲ當該年度内ニ支出スルコト能ハサル場合ニ於テ其ノ殘額ヲ翌年度ニ繰越サントスルトキハ翌年度四月十五日迄ニ農林大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第七條 本則ニ依リ農林大臣ニ提出スヘキ書類ハ地方長官ヲ經由スヘシ

第八條 助成金ノ交付ヲ受ケタル者左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ農林大臣ハ助成金ノ全部又ハ一部ノ還付ヲ命スルコトアルヘシ

- 一 本則ノ規定ニ違反シタルトキ
- 二 助成金交付ノ條件ニ違反シタルトキ
- 三 事業施行ノ方法不適當ト認メタルトキ
- 四 支出額カ豫算額ニ比シ著シク減少シタルトキ

附則

本則ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第三條中二月末日迄トアルハ昭和七年度ニ限り十一月十五日迄トス

第二章	檀權ノ罪	七五
第三章	辱職ノ罪	七五
第四章	抗命ノ罪	七七
第五章	暴行脅迫ノ罪	七七
第六章	侮辱ノ罪	七九
第七章	逃亡ノ罪	七九
第八章	軍用物損壞ノ罪	八〇
第九章	掠奪ノ罪	八〇
第十章	俘虜ニ關スル罪	八一
第十一章	違令ノ罪	八二
海軍刑法施行法		八二
海軍刑法施行前ニ公布シタル命令ニ關スル件		八五
海軍刑法ニ適用セサル海軍所屬ノ學生		八五
生徒ニ關スル件		八六
戒嚴令		八七
要塞地帯法		八九
第一章	總則	八九
第二章	禁止及制限	八九
第三章	罰則	九一

第四章	雜則	九二
-----	----	----

入營者職業保障法……………九三

入營者職業保障法施行令……………九四

入營者職業保障法施行規則……………九五

入營者職業保障法ヲ朝鮮、臺灣及樺太ニ

施行スルノ件……………九六

關東州及南滿洲鐵道附屬地並ニ南洋群島

ニ於ケル入營者職業保障ニ關スル件……………九六

野球ノ統制並施行ニ關スル件……………九七

市町村立尋常小學校費臨時國庫補助法……………一〇三

海軍旗章令……………一〇四

第一章 總則……………一〇四

第二章 旗章揚揚法……………一〇五

第三章 識別燈……………一〇

第四章 滿艦飾、艦飾、電燈艦飾……………一一

ハ前ノ現役期間ヲ後ノ現役期間ニ、前ニ在營シタル期間ヲ後ニ在營スヘキ期間ニ通算ス但シ第十三條ノ規定ニ該當スル現役兵トシテ徵集セラレタルトキハ前ニ在營シタル期間ヲ後ニ在營スヘキ期間ニ通算セス

一 小學校ノ教職ニ就クノ資格ヲ失ヒタルトキ
二 現役ヲ終リタル日ヨリ六月ヲ經過シタル日及其ノ後ニ於テ小學校ノ教職ニ在ラサルトキ

前項ノ規定ハ短期現役兵トシテ現役中小學校ノ教職ニ就クノ資格ヲ失ヒタル者ニ之ヲ準用ス

第六十八條 本法ニ規定スルモノノ外兵役ニ關シ必要ナル届出ニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ爲サシムルコトヲ得

第六十九條 市町村長ハ兵役(第二國民兵役ヲ除ク)ニ在ル者ニ付命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ戶籍ノ欄外ニ兵役ノ略符等ヲ附スヘシ

戶籍法第三條ノ規定ハ前項ニ規定スル事務ニ之ヲ準用ス

第七十條 本法中本人ヨリ願出ヲ爲スヘキ場合ニ於テ本人事故アルトキハ戶主之ヲ爲スコトヲ得

第七十一條 本法中戶主ニ關スル規定ハ戶主未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ戶主ノ法定代理人ニ、戶主若ハ戶主ノ法定代理人未タ決定セサルトキ又ハ避クヘカラサル事故アルトキハ家族申家事ヲ擔當スル者ニ之ヲ適用ス

七十二條 本法中市長ニ關スル規定(第六十一條ノ規定ヲ

除ク)ハ區長ヲ以テ戶籍ニ關スル事務ヲ管掌スル者ト爲シタル市ニ在リテハ區長ニ之ヲ適用ス

本法中町村長ニ關スル規定ハ町村長ニ準スヘキ者ニ之ヲ適用ス

第七十三條 本法ニ規定スル學校中ニハ帝國外ノ地ニ在リテ帝國臣民ノ爲ニ設置シタル學校ニシテ勅令ノ定ムル所ニ依リ指定シタルモノヲ包含ス

第六章 罰則

第七十四條 兵役ヲ免ルル爲逃亡シ若ハ潛匿シ又ハ身體ヲ毀傷シ若ハ疾病ヲ作爲シ其ノ他詐僞ノ行爲ヲ爲シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

第七十五條 現役兵トシテ入營スヘキ者正當ノ事由ナク入營ノ期日ニ後レ十日ヲ過キタルトキハ六月以下ノ禁錮ニ處シ戰時ニ在リテ五日ヲ過キタルトキハ一年以下ノ禁錮ニ處ス前項ノ規定ハ志願ニ依リ兵籍ニ編入セラレ服役スル者ニ之ヲ準用ス

第七十六條 正當ノ事由ナク徵兵検査ヲ受ケサル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第七十七條 第二十四條ノ規定ニ依ル届出ヲ爲ササル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第七十八條 前四條ノ規定ハ何人ヲ問ハス帝國外ニ於テ其ノ罪ヲ犯シタル者ニ之ヲ適用ス

附則

本法ハ昭和二年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス
本法施行ノ際現ニ豫備役ニ在ル者ノ服役期間ハ尙従前ノ規定ニ依ル此ノ場合ニ於テハ第五十五條第二項ノ規定ヲ適用セス
本法施行ノ際現ニ補充兵役ニ在ル者ハ第一補充兵役ニ服スルモノトス

本法施行ノ際現ニ徵兵令第二十三條ノ規定ニ依リ入營ヲ延期セラレ居ル者ニ付テハ尙従前ノ例ニ依ル其ノ徵集セラルル場合ニ於ケル徵集順序ニ關シテハ第四十九條ノ例ニ依ル

兵役法施行令

昭和二年十一月勅令第三三〇號

改正
昭和三年四月勅令第五四號、昭和四年六月第一七〇號、昭和五年十一月勅令第二三二號、昭和六年八月勅令第二三〇號、昭和七年十月勅令第三〇九號、昭和七年十二月勅令第三九八號

第一章 志願ニ依リ兵籍ニ編入セラルル者ノ兵役關係

第一款 武官及武官ノ候補者

第一條 武官及海軍各科少尉候補生ノ兵役ニ關シテハ本款ニ規定スルモノノ外別ニ定ムル所ニ依ル
第二條 武官ト爲ルヘキ陸軍ノ諸生徒(幹部候補生ヲ除ク)又

ハ海軍ノ學生生徒トシテ兵籍ニ編入セラレ居ル者ノ兵役上ノ身分取扱ハ現役ニ準ス

第三條 幹部候補生ノ兵役上ノ身分取扱ニ付テハ陸軍補充令ニ規定スル修業期間ハ現役トシ爾後其ノ任官ニ至ル迄ノ期間ハ豫備役トス

第四條 兵役法第二十一條第一項但書及之ニ基ク本令ノ規定ハ武官ノ候補者ノ兵役上ノ身分取扱ニ之ヲ準用ス
兵役法第五十四條乃至第五十六條、同法第五十九條乃至第六十三條及之ニ基ク本令ノ規定ハ幹部候補生ニシテ豫備役ニ在ル者ノ召集ニ之ヲ準用ス

第五條 武官又ハ武官ノ候補者ニシテ徵兵検査ヲ受クル前ヨリ志願ニ依リ兵籍ニ編入セラレ居ル者ニ對シテハ兵籍ニ在ル間徵兵検査ヲ行フコトナシ
前項ノ規定ニ該當スル者ニシテ現役ニ服シタル期間、除附ノ期間、練習ノ爲海軍ノ艦船ニ乗組ミタル期間又ハ召集セラレタル期間ヲ通算シテ二年以上ノ者ハ其ノ期間二年ニ滿ツル日ヲ以テ徵兵終決處分ヲ經タル者ト看做ス

第六條 第二條ノ規定ニ該當スル者戰時又ハ事變ニ際スルトキハ之ヲ現役ノ實役ニ就カシムルコトヲ得幹部候補生ニ付亦同シ

第二款 志願ニ依ル兵其ノ候補者
第七條 現役兵ハ年齢十七年以上徵兵適齡未滿ノ者ニシテ現

役兵トシテ陸軍ニ在リテハ二年、海軍ニ在リテハ三年在營スルコトヲ志願スル者ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得
前項ノ規定ニ依リ現役兵ニ充ツル者ノ資格ハ兵役法及本令ノ定ムル所ニ依リ現役兵トシテ徵集セラルル者ノ資格ニ同シ
輜重兵特務兵又ハ補助看護兵ハ志願ニ依リ之ヲ採用スルコトナシ

第一項ニ規定スル年齢ハ志願ノ年ノ十二月一日ニ於ケル年齢トス
第八條 前條第一項ノ規定ニ依リ現役兵ヲランコトヲ志願シタル者ノ採否ハ陸軍兵ニ付テハ聯隊區司令官、海軍兵ニ付テハ海軍人事部長之ヲ決ス但シ海軍ニ採用スヘキ人員ハ海軍大臣ノ認可ヲ受タルコトヲ要ス

前條第一項ノ規定ニ依リ陸軍兵ニ採用シタル者ハ之ヲ採用シタル聯隊區ノ其ノ年ニ於ケル現役兵ノ配賦要員ニ充ツ
第九條 第七條第一項ノ規定ニ依リ採用セラレタル者ノ兵役ニ關シテハ兵役法ノ定ムル所ニ依リ現役兵トシテ徵集セラレタル者ノ兵役ニ同シ

第十條 海軍志願兵令ノ定ムル所ニ依リ採用セラレタル者ノ兵役ニ關シテハ同令ノ定ムル所ニ依ル
志願ニ依リ兵ト爲ル者ニシテ本令ニ規定セララルル者ノ兵役ニ關シテハ別ニ定ムル所ニ依ル

第十一條 憲兵上等兵及樂手補ノ服スヘキ兵役ハ現役、豫備

役及後備兵役トシ現役ヲ終リタル者ハ豫備役ニ豫備役ヲ終リタル者ハ後備兵役ニ服セシム

前項ノ規定ニ依リ服役スル者ニシテ年齢四十年ニ滿ツル前ニ於テ後備兵役ヲ終リタル者ハ第一國民兵役ニ服セシム

第十二條 憲兵上等兵及樂手補ノ服役期間左ノ如シ

一 現役憲兵上等兵ニ在リテハ前服役期間ヲ通算シ四年トシ樂手補ニ在リテハ之ヲ命セラレタル年ノ十二月一日ヨリ起算シテ五年トス

二 豫備役 現役ノ期間ヲ通算シテ七年四月ニ滿ツル日迄トス

三 後備兵 役前服役ヲ通算シテ十七年四月ニ滿ツル日迄トス
戰時又ハ事變ノ際其ノ他必要アル場合ニ於テハ前項第一號ニ規定スル起算ノ日ヲ變更スルコトヲ得

第一項ニ規定スル現役ノ期間ハ本人ノ願ニ依リ之ヲ延長スルコトヲ得
憲兵上等兵又ハ樂手補トシテ二年以上現役ニ在ル者成績不良ナルトキハ之ヲ現役滿期ト爲スコトヲ得

第十三條 現役ノ憲兵上等兵及樂手補ハ之ヲ營外ニ居住セシムルヲ例トス

第十四條 兵(現役兵又ハ補充兵ニ決定シタル者ヲ含ム)ニ

シテ武官又ハ陸軍ノ諸生徒若ハ海軍ノ學生生徒ノ兵籍ニ編入セラレタル者ハ當該兵籍ニ編入セラレタル日ヲ以テ兵ノ身分及服役ヲ免ス

第十五條 前條ノ規定ニ該當スル者武官又ハ陸軍ノ諸生徒若ハ海軍ノ學生生徒ヲ免セラレタルトキハ前ニ免セラレタル兵ノ身分ニ復シ兵役法第五條乃至第九條又ハ本令第九條乃至第十二條ノ規定ニ從ヒ前ノ服役ヲ繼續セシム但シ兵役法第二十一條及本令第十八條又ハ第三十八條ノ規定ニ依リ轉役スル者又ハ兵役ヲ免セラルル者ハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ハ陸軍武官服役令又ハ海軍武官服役令ノ定ムル所ニ依リ兵ト爲リタル者ニ之ヲ準用ス
第三百三十六條各號ニ掲クル期間ハ前二項ノ規定ニ依リ服役ヲ繼續スル者ノ服役期間ニ之ヲ通算ス

第十六條 兵役法又ハ本令第七條第一項ノ規定ニ依リ徵集又ハ採用セラレタル海軍兵ニシテ海軍志願兵令ノ定ムル兵籍ニ編入セラレタル者ハ當該兵籍ニ編入ノ日ヲ以テ其ノ服役ヲ免シ海軍志願兵令ノ定ムル所ニ依リ服役セシム

第十七條 陸軍現役兵ニシテ下士又ハ憲兵上等兵タランコトヲ志願シタル者ハ之ニ任用又ハ採用シ得ヘキ見込アル者ニ限り本人ノ願ニ依リ二年ヲ限り現役期間ヲ延長シ之ヲ在營セシムルコトヲ得

第十八條 兵役法第十二條、第十六條、第十八條乃至第二十

二條、第五十四條乃至第五十六條、第五十九條乃至第六十三條又ハ同法第六十五條第二項及之ニ基ク本令ノ規定ハ憲兵上等兵、樂手補及第十五條ニ規定スル兵ノ身分ニ復シタル者又ハ兵ト爲リタル者ノ服役及召集ニ之ヲ準用ス
第二十四條ノ規定ハ前項ニ掲クル兵ノ身分取扱ニ之ヲ準用ス但シ原兵科ナキトキハ主務大臣臨時其ノ者ノ屬スヘキ兵科ヲ定ム

第二章 服役

第一款 通則

第二十一條 陸軍ノ現役兵（歸休兵ヲ除ク）ハ之ヲ所屬部隊ノ兵籍ニ編入ス
陸軍ノ歸休兵、豫備兵及後備兵並ニ補充兵ハ之ヲ本籍所在ノ聯隊區ノ兵籍ニ編入シ當該聯隊區司令官ノ管轄ニ屬セシム
海軍ノ現役兵、豫備兵及後備兵ハ其ノ本籍地ヲ管轄スル鎮守府ノ兵籍ニ編入ス但シ現役兵ニ付テハ海軍大臣ハ必要ニ應ジ其ノ兵籍ノ所在ヲ變更スルコトヲ得

第二十二條

兵役法第六條乃至第八條及同法第九條第一項ノ規定ニ依リ一ノ兵役ヲ終リ他ノ兵役ニ就ク場合ニ於テハ別ニ辭令ヲ用ヒス一ノ兵役ヲ終リタル日ノ翌日ヲ以テ他ノ兵役ニ服スルモノトス

前項ノ規定ハ兵役法第九條第二項ノ規定ニ基キ兵役ニ就キ又ハ之ヲ去ル場合及同法第十八條ノ規定ニ基キ兵役ヲ去ル場合ニ之ヲ準用ス

第二十三條 現役兵トシテ入營スヘキ者入營スルニ至リタルトキハ別ニ辭令ヲ用ヒス其ノ日ヲ以テ陸軍ニ在リテハ兵科部ノ區分ニ從ヒ第三級ノ兵、海軍ニ在リテハ兵科ノ區分ニ從ヒ四等兵ヲ命セラレタルモノトス其ノ入營シタル後ニ於ケル進級ニ關シテハ本令中別段ノ規定アルモノヲ除クノ外主務大臣之ヲ定ム

前項ノ規定ハ召集セラレタル補充兵ニ之ヲ準用ス

第二十四條 上等兵又ハ之ト同等級ノ陸軍兵ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ之ヲ當該兵科部ノ一等兵又ハ之ト同等級ノ兵ト爲ス但シ當該兵科部ノ一等兵又ハ之ト同等ノ階級ナキトキハ原兵科ノ一等兵ト爲ス

一 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者但シ陸軍刑法又ハ陸軍刑法ニ依リ一年未滿ノ禁錮ノ刑ニ處セラレタル者ヲ除ク

二 陸軍懲罰令ニ依リ降等セラレタル者

三 軍紀ヲ紊リ若ハ屢法則ヲ犯シタルニ因リ又ハ品行不正ニシテ改悛ノ見込ナキニ因リ陸軍ノ諸生徒ヲ免セラレタル者ニシテ第十五條ノ規定ニ依リ兵ノ身分ニ復シタル者

第二款 短期現役兵

第二十五條 短期現役兵ハ軍事上ノ必要ニ依リ陸軍又ハ海軍ニ於テ服役セシム但シ本人ノ希望ヲ濫酌スルコトヲ得

兵役法第十條第一項但書ノ規定ニ該當スル者ハ之ヲ海軍ニ於テ服役セシムルコトヲ得

第二十六條 短期現役兵ノ服役スヘキ部隊ニ關シテハ主務大臣之ヲ定ム

第二十七條 短期現役兵ハ之ヲ陸軍ニ在リテハ歩兵科、海軍ニ在リテハ兵科ニ屬セシム

第二十八條 短期現役兵ハ陸軍ニ在リテハ入營後概ネ二月ノ後之ニ一等兵ヲ、概ネ四月ノ後之ニ上等兵ヲ命シ現役滿期ノ際之ヲ伍長ニ任シ海軍ニ在リテハ入營後概ネ一月半ノ後之ニ三等水兵ヲ、概ネ三月ノ後之ニ二等水兵ヲ、概ネ四月半ノ後之ニ一等水兵ヲ命シ現役滿期ノ際之ヲ三等兵曹ニ任ス

兵役法第十條第一項但書ノ規定ニ該當スル者ハ前項ノ規定ニ拘ラス入營後概ネ四月ノ後之ニ一等兵ヲ、概ネ六月ノ後之ニ上等兵ヲ命シ現役滿期ノ際之ヲ伍長ニ任ス

前二項ノ規定ニ依ル進級及任官ハ陸軍ニ在リテハ聯隊長、海軍ニ在リテハ進級ハ所轄長、任官ハ鎮守府司令長官之ヲ行フ

短期現役兵ニシテ在營間其ノ成績不良ナル者ハ第一項又ハ第二項ノ規定ニ依ル進級ノ一部若ハ全部又ハ任官ヲ爲サシムルコトナシ

第二十九條 短期現役兵ニシテ兵役法第六十七條第二項ノ規定ニ該當スル者アルトキハ其ノ等級ヲ免シ短期現役兵ノ籍ヨリ之ヲ除クヘシ

前條第三項ノ規定ハ前項ノ規定ニ依リ行フ處分ニ之ヲ準用ス

第三十條 短期現役兵其ノ現役中現役ニ堪ヘサルニ至リタルトキハ現役ヲ免除シ第一國民兵役ニ服セシム兵役法第二十条ノ規定ニ依リ現役ヲ免除セラレタル者小學校ノ教職ニ就クノ資格ヲ有スル者ナルトキ亦同シ

第三十八條第三項ノ規定ハ短期現役兵ノ現役免除轉役及兵役免除ノ處分ニ之ヲ準用ス

第三款 在營期間ノ短縮

第三十一條 兵役法第十一條ノ規定ニ依ル在營期間ノ短縮ハ陸軍大臣又ハ海軍大臣ノ定ムル檢定ニ合格シタル者ニ付之ヲ行フ其ノ短縮スヘキ期間ハ歩兵科ノ兵、戰車兵ヲ除クニ在リテハ六月、其ノ他ノ陸軍兵、第三十三條ニ掲クル兵

ル者ニ關シテハ主務大臣上裁ヲ經テ之ヲ定ム

第三十五條 戰時又ハ事變ノ際其ノ他必要アル場合ニ於テハ兵役法第十四條並ニ本令第三十一條第一項、第三十二條及第三十三條ノ規定ニ依ル在營期間ノ短縮ヲ行ハス又ハ其ノ短縮スヘキ期間ヲ減スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ第三十六條ノ規定ヲ準用ス

第四款 服役延期

第三十六條 兵役法第十九條ノ規定ニ依ル服役期間ノ延長及其ノ解止ニ關シテハ主務大臣臨時之ヲ定ム但シ航海中又ハ外國ニ於テ勤務中ナルトキノ海軍兵ノ服役期間ノ延長及其ノ解止ハ鎮守府司令長官之ヲ爲スコトヲ得

時機切迫シ主務大臣又ハ鎮守府司令長官ノ命ヲ待テ難キ場合ニ於テハ第一百八條第一項ニ掲クル者ハ其ノ部下ノ者ニ對シ必要ノ期間ヲ限リ服役期間ノ延長ヲ專行スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ事實ヲ具シ速ニ主務大臣ニ報告スヘシ

第三十七條 後備兵、補充兵又ハ國民兵ニシテ戰時又ハ事變ニ際シ召集ヲ令セラレタル者應召ノ日ニ於テ後備兵役、補充兵役又ハ國民兵役ノ期間ヲ過クルニ至ルヘキトキハ前條ニ規定スル主務大臣ノ命又ハ召集解除ノ命アル迄其ノ服役期間ヲ延長ス

第五款 特殊ノ轉役及免役

第三十八條 短期現役兵ヲ除クノ外兵役法第二十一條ノ規定

第七編 學事 軍事 兵役法施行令

種ヲ除ク)及海軍兵ニ在リテハ當該兵種ノ本務ニ應シ六十日以内トス
前項ノ檢定ニ合格シタル者ト雖モ在營間其ノ成績不良ナルトキハ其ノ者ニ付前項ノ規定ニ依ル短縮ヲ行ハス
兵役法第十一條第二項ノ規定ニ依ル認定ハ陸軍大臣及文部大臣之ヲ爲ス

第三十二條 兵役法第十二條ノ規定ニ依ル在營期間ノ短縮ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニ付主務大臣ニ於テ軍事上妨ケナシト認ムルトキニ限り之ヲ行フ其ノ短縮スヘキ期間ハ概ネ四十日トス

一 青年訓練所ノ訓練又ハ陸軍大臣及文部大臣ニ於テ之ト同等以上ト認定シタル訓練ヲ修了セサル者

二 前號ノ訓練ヲ修了シタル者ニシテ前條第一項ノ檢定ニ合格セサル者

三 前條第二項ノ規定ニ該當スル者

第三十三條 兵役法第十三條ノ規定ニ依リ在營期間ヲ短縮スヘキ兵種ハ輜重兵特務兵及陸軍衛生部ノ兵トス其ノ在營期間左ノ如シ

- 一 輜重兵特務兵 概ネ二月
- 二 看護兵及磨工兵 一年六月
- 三 補助看護兵 三月

第三十四條 兵役法第十四條ノ規定ニ依リ在營期間ヲ短縮ス

ニ依リ轉役スル者ノ服スヘキ兵役左ノ如シ

一 現役兵ニシテ現役ニ堪ヘサル者在營三月以上ノ者ナル時ハ之ヲ豫備役ニ、在營三月未滿ノ者ナル時ハ陸軍ニ在リテハ之ヲ第一補充兵役ニ、海軍ニ在リテハ之ヲ第二補充兵役ニ服セシメ兵役法第二十條ノ規定ニ依リ現役ヲ免除セラレタル者ハ之ヲ第二補充兵役ニ服セシム

二 現役兵ニシテ現役、豫備役及後備兵役ニ又ハ現役及補充兵役ニ堪ヘサル者ハ之ヲ第一國民兵役ニ服セシム

三 豫備兵ニシテ豫備役及後備兵役ニ堪ヘサル者又ハ後備兵若ハ補充兵ニシテ其ノ役ニ堪ヘサル者ハ之ヲ第一國民兵役ニ服セシム

前項各號ノ規定ニ依リ陸軍ノ歸休兵、豫備兵若ハ後備兵又ハ補充兵ヲ轉役セシムルノ處分ハ召集ノ際若ハ部隊編入中又ハ陸海軍ノ病院ニ收容中ノ場合ニ限り之ヲ行フ

兵役法第二十條及同法第二十一條並ニ前二項ノ規定ニ依ル陸軍兵ノ現役免除、轉役及兵役免除ノ處分ハ部隊編入中ノ者ニ付テハ聯隊長又ハ之ト同等以上ノ權アル部隊ノ長、其ノ他ノ者ニ付テハ聯隊區司令官之ヲ行ヒ海軍兵ノ現役免除、轉役及兵役免除ノ處分ハ鎮守府司令長官之ヲ行フ

第三十九條 第九十六條ノ規定ハ兵役法第二十條ノ規定ニ依ル現役免除ニ之ヲ準用ス

第六款 服役期間ノ計算

第四十條 二期ニ分チ入營セシムヘキ部隊ニ屬スル者ニシテ後期ニ入營スル者ノ現役期間ハ入營ノ月ノ一日ヨリ之ヲ起算ス

兵役法第四十五條第一項ノ規定ニ依リ入營ヲ延期セラレタル者ノ服役期間ノ計算ハ之ト同年(後期ニ入營スル者ニ在リテハ同期)ニ於テ入營スル一般ノ者ノ服役期間ノ計算ニ同シ

第四十一條 兵役法第二十一條及本令第三十八條ノ規定ニ依リ轉役シタル者ノ服役期間左ノ如シ

- 一 現役ヲ免除シ豫備役ニ編入セラレタル者ノ豫備役期間ハ前ニ服役シタル期間ヲ通算シ陸軍ニ在リテハ七年四月海軍ニ在リテハ七年ニ滿ツル日迄トス
- 二 現役ヲ免除シ補充兵役ニ編入セラレタル者ノ補充兵役ノ期間ハ前ニ服役シタル期間ヲ通算シ十二年四月ニ滿ツル日迄トス

第三章 徵集

第一款 通則

第四十二條 本章中市又ハ市長ニ關スル規定ハ東京市、京都市、大阪市、名古屋市及横濱市及神戸市ニ在リテハ本章中別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外又ハ區長ニ、町村又ハ町村長ニ關スル規定ハ町村又ハ町村長ニ準スヘキモノニ之ヲ適用ス

第四十三條 師團ハ本章中ノ規定ヲ適用シ難キ島嶼ニ於テハ地方長官ニ協議シ其ノ規定ニ付適宜ノ措置ヲ爲スコトヲ得

第二款 徵兵區

第四十四條 徵兵區ハ之ヲ師管及聯隊區トシ其ノ區域ハ陸軍管區表ノ定ムル所ニ依ル

徵兵事務執行ノ爲必要アルトキハ徵募區ヲ檢查區ニ分ツコトヲ得

徵募區及檢查區ノ區域ハ陸軍大臣之ヲ定ム

第四十五條 歩兵隊ノ兵員ハ聯隊毎ニ其ノ師管ノ一聯隊區ヨリ、他ノ兵員ハ其ノ師管ヨリ之ヲ徵集ス但シ他ノ聯隊區又ハ師管ヨリ之ヲ徵集スルコトヲ得

團隊ノ位置又ハ種類ニ依リ一箇乃至數箇ノ師管又ハ各師管ヨリ當該團隊ノ兵員ヲ徵集スルコトヲ得

海軍ノ兵員ハ各師管ヨリ之ヲ徵集ス

第三款 徵兵官

第四十六條 徵兵官ハ總理徵兵官、師管徵兵官、聯隊區徵兵官及聯隊區聯合徵兵官トス

第四十七條 總理徵兵官ハ陸軍大臣及內務大臣ヲ以テ之ニ充テ全國徵兵ノ事務ヲ統轄ス

第四十八條 師管徵兵官ハ師管内道府縣毎ニ師團長及地方長官ヲ以テ之ニ充テ師團長ヲ首座トシ徵兵ノ事務ヲ統轄ス

第四十九條 聯隊區徵兵官ハ聯隊區内道府縣毎ニ左ノ區分ニ從ヒ聯隊區司令官、當該府縣ノ兵事ニ關スル事務ヲ分掌ス

ル書記官又ハ地方事務官(以下之ヲ兵事官ト稱ス)、支廳長、市長及區長ヲ以テ之ニ充テ聯隊區司令官ヲ首座トシ徵兵事務ヲ執行ス但シ樺太ニ於ケル聯隊區徵兵官及第四號ニ掲クル聯隊區徵兵官ハ抽籤事務ヲ行ハス

- 一 支廳長ノ管轄區域以外及市以外ノ區域ニ在リテハ聯隊區司令官及兵事官
- 二 支廳長ノ管轄區域ニ在リテハ聯隊區司令官及支廳長
- 三 市(第四十二條ノ市ヲ除ク)ニ在リテハ聯隊區司令官及市長
- 四 第四十二條ノ市ノ區ニ在リテハ聯隊區司令官及區長

第五十條 聯隊區聯合徵兵官ハ第四十二條ノ市(市カ二以上ノ聯隊區ニ分屬スルトキハ其ノ分屬スル部分)及樺太ニ之ヲ置キ第四十二條ノ市ニ在リテハ聯隊區司令官、市長及區長、樺太ニ在リテハ聯隊區司令官及樺太廳長官ノ命スル支廳長ヲ以テ之ヲ充テ聯隊區司令官ヲ首座トシ抽籤事務ヲ執行ス

第五十一條 前二條ノ徵兵官事故アルトキハ聯隊區司令官ニ在リテハ師團長ノ指名スル其ノ部下ノ將校、兵事官ニ在リテハ地方長官ノ指名スル其ノ部下ノ官吏、支廳長、市長又ハ區長ニ在リテハ其ノ職務ヲ代理スル者徵兵官ノ職務ヲ代理ス

府縣カ二以上ノ聯隊區ニ分屬スルトキ又ハ第五十七條ノ規

定ニ依リ師團長カ其ノ部下ノ佐官ヲシテ聯隊區司令官ノ職務ヲ代理セシムルトキハ地方長官ハ其ノ部下ノ官吏ヲシテ

聯隊區徵兵官タル兵事官ノ職務ヲ代理セシムルコトヲ得

第五十二條 師管徵兵官、聯隊區徵兵官及聯隊區徵兵副官ハ毎年徵兵事務執行中ノ之ヲ置ク

師管徵兵官ハ師團長ニ屬シ師管内ノ身體檢查ニ關スル事務ヲ管掌ス

聯隊區徵兵官ハ聯隊區司令官ニ屬シ聯隊區内ノ身體檢查ニ關スル事務ヲ管掌ス

第五十三條 師管徵兵官ハ師團軍醫部長ヲ以テ之ニ充ツ

聯隊區徵兵官ハ陸軍三等軍醫正又ハ陸軍一等軍醫ノ内一人ヲ以テ之ニ充ツ

師團長必要ト認ムルトキハ陸軍一、二、三等軍醫ノ内二人ヲ以テ前項ノ副官ニ充ツルコトヲ得

前二項ノ規定ニ依リ陸軍一等軍醫ヲ以テ聯隊區徵兵副官ニ充ツルハ聯隊區徵兵官カ陸軍三等軍醫正ナルトキ又ハ聯隊區徵兵副官タルヘキ者カ聯隊區徵兵官ヨリ後任ナルトキニ限ル

第五十四條 戰時又ハ事變ニ際シ前條ノ規定ニ依リ難キ場合

ニ於テハ聯隊區徵兵醫官ハ陸軍一、二等軍醫正又ハ陸軍一、三等軍醫ヲ以テ、聯隊區徵兵副醫官ハ醫師免許證ヲ有スル者ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

第五十五條 徵兵検査ヲ受クヘキ者僅少ナル島嶼ニ於ケル身體検査ニ付テハ聯隊區徵兵副醫官ヲ置カサルコトヲ得

第五十六條 師團長又ハ師團軍醫部長遠隔ノ地ニ在ル爲師管徵兵官又ハ師管徵兵醫官ノ職務ヲ行ヒ難キ場合ニ於テハ陸軍大臣ノ命スル者ヲシテ其ノ職務ヲ代理セシムルコトヲ得

第五十七條 聯隊區内ノ徵兵検査ヲ受クヘキ者ノ多數其ノ他ノ事由ニ因リ陸軍大臣ノ定ムル期間内ニ徵兵検査ヲ終了シ難キトキハ師團長ハ其ノ部下ノ佐官ヲシテ徵募區又ハ検査區ヲ限リ聯隊區徵兵官タル聯隊區司令官ノ職務ヲ代理セシムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ聯隊區司令官ノ職務ヲ代理スル者ハ其ノ代理ニ關シ當該聯隊區司令官ノ區處ヲ承ク

第一項ノ規定ニ依リ徵兵事務ノ執行ニ付テハ第五十三條ノ規定ニ依リ別ニ聯隊區徵兵醫官及聯隊區徵兵副醫官ヲ置ク

第五十八條 徵兵署ニ事務員ヲ置キ庶務ニ從事セシム

前項ノ事務員ハ陸軍下士官又ハ同判任文官及道府縣市(第四十二條ノ市ニ於テハ市及區)ノ官吏員ヲ以テ之ニ充ツ地方長官ハ必要アル場合ニ於テハ町村長ニ命シ當該町村ノ吏員ヲシテ第一項ニ規定スル事務員ノ職務ヲ補助セシムル

樺太ニ在リテハ樺太廳長官之ヲ設備ス

第六十三條 師團長及地方長官ハ徵兵署ノ取締ニ關シ必要ナル措置ヲ爲スヘシ徵兵署ニ出張シタル警察官吏又ハ憲兵ハ聯隊區徵兵官又ハ聯隊區聯合徵兵官ニ對シ徵兵署ノ取締ニ關シ必要ナル協力ヲ爲スヘシ

第六十四條 徵兵處分ヲ取消シ更ニ處分ヲ爲シ其ノ他臨時ニ徵兵處分ヲ爲ス爲テ必要アルトキハ第六十一條ノ規定ニ拘ラス臨時ニ徵兵署ヲ設クルコトヲ得

第六十五條 徵兵署開設ノ期日、場所其ノ他開設ニ必要ナル事項ハ陸軍大臣ノ定ムル所ニ基キ聯隊區司令官ハ兵事官、支廳長又ハ市長(第四十二條ノ市ニ在リテハ市長及區長)ト協議シテ之ヲ定ム

第六十六條 市町村長ハ徵兵検査ヲ受クヘキ者ヲ精査シ且之ニ對シ陸軍大臣ノ定ムル所ニ依リ徵兵検査通達書ヲ交付スヘシ

徵兵検査通達書ヲ受ケタル者ハ指定ニ從ヒ徵兵署ニ出頭スヘシ

第六十七條 身體検査ハ聯隊區徵兵署内ニ設クル身體検査場ニ於テ之ヲ行フ

第六十八條 兵役法第三十二條第二項ノ規定ニ依ル標準及同法第三十三條第一項ニ規定スル體格等位左ノ如シ

- 一 現役ニ適スル者ハ身長一・五五メートル以上ニシテ身

コトヲ得

第四款 兵員配賦

第五十九條 毎年徵集スル現役兵第一補充兵ノ員數ハ陸軍大臣上裁ヲ經テ之ヲ各師管ニ配賦ス

海軍ニ徵集スル兵員ノ數ハ海軍大臣之ヲ陸軍大臣ニ移ス

第六十條 師團長ハ師管ニ配賦セラレタル員數ヲ各聯隊區ニ配賦ス

第五款 徵兵検査

第六十一條 徵兵事務(抽籤事務ヲ除ク)執行ノ爲徵募區毎ニ聯隊區徵兵署ヲ毎年設ク但シ検査區ヲ設ケタル徵募區ニ於テハ検査區毎ニ之ヲ設ク

抽籤事務執行ノ爲第四十二條ノ市及樺太ヲ除キタル區域ニ付テハ聯隊區抽籤徵兵署ヲ、第四十二條ノ市及樺太ニ付テハ聯隊區聯合抽籤徵兵署ヲ毎年設ク

第六十二條 聯隊區徵兵署ハ市ニ在リテハ市長(第四十二條ノ市ニ在リテハ區長)、支廳長ノ管轄區域ニ在リテハ支廳長、其ノ他ノ區域ニ在リテハ地方長官ニ之ヲ設備ス但シ必要アル場合ニ於テハ地方長官ハ徵兵署ヲ開設スル地ノ町村長ニ命シ設備ヲ爲サシムルコトヲ得

聯隊區抽籤徵兵署ハ地方長官之ヲ設備ス
聯隊區聯合抽籤徵兵署ハ第四十二條ノ市ニ在リテハ市長、

體强健ナル者トス

現役ニ適スル者ハ其ノ體格ノ程度ニ應シ之ヲ甲種及乙種ニ、乙種ハ之ヲ第一乙種及第二乙種ニ分ツ

- 一 國民兵役ニ適スルモ現役ニ適セサル者ハ身長一・五五メートル以上ニシテ身體乙種ニ次ク者及身長一・五〇メートル以上、一・五五メートル未滿ノ者ニシテ第三號及第四號ニ該當セサル者トス之ヲ丙種トス
- 二 兵役ニ適セサル者ハ身長一・五〇メートル未滿ノ者及左ニ掲ケル疾病其ノ他身體又ハ精神ノ異常アル者トス之ヲ丁種トス

- (イ) 全身畸形
- (ロ) 筋骨甚薄弱ナルモノ
- (ハ) 惡性腫瘍
- (ニ) 不治ノ精神病又ハ不治ノ神経系病
- (ホ) 不治ノ榮養失常
- (ヘ) 癩
- (ト) 盲
- (チ) 聾
- (リ) 啞
- (ヌ) 口蓋破裂又ハ著シキ兔唇
- (ル) 斜頸又ハ脊柱骨盤ノ畸形ニシテ運動ニ妨ケアルモノ

- (ア) 胸腰部臟器ノ慢性疾患ニシテ一般榮養状態ニ妨ケアルモノ
- (イ) 脱肛、疾瘻又ハ肛門畸形ニシテ其ノ程度重キモノ
- (カ) 泌尿生殖器ノ慢性病又ハ缺損畸形ニシテ機能障礙アルモノ
- (ク) 骨、骨膜又ハ關節ノ慢性病ニシテ其ノ程度重キモノ及其ノ繼發症
- (ク) 四肢ノ缺損、又ハ著シキ四肢ノ短縮彎曲
- (ケ) 指趾ノ缺損、強剛、癒著又ハ畸形ニシテ著シク機能障礙アルモノ
- (コ) 翻足、馬足
- (ク) 前各號ニ準スル疾病其ノ他身體又ハ精神ノ異常ニシテ陸軍大臣ノ定ムルモノ
- 四 兵役ノ適否ヲ判定シ難キ者ハ身體検査ヲ受ケタル年ニ於テハ疾病中又ハ病後其ノ他ノ事由ニ因リ甲種又ハ乙種ト判定シ難キモノ其ノ翌年ニ至ルトキハ甲種又ハ乙種ニ合格スヘキ見込アル者トス之ヲ戊種トス
- 疾病其ノ他身體又ハ精神ノ異常ニ因リ第一乙種 第二乙種、丙種又ハ丁種ト爲スヘキ細部ノ標準ハ陸軍大臣之ヲ定ム
- 第六十九條 兵役法第三十七條ノ規定ニ依リ兵役ヲ免除スルコトヲ得ル疾病其ノ他身體又ハ精神ノ異常左ノ如シ

- 一 全身畸形
- 二 不治ノ精神病ニシテ監視又ハ保護ヲ要スルモノ
- 三 癩
- 四 兩眼盲(眼前三分ノ一メートル前ニテ視標〇・一ヲ視別シ得サルモノ)
- 五 兩耳全ク聾シタルモノ
- 六 啞
- 七 腕關節又ハ足關節以上ニテ一肢ヲ缺キタルモノ
- 第七十條 聯隊區司令官ハ身體検査ノ事務ヲ監督シ身體検査ヲ受ケタル者ノ兵種ノ選定ニ任ス
- 第七十一條 聯隊區徵兵醫官ハ身體検査ヲ受クル者ノ體格等位ノ決定ニ任ス
- 第七十二條 兵事官、支廳長又ハ市長ハ徵兵検査ヲ受クル者ノ身上ニ關スル調査ニ任ス
- 第七十三條 町村長ハ徵兵署ニ出席シ徵兵官ノ諮問ニ應スヘシ
- 第七十四條 兵役法第三十三條第一項ノ規定ニ依ル現役兵及第一補充兵ノ徵集ニ關シテハ左ノ各號ニ依ル
- 一 各徵募區ニ配賦シタル現役兵及第一補充兵ハ甲種及乙種ノ者ニシテ身長一・六五メートル以上ノ者ヨリ之ヲ徵集ス但シ身長一・六五メートル以上ノ者ヲ以テ配賦人員ヲ充足スルコト能ハサルトキハ各體格等位ニ付一

様ニ遞次身長ヲ繰下ケ配賦要員ヲ充足スルコトヲ得

二 現役兵及第一補充兵ニ徵集スヘキ者ノ體格等位ノ優劣ニ依ル徵集順序ハ甲種、第一乙種及第二乙種ノ順序トス

第七十五條 徵兵検査ニ於テ區分スヘキ兵種ハ陸軍ニ在リテハ歩兵、戰車兵、騎兵、野砲兵、山砲兵、野戰重砲兵、騎砲兵、重砲兵、高射砲兵、工兵、鐵道兵、電信兵、飛行兵、氣球兵、輜重兵、輜重兵特務兵、看護兵、磨工兵及補助看護兵トシ海軍ニ在リテハ水兵、機關兵、看護兵及主計兵トス(昭和七年十一月勅令第三〇九號ヲ以テ本項ヲ改正)

前項ニ規定スル兵種ノ區分ハ現役兵及第一補充兵トシテ徵集スヘキ者ニ付之ヲ行フ

兵役法第四十六條第二項又ハ同法第四十七條第一項ノ規定ニ依リ更ニ徵兵検査ヲ爲シタル者ハ前年ニ於テ決定シタル兵種ニ之ヲ選定ス但シ陸軍大臣ノ定ムル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第七十六條 抽籤ハ聯隊區徵兵署ニ於ケル事務修了後聯隊區抽籤徵兵署ニ於テ徵募區毎ニ之ヲ行フ但シ第四十二條ノ市ノ徵募區及樺太ニ在リテハ聯隊區聯合抽籤徵兵署ニ於テ之ヲ行フ

兵役法第三十三條第一項ノ規定ニ依リ抽籤スル場合ニ於ケル兵種ハ前條第一項ニ規定スル區分ニ從フ

第七十七條 抽籤ハ第四十二條ノ市及樺太ヲ除キタル區域ニ在リテハ聯隊區徵兵官、第四十二條ノ市及樺太ニ在リテハ聯隊區聯合徵兵官列席シ抽籤總代人ヲシテ之ヲ爲サシム

支廳長カ聯隊區徵兵官トシテ抽籤ニ列席シ難キトキハ地方長官ハ兵事官又ハ部下ノ他ノ官吏ヲシテ聯隊區徵兵官タル支廳長ノ代理トシテ抽籤ニ列席セシムルコトヲ得

徵兵官ハ聯隊區抽籤徵兵署又ハ聯隊區聯合抽籤徵兵署最寄ノ市町村ニ於ケル其ノ年身體検査ヲ受ケタル者ニ就キ當該市町村長ヲシテ抽籤總代人ヲ選定セシム其ノ人員ハ適宜トス

地方長官ハ町村長ヲシテ抽籤ニ立會セシムルコトヲ得

抽籤ノ方法ニ關シテハ陸軍大臣之ヲ定ム

第七十八條 他ノ徵募區ニ寄留スル者ハ本人ノ願ニ依リ其ノ地ニ於テ身體検査ヲ受クルコトヲ得

陸軍大臣ハ其ノ定ムル所ニ依リ船員ニ限リ本人ノ願ニ依リ寄留地以外ノ地ニ於テ身體検査ヲ受ケシムルコトヲ得

前項ノ身體検査ニシテ徵募區以外ニ於テ行フモノノ實施ニ付テハ第八十條及第八十一條ノ規定ヲ準用ス

第七十九條 本籍所在ノ徵募區ノ爲設ケタル聯隊區徵兵署閉鎖後ニ於テ身體検査ヲ要スル者アルトキハ他ノ徵募區ノ爲設ケタル聯隊區徵兵署ニ於テ身體検査ヲ行フコトヲ得

徵兵検査開始前又ハ師管ニ於ケル聯隊區徵兵署閉鎖後抽籤

前ニ於テ身體検査ヲ要スル者アルトキハ陸軍大臣ノ定ムル所ニ依リ身體検査ヲ行フコトヲ得

第八十條 朝鮮若ハ臺灣ニ在留スル者ニシテ徵兵検査ヲ受クヘキ者又ハ關東州、支那、香港、澳門若ハ沿海州其ノ他當該地域ノ附近ニ在留スル者ニシテ徵集ヲ延期セラレサル者ハ陸軍大臣ノ定ムル所ニ依リ本人ノ在留地附近ノ軍隊、地方廳又ハ領事館(總領事館ヲ含ム以下之ニ同シ)ニ於テハ身體検査ヲ受クルコトヲ得

第八十一條 前條ノ身體検査ハ第三章第三款、第四百條及第五百五號ノ規定ニ拘ラス陸軍佐官又ハ大尉一名ヲ検査員トシ之ニ陸軍一、二、三等軍醫(已ムヲ得サル場合ニ於テハ陸軍三等軍醫正)及陸軍下士官又ハ同判任文官ヲ附屬シテ之ヲ行フ

陸軍大臣ハ其ノ定ムル所ニ依リ地方廳又ハ領事館ニ於テ執行スル身體検査ニ關シテハ當該官廳ヲシテ其ノ事務ノ一部ヲ擔任セシムルコトヲ得

第一項ニ規定スル検査員及屬員ノ任命及職務其ノ他検査執行ニ關スル事項ハ陸軍大臣ノ定ム

第八十二條 身體検査ノ結果ニ依リ第二補充兵役編入、徵集免除、兵役免除及徵集延期ノ處分ハ本令中別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外本人ノ本籍所在ノ徵募區ヲ管轄スル聯隊區徵兵官之ヲ行フ身體検査ヲ行フコトナク徵集免除、兵役免

除又ハ徵集延期ノ處分ヲ爲ス場合ニ付亦同シ

第八十三條 現役編入又ハ第一補充兵役編入ノ處分及抽籤ノ結果ニ依リ第二補充兵役編入ノ處分ハ抽籤終了ノ後第六十條ノ規定ニ依リ配賦ニ基キ本人ノ本籍所在ノ徵募區ヲ管轄スル聯隊區司令官之ヲ行フ

第八十四條 現役編入、補充兵役編入、徵集免除及兵役免除ノ處分ハ之ヲ徵兵終決處分トス

第八十五條 現役編入、補充兵役編入、兵役免除及徵集延期ノ處分ハ證書ヲ以テ之ヲ本人ニ通達ス

第六款 現役兵入營
徵集免除ノ處分ハ便宜ノ方法ヲ以テ之ヲ本人ニ通達ス

第八十六條 現役兵ハ陸軍大臣ノ定ムル所ニ依リ入營セシム

第八十七條 兵役法第四十五條及同法第四十六條ノ規定ニ依リ入營延期ノ處分ハ陸軍大臣ノ定ムル所ニ依リ聯隊區司令官之ヲ行フ

第八十八條 兵役法第四十七條ノ規定ニ依リ歸郷セシムルノ處分ハ陸軍大臣ノ定ムル所ニ依リ陸軍ニ在リテハ聯隊長又ハ之ト同等以上ノ權アル部隊ノ長、海軍ニ在リテハ海軍人事部長之ヲ行フ

第八十九條 兵役法第四十六條第二項但書又ハ同法第四十七條第二項ノ規定ハ輜重兵特務兵ニ限り之ヲ適用ス

第九十條 聯隊區司令官ハ現役兵入營ノ際疾病其ノ他身體又

ハ精神ノ異常ニ因リ常備兵役及後備兵役ニ堪ヘサル者ナルトキハ之ニ對シ徵集ヲ免除シ永久兵役ニ堪ヘサル者ナルトキハ之ニ對シ兵役ヲ免除ス但シ第七條ノ規定ニ依リ現役ヲ志願シタル者ニシテ之ニ該當スル者ニ付テハ陸軍大臣ハ別段ノ規定ヲ爲スコトヲ得

第七款 現役兵補闕

第九十一條 現役兵死亡、疾病、犯罪其ノ他ノ事故ニ因リ闕員ヲ生シタルトキハ入營期日迄ニ於ケル闕員及爾後三十一日(歩兵ニ在リテハ二十日、補助看護兵ニ在リテハ十日)間ノ闕員ニ限り其ノ徵募區ニ於ケル同兵種ノ補充兵ヲ以テ徵集順序ニ從ヒ闕員補充ス但シ二期以上ニ分チ入營セシムル者ノ補闕ニ付テハ陸軍大臣ハ補闕期間又ハ補充員ニ關シ別段ノ規定ヲ爲スコトヲ得

前項ニ規定スル闕員ノ補充ハ聯隊區司令官之ヲ行フ

第九十二條 臨時ニ現役兵多數ノ闕員ヲ生シタル場合ニ於テハ前條ニ規定スル期間ニ拘ラス陸軍大臣ノ定ムル所ニ依リ闕員ヲ補充スルコトヲ得

第九十三條 第七條ノ規定ニ依リ陸軍現役兵ニ採用シタル者闕員ト爲リタル場合ニ於ケル第九十一條ノ規定ニ依リ補充ハ之ヲ採用シタル聯隊區内ニ於ケル同兵種ノ補充兵ヲ以テ徵集順序ニ從ヒ之ヲ爲ス

第九十四條 現役兵ヲ第九十一條ノ規定ニ依リ其ノ徵募區ヨ

リ補充ヌルコト能ハサルトキハ其ノ聯隊區内ノ他ノ徵募區ヨリ、第九十一條及前條ノ規定ニ依リ其ノ聯隊區ヨリ補充スルコト能ハサルトキハ其ノ師管内ノ他ノ聯隊區ヨリ、其ノ師管ヨリ補充スルコト能ハサルトキハ他ノ師管ヨリ闕員ヲ補充スルコトヲ得其ノ補充ハ徵集順序ニ依リ

第九十五條 前二條ノ規定ニ依リ補充員ノ配賦ハ各徵募區、各聯隊區又ハ各師管ニ於ケル同兵種ノ補充兵ノ總數ニ比例シテ之ヲ定ム

前項ニ規定スル補充員ノ配賦ハ師管ニ對シテハ陸軍大臣、聯隊區ニ對シテハ師團長、徵募區ニ對シテハ聯隊區司令官之ヲ行フ

第八款 徵集延期

第九十六條 兵役法第四十條第一項ノ規定ニ依リ徵集延期ハ軍事救護法ニ依リ救護シ得ヘキ見込アル者ニ對シテハ之ヲ行ハス

第九十七條 聯隊區徵兵官ノ爲シタル兵役法第四十條ニ規定スル徵集延期ニ關スル處分ニ不服アルトキハ本人又ハ其ノ家族ヨリ師管徵兵官ニ訴願スルコトヲ得其ノ訴願ノ裁決ニ不服アルトキハ總理徵兵官ニ訴願スルコトヲ得但シ訴願ハ徵集處分ノ執行ヲ停止セス

訴願書ハ處分ヲ受ケ又ハ裁決書ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ之ヲ發スヘシ

第九十八條 前條ノ訴願書ハ徵集延期ニ關スル處分又ハ裁決

ヲ爲シタル徵兵官ヲ經由シテ之ヲ差出スヘシ
前項ノ徵兵官訴願書ヲ受ケタルトキハ前ノ處分又ハ裁決ニ
關スル書類ヲ添へ上級ノ徵兵官ニ差出スヘシ

第九十九條 現役兵編入ノ處分アリタル後入營期日迄ニ兵役
法第四十條第一項ニ規定スル事故生シタル場合ニ於テ爲ス
徵集延期ノ處分ハ聯隊區司令官之ヲ行フ

第一百條 左ニ掲クルモノハ兵役法第四十一條第一項ノ規定ニ
依ル中學校ノ學科程度ト同等以上ト認ムル學校トス
一 師範學校、實業學校（尋常小學校卒業ヲ入學程度トス
ル修業年限五年又ハ之ト同等以上ノモノニ限ル）、高等
學校、大學令ニ依ル大學豫科、專門學校、高等師範學
校、大學令ニ依ル大學學部、臨時教員養成所、實業學
校教員養成所及實業補習學校教員養成所
但シ研究科、選科等ノ別科ヲ除ク

二 宮内大臣、文部大臣以外ノ各省大臣、朝鮮總督、臺灣
總督、關東長官又ハ樺太廳長官ノ所轄學校ニシテ前號
ニ掲クル學校ニ準スルモノ
但シ研究科、選科等ノ別科ヲ除ク

三 前二號ニ掲クル以外ノ學校又ハ前二號ニ掲クル學校ノ
別科ニシテ陸軍大臣及文部大臣ニ於テ認定ヲ爲シタル
モノ

第一百一條 兵役法第四十一條第一項ノ規定ニ依リ學校ニ在學

スル者ニ付徵集ヲ延期シ得ヘキ最高年齢左ノ如シ

學 校	區 分	最高年齢
中學校 高等學校尋常科 前條第一號ニ掲クル實業學校		年齢二十二年
師範學校 高等學校高等科及專攻科 大學令ニ依ル大學豫科 修業年限三年又ハ五年ノ專門學校 高等師範學校（專攻科ヲ除ク） 前條第一號ニ掲クル教員養成所		年齢二十五年
修業年限五年以上ノ專門學校 高等師範學校專攻科 大學令ニ依ル大學學部		年齢二十七年

前條第二號又ハ第三號ニ該當スル學校ニ在學スル者ニ付徵
集ヲ延期シ得ヘキ最高年齢ハ其ノ入學資格及修業年限ニ應
ジ前項ノ規定ニ準シ陸軍大臣之ヲ定ム

第一百二條 兵役法第四十二條第一項ノ規定ニ依リ徵集ヲ延期
セサルモノトシテ除外スヘキ者左ノ如シ
一 關東州又ハ南滿洲鐵道附屬地ニ在ル者但シ陸軍大臣ノ
定ムル徵集延期顯出ノ期日ニ於テ當該地域其ノ他帝國
外ノ地ニ引續キ在留スル期間三年ヲ超ユル者ヲ除ク
二 徵兵検査ヲ受ケ現役兵ト爲ルヘキ順位ニ在ル者
三 第三百三條第一號ニ掲クル地域（關東州及南滿洲鐵道附
屬地ヲ除ク）ニ在ル者ニシテ陸軍大臣ノ定ムル徵集延

明治四十一年勅令第九十三號

大正八年勅令第二十一號

大正十五年勅令第二百四十八號

附 則（昭和四年勅令第一七〇號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附 則（昭和五年十一月勅令第二三二號）

本令ハ昭和五年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ船匠兵ニ決定セラレ居ル者ニシテ未タ入營
セサル者ハ之ヲ機關兵ト爲ス但シ此ノ者ノ徵集順序及補闕ニ
關シテハ變更前ノ區分ニ依ル

附 則（昭和六年勅令第八一號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附 則（昭和六年勅令第二三〇號）

本令ハ昭和六年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

附 則（昭和七年勅令第三〇九號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附 則（昭和七年勅令第三九八號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第三章 神 社

第一章 祭神、神社名、社格明細帳

第一條 祭神ノ決定、變更又ハ訂正ヲ請ハントスルトキハ官國幣社ニ在リテハ地方長官ヲ經由シ内務大臣ニ府縣社以下ノ神社ニ在リテハ地方長官ニ具申スヘシ

第二條 別格官幣社靖國神社ノ祭神ハ地方長官ノ許可ヲ受ケ緣故アル地方ノ招魂社ニ合祀スルコトヲ得

第三條 祭神ノ靈代ハ公衆ニ拜觀セシムルコトヲ得ス當該神靈ハ特別ノ理由アルトキニ限り官國幣社ニ在リテハ内務大臣ニ府縣社以下ノ神社ニ在リテハ地方長官ノ許可ヲ受ケ之ヲ拜觀スルコトヲ得

第四條 神社ノ變更ヲ請ハントスルトキハ官國幣社ニ在リテハ地方長官ヲ經由シ内務大臣ニ府縣社以下ノ神社ニ在リテハ地方長官ニ具申スヘシ

前項ニ依ル地方長官ノ處分ニシテ神社名ヲ官名ニ改稱又ハ復稱シ又ハ延喜式内社國吏所載社其ノ他特別由緒アル神社ノ神社名ヲ變更セントスルモノナルトキハ内務大臣ニ稟請

スヘシ

第五條 招魂社ハ其ノ社名中ニ招魂社ナル文字ヲ用フヘキモノトス

第六條 社格ノ變更又ハ訂正ハ由緒其ノ他特別ノ事由アルニ非サレハ詮議セサルモノトス、社格ノ變更又ハ訂正ノ詮議ヲ請ハムトスルトキハ地方長官ハ内務大臣ニ具申スルコトヲ得

第七條 神社建物アル遙拜所及官修墳墓ニ付テハ地方長官別記様式ニ依リ其ノ明細帳ニ通調製シ一通ヲ内務大臣ニ進達スヘシ

第八條 神社建物アル遙拜所ノ管理者及官修墳墓ノ監守者ハ明細帳ノ様式ニ準シ調製セル明細書ヲ備付クヘシ

第九條 明細帳ニ脱漏ノ神社ハ其ノ編入ヲ地方長官ニ具申スルコトヲ得

編入ノ許可ヲ受ケタルトキハ神社ニ於テ明細書ヲ調製シ地方長官ニ提出スヘシ

第十條 神社ハ明細帳ノ記載事項ニ變更ヲ生シタルトキ又ハ其ノ訂正ヲ要スト認ムルトキハ之ヲ地方長官ニ申出ツヘシ

第十一條 北海道ヲ除クノ外祭神ノ決定、變更、訂正又ハ明細帳脱漏神社編入ヲナサントスルトキハ地方長官ニ於テ内務大臣ニ稟請スヘシ但シ明細帳脱漏神社ノ編入ニシテ編入ト同時ニ之ヲ他ノ神社ニ合併セントスルモノアルトキハ官國

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル市町村立尋常小學校費臨時國庫補助法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

昭和七年九月五日法律第二十三號

市町村立尋常小學校費臨時國庫補助法

第一條 市町村立尋常小學校ノ經常費ヲ補助スル爲國庫ハ昭和七年度ヨリ昭和九年度迄毎年豫算ヲ以テ定ムル所ノ金額ヲ支出ス

第二條 前條ノ補助金ハ第三條ノ補助金ヲ除キ其ノ半額ヲ前年六月一日ニ於ケル町村立尋常小學校ノ教員數ニ、他ノ半額ヲ前年六月一日ニ於ケル町村ノ就學兒童數ニ比例シテ町村ニ交付ス

第三條 政府ハ市町村義務教育費國庫負擔法第五條ノ町村ニ第一條ノ補助金ノ百分ノ四十以内ヲ特ニ増加交付ス

第四條 本法ノ補助金ハ市町村立尋常小學校教員ノ俸給ニ要スル經費ニ充ツルモノトス

附 則
本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本法ノ補助金カ市町村義務教育費國庫負擔法ノ國庫交付金ト合算シ町村立尋常小學校教員ノ俸給ニ要スル經費ノ全額ヲ超ユル場合ニ於テハ町村立尋常小學校ノ教員俸給ニ要スル經費以外ノ經常費ニ之ヲ充ツルコトヲ得

第五條 本法ニ定ムル町村立尋常小學校教員中ニ算入スヘキ代用教員ノ範圍ハ文部大臣之ヲ定ム

第六條 本法ノ適用ニ付テハ町村組合及町村制ヲ施行セサル地域ニ於ケル町村ニ準スヘキ公共團體、其ノ組合又ハ小學校設置區域ハ之ヲ町村ト看做ス

第七條 本法ノ適用ニ付テハ市町村立尋常高等小學校ニ於テ尋常小學校ノ教科ヲ授クヘキ部分ハ之ヲ市町村立尋常小學校ト看做ス

第七條 地方長官ハ本法ノ補助金及市町村義務教育費國庫負擔法ノ國庫交付金並ニ市町村ノ一般會計繰入金其ノ他ヲ以テ歳入トシ市町村立尋常小學校又ハ市町村立尋常高等小學校ノ教員俸給費其ノ他ノ經常費ノ全部又ハ一部ヲ以テ歳出トスル特別會計ノ設置ヲ市町村ニ命スルコトヲ得

朕海軍旗章令改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

昭和七年十一月二十二日勅令第三百五十九號

海軍旗章令

第一章 總 則

第二章 旗章掲揚法

第一節 通 則

第二節 天皇旗、攝政旗、皇族旗及外國ノ元首

又ハ皇族ニ對シ掲揚スル旗章

第三節 海軍大臣旗

第四節 將旗、代將旗

第五節 長 旗

第六節 司令旗

第七節 先任旗

第八節 國 旗

第九節 軍艦旗

第十節 艦首旗

第十一節 軍用船旗

第十二節 當直旗

第十三節 赤十字旗

第三章 識別燈

第四章 滿艦飾、艦飾、電燈艦飾

附 則

海軍旗章令

第一章 總 則

第一條 本令ニ於テ旗章ト稱スルハ左ニ掲クルモノヲ謂フ

一 天皇旗

二 太皇太后旗、皇太后旗、皇后旗

三 攝政旗

四 皇太子旗、皇太孫旗

五 皇太子妃旗、皇太孫妃旗

六 親王旗、親王妃旗、內親王旗、王旗、王妃旗、女王旗

七 海軍大臣旗

八 海軍大將旗

九 海軍中將旗

十 海軍少將旗

十一 代將旗

十二 長 旗

シテ櫓艇ニ非サルモノヲ謂フ

本令ニ於テ海軍軍人ト稱スルハ現役海軍軍人並ニ召集中ノ豫備役及後備役海軍軍人ヲ謂フ

海軍軍人ノ指揮スル特設艦船ハ本令ノ適用ニ付テハ其ノ種別ニ從ヒ之ヲ軍艦、驅逐艦、水雷艇、掃海艇、持務艦、特務艇又ハ雜役船ト看做ス

第四條 海軍兵科若ハ航空科特務士官又ハ召集中ノ兵科豫備將校艦船又ハ特設艦船ヲ指揮スル場合本令ノ適用ニ付テハ海軍將校ノ指揮スル場合ニ準ス

第二章 旗章掲揚法

第一節 通 則

第五條 旗章ハ已ムヲ得サル場合ヲ除クノ外開キテ之ヲ引揚クハシ但シ別段ノ規定アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第六條 第一條第一項第一號乃至第十三號ノ旗章ハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外艦船ニ在リテハ其ノ大橋頂、短艇ニ在リテハ其ノ艇首ノ旗竿、海軍陸上各廳ニ在リテハ其ノ廳ノ旗竿ニ之ヲ掲揚ス

前項ノ旗章ハ同一ノ艦船、短艇又ハ海軍陸上各廳ニ於テハ二以上ヲ掲ケス列序ノ最上位ノモノ又ハ上席者ニ對スルモノノミヲ掲揚ス但シ艦船ニ於テハ皇族旗又ハ海軍大臣旗ト將旗、代將旗、長旗又ハ司令旗トハ之ヲ併揚ス

前項但書ノ場合ニ於テ二橋以上ノ艦船ニ皇族旗ヲ掲揚スル

- 十三 司令旗
- 十四 先任旗
- 十五 國 旗
- 十六 軍艦旗
- 十七 艦首旗
- 十八 軍用船旗
- 十九 當直旗
- 二十 赤十字旗

前項第二號及第四號乃至第六號ノ旗章ハ之ヲ皇族旗ト總稱ス

第一項第八號乃至第十號ノ旗章ハ之ヲ將旗ト總稱ス

第一項第一號乃至第十一號ノ旗章ノ列序ハ記載ノ順序ニ依ル

第二條 天皇旗、攝政旗及皇族旗ノ制式ハ皇室儀制令ノ定ムル所ニ依ル但シ雨風等ノ際ニハ黃旗布ヲ以テ菊章ヲ作りタルモノヲ用フルコトヲ得

前條第一項第七號乃至第十四號及第十六號乃至第二十號ノ旗章ノ制式ハ附圖ニ依ル

第三條 本令ニ於テ艦船ト稱スルハ軍艦、驅逐艦、潜水艦、水雷艇、掃海艇、特務艦、特務艇及海軍軍人ノ指揮スル雜役船ヲ謂ヒ艦艇ト稱スルハ軍艦、驅逐艦、潜水艦、水雷艇及掃海艇ヲ謂ヒ短艇ト稱スルハ海軍軍人ノ指揮スル短艇ニ

トキハ將旗、代將旗、長旗又ハ司令旗ハ大櫓以外ノ櫓項ニ之ヲ掲揚ス
外國ノ旗章ハ第一條第一項第一號乃至第十三號ノ旗章ト之ヲ併揚ス

前項ノ場合ニ於テ二櫓以上ノ艦船ニ天皇旗、攝政旗又ハ皇族旗ヲ掲揚スルトキハ外國ノ旗章ハ大櫓以外ノ櫓項ニ之ヲ掲揚ス

第七條 同一櫓項ニ二以上ノ旗章ヲ併揚スルトキニ於テ軍艦旗アル場合ニハ常ニ之ヲ右舷ノ方ニ掲揚シ其ノ他ノ場合ニハ列序ノ上位ノ旗章ヲ右舷ノ方ニ掲揚ス

前項ノ場合ニ於テ外國ノ旗章ト併揚スルトキハ天皇旗、攝政旗、皇族旗又ハ軍艦旗ハ外國ノ旗章ノ右舷ノ方ニ其ノ他ノ旗章ハ其ノ左舷ノ方ニ之ヲ掲揚ス

第八條 外國ノ元首若ハ皇族ニ對シ又ハ外國ノ祝日等ニ當リ當該國ノ旗章ヲ掲揚スルハ帝國ニ於テ其ノ政府ヲ公然承認シタルモノニ限ル

前項ノ規定ニ依リ掲揚スル旗章ハ當該國ノ軍艦旗トシ軍艦旗ノ制ナキ國ナルトキハ其ノ國旗トス

第九條 二隻以上ノ艦船同所ニ在泊シ又ハ共ニ入港シ、出港シ若ハ航行スル場合ニ於テハ軍艦旗及艦首旗並ニ滿艦飾又ハ艦飾ノ掲揚及降下ハ首席指揮官ノ乘艦ニ倣フヘシ

第十條 潜水艦潜航スルトキハ總テノ旗章ヲ掲揚セサルコト

第十六條 皇族旗ハ第十四條第一項及第二項ノ規定ニ準シ之ヲ掲揚ス但シ第一條第一項第四號乃至第六號ノ皇族旗ハ公式ノ場合ニ非サレハ之ヲ掲揚セス

第十七條 外國ノ元首又ハ皇族ニ付テハ第十四條第一項及第二項並ニ前條但書ノ規定ヲ準用ス但シ旗章ハ第八條第二項ニ定ムル所ニ依ル

第三節 海軍大臣旗
第十八條 海軍大臣旗ハ海軍大臣公式ニ艦船又ハ短艇ニ乘リタルトキ之ヲ掲揚ス

海軍大臣短艇ニテ艦船ニ來乘スルトキハ短艇着艦ト同時ニ艦船ニ海軍大臣旗ヲ掲揚シ短艇ノ海軍大臣旗ヲ撤去ス艦船ヨリ短艇ニ乘リタルトキハ短艇發艦ト同時ニ短艇ニ海軍大臣旗ヲ掲揚シ艦船ノ海軍大臣旗ヲ撤去ス

第四節 將旗、代將旗
第十九條 將旗ハ指揮權ヲ有スル海軍大將、海軍中將又ハ海軍少將ノ旗章トシ海上勤務ノ司令長官又ハ司令官ニ在リテハ其ノ軍艦ニ、上勤務ノ司令長官又ハ司令官ニ在リテハ其ノ應ニ之ヲ掲揚ス

特命檢閱使其ノ檢閲艦船部隊等ノ所在地ニ在ルトキ、司令長官又ハ司令官ニ非サル大演習又ハ小演習ノ統監及海軍特別大演習ニ於テ勅命ニ依リ其ノ演習ヲ統裁指導スル海軍軍令部長各其ノ演習艦船部隊等ノ所在地ニ在ルトキ並ニ司令

ヲ得

第十一條 禮砲施行ノ際ニ於ケル旗章ノ掲揚法ニ付テハ海軍禮砲令ノ定ムル所ニ依ル

第十二條 艦船ノ構造又ハ役務其ノ他ノ關係上本令ニ依ルコト能ハサル場合又ハ本令ニ規定ナキ場合ノ旗章ノ掲揚ニ付テハ海軍大臣之ヲ處理スルコトヲ得

第十三條 首席指揮官ハ旗章ノ掲揚ニ關シ豫メ海軍大臣ノ命ヲ受クル暇ナキトキ又ハ儀制上彼我厚薄ノ差ヲ生シ不權衡ト認ムルトキハ帝國ノ威嚴ヲ損セサル限り臨機ノ處置ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ速ニ其ノ情況ヲ海軍大臣ニ報告スヘシ

第二節 天皇旗、攝政旗、皇族旗及外國ノ元首

第十四條 天皇旗ハ天皇乘御ノトキ艦船又ハ短艇ニ之ヲ掲揚ス

天皇短艇ニテ艦船ニ臨御ノトキハ短艇著艦ト同時ニ艦船ニ天皇旗ヲ掲揚シ短艇ノ天皇旗ヲ撤去ス艦船ヨリ短艇ニ乘御ノトキハ短艇發艦ト同時ニ短艇ニ天皇旗ヲ掲揚シ艦船ノ天皇旗ヲ撤去ス

天皇將旗又ハ代將旗ヲ掲揚スル海軍陸上各廳ニ臨御ノトキハ天皇旗ヲ掲揚ス

第十五條 攝政旗ハ前條ノ規定ニ準シ之ヲ掲揚ス

長官又ハ司令官ニ非サル觀艦式指揮官觀艦式參列ノ艦船部隊ヲ指揮スルトキハ各其ノ乗用ニ充テラレタル艦船ニ特ニ將旗ヲ掲揚スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ第六條第二項、第二十二條第一項及第三項並ニ第二十六條第一項但書ノ規定ハ之ヲ適用セス

第二十條 左ノ各號ノ一ニ該當スル海軍大將、海軍中將又ハ海軍少將公式ニ短艇ニ乘リタルトキハ指揮權ノ有無ニ拘ラズ之ニ將旗ヲ掲揚ス

一 前條ノ規定ニ依リ將旗ヲ掲揚スルコトヲ得ル者及部隊長タル者

二 元帥、海軍軍令部長及軍事參議官

三 外國ノ艦船又ハ官廳ヲ訪問スル者
司令長官、司令官又ハ部隊長タル將官解職退去ノ際短艇ニ乘リタルトキハ前項ノ規定ヲ準用ス

艦船部隊ノ長海軍少將ニ進級シ解職退去ノ際短艇ニ乘リタルトキハ之ニ將旗ヲ掲揚スルコトヲ得

第二十一條 代將旗ハ司令官タル海軍大佐ノ旗章トシ海上勤務ノ場合ニ在リテハ其ノ軍艦ニ、陸上勤務ノ場合ニ在リテハ其ノ應ニ之ヲ掲揚ス

司令官タル海軍大佐公式ニ短艇ニ乘リタルトキハ之ニ代將旗ヲ掲揚ス
司令官タル海軍大佐解職退去ノ際短艇ニ乘リタルトキハ前

項ノ規定ヲ準用ス

第二十二條 將旗又ハ代將旗ハ司令長官又ハ司令官著任ノ際之ヲ掲揚シ解職ニ依リ退去ノ際之ヲ撤去ス

司令長官又ハ司令官事故アリテ其ノ職務ヲ執ルコト能ハサルトキハ其ノ間將旗又ハ代將旗ヲ撤去ス

前項ノ規定ニ依リ其ノ旗章ヲ撤去スル場合ニ於テ代理官兵科將官又ハ司令官タル海軍大佐ナルトキハ第十九條第一項又ハ前條第一項ノ規定ニ準シ其ノ旗章ヲ掲揚ス但シ代理官其ノ本職ニ對スル將旗又ハ代將旗ヲ掲揚スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十八條第二項ノ規定ハ本條第一項及前項ノ規定ニ依ル將旗又ハ代將旗ノ掲揚及撤去ニ付之ヲ準用ス

第二十條第一項ノ規定ハ本條第三項ノ代理官公式ニ短艇ニ乘リタル場合ニ之ヲ準用ス

第二十三條 海上勤務ノ司令長官又ハ司令官其ノ乘艦ノ事故其ノ他ノ事由ニ依リ一時軍艦以外ノ部下艦船ニ乘リタル場合及陸上勤務ノ司令長官又ハ司令官公式ニ一時部下ノ艦船ニ乘リタル場合ニ於テ必要アルトキハ之ニ將旗又ハ代將旗ヲ掲揚スルコトヲ得但シ戰時、事變、演習及檢閲ノ場合ヲ除クノ外豫メ海軍大臣ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス

第五節 長旗

第二十四條 長旗ハ各艦船ヲ指揮スル海軍將校ノ旗章トシ艦

列序同位ノ旗章ヲ掲揚スル艦艇在泊スル場合ニ限り之ヲ掲揚ス

前項ノ規定ハ將旗又ハ代將旗ヲ掲クル特務艦ニ付之ヲ準用ス

第八節 國旗

第二十七條 艦船外國港灣ニ碇泊スル場合ニ於テ帝國ノ外交官又ハ領事官公式訪問ノ爲艦船ノ短艇ニ乘リタルトキハ國旗ヲ艇首ノ旗竿ニ掲揚スヘシ

第九節 軍艦旗

第二十八條 軍艦旗ハ艦艇及特務艦ノ後部旗竿又ハ斜桁ニ之ヲ掲揚ス但シ潜水艇ニ在リテハ航海中又ハ已ムヲ得サル場合ニ限り艦橋後部旗竿又ハ橋頂ニ之ヲ掲揚スルコトヲ得

特務艇及海軍軍人ノ指揮スル雜役船儀制ニ關スルトキ又ハ軍港若ハ要港以外ニ行動スルトキハ前項ノ規定ニ準シ軍艦旗ヲ掲揚スルモノトス

第二十九條 軍艦旗ハ碇泊中午前八時ニ之ヲ掲揚シ日没時ニ至リ之ヲ降下スヘシ

第三十條 艦船合戰準備ヲ行ヒタルトキハ前條ノ規定ニ拘ラ

ス常ニ軍艦旗ヲ掲揚スヘシ

艦船戰闘中ハ前項ニ規定スルモノノ外橋頂ニ軍艦旗一旒ヲ掲揚スルヲ例トス

第三十一條 艦船碇泊中禮砲ヲ施行スルトキ又ハ外國ノ艦船

ニ之ヲ掲揚ス但シ特務艇及雜役船ニ在リテハ軍港又ハ要港以外ニ行動スル場合ニ限り掲揚スルモノトス

艦長、特務艦長、驅逐隊司令、潜水隊司令、水雷隊司令、掃海隊司令、海軍港務部長又ハ將官ニ非サル防備隊司令、海軍航空隊司令若ハ海兵團長公式ニ短艇ニ乘リタルトキハ長旗ヲ掲揚ス

前項ニ掲クル諸官解職退去ノ際短艇ニ乘リタルトキハ前項ノ規定ヲ準用ス

訪問使外國ノ艦船又ハ官廳ヲ訪問ノ際短艇ニ乘リタルトキハ長旗ヲ掲揚ス

第六節 司令旗

第二十五條 司令旗ハ驅逐隊司令、潜水隊司令、水雷隊司令又ハ掃海隊司令ノ旗章トシ司令驅逐艦、司令潜水艦、司令水雷艇又ハ司令掃海艇ニ之ヲ掲揚ス

第二十二條 第三十條第一項及前條ノ場合ニ於テハ軍艦旗ハ第二十九條ノ掲揚時刻ノ五分前一旦之ヲ降下シテ規定ノ時刻ニ再ヒ掲揚シ又日没時一旦之ヲ降下シテ再ヒ掲揚スヘシ

第三十三條 艦船航行中ハ夜間旗章ヲ識別シ雨ク且附近ニ船舶燈臺等ヲ認メサルトキノ外軍艦ヲ掲揚スヘシ

第三十四條 短艇水上ニ在ル場合ニ於テ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ艇尾ノ旗竿ニ軍艦旗ヲ掲揚スヘシ

一 儀制ニ關スルトキ

二 外國ノ艦船ト交通ヲ爲ストキ

三 帝國領水以外ニ在リテ本艦船ニ繫留セラレサルトキ

四 前各號ニ掲クル場合ノ外必要ト認ムルトキ

前項ノ軍艦旗ニ付テハ第二十九條ノ規定ヲ準用ス但シ必要アルトキハ第二十九條ニ規定スル時間以外ト雖モ之ヲ掲揚スルコトヲ得

艦船裝備ノ櫓艇外國港灣ニ在リテ單獨本艦船ヲ離ルル場合ニ於テハ前二項ノ規定ヲ準用ス

第七節 先任旗

第二十六條 先任旗ハ二隻以上ノ艦艇軍港又ハ要港以外ニ於テ碇泊スルトキ首席指揮官乘艦ノ前方橋(橋頂ニ旗章掲揚設備ヲ有セサルモノヲ含ム)右舷桁橋ニ之ヲ掲揚ス但シ同一驅逐隊、潜水隊、水雷隊又ハ掃海隊ノ艦艇ニ於テハ必要ノ場合ニ限り、將旗又ハ代將旗ヲ掲クル艦艇ニ於テハ他ニ

若ハ船舶旗章ヲ掲ケテ入港シ、出港シ若ハ近傍ヲ通過スルトキハ第二十九條ノ規定ニ拘ラス旗章ヲ識別シ得ル間ハ軍艦旗ヲ掲揚スヘシ

艦船外國港灣在泊中ハ第二十九條ノ規定ニ拘ラス必要ニ應シ軍艦旗ヲ掲揚スルコトヲ得

第三十二條 第三十條第一項及前條ノ場合ニ於テハ軍艦旗ハ第二十九條ノ掲揚時刻ノ五分前一旦之ヲ降下シテ規定ノ時刻ニ再ヒ掲揚シ又日没時一旦之ヲ降下シテ再ヒ掲揚スヘシ

第三十三條 艦船航行中ハ夜間旗章ヲ識別シ雨ク且附近ニ船舶燈臺等ヲ認メサルトキノ外軍艦ヲ掲揚スヘシ

第三十四條 短艇水上ニ在ル場合ニ於テ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ艇尾ノ旗竿ニ軍艦旗ヲ掲揚スヘシ

一 儀制ニ關スルトキ

二 外國ノ艦船ト交通ヲ爲ストキ

三 帝國領水以外ニ在リテ本艦船ニ繫留セラレサルトキ

四 前各號ニ掲クル場合ノ外必要ト認ムルトキ

前項ノ軍艦旗ニ付テハ第二十九條ノ規定ヲ準用ス但シ必要アルトキハ第二十九條ニ規定スル時間以外ト雖モ之ヲ掲揚スルコトヲ得

艦船裝備ノ櫓艇外國港灣ニ在リテ單獨本艦船ヲ離ルル場合ニ於テハ前二項ノ規定ヲ準用ス

第三十五條 海軍ノ陸上部隊、學校、航空機等ニ在リテハ海軍大臣ノ定ムル所ニ依リ軍艦旗ヲ掲揚スルコトヲ得

第十節 艦首旗

第三十六條 艦首旗ハ軍艦、驅逐艦、水雷艇、掃海艇又ハ特務艇泊中艦首ノ旗竿ニ之ヲ掲揚ス其ノ掲揚及降下ニ付テハ第二十九條ノ規定ヲ準用ス但シ儀制ニ關シ第二十九條ニ規定スル時間以外ニ於テ軍艦旗ヲ掲揚スル場合ニ在リテハ艦首旗ヲ掲揚スルモノトス

第十一節 軍用船旗

第三十七條 軍用船旗ハ海軍軍人ノ指揮セサル特設艦船ノ大橋頂ニ之ヲ掲揚ス但シ病院船ニ在リテハ此ノ限ニ在ラス

第十二節 當直旗

第三十八條 當直旗ハ當直艦艇ノ前方橋(橋頂ニ旗章掲設備ヲ有セサルモノヲ含ム)左舷桁端ニ之ヲ掲揚ス但シ將旗、代將旗又ハ先任旗ヲ掲クル軍艦ニ於テ及同港灣ニ二隻以上ノ當直艦アル場合首席ニ非サル司令長官又ハ司令官ノ定ムル所ニ依リ當直ヲ施行スル軍艦ニ於テハ當直授受ノ際ノミ之ヲ掲揚ス

第十三節 赤十字旗

第三十九條 赤十字ハ戰時又ハ事變ノ際海軍病院若ハ治療所ノ旗竿又ハ病院船ノ大橋頂ニ之ヲ掲揚ス病院、治療所又ハ

皇族ニ對スル旗章トフ併揚スル艦船ニ於ケル識別燈ハ燈數最多キモノヲ掲ケ同數ノ場合ニ在リテハ我國ノ旗章ニ對スルモノヲ掲ク

第四章 滿艦飾、艦飾、電燈艦飾

第四十三條 滿艦飾ハ軍艦、驅逐艦、水雷艇、掃海艇又ハ特務艦、艦飾ハ艦艇又ハ特務艦從泊中ニ之ヲ行フ

滿艦飾ヲ行フニハ各橋ニ互リ艦首ヨリ艦尾ニ信號機ヲ連揚シ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外各橋頂ニ軍艦旗ヲ掲揚ス艦飾ヲ行フニハ單ニ各橋頂ニ軍艦旗ヲ掲揚ス

第四十四條 軍艦、驅逐艦、水雷艇、掃海艇及特務艦左ノ場合ニ於テハ滿艦飾ヲ行フヘシ

一 紀元節

二 天長節

三 明治節

四 天皇又ハ皇族ニ對シ皇禮砲ヲ行フヘキ日

五 前各號ニ掲クル場合ノ外特ニ海軍大臣ノ定ムルトキ潜水艦及海軍軍人ノ指揮スル特設艦船(特設特務艇及雜役船ヲ除ク)前項ノ場合ニ於テハ艦飾ヲ行フヘシ

第四十五條 我國ノ爲滿艦飾ヲ行フヘキ日ニ當リ外國艦船帝國艦船ト同所ニ在泊スルトキハ首席指揮官ハ其ノ前日ニ將校ヲ各外國海軍首席指揮官ニ遣シ滿艦飾ヲ行フ旨ヲ公式ニ告知シ尙外國港灣ニ於テハ相當ノ手續ヲ經テ所在地方廳ニ

病院船用ノ物品ヲ運送スル舟車等ニ亦之ヲ用フルコトヲ得

第三章 識別燈

第四十條 第一條第一號乃至第十一號ノ旗章ヲ掲揚スル艦船ニ於テハ日沒時ヨリ日出時迄後方橋ノ桁後面ニ左ノ區分ニ依リ白燈ヲ掲ク

一 天皇旗、攝政旗

二 皇族旗

三 海軍大臣旗、海軍大將旗

四 海軍中將旗

五 海軍少將旗、代將旗

前項第一號乃至第四號ノ白燈ハ約一メートルノ間隔ヲ以テ之ヲ並列ス

外國ノ元首又ハ皇族ニ對スル旗章ヲ掲揚スル艦船ニ付テハ第一項第一號又ハ第二號及前項ノ規定ヲ準用ス

第一項第三號乃至第五號ノ白燈ハ航行中ニ在リテハ特ニ必要アル場合ノ外之ヲ掲ケス

第四十一條 第二十五條ノ規定ニ依リ司令旗ヲ掲揚スル艦艇ハ碇泊中日沒時ヨリ日出時迄白燈一個ヲ大橋桁端ニ掲ク

第四十二條 二以上ノ旗章ヲ併揚スル艦船ニ於ケル識別燈ハ列序ノ最上位ノ旗章ニ對スルモノ又ハ上席者ニ對スルモノヲ掲ク

第一條第一項第一號乃至第十一號ノ旗章ト外國ノ元首又ハ

モ之ヲ告知スルコトヲ要ス軍港又ハ要港以外ノ港灣ニ於テ外國艦船ノミ在泊スルトキハ當該地方長官又ハ之ニ準スヘキ者ハ部下ノ官吏ヲ遣シ我ニ於テ滿艦飾ヲ行フヘキ日ナル旨ヲ公式ニ告知スヘシ

外國艦船前項ノ告知ヲ受ケ敬意ヲ表シタルトキハ其ノ首席指揮官ニ對シ翌日迄ニ將校又ハ官吏ヲ遣シテ謝意ヲ通スヘシ

第四十六條 我國ノ爲滿艦飾又ハ艦飾ヲ行フニ當リ第一條第一項第一號乃至第十一號ノ旗章ヲ掲揚スル橋頂ニハ軍艦旗ヲ掲揚セス但シ單橋ノ艦船ニ在リテハ天皇旗、攝政旗及皇艦旗以外ノ旗章ハ之ヲ軍艦旗ト併揚ス

第四十七條 外國ノ元首又ハ皇族ニ對シ皇禮砲ヲ行フヘキ日ニ於テハ所在軍艦、驅逐艦、水雷艇、掃海艇及ヒ特務艦ハ滿艦飾ヲ行ヒ潜水艦及海軍軍人ノ指揮スル特設艦船(特設特務艇及雜役船ヲ除ク)ハ艦飾ヲ行フヘシ

第四十八條 帝國艦船同所ニ在泊スル外國艦船ノ本國ノ祝日等ニ會シ又ハ外國港灣ニ在リテ其ノ國ノ祝日等ニ會シ當該國海軍首席指揮官、地方廳、領事等ヨリ首席指揮官ニ其ノ旨公式ニ告知アリタルトキハ滿艦飾又ハ艦飾ヲ行フヘシ

帝國艦船外國港灣ニ入港ノ際現ニ當該國其ノ他ノ外國ノ祝日等ニ當リ在泊艦船滿艦飾又ハ艦飾ヲ爲シアルニ會スルトキハ前項ノ告知ヲ俟タス直ニ滿艦飾又ハ艦飾ヲ行フコトヲ

得

第四十九條 外國ノ爲滿艦飾又ハ艇飾ヲ行フトキハ大橋頂ニ其ノ國ノ旗章ヲ掲揚シ我軍艦旗ヲ除クノ外大橋頂ニ掲揚スヘキ旗章ハ之ヲ併揚ス但シ單橋ノ艦船ニ在リテハ我軍艦旗ヲモ併揚ス

二以上ノ外國ノ爲ニ滿艦飾又ハ艇飾ヲ行フトキハ大橋頂ニ當該各國ノ旗章ヲ其ノ國名ノ英母字順ニ依リ右舷ノ方ヨリ左舷ノ方ニ併揚スル外前項ノ規定ヲ適用ス但シ外國港灣ニ在リテハ其ノ國ノ旗章ヲ右舷ノ方ニ掲揚ス

前二項ノ場合天皇旗、攝政旗又ハ皇族旗ヲ掲揚スルトキハ二橋以上ノ艦船ニ在リテハ外國ノ旗章ハ大橋以外ノ橋頂ニ之ヲ掲揚シ且天皇旗、攝政旗又ハ皇族旗ヲ掲揚スル橋頂及外國ノ旗章ヲ掲揚スル橋頂ニハ我軍艦旗ヲ併揚セス單橋ノ艦船ニ在リテハ我軍艦旗ヲ併揚セス

第五十條 我國及外國ノ爲ニ滿艦飾又ハ艇飾ヲ行フトキハ大橋頂ニ我軍艦旗ヲ、大橋以外ノ橋頂ニ外國ノ旗章ヲ掲揚シ外國ノ旗章ヲ掲揚スル橋頂ニハ我軍艦旗ヲ掲揚セス但シ單橋ノ艦船ニ在リテハ其ノ橋頂ニ我軍艦旗及外國ノ旗章ヲ併揚ス

前項ノ場合ニ以上ノ外國ノ爲ニ行フトキハ前條第二項ノ規定ヲ準用ス
前二項ノ場合第一條第一項第一號乃至第十一號ノ旗章ヲ掲

揚スル橋頂ニハ我軍艦旗ヲ掲揚セス但シ單橋ノ艦船ニ在リテハ天皇旗、攝政旗又ハ皇族旗ヲ掲揚スル場合ヲ除クノ外我軍艦旗ヲモ併揚ス

第五十一條 潜水艦並ニ内國ニ在ル驅逐艦、水雷艇及掃海艇外國ノ爲ニ滿艦飾又ハ艇飾ヲ行フ場合ノ旗章ノ掲揚ニ付テハ我國ノ爲ニ滿艦飾又ハ艇飾ヲ行フ場合ノ例ニ依ル

第五十二條 滿艦飾又ハ艇飾ノ掲揚及降下ハ第四十四條第一項第一號乃至第三號ノ場合ニ在リテハ第二十九條ノ規定ニ準シ其ノ他ノ場合ニ在リテハ儀制ノ始終ニ於テ爲スヲ例トス但シ外國艦船ト同所ニ在リテ其ノ國ノ祝日等ニ會シ滿艦飾ヲ行フトキハ其ノ掲揚及降下ハ成ルヘク該艦船ニ倣フヘシ

艦船滿艦飾又ハ艇飾ヲ行フヘキ日ニ於テ其ノ掲揚時間中ニ入港スルトキハ碇泊後直ニ之ヲ行フヲ例トス

滿艦飾又ハ艇飾ヲ行ヒタル艦船出港スルトキハ港外ニ出ツル迄特ニ艦飾ヲ爲スヘシ

滿艦飾又ハ艇飾ヲ行ヒタル艦船ハ必要ニ應シ其ノ儘錨地ヲ變更スルコトヲ得

第五十三條 滿艦飾又ハ艇飾ヲ行フヘキ場合ニ於テ暴風雨等ノ爲施行著シク困難ナルトキハ滿艦飾ヲ艦飾ニ代ヘ、禮砲施行中ノミ滿艦飾若ハ艇飾ヲ行ヒ又ハ全ク之ヲ省略スルコトヲ得

戰時又ハ演習中ハ滿艦飾又ハ艇飾ヲ行ハサルヲ例トス

第五十四條 電燈艦飾ハ國家ノ大典、觀艦式其ノ他ノ場合ニ於テ必要ト認ムルトキ海軍大臣ノ定ムル所ニ依リ之ヲ行フモノトス

附則

本令ハ昭和七年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス
附圖略ス

發條轉轍器及背向轉轍器ニ付テハ之ニ依ラサルコトヲ得
第十九條 機關車(炭水車ヲ含ム)ハ之ヲ二輛連結シ長一米ニ付四應ノ等布活荷量ヲ牽引スル場合ニ軌道ニ對シ第六條ノ負擔力、橋梁ニ對シ第十條ノ負擔力ヨリ大ナル影響ヲ與ヘサルモノタルコトヲ要ス
第二十條 機關車ノ車輪一對ノ軌條ニ對スル壓力ハ停止中ニ於テ十一應以下タルコトヲ要ス
 前項ノ壓力ノ限度ハ特ニ必要アル場合ニ限り軌道及橋梁ノ負擔力ノ範圍内ニ於テ之ヲ増減スルコトヲ得
第二十一條 客貨車ノ車輪一對ノ軌條ニ對スル壓力ハ停止中ニ於テ十二應以下タルコトヲ要ス

簡易ナル驛設備例示圖

- 一、列車ノ行達ナキ場合
 (イ) 乗降場ニ待合所ノアルモノ
 (驛員ヲ配置セス)



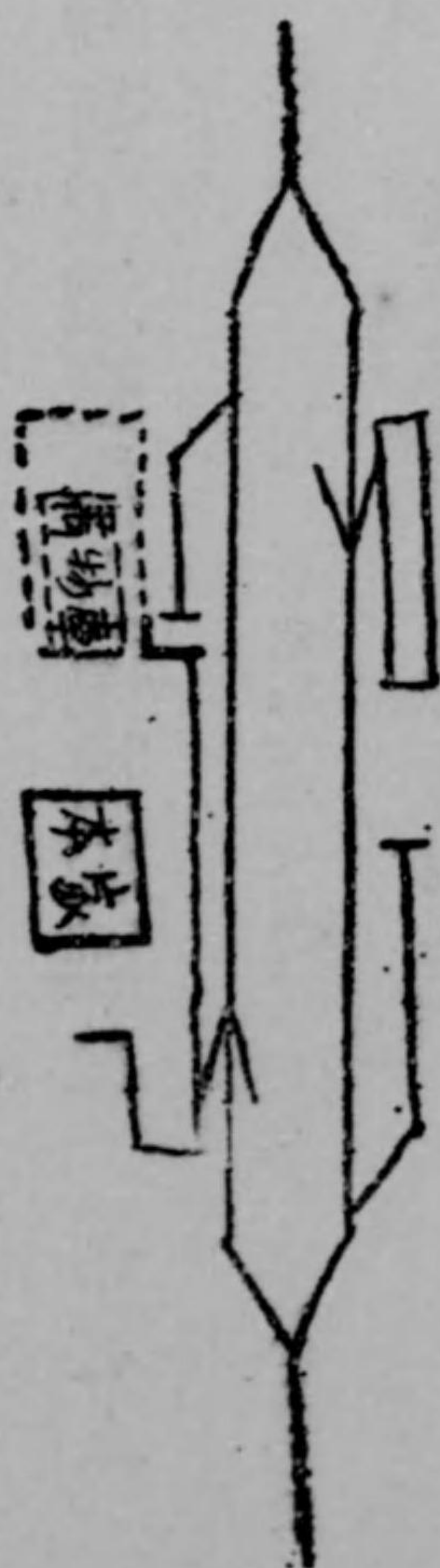
- (ロ) 乗降場及本家アルモノ
 (取扱貨物少量)



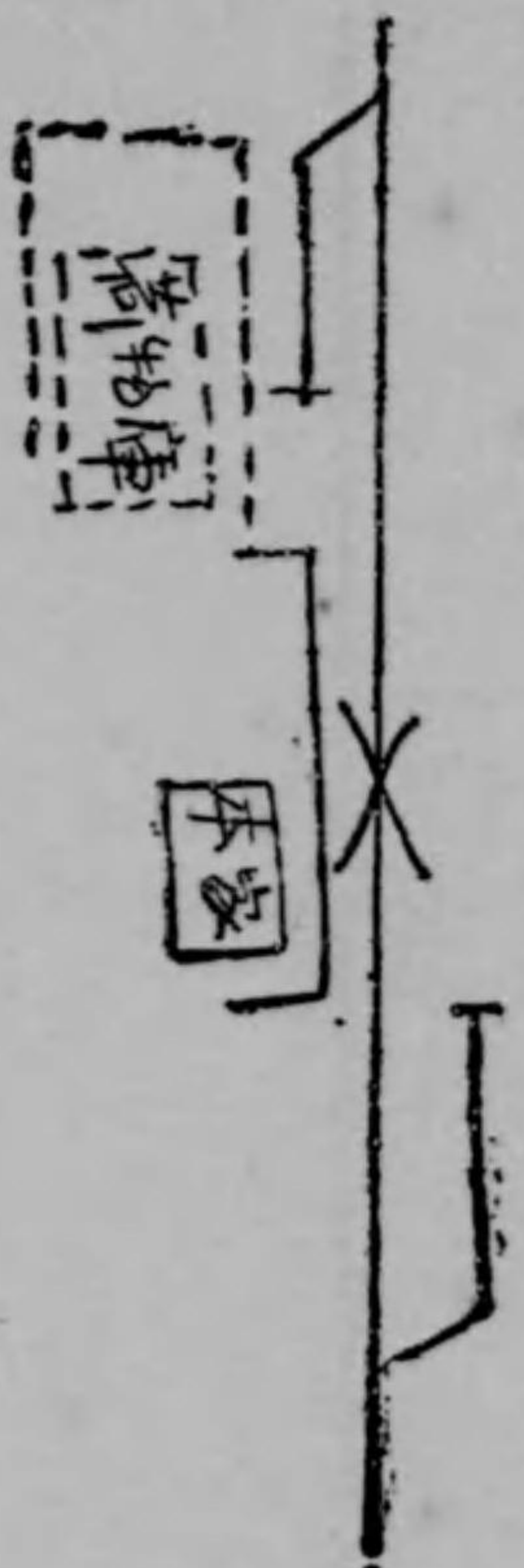
- (ハ) 貨物線ヲ廻線トナシタルモノ



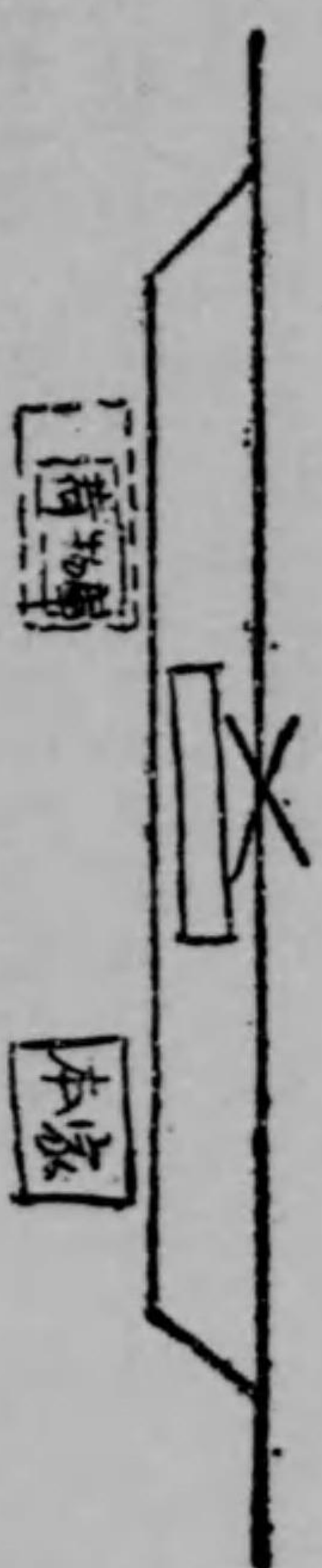
- (ニ) 貨物線ヲ廻線トセサルモノ



二、列車ノ行違アル場合
(イ) 相對式



(ロ) 島式



附則 (昭和七年鐵道省令第一二號)

本令ノ適用ニ當タリ機關車ノ運用上直ニ第二十條ノ規定ニ依リ難キ場合ハ當分ノ内軌道及橋梁ノ負擔力ノ範圍内ニ於テ當該條項ノ制限ヲ超過スルコトヲ得

當該線路ニ國有鐵道建設規程第五十六條ニ規定スル車輛限界ニ近キ大サノ車輛ヲ運轉スル時期迄ハ乗降場及荷物積卸場ノ線端ト車輛ノ踏段又ハ床トノ空隙ヲ小ナラシムル爲一時第十三條第一項ニ規定スル距離ヲ最小一米四迄縮小スルモノトス

連結軸數百ニ對スル制動軸數

線路ノ勾配ニシテ本表ニ掲ケルモノノ中間ニ在ル場合ニ於テ	線路ノ勾配ニシテ本表ニ掲ケルモノノ中間ニ在ル場合ニ於テ	線路ノ勾配ニシテ本表ニ掲ケルモノノ中間ニ在ル場合ニ於テ	線路ノ勾配ニシテ本表ニ掲ケルモノノ中間ニ在ル場合ニ於テ	線路ノ勾配ニシテ本表ニ掲ケルモノノ中間ニ在ル場合ニ於テ	線路ノ勾配ニシテ本表ニ掲ケルモノノ中間ニ在ル場合ニ於テ	線路ノ勾配ニシテ本表ニ掲ケルモノノ中間ニ在ル場合ニ於テ	線路ノ勾配ニシテ本表ニ掲ケルモノノ中間ニ在ル場合ニ於テ	線路ノ勾配ニシテ本表ニ掲ケルモノノ中間ニ在ル場合ニ於テ	線路ノ勾配ニシテ本表ニ掲ケルモノノ中間ニ在ル場合ニ於テ	線路ノ勾配ニシテ本表ニ掲ケルモノノ中間ニ在ル場合ニ於テ
勾配ノ百分ノ以下	勾配ノ百分ノ一以下	勾配ノ百分ノ二以下	勾配ノ百分ノ三以下	勾配ノ百分ノ四以下	勾配ノ百分ノ五以下	勾配ノ百分ノ六以下	勾配ノ百分ノ七以下	勾配ノ百分ノ八以下	勾配ノ百分ノ九以下	勾配ノ百分ノ十以下
六	八	一一	一三	一六	一八	二〇	二四	三一	三七	三五

第五條 列車ノ後部(推進ノ場合ニ於テハ前頭)ニハ制動筒附車輛ヲ連結スルコトヲ要ス

前條第一項但書及同條第二項ノ列車ニハ其ノ後部(推進ノ場合ニ於テハ前頭)ニ緩急車ヲ連結シ之ニ車掌ヲ乗務セシムヘシ

第六條 列車ノ後部標識ハ之ヲ掲ケサルコトヲ得但シ左ノ各號ノ列車ニ對シテハ之ヲ省略スルコトヲ得

一 臨時列車ノ運轉ヲ豫メ關係ノ向ニ通告スル能ハサル場合ニ於テ之ニ先チ同方向ニ運轉スル直前ノ列車

二 事故ノ爲隔時法ニ依リ運轉スル列車

第七條 安全側線又ハ脱線裝置等ノ設備ナキ停車場ニ於テハ左ノ條件ヲ具備スル場合ニ限り上下列車ヲ同時ニ進入セシムルコトヲ得

第八編 運輸 通信 國有鐵道簡易線運轉規程

國有鐵道簡易線運轉規程左ノ通定ム

昭和七年五月二十七日鐵道省令第十號

國有鐵道簡易線運轉規程

第一條 國有鐵道簡易線ニ於ケル運轉ハ本規程ノ定ムル所ニ依ル

第二條 本規程ニ規定セサル事項ハ國有鐵道運轉規程ノ定ムル所ニ依ル

第三條 列車ノ最大軸數ハ機關車ヲ除キ之ヲ二十軸トス但シ特ニ必要アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第四條 列車ハ貫通制動機ヲ使用シ機關車ヲ除キ其ノ連結現軸數百ニ對シ旅客列車ハ八十以上其ノ他ノ列車ハ五十以上ノ割合ノ制動現軸ヲ備フルコトヲ要ス但シ必要ニ應シ貫通制動機ノ作用スル車輛ノ後部ニ其ノ制動機ノ作用セサル車輛ヲ連結スルコトヲ得

特殊ノ事由アル場合ハ貫通制動機ノ作用セサル列車ヲ運轉スルコトヲ得

第一項但書ノ列車ニ於ケル貫通制動機ノ作用セサル部分及第二項ノ列車ニ於テハ線路ノ勾配ニ應シ其ノ連結軸數ニ對シ左ノ割合以上ノ制動軸ヲ備フルコトヲ要ス

ムルコトヲ得

一 上下列車カ何レモ貫通制動機ヲ使用スルトキ

二 最遠轉轍器外八十米以内ニ千分ノ十ヨリ急ナル勾配ナキトキ

第八條 本線路ニ於ケル轉轍器ハ列車對向シテ通過スルトキ之ヲ鎖錠シ又ハ其ノ取柄ヲ支持スルコトヲ要ス但シ發條轉轍器ハ此ノ限ニ在ラス

第九條 列車ハ出發合圖アルニ非サレハ停車場ヲ出發スルコトヲ得ス但シ特別ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十條 列車カ停車場ニ進入スヘキ時刻ノ十分前ヨリ到着スル迄ハ其ノ方面ニ於テ停車場外ニ亙リ列車又ハ車輛ノ入換ヲ爲スコトヲ得

第十一條 列車ハ一時間四十五秒ノ速度ヲ超エテ運轉スルコトヲ得ス但シ軌道及橋梁ニ對シ其ノ負擔力ヨリ大ナル影響ヲ與ヘサル場合ハ一時間六十五秒迄増スコトヲ得

〔註〕 本條但書ハ氣動車運轉ノ如キ場合ヲ考慮セルモノナリ

第十二條 列車ノ行違ヲ爲ス場合ニ於ケル停車場進入速度ハ對向轉轍器通過ノ際一時間二十秒以下タルコトヲ要ス

第十三條 半徑六百米以下ノ曲線ニ於テハ列車ハ左ノ速度ヲ超エテ運轉スルコトヲ得

曲線半徑(米)	速 度 (一時間ニ付軒)	
	線路ノ分岐ニ附帯セサル曲線ノ場合	線路ノ分岐ニ附帯スル曲線ノ場合
六〇〇	六〇	四五
五〇〇	五五	四〇
四〇〇	五〇	三五
三〇〇	四五	三〇
二〇〇	三五	二五
一〇〇	二〇	一五

曲線半徑本表ニ掲クルモノノ中間ニ在ル場合ノ速度ハ挿入法ニ依リ算出ス

第十四條 閉塞區間ニ於ケル閉塞ハ票券式ト通信閉塞式トノ併用ニ依ルヲ通例トス

附 則 (昭和七年鐵道省令第一三號)

本令ノ適用ニ當タリ既設線路ニシテ現ニ一時間四十五軒ヲ超ユル速度ヲ以テ列車ノ運轉ヲナス區間ニ在リテハ當分ノ内軌道及橋梁ノ負擔力ノ範圍内ニ於テ第十一條ノ制限ヲ超過スルコトヲ得但シ一時間六十五軒ヲ超ユルコトヲ得ス

家屋賃貸價格調査令

昭和四年一月二日勅令第四〇三號
改正 昭和七年十月勅令第三二五號

第一章 家屋稅調查委員

第一條 大正十五年法律第二十四號ニ規定スル家屋稅調查委員ハ第一次家屋稅調查委員、第二次家屋稅調查委員及特別家屋稅調查委員トス

第二章 第一次家屋稅調查委員

第二條 第一次家屋稅調查委員(以下本章ニ於テ之ヲ調查委員ト稱ス)ハ各市町村ノ區域ニ之ヲ置キ市町村長及家屋稅調查委員(以下本令ニ於テ之ヲ調査員ト稱ス)ヲ以テ之ヲ組織ス

調査員ハ市町村ノ區域ニ於テ其ノ被選舉權アル者ニ就キ選舉人之ヲ選舉ス

第三條 各市町村ノ區域ニ於ケル調査員ノ定數左ノ如シ

- 一 人口五千未満ノ市町村 六人
- 二 人口五千以上一萬未満ノ市町村 九人
- 三 人口一萬以上二萬未満ノ市町村 十二人
- 四 人口二萬以上五萬未満ノ市町村 十五人
- 五 人口五萬以上十萬未満ノ市町村 十八人

六 人口十萬以上ノ市町村 二十人

人口十萬ヲ超ユル市町村ニ於テハ人口十萬、人口五十萬ヲ超ユル市町村ニ於テハ人口二十萬ヲ加フル毎ニ調査員二人ヲ増加ス

調査員ノ定數ハ人口ニ増減アルモ總選舉ヲ行フ場合ニ非サレハ之ヲ増減セス

第四條 府縣知事特別ノ事情アリト認ムルトキハ區劃ヲ定メテ投票分會ヲ設クルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ投票分會ヲ設ケタルトキハ府縣知事ハ直ニ其ノ區劃ヲ告示スヘシ

第五條 調査員ノ總選舉ハ家屋賃貸價格ヲ改訂スヘキ年度ノ四月一日ノ屬スル年ニ之ヲ行フ

調査員ハ其ノ區域ノ屬スル區域ニ於ケル第二次家屋稅調查委員ノ會議ノ閉會ニ依リ其ノ任ヲ終ル

第六條 市町村内ノ家屋ニ付家屋稅ヲ納ムル者ハ當該市町村ノ區域ニ於テ調査員ノ選舉權ヲ有ス但シ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ此ノ限ニ在ラス

- 一 破産者ニシテ復權ヲ得サル者
- 二 租稅滯納處分中ノ者
- 三 六年ノ懲役若ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレ又ハ舊刑法ノ重罪ノ刑ニ處セラレタル者
- 四 六年未滿ノ懲役又ハ禁錮ノ刑ニ處セラレ其ノ刑ノ執行

ヲ終リ又ハ執行ヲ受クルコトナキニ至ル迄ノ者

第七條 市町村内ニ住所ヲ有シ且其ノ市町村ノ區域ニ於テ選舉權ヲ有スル年齢二十五年以上ノ者ハ當該市町村ノ區域ニ於テ調査員ノ被選舉權ヲ有ス但シ禁治産者及準禁治産者ハ此ノ限ニ在ラス

第八條 調査員ニ缺員ヲ生シタルトキハ第三十一條ノ例ニ依リ之ヲ補充スヘキ當選者ヲ定ムヘシ

前項ノ規定ニ依リ當選者ヲ定ムルモ仍缺員アル場合ニ於テ其ノ缺員カ當該市町村ノ區域ニ於ケル調査員ノ定數ノ三分ノ一ヲ超ユルトキ又ハ府縣知事ニ於テ必要ト認ムルトキハ補缺選舉ヲ行フヘシ

第九條 市町村長ハ選舉期日前四十日目ヲ期トシ其ノ日ノ現在ニ依リ選舉人名簿ヲ調製スヘシ

第十條 市町村長ハ選舉期日前二十日目ヲ期トシ其ノ日ヨリ七日間市役所、町村役場又ハ其ノ指定シタル場所ニ於テ選舉人名簿ヲ關係者ノ縦覽ニ供スヘシ

縦覽ノ場所ハ縦覽開始ノ日前三日目迄ニ之ヲ告示スヘシ
第十一條 選舉人名簿ニ關シ關係者ニ於テ異議アルトキハ縦覽期間内ニ之ヲ市町村長ニ申立ツルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ市町村長ハ其ノ申立ヲ受ケタル日ヨリ五日内ニ之ヲ決定シ名簿ノ修正ヲ要スルトキハ直ニ之ヲ修正スヘシ
市町村長前項ノ決定ヲ爲シタルトキハ直ニ申立人ニ理由ヲ

簿ノ抄本ノ調製ニ關シ必要ナル事項ハ主務大臣ノ定ムル所ニ依ル

第十四條 府縣知事ハ選舉ノ期日前七日目迄ニ選舉ヲ行フヘキ區域、投票ヲ行フヘキ日時及選舉スヘキ調査員ノ員數ヲ告示スヘシ

天災事變等ノ爲投票ヲ行フコトヲ得サルトキ又ハ更ニ投票ヲ行フノ必要アルトキハ府縣知事ハ當該市町村ノ區域又ハ投票分會ノ區劃ニ付投票ヲ行フヘキ日時ヲ定メ投票ノ期日前七日目迄ニ之ヲ告示スヘシ

第十五條 市町村長ハ選舉ノ期日前五日目迄ニ選舉會場(投票分會場ヲ含ム以下之ニ同シ)ヲ告示スヘシ

第十六條 市町村長ハ選舉長ト爲リ選舉會ヲ開閉シ其ノ取締ニ任ス

市町村長ハ選舉人名簿ニ登錄セラレタル者ニシテ被選舉權ヲ有スル者ノ中ヨリ二人ノ選舉立會人ヲ選任スヘシ
投票分會ニ於テハ市町村長ノ指定シタル吏員投票分會長ト爲リ之ヲ開閉シ其ノ取締ニ任ス

市町村長ハ投票分會ニ於テ投票スヘキ選舉人ニシテ被選舉權ヲ有スル者ノ中ヨリ二人ノ投票立會人ヲ選任スヘシ

第十七條 選舉ハ無記名投票ヲ以テ之ヲ行フ
投票ハ一市町村ノ區域ニ付テハ一人一票ニ限ル
選舉人ハ選舉ノ當日投票時間内ニ自ラ選舉會場ニ到リ選舉

附シタル決定書ヲ交付シ併セテ其ノ要領ヲ告示スヘシ

第一項ノ決定ニ不服アル者ハ其ノ決定書ノ交付ヲ受ケタル者ニ在リテハ其ノ受ケタル日ヨリ、其ノ他ノ者ニ在リテハ告示アリタル日ヨリ十日内ニ府縣知事ニ訴願スルコトヲ得

第十二條 選舉人名簿ハ選舉期日前三日目ヲ以テ確定ス
確定名簿ハ其ノ確定シタル日ヨリ一年内ニ於テ行フ選舉ニ之ヲ用フ

前條第三項ノ場合ニ於テ裁決アリタルニ依リ名簿ノ修正ヲ要スルトキハ市町村長ハ直ニ之ヲ修正シ併セテ其ノ旨ヲ告示スヘシ

第十三條 第十一條ノ場合ニ於テ決定確定シ又ハ裁決アリタルニ依リ選舉人名簿無効ト爲リタルトキハ更ニ名簿ヲ調製スヘシ

天災事變等ノ爲必要アルトキハ更ニ名簿ヲ調製スヘシ
前二項ノ規定ニ依ル名簿ノ調製、縦覽、確定及異議決定ニ關スル期日及期間ハ府知事ノ定ムル所ニ依ル

前項ノ規定ニ依リ期日及期間ヲ定メタルトキハ府縣知事ハ直ニ之ヲ告示スヘシ
名簿調製後ニ於テ選舉期日ヲ變更スルコトアルモ其ノ名簿ヲ用ヒ縦覽、確定及異議ノ決定ニ關スル期日及期間ハ前項ノ規定ニ依リ之ヲ算定ス
投票分會ヲ設ケタル場合ニ於ケル選舉人ノ所屬及選舉人名

人名簿又ハ其ノ抄本ノ對照ヲ經テ投票ヲ爲スヘシ
投票時間内ニ選舉會場ニ入りタル選舉人ハ其ノ時間ヲ過ク
ルモ投票ヲ爲スコトヲ得

選舉人ハ選舉會場ニ於テ投票用紙ニ自ラ被選舉人一人ノ氏名ヲ記載シテ投函スヘシ
自ラ被選舉人ノ氏名ヲ書スルコト能ハサル者ハ投票ヲ爲スコトヲ得ス

投票用紙ハ府縣知事ノ定ムル所ニ依リ一定ノ式ヲ用フヘシ
投票分會ニ於テ爲シタル投票ハ投票分會長少クトモ一人ノ投票立會人ト共ニ投票函ノ儘之ヲ選舉長ニ送致スヘシ

第十八條 確定名簿ニ登錄セラレタル者ハ投票ヲ爲スコトヲ得ス但シ選舉人名簿ニ登錄セラレヘキ確定決定書又ハ裁決書ヲ所持シ選舉ノ當日選舉會場ニ到ル者ハ此ノ限ニ在ラス
確定名簿ニ登錄セラレタル者選舉人名簿ニ登錄セラレタルコトヲ得サル者ナルトキハ投票ヲ爲スコトヲ得ス選舉ノ當日選舉權ヲ有セサル者ナルトキ亦同シ

第十九條 投票ノ拒否ハ選舉立會人又ハ投票立會人之ヲ決定ス可否同數ナルトキハ選舉長又ハ投票分會長之ヲ決スヘシ
投票分會ニ於テ投票拒否ノ決定ヲ受ケタル選舉人不服アルトキハ投票分會長ハ假ニ投票ヲ爲サシムヘシ

前項ノ投票ハ選舉人ヲシテ之ヲ封筒ニ入レ封緘シ表面ニ自ラ其ノ氏名ヲ記載シ投函セシムヘシ

第二十條 第三十五條ノ選舉及補缺選舉ヲ同時ニ行フ場合ニ於テハ一ノ選舉ヲ以テ合併シテ之ヲ行フ

第二十一條 市町村長豫メ開票ノ日時ヲ告示スヘシ

第二十二條 選舉長ハ投票ノ日又ハ其ノ翌日(投票分會ヲ設ケタルトキハ總テノ投票函ノ送致ヲ受ケタル日又ハ其ノ翌日)選舉立會人立會ノ上投票函ヲ開キ投票ノ總數ト投票人ノ總數トヲ計算スヘシ

前項ノ計算終リタルトキハ選舉長ハ先ツ第十九條第二項ノ投票ヲ調査スヘシ其ノ投票ノ受理如何ハ選舉立會人之ヲ決定ス可同數ナルトキハ選舉長之ヲ決スヘシ

選舉長ハ選舉立會人ト共ニ投票ヲ點檢スヘシ

天災事變等ノ爲開票ヲ行フコト能ハサルトキハ市町村長ハ更ニ開票ノ日時ヲ定ムヘシ此ノ場合ニ於テ選舉會場ノ變更ヲ要スルトキハ豫メ更ニ其ノ場所ヲ告示スヘシ

第二十三條 選舉人ハ其ノ選舉會ノ參觀ヲ求ムルコトヲ得但シ開票開始前ハ此ノ限ニ在ラス

第二十四條 府縣知事特別ノ事情アリト認ムルトキハ區劃ヲ定メテ開票分會ヲ設クルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ開票分會ヲ設クル場合ニ於テ必要ナル事項ハ主務大臣ノ定ムル所ニ依ル

第二十五條 左ノ投票ハ之ヲ無効トス

一 成規ノ用紙ヲ用ヒサルモノ

二 現ニ調査員ノ職ニ在ル者ノ氏名ヲ記載シタルモノ

三 一投票中二人以上ノ被選舉人ノ氏名ヲ記載シタルモノ

四 被選舉人ノ何人タルカヲ認メ難キモノ

五 被選舉權ナキ者ノ氏名ヲ記載シタルモノ

六 被選舉人ノ氏名ノ外他事ヲ記入シタルモノ但シ爵位、職業、身分、住所又ハ敬稱ノ類ヲ記入タルモノハ此ノ限

リニ在ラス

七 被選舉人ノ氏名ヲ自書セサルモノ

第二十六條 投票ノ效力ハ選舉立會人之ヲ決定ス可同數ナルトキハ選舉長之ヲ決スヘシ

第二十七條 調査員ノ選舉ハ有效投票ノ最多數ヲ得タル者ヲ以テ當選者トス得票ノ數同シキトキハ年長者ヲ取り年齡同シキトキハ選舉長抽籤シテ之ヲ定ムヘシ

第二十八條 當選者選舉ノ期日後ニ於テ被選舉權ヲ有セサルニ至リタルトキハ當選ヲ失フ

第二十九條 選舉長ハ選舉錄ヲ作り選舉會ニ關スル顛末ヲ記載シ之ヲ朗讀シ選舉立會人ト共ニ之ニ署名スヘシ

投票分會長ハ投票錄ヲ作り投票ニ關スル顛末ヲ記載シ之ヲ朗讀シ投票立會人ト共ニ之ニ署名スヘシ

投票分會長ハ投票函ト同時ニ投票錄ヲ選舉長ニ送致スヘシ選舉錄及投票錄ハ投票、選舉人名簿其ノ他ノ關係書類ト共ニ調査員ノ任期間市町村長ニ於テ之ヲ保存スヘシ

第三十條 當選者定マリタルトキハ市町村長ハ直ニ當選者ニ當選ノ旨ヲ告知シ同時ニ當選者ノ住所氏名ヲ告示スヘシ當選者ナキトキ又ハ當選者其ノ選舉ニ於テ選舉スヘキ調査員ノ員數ニ達セサルトキハ直ニ其ノ旨ヲ告示シ併セテ之ヲ府縣知事ニ報告スヘシ

當選者當選ノ告知ヲ受ケタルトキハ十日内ニ其ノ當選ヲ承諾スルヤ否ヲ市町村長ニ申立ツヘシ

當選者前項ノ申立ヲ其ノ期間内ニ爲ササルトキハ當選ヲ辭シタルモノト看做ス

市町村長第二項ノ規定ニ依ル申立ヲ受ケタルトキハ直ニ其ノ旨ヲ府縣知事ニ報告スヘシ

當選者ナキニ至リタルトキ又ハ當選者其ノ選舉ニ於テ選舉スヘキ調査員ノ員數ニ達セサルニ至リタルトキハ市町村長ハ直ニ其ノ旨ヲ告示シ併セテ之ヲ府縣知事ニ報告スヘシ

第三十一條 當選者左ニ掲クル事由ノ一ニ該當スル場合ニ於テ他ノ得票者ニシテ當選者ト爲ラサリシ者アルトキハ直ニ選舉會ヲ開キ其ノ中ニ就キ當選者ヲ定ムヘシ

一 當選ヲ辭シタルトキ又ハ死亡者ナルトキ

二 第二十八條ノ規定ニ依リ當選ヲ失ヒタルトキ

三 第三十四條ノ規定ニ依ル異議申立又ハ訴願ノ結果當選無効ト爲リタルトキ

前項ノ場合ニ於テ當選者ト爲ラサリシ者選舉ノ期日後ニ於

テ被選舉權ヲ有セサルニ至リタルトキハ之ヲ當選者ト定ムルコトヲ得ス

第一項ノ場合ニ於テハ市町村長ハ豫メ選舉會ノ場所及日時ヲ告示スヘシ

第三十二條 當選者當選ヲ承諾シタルトキハ府縣知事ハ直ニ當選證書ヲ付與シ併セテ其ノ住所氏名ヲ告示スヘシ

第三十三條 選舉ノ規定ニ違反スルコトアルトキハ選舉ノ結果ニ異動ヲ生スルノ虞アル場合ニ限り其ノ選舉ノ全部又ハ一部ヲ無効トス但シ當選ニ異動ヲ生スルノ虞ナキ者ヲ區分シ得ルトキハ其ノ者ニ限り當選ヲ失フコトナシ

第三十四條 選舉人選舉又ハ當選ノ效力ニ關シ異議アルトキハ選舉ニ關シテハ選舉ノ日ヨリ、當選ニ關シテハ第三十條第一項又ハ第五項ノ告示ノ日ヨリ七日内ニ之ヲ市町村長ニ申立ツルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ市町村長ハ其ノ申立ヲ受ケタル日ヨリ十四日内ニ之ヲ決定スヘシ

前項ノ決定ニ關シテハ第十一條第二項及第三項ノ規定ヲ準用ス

第八條第二項又ハ第三十五條ノ選舉ハ之ニ關係アル選舉又ハ當選ニ關スル異議申立期間、異議ノ決定確定セサル間又ハ訴願ノ裁決アル迄ハ之ヲ行フコトヲ得ス

選舉又ハ當選ニ關スル異議ノ決定確定シ又ハ訴願ノ裁決アル迄ハ調査員ハ會議ニ列席シ議事ニ參與スルノ權ヲ失ハス

第三十五條

選舉無効ト確定シタルトキ、當選者ナキトキ又ハ當選者ナキニ至リタルトキハ更ニ選舉ヲ行フヘシ當選者其ノ選舉ニ於テ選舉スヘキ調査員ノ員數ニ達セサルトキ又ハ員數ニ達セサルニ至リタルトキ其ノ不足ノ員數ニ付亦同シ

第三十六條

調査員被選舉權ヲ有セサル者ナルトキハ其ノ職ヲ失フ其ノ被選舉權ノ有無ハ市町村長之ヲ決定ス市町村長前項ノ決定ヲシタルトキハ直ニ本人ニ理由ヲ附シタル決定書ヲ交付スヘシ

第一項ノ決定ヲ受ケタル者不服アルトキハ其ノ決定書ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ十日内ニ府縣知事ニ訴願スルコトヲ得第三十四條第四項ノ規定ハ第一項及前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三十七條

調査委員ハ市町村内ノ家屋ノ賃賃價格ヲ調査ス調査委員ハ其ノ調査員中ヨリ第二次家屋稅調査委員ヲ組織スヘキ者ヲ選舉スヘシ但シ大正十五年勅令第三百三十九號第四條第一項及第五條ノ規定ニ依リ定ムル家屋ノ賃賃價格ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ニ依リ選舉スヘキ調査員ノ定數ハ人口十萬以上ノ市町村ノ區域ニ於ケル調査委員ニ在リテハ三人、人口二萬以上ノ市町村ノ區域ニ於ケル調査委員ニ在リテハ二人、其ノ他ノ調査委員ニ在リテハ一人トス

前項ノ定數ハ人口ニ増減アルモ第一次家屋稅調査委員ヲ織スヘキ調査員ノ定數ヲ變更スル場合ニ非サレハ之ヲ増減セス

第一項ノ規定ニ依リ第二次家屋稅調査委員ヲ組織スヘキ者ヲ選舉シタルトキハ議長ハ直ニ其ノ氏名ヲ府縣知事ニ報告スヘシ

第三十八條

調査委員ハ市町村長ヲ以テ議長トス

第三十九條

調査委員ノ會議ハ府縣知事之ヲ招集ス招集及會議ノ事件ハ開會ノ日前三日目迄ニ府縣知事市町村長ヲシテ之ヲ告知セシムヘシ

調査委員ノ會議ハ市町村長之ヲ開閉ス

調査委員ノ會議ノ開會日數ハ府縣知事之ヲ定ム

第四十條

調査委員ハ調査員定數ノ半數以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ得ス但シ同一ノ事件ニ付招集再回ニ至ルモ仍半數ニ滿タサルトキ又ハ招集ニ應スルモ出席調査員定數ヲ缺キ議長ニ於テ出席ヲ催告シ仍半數ニ滿タサルトキハ此ノ限ニ在ラス

第四十一條

調査委員ノ議事ハ調査員過半數ヲ以テ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

議長ハ其ノ職務ヲ行フ場合ニ於テモ之カ爲調査員トシテ議決ニ加ハルノ權ヲ失ハス

第四十二條

第三十七條第二項ノ規定ニ依リ調査委員ニ於テ

調査シ其ノ調査書ヲ作製シ直ニ第二次家屋稅調査委員ニ之ヲ送付スヘシ

第三章 第二次家屋稅調査委員

第四十七條

第二次家屋稅調査委員（以下本章ニ於テ之ヲ調査委員ト稱ス）ハ數市町村ノ區域ヲ合セタル區域ニ之ヲ置キ府縣知事ノ指定シタル官吏又ハ吏員一人及第一次家屋稅調査委員ニ於テ選舉シタル調査員ヲ以テ之ヲ組織ス前項ノ區域ハ府縣知事之ヲ定ム

第四十八條

調査委員ハ其ノ區域内ノ家屋ノ賃賃價格ヲ調査ス但シ大正十五年勅令第三百三十九號第四條第一項及第五條ノ規定ニ依リ定ムル家屋ノ賃賃價格ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第四十九條

調査委員ハ第四十七條第一項ノ規定ニ依リ府縣知事ノ指定シタル官吏又ハ吏員ヲ以テ議長トス

第五十條

調査委員ノ會議ハ府縣知事之ヲ招集ス招集及會議ノ事件ハ開會ノ日前十日目迄ニ府縣知事之ヲ告示スヘシ

調査委員ノ會議ハ府縣知事之ヲ開閉ス

調査委員ノ會議ノ開會日數ハ府縣知事之ヲ定ム

第五十一條

第四十條、第四十一條及第四十三條乃至第四十五條ノ規定ハ調査委員ニ之ヲ準用ス

行フ選舉ニ付テハ第十七條、第二十五條及第二十七條ノ規定ヲ準用ス其ノ投票ノ效力ニ關シ異議アルトキハ調査委員之ヲ決定ス

前項ノ選舉ニ付テハ調査委員ハ調査員ニ於テ異議ナキ場合ニ限り指名推選ノ法ヲ用ヒ全員ノ同意ヲ得タル被指名者ヲ以テ當選者ト定ムルコトヲ得

第四十三條

議長ハ會議ヲ總理シ會議ノ順序ヲ定メ其ノ日ノ會議ヲ開閉シ議場ノ秩序ヲ保持ス

第四十四條

調査委員ニ書記ヲ置キ議長之ヲ任免ス書記ハ議長ノ命ヲ承ケ庶務ニ従事ス

第四十五條

議長ハ書記ヲシテ會議録ヲ調製シ會議ノ顛末及出席者ノ氏名ヲ記載セシムヘシ

會議録ハ議長及調査員二人以上之ニ署名スルコトヲ要ス其ノ調査員ハ調査委員ニ於テ之ヲ定ムヘシ

議長ハ會議録ノ寫ヲ添ヘ會議ノ結果ヲ府縣知事ニ報告スヘシ

第四十六條

市町村長ハ市町村内ノ家屋ノ賃賃價格ニ關スル下調査ヲ調製シ之ヲ調査委員ニ提出スヘシ但シ大正十五年勅令第三百三十九號第四條第一項及第五條ノ規定ニ依リ定ムル家屋ノ賃賃價格ニ關スル下調査ハ之ヲ特別家屋稅調査委員ニ提出スヘシ

調査委員前項ノ下調査ヲ受ケタルトキハ家屋ノ賃賃價格ヲ

第五十二條 第四十六條第二項ノ規定ニ依ル調査書ノ送付ナキトキハ調査委員ハ市町村長ニ同條第一項ノ下調書ノ送付ヲ求ムヘシ

第四章 家屋ノ賃賃價格ノ決定

第五十三條 府縣知事ハ第二次家屋稅調查委員ノ調査ノ結果ニヨリ家屋ノ賃賃價格ヲ決定スヘシ但シ第二次家屋稅調查委員ノ調査完了セサルトキ又ハ其ノ調査ヲ不當ナリト認ムルトキハ第五十四條ノ特別家屋稅調查委員ノ調査ノ結果ニ依リ之ヲ決定スヘシ

第五十四條 大正十五年勅令第三百三十九號第四條第一項及第五條ノ規定ニ依リ定ムル家屋ノ賃賃價格ニ付テハ前條ノ規定ニ拘ラス府縣知事ハ其ノ指定シタル官吏又ハ吏員三人乃至五人ヲ以テ組織シタル特別家屋稅調查委員ノ調査ノ結果ニ依リ之ヲ決定スヘシ

特別家屋稅調查委員ノ調査ノ方法ニ關シテハ府縣知事ノ定ムル所ニ依ル

第五章 補則

第五十五條 市町村ノ廢置分合又ハ境界變更アリタル場合ニ於テ府縣知事必要ト認ムルトキハ次ノ總選舉ニ至ル迄ノ間第三條第三項ノ規定ニ拘ラス市町村ノ區域ニ於ケル調査員ノ定數ヲ増減スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ選舉人名簿竝ニ調査員及第二次家屋稅調

査委員ヲ組織スヘキ調査員ノ選舉、解任等ニ關シ必要ナル事項ハ主務大臣ノ定ムル所ニ依ル

第五十六條 第三條第一項及第二項竝ニ第三十七條第三項ノ人口ハ主務大臣ノ定ムル所ニ依ル

第五十七條 法人タル選舉人ハ主務大臣ノ定ムル所ニ依リ代人ヲ以テ投票ヲ行フ此ノ場合ニ於テハ第十七條第三項乃至第六項、第十九條第二項及第三項竝ニ第二十三條ノ規定ハ其ノ代人ニ之ヲ適用ス

禁治產者、及準禁治產者及未成年者タル選舉人ニ關シテハ前項ノ規定ヲ準用ス

第五十八條 市制第六條及第八十二條第三項ノ市ニ於テハ本令中市ニ關スル規定ハ區、市長ニ關スル規定ハ區長ニ、市役所ニ關スル規定ハ區役所ニ之ヲ適用ス

第五十九條 府縣知事特別ノ事情アリト認ムルトキハ第二條ノ規定ニ拘ラス市ノ區域ヲ數區域ニ分チ其ノ區域毎ニ第一次家屋稅調查委員ヲ置クコトヲ得此ノ場合ニ關シテハ左ノ規定ニ依ル

一 第二條、第三條第一項及第二項、第六條、第七條、第八條第二項、第十四條第二項、第十七條第二項、第三十七條第一項及第三項、第四十六條第一項、第四十七條第一項竝ニ第五十五條ノ規定ノ適用ニ關シテハ市町村又ハ市町村ノ區域トアルハ市ノ區域ヲ分チタル區域

トス
二 選舉人名簿ハ市ノ區域ヲ分チタル區域毎ニ之ヲ調製スヘシ

三 選舉長ハ府縣知事ノ指定シタル市吏員トシ第二十一條第二十二條第四項、第三十條第一項第二項第四項及第五項竝ニ第三十一條第三項ノ規定ニ依ル市長ノ職務ハ選舉長之ヲ行フ

四 第二條及第三十八條ノ規定ノ適用ニ關シテハ市町村長トアルハ府縣知事ノ指定シタル市吏員トス

第六十條 府縣費ノ全部ノ分賦ヲ受ケタル市ニ關シテハ左ノ規定ニ依ル

一 第三十條第一項第四項及第五項、第三十七條第五項、第四十五條第三項、並ニ第五十一條ノ規定ニ依ル報告又ハ送付ハ市長ニ對シ之ヲ爲スヘシ

二 第四條、第八條第二項、第十三條第三條及第四項、第十四條、第十七條第七項、第二十四條第一項、第三十二條、第三十九條第一項第二項及第四項、第四十七條第五十條、第五十三條、第五十四條、第五十五條第一項並ニ前條ノ規定ニ依ル府縣知事ノ職務ハ市長之ヲ行フ

第六十一條 削除

第六十二條 府縣費ノ全部ノ分賦ヲ受ケタル市カ府縣費ノ全

部ノ分賦ヲ受ケサルニ至リタル場合ニ於テハ其ノ市ノ家屋稅ノ調査員ハ之ヲ府縣ノ家屋稅ノ調査員トス

前項ノ場合ニ於テ第六十條ノ規定ニ依リ市長ノ分チタル區域ハ之ヲ第五十九條ノ規定ニ依リ府縣知事ノ分チタル區域ト看做ス

第六十三條 北海道ニ於テハ本令中府縣又ハ府縣知事ニ關スル規定ハ北海道又ハ北海道廳長官ニ、町村長又ハ町村役場ニ關スル規定ハ町村町村長又ハ町村役場ニ準スヘキモノニ之ヲ適用ス

第六十四條 町村組合ニシテ町村ノ事務ノ全部又ハ役場事務ヲ共同處理スルモノハ本令ノ適用ニ付テハ之ヲ一町村、其ノ組合管理者ハ之ヲ町村長、其ノ組合役場ハ之ヲ町村役場ト看做ス

第六十五條 交通至難ノ島嶼其ノ他ノ地ニ於テ本令ヲ適用シ難キ事項ニ付テハ府縣知事ハ主務大臣ノ許可ヲ受ケ特別ノ規定ヲ設クルコトヲ得

附則
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附則 (昭和七年勅令第三二五號)

本令ハ昭和八年四月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ第五條、第八條及第六十二條ノ改正規定ハ次ノ總選舉ヨリ之ヲ施行ス

家屋賃貸價格調査令施行規則

昭和四年十二月 內務省令
大藏省令

第一條 家屋賃貸價格調査令第三條第一項及第二項ノ人口ハ市制町村制施行規則第一條ノ規定ニ依ル人口トス但シ市制第八十二條第三項ノ市ノ區及家屋賃貸價格調査令第五十九

條又ハ第六十條ノ規定ニ依リ市ノ區域ヲ分チタル區域ノ人口ニ付テハ府縣知事ノ告示シタル人口トス
家屋賃貸價格調査令第三十七條第三項ノ人口ハ市町村ノ區域ニ於ケル家屋稅調査員ノ定數ノ標準ト爲リタル人口トス
第二條 家屋賃貸價格調査令第四條第一項ノ規定ニ依リ投票分會ヲ設ケタル場合ニ於テハ左ノ規定ニ依ル
一 選舉人名簿調製ノ期日ニ於テ投票分會ノ區劃内ニ住所ヲ有シタル選舉人ハ投票分會ニ於テ、其ノ他ノ選舉人ハ選舉會ニ於テ投票ヲ行フヘシ
二 市町村長ハ必要アルトキハ選舉人名簿ニ依リ投票分會ノ區劃毎ニ名簿ヲ抄本ヲ調製スヘシ
第三條 市町村ノ廢置分合アリタル場合ニ於テハ從前ノ市町村ノ市町村長(又ハ市町村長ノ職務ヲ行フ者)タリシ者ハ直ニ其ノ地域ノ新ニ屬シタル市町村ノ市町村長ニ選舉人名簿ヲ送付スヘシ但シ名簿ヲ分割スルニ非サレハ送付スルコト能ハサルトキ又ハ關係市町村ニ於ケル名簿カ同一期日ニ依リ調製シタルモノニ非サルトキハ此ノ限ニ在ラス
市町村長選舉人名簿ノ送付ヲ受ケタルトキハ直ニ其ノ旨ヲ告示シ併セテ之ヲ府縣知事ニ報告スヘシ
第四條 前條ノ規定ニ依リ送付ヲ受ケタル選舉人名簿ハ市町村ノ廢置分合ニ係ル地域ノ新ニ屬シタル市町村ニ於ケル選舉人名簿ト看做ス

第十編 衛生 警察

第一章 醫師法

- 醫師法施行規則 一
- 醫師會令 二
- 賣藥部外品取締規則 一〇ノ一
- 藥品營業並藥品取扱規則第三十八條ノ三ニ依リ左記藥品ヲ指定 一〇ノ二
- 醫藥品及齒科材料製造研究獎勵金交付規則 一〇ノ七
- 精神病院法 一一
- 結核豫防法 一二
- 結核豫防法施行令 一四
- 結核豫防法施行規則 一六
- ドラホーム豫防法 一八
- 第二章 齒科醫師法 一八ノ二
- 齒科醫師法施行規則 二
- 齒科醫師會令 三ノ一
- 第二章ノ二 獸醫師法 三ノ六

第十編目

次

第二章 產婆規則

產婆試驗規則 二四

第四章 藥劑師法

- 藥劑師法第二條第二項第三號ノ資格ニ關スル件 二六ノ二
- 藥劑師法施行規則 二六ノ二
- 藥劑師會令 二六ノ五
- 藥品營業並藥品取扱規則 二八
- 第一章 藥劑師 二八
- 第二章 藥種商 二八
- 第三章 製藥者 二八
- 第四章 藥品取扱 二八
- 第五章 罰則 二九
- 第五章 賣藥法 三二
- 賣藥法施行規則 三三
- 第六章 種痘法 三五
- 麻藥取締規則 三六ノ一

一

種痘法施行規則……………三七

第七章 傳染病豫防法……………三九

傳染病豫防法施行規則……………四〇

第一章 傳染病發生ノ通報及届出……………四〇

第二章 疑似症及病原體保有者……………四〇

第三章 清潔方法及消毒方法ノ施行……………四〇

第四章 清潔方法……………四六

第五章 消毒方法……………四七

第六章 患者、死體、物件ノ處置及交通遮斷隔離……………五一

第七章 傳染病豫防委員……………五三

第八章 船舶、汽車、電車ノ檢疫……………五三

第九章 手當金及補助……………五五

第十章 雜則……………五五

花柳病豫防法……………五六

花柳病豫防法施行令……………五六ノ一

花柳病豫防施行規則……………六六ノ二

第八章 清涼飲料水取締規則……………五六ノ二

古物商取締法……………五八

古物商取締法施行細則……………五八ノ二

第九章 質屋取締法……………五八ノ四

質屋取締法施行細則……………六〇

公益質屋法……………六〇ノ一

公益質屋法施行規則……………六〇ノ三

第十章 消防組規則……………六〇ノ五

消防組點檢規則……………六〇ノ六

狩獵法……………六〇ノ七

狩獵法施行規則……………六〇ノ一〇

第十一章 行政執行法……………六三

行政執行法施行令……………六五

第十二章 治安警察法……………六六

銃砲火藥類取締法……………六六ノ一

賣藥部外品取締規則

昭和七年七月二十二日內務省令第二十五號

第一條 本令ニ於テ賣藥部外品ト稱スルハ左ノ各號ノ一ニ該

當スル效能アリトスル藥物及內務大臣ノ指定スル物ヲ謂フ

一 疾病ノ豫防又ハ皮膚障害ノ豫防若ハ除去

二 滋養、強壯、心身爽快又ハ身體諸機能ノ増進若ハ抑止

三 皮膚組織ノ變更又ハ體臭ノ防止

四 脫毛ノ防止、毛生、除毛又ハ染毛

五 飲酒、喫煙其ノ他ノ習癖ノ矯正

第二條 賣藥部外品ヲ發賣セントスル者ハ品名、原料品名及

其ノ分量、用法、用量並效能ヲ記載シ見本品ヲ添ヘ主タル

營業所所在地地方長官（東京府ニ在リテハ警視總監以下之

ニ做フ）ノ免許ヲ受クヘシ

第三條 前條ノ免許ヲ受ケタル後賣藥部外品ノ品名、原料品

若ハ其ノ分量、用法、用量又ハ效能ヲ變更セントスルトキ

ハ前條ノ規定ニ準シ更ニ免許ヲ受クヘシ但シ原料品又ハ其

ノ分量ヲ變更セシトスル場合ヲ除クノ外見本品ヲ添フルコ

トヲ要セス

第四條 賣藥部外品ノ發賣者其ノ主タル營業所ヲ變更シタル

トキハ十日以内ニ後ノ主タル營業所所在地地方長官ニ届出

第十編 衛生 警察 賣藥部外品取締規則

ツヘシ

前項ノ届出ヲ受ケタル地方長官前ノ主タル營業所所在地地

方長官ト異ナル場合ニ於テハ前ノ主タル營業所所在地地方

長官ニ其ノ旨ヲ通知スヘシ

第五條 賣藥部外品免許ハ之ヲ讓受ケ又ハ相續スルコトヲ得

賣藥部外品免許ヲ讓受ケ又ハ相續シタル者ハ讓受ケ又ハ相

續シタルトキヨリ十日以内ニ主タル營業所所在地地方長官

ニ届出ツヘシ

前條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第六條 賣藥部外品ハ其ノ容器又ハ被包ニ賣藥部外品ナル文

字、品名及發賣者ノ氏名（法人ニ在リテハ名稱）又ハ商號

並主タル營業所所在地ヲ明記シタルモノニ非サレハ之ヲ販

賣スルコトヲ得ス但シ輸出又ハ移出スル賣藥部外品ニ付テ

ハ此ノ限ニ在ラス

第七條 地方長官ハ衛生上危害ヲ生スルノ虞アリト認ムルト

キハ發賣者ニ對シ賣藥部外品ノ原料品若ハ其ノ分量、用法

用量又ハ效能ヲ變更ヲ命スルコトヲ得

第八條 地方長官ハ第二條若ハ第三條ノ規定又ハ前條ノ處分

ニ違反シテ販賣スル賣藥部外品ニ關シ明治三十三年法律第

十五號第一條ノ規定ニ依リ處分スルコトヲ得

本令又ハ本令ニ基テ爲シタル處分ニ違反シタル營業者ニ關

シ亦同シ

第九條 地方長官ハ本令ノ施行ニ關シ明治三十三年法律第十
五號第二條ノ職權ヲ行フコトヲ得

第十條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ拘
留若ハ科料ニ處ス

一 第二條若ハ第三條ノ規定ニ依リ免許ヲ受ケサル賣藥部
外品又ハ第二條若ハ第三條ノ規定ニ依リ提出スル見本品
ニ適合セサル賣藥部外品ヲ發賣シタル者

二 第四條第一項、第五條第二項又ハ第六條ノ規定ニ違反
シタル者

三 第七條ノ規定ニ依ル處分ニ違反シタル者

第十一條 營業者カ未成年者、禁治產者又ハ法人ナルトキハ
本令ノ罰則ハ其ノ法定代理人又ハ代表者ニ適用ス但シ其ノ
營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此
ノ限ニ在ラス

營業者ハ其ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ
從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本令ニ違反シタルトキハ自己
ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ處罰ヲ免ルルコトヲ得ス

第十二條 賣藥法又ハ藥品營業並藥品取扱規則ノ適用アル藥
物ニ付テハ第一條各號ノ一ニ該當スル效能アリトスルモノ
ト雖本令ヲ適用セス

附則
本令ハ昭和七年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

- 麥角流動エキス
- 巴豆油
- バルビタール
- ヒヨスエキス
- フエナセチン
- フエノバルビタール
- プロテイン銀
- プロム水素酸スコボラミン
- プロム水素酸ホマトロピン
- プロムデエチルアセチル尿素
- プロムワレリル尿素
- 抱水クロラール
- ホミカエキス
- ホミカチンキ
- ホルマリソ
- 麻醉用エーテル
- 麻醉用クロロホルム
- ミグレン
- メチルスルホナール
- 滅菌ゼラチン液
- 綿馬エキス
- 藥用酵母

本令施行前廳府縣令ニ依リ免許ヲ受ケタル賣藥部外品ハ本令
ニ依リ免許ヲ受ケタルモノト看做ス

本令施行ノ際現ニ發賣スル賣藥部外品ニシテ前項ニ該當セサ
ルモノハ其ノ發賣者ニ於テ本令施行後三月以内ニ第二條ノ規
定ニ依ル手續ヲ爲スヘシ

本令施行ノ際現ニ存スル賣藥部外品ニ付テハ第六條ノ規定ハ
昭和八年八月三十一日迄之ヲ適用セス

內務省令第二十二號 昭和七年六月二十七日

改正 昭和七年內務省令第三七號

藥品營業並藥品取扱規則第三十八條ノ三ニ依リ左記藥品ヲ指
定ス

附則
本令ハ昭和七年十月一日ヨリ之ヲ施行ス
明治四十年四月內務省令第七號ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ廢止
ス

- アセチルタンニン
- 亞砒酸カリ液
- 阿片アルカロイド鹽酸鹽
- 阿片安息香チンキ
- 阿片エキス
- 阿片坐劑

- 藥用炭
- 溶製硝酸銀
- 溶性バルビタール
- 溶性フエノバルビタール
- ヨードカリ
- ヨードカリ錠
- ヨードカリ軟膏
- ヨードチンキ
- ヨードホルム
- 硫酸亞鉛
- 硫酸アトロピン
- 硫酸エゼリン
- 硫酸モルヒネ
- リンゲル液
- 磷酸コデイン
- ルゴール液
- レゾルシン
- ロカイヤラツバ丸
- ロツク液
- ロートエキス
- ロト硬膏
- ロート坐劑

ロートチンキ

ロート軟膏

黃降汞

黃磷

指定藥品ヲ含有スル製劑ニシテ毒藥又ハ劇藥ニ屬スルモノ

附則 (昭和七年內務省令第三七號)

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

醫藥品及齒科材料製造研究 獎勵金交付規則左ノ通定ム

昭和七年十二月十四日內務省令第五十號

醫藥品及齒科材料製造研究獎勵金交付規則

- 第一條 內務大臣ハ醫藥品及齒科材料ノ製造ニ關スル研究ヲ爲ス者ニ對シ本令ニ依リ毎年度豫算ノ範圍内ニ於テ獎勵金ヲ交付ス
- 第二條 獎勵金ヲ交付スヘキ醫藥品及齒科材料ノ種類品目ハ別ニ之ヲ指定ス
- 第三條 獎勵金ハ製造ニ關スル基礎的研究ヲ終リ之ヲ産業化セントスルノ研究ニ付之ヲ交付ス
- 第四條 獎勵金ノ交付ヲ受ケントスル者ハ毎年三月三十一日迄ニ別記様式ニ依ル申請書ヲ內務大臣ニ提出スヘシ
- 第五條 獎勵金ノ交付ヲ受ケタル者申請書記載ノ事項ニ變更ヲ加ヘントスルトキハ豫メ內務大臣ノ承認ヲ受クヘシ
- 第六條 獎勵金ノ交付ヲ受ケタル者ハ研究日誌、設備臺帳及研究費收支簿ヲ備ヘ、研究日誌ニハ研究ノ經過、設備臺帳ニハ研究ニ要スル機械器具其ノ他ノ設備ノ内容、研究費收支簿ニハ研究ニ關スル收支ヲ記載スヘシ
- 第七條 獎勵金ノ交付ヲ受ケタル者ハ年度終了後一月以内ニ

第十編 衛生 警察 醫藥品及齒科材料製造研究獎勵金交付規則

研究ノ成績及收支決算ヲ內務大臣ニ報告スヘシ
前項ノ場合ニ於テ研究費ノ決算額カ豫算額ニ比シ著シク相違スルトキハ其ノ事由ヲ證スルニ足ル書類ヲ添付スルコトヲ要ス

- 第八條 獎勵金ノ交付ヲ受ケタル者ハ內務大臣ノ承認ヲ受クルニ非サレハ其ノ研究ヲ中止又ハ廢止スルコトヲ得ス
- 第九條 獎勵金ハ當該研究以外ノ費用ニ之ヲ流用スルコトヲ得ス
- 第十條 研究ニ必要ナル設備ハ豫定ノ研究ヲ終了スル迄之ヲ讓渡シ又ハ當該研究以外ノ目的ニ之ヲ使用スルコトヲ得ス
- 第十一條 內務大臣ハ獎勵金ノ交付ヲ受ケタル者ニ對シ何時ニテモ其ノ研究ニ關スル報告ヲ爲サシメ書類、帳簿又ハ業務執行ノ狀況ヲ檢査シ其ノ他監督上必要ナル處置ヲ爲スコトヲ得
- 第十二條 本令ニ依リ內務大臣ニ提出スヘキ書類ハ研究ノ場所ノ所在地地方長官ヲ經由スヘシ
- 第十三條 內務大臣ハ獎勵金ノ交付ヲ受ケタル者ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ既ニ交付シタル獎勵金ノ全部又ハ一部ノ還付ヲ命スルコトアルヘシ
 - 一 本令又ハ本令ニ依ル處分ニ違反シタルトキ
 - 二 獎勵金交付ノ條件ニ違反シタルトキ
 - 三 研究遂行ノ見込ナキニ至リタルトキ

一〇ノ七

- 四 支出額カ豫算額ニ比シ著シク減少シタルトキ
五 豫定ノ研究ヲ變更シ、中止シ又ハ廢止シタルトキ

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
第四條中三月三十一日迄トアルハ昭和七年度ノ獎勵金ノ交付申請ニ限リ十二月三十一日迄トス

別 記

醫藥品(齒科材料)製造研究獎勵金交付申請書ニ關スル研究致度候間獎勵金御交付相成度別紙書類ヲ添附シ此段申請候也
年月日

住 所

氏名又ハ名稱印

別 紙

一 獎勵金申請額

備考 研究期間一年以上ニ互ルモノニ在リテハ一年毎ニ分割記載スヘシ

二 研究所ノ所在地及名稱

備考 研究所二箇所以上ニ互ルトキハ主タル研究所ノ所在地及名稱ヲ記載スヘシ

三 研究ノ目標及必要ナル理由

備考 醫藥品又ハ齒科材料ノ性状、品質、規格、單價、生産費、生産ノ規模等ノ見込並此等ト外國品又ハ從來ノ方法ニ依ル品トノ比較ヲ記載スヘシ

四 研究ノ方法

備考 研究事項ノ細目ヲ列舉シテ各細目毎ニ實施セントスル方法ヲ具體的ニ詳記シ若シ研究期間一年以上ニ互ルトキハ一年毎ニ分割記載スヘシ

五 從來爲シタル研究ノ經過

備考 從來施行シタル研究ノ方法、成績、經費等ヲ詳細ニ記載スヘシ

六 研究設備

備考 既設備ト新ニ備付ケントスル設備トニ區別シ詳細ニ記載スヘシ

七 研究費豫算

備考 (イ) 研究ノ爲支辨ヲ要スル一切ノ費用ヲ設備費、原料及材料費、動力及燃料費、消耗品費、人件費、雜費等ノ項目ニ分類計上シ且其ノ内譯ヲ詳細ニ記載スヘシ
(ロ) 製品賣却代其ノ他研究ニ伴フ収入アル

モノニ付テハ詳細ニ其ノ收入ヲ見積ルヘシ
(ハ) 研究期間一年以上ニ互ルモノニ付テハ一年毎ニ分割計上スヘシ

八 研究擔當者

備考 研究擔當主任者ノ氏名及履歷ヲ記載スヘシ

九 申請者カ研究ヲ遂行シ得ルコトヲ證スルニ足ル事項

備考 申請者ノ營業ニ關シ創業年月、主タル生産品目及最近ノ營業收益稅額ヲ記載シ法人ニ在リテハ此ノ外定款、最近ノ損益計算書、貸借對照表及財産目錄ヲ添附スヘシ

昭和七年十二月内務省令第五十號醫藥品及齒科材料製造研究獎勵金交付規則第二條ノ規定ニ依リ左記ノ通指定ス

昭和七年十二月十四日内務省告示第三百二十二號

- アスピリン
アミノピリン
アンチピリン
鹽酸トロパコカイン
鹽酸プロカイン
グアヤコール
グアヤコールスルホン酸カリ
クレオソート
グリセロ磷酸石灰

- 珪酸セメント
硝酸ストリキニーネ
スルホナール
炭酸グアヤコール
炭酸クレオソート
タンニン酸フェナゾリン
チモール(合成)
テオプロミン
乳糖
バルビタール
フェーバルビタール
フェナセチン
フェノールフタレイン
ヘノボチ油
抱水クロラール
メタアミノパラオキシ
安息香酸メチルエステル
硫酸アトロピン

加除 現行法令大全 加除追錄 第拾四號附錄

現行書式第參號目次

◎ 離籍ニ因ル一家創立届 (其三) 三三九

◎ 復籍拒絕届 (其一) 三三九

◎ 同 (其二) 三三九

◎ 同 (其三) 三三〇

◎ 同 (其四) 三三〇

◎ 復籍拒絕ニ因ル一家創立届 (其一) 三三一

◎ 同 (其二) 三三一

◎ 同 (其三) 三三一

◎ 同 (其四) 三三一

◎ 廢家属 (其一) 三三三

◎ 同 (其二) 三三三

◎ 同 (其三) 三三四

◎ 同 (其四) 三三四

◎ 同 (其五) 三三四

◎ 絶家ニ因ル一家創立届 (其一) 三三五

◎ 同 (其二) 三三五

目次

◎ 同 (其三) 三三六

◎ 分家属 (其一) 三三六

◎ 同 (其二) 三三七

◎ 同 (其三) 三三七

◎ 同 (其四) 三三八

◎ 廢(絶)家再興届 (其一) 三三九

◎ 同 (其二) 三三九

◎ 同 (其三) 三三九

◎ 同 (其四) 三四〇

◎ 同 (其五) 三四〇

◎ 國籍喪失届 (其一) 三四一

◎ 同 (其二) 三四一

◎ 同 (其三) 三四二

◎ 國籍回復届 (其一) 三四二

◎ 同 (其二) 三四二

◎ 氏變更届 三四三

- ◎名變更届……………三三三
- ◎族稱變更届(其一)……………三四四
- ◎同(其二)……………三四四
- ◎襲爵届……………三四四
- ◎族稱喪失届(其一)……………三四五
- ◎同(其二)……………三四五
- ◎轉籍届(其一)……………三四五
- ◎同(其二)……………三四五
- ◎同(其三)……………三四六
- ◎同(其四)……………三四六
- ◎同(其五)……………三四六
- ◎就籍許可申請……………三四七
- ◎就籍届(其一)……………三四七
- ◎同(其二)……………三四八
- ◎同(其三)……………三四九
- ◎戶籍訂正許可申請(自一)……………三四九
- ◎戶籍訂正申請……………三五〇
- ◎戶籍事件ニ付テノ抗告ニ因ルトスル抗告(自一)……………三五三
- ◎戶籍事件ニ付テノ抗告ニ因ル……………三五三

- 處分變更通知書(自一)……………三五三
- ◎戶籍事件ニ付テノ抗告ニ關スル書類返還書……………三五四
- ◎戶籍事件ニ付テノ抗告ニ對スル意見書(自一)……………三五六
- ◎身分關係確認事件……………三五七
- ◎身分關係不存在確認事件……………三五八
- ◎身分登記抹消請求事件……………三五八
- ◎隱居無效確認事件……………三五八
- ◎廢家無效確認事件……………三五八
- ◎分家無效確認事件……………三五八
- ◎轉籍無效確認事件……………三五八
- ◎閱覽謄抄本請求不許可告知書ノ書式……………三五九
- ◎届出(申請)受理(不受理)證明書ノ書式……………三五九
- ◎届書記載事項證明書ノ書式……………三五九
- ◎届出(申請)催告狀ノ書式……………三五九
- ◎届出(申請)追究催告狀ノ書式……………三六〇
- ◎届出(申請)第二回以後ノ催告狀ノ書式……………三六〇
- ◎住所寄留届(自一)……………三六一
- ◎住所寄留届(自五)……………三六四
- ◎住所外居所寄留届……………三六七
- ◎住所寄留場所變更届……………三六八

- ◎居所寄留場所變更届……………三六八
- ◎住所寄留變更届……………三六九
- ◎本籍外居所寄留地變更届……………三七〇
- ◎住所外居所寄留地變更届……………三七〇
- ◎寄留住所居所變更届(自一)……………三七一
- ◎寄留簿記載事項變更届……………三七二
- ◎寄留者復歸届(自一)……………三七二
- ◎寄留者退居届(自一)……………三七四
- ◎寄留簿記載例……………三七四
- ◎寄留ニ關スル届出ノ催告狀……………三七五
- ◎歸化許可ノ申請……………三七六
- ◎國籍回復許可ノ申請……………三七六
- ◎國籍離脱許可ノ申請……………三七七

第二類 商事商號

- ◎同一(又ハ類似)ノ商號使用廢止請求書……………三七九
- ◎同一商號使用廢止請求書……………三七九
- ◎同一(又ハ類似)商號使用廢止請求ノ訴……………三八〇
- ◎同一(又ハ類似)商號使用廢止及損害賠償請求ノ訴……………三八〇

- ◎商號讓渡契約書……………三六二
- ◎商號讓渡證書……………三六三
- ◎營業讓渡契約書……………三六三
- ◎商業使用人……………三六四
- ◎支配人選任契約書……………三六四
- ◎代理商契約書……………三六五
- ◎商行爲代理通知書……………三六六
- ◎代理商ノ商行爲ニ關スル許諾書……………三六七
- ◎代理商契約解除豫告書……………三六八
- ◎代理商契約解除通知書……………三六八
- ◎合名會社定款……………三六九
- ◎業務執行社員選任決議書……………三六九
- ◎業務執行社員解任決議書……………三六七
- ◎業務處理ノ狀況報告請求書……………三九七
- ◎合名會社支配人選任決議書……………三九七
- ◎合名會社支配人解任決議書……………三九八
- ◎合名會社ノ目的ノ範圍内ニ在ラザル行爲ヲ爲ス決議書……………三九八
- ◎合名會社社員持分讓渡契約書……………三九八
- ◎合名會社ノ營業ノ部類ニ屬スル商行爲ヲ……………三九八

為スコトノ承諾書……………三九九

◎合名會社ノ商行爲ヲ會社ノ爲ニ爲シタルモノト看做ス決議書……………四〇〇

◎會社ヲ代表スヘキ社員選任決議書……………四〇〇

◎合名會社ノ債務辨濟請求ノ訴……………四〇〇

◎配當利益金返還請求ノ訴……………四〇一

◎合名會社社員退社豫告書……………四〇二

◎合名會社社員退社通知書……………四〇三

◎合名會社社員退社同意ノ請求書……………四〇三

◎合名會社社員除名決議書……………四〇四

◎合名會社社員除名通知書……………四〇四

◎合名會社ノ商號ニ氏名使用ヲ止ムル請求書……………四〇五

◎合名會社解散決議書……………四〇五

◎合名會社繼續決議書……………四〇七

◎合名會社合併決議書……………四〇七

◎合名會社合併異議申出公告……………四〇八

◎合名會社合併異議申出催告……………四〇八

◎合名會社ノ合併ニ對スル異議申述書……………四〇九

◎合名會社合併契約書……………四〇九

◎合名會社合併決議書……………四一〇

◎合名會社解散請求ノ訴……………四一三

◎合名會社組織變更決議書……………四一四

◎合名會社組織變更異議申出公告……………四一五

◎合名會社解散會社財產處分ニ對シ異議申出公告……………四一七

◎合名會社解散會社財產處分ニ對シ異議申出催告……………四一七

◎合名會社解散會社財產處分ニ對スル異議ノ申述書……………四一八

◎合名會社清算人選任決議書(其ノ一)……………四一八

◎合名會社清算人選任決議書(其ノ二)……………四一八

◎合名會社清算人選任申請……………四一九

◎合名會社清算人ノ破産宣告ノ申立……………四一九

◎合名會社清算人解任決議書……………四二〇

◎合名會社清算人任務結了承認要求書……………四二〇

◎清算終了ノ計算ニ對スル異議申述書……………四二〇

◎合名會社設立無効請求ノ訴……………四二一

第三類 民事訴訟

第一章 裁判所

◎管轄裁判所指定ノ申立書……………四二二

◎管轄裁判所ニ付テノ合意證書(其ノ一)……………四二二

◎管轄裁判所ニ付テノ合意證書(其ノ二)……………四二三

◎管轄違ノ抗辯ノ申立書……………四二三

◎管轄ニ關スル事項ニ付證人訊問上申書……………四二三

◎訴訟移送ノ申立書……………四三四

◎判事除斥ノ申立書……………四三四

◎判事忌避申立書……………四三五

第二章 當事者

◎特別代理人選任ノ申請書……………四三五

◎法定代理人ノ代理權消滅通知書……………四三六

◎共同訴訟(其ノ一)……………四三六

◎共同訴訟(其ノ二)……………四三七

◎訴訟參加申出書(其ノ一)……………四三八

◎訴訟參加ニ對スル異議申述書……………四三九

◎訴訟參加申出書(其ノ二)……………四三九

◎訴訟參加ニ因ル訴訟脱退申立書……………四三九

◎訴訟引受ノ申立書……………四三九

◎訴訟參加(共同訴訟人トシテ)申出書(其ノ四)……………四三九

◎訴訟告知書……………四三九

◎訴訟委任狀(其ノ一)……………四三三

◎訴訟委任狀(其ノ二)……………四三四

◎訴訟委任解除ニ因ル委任消滅通知書……………四三四

◎訴訟委任ノ謝絶ニ因ル委任消滅通知書……………四三四

◎訴訟輔佐人許可ノ申請書……………四三五

第三章 訴訟費用

◎訴訟費用額確立ノ申立書……………四三五

◎訴訟費用計算書……………四三五

◎訴訟費用(法廷和解ニ基ク)確定決定ノ申立書……………四三六

◎訴訟費用提供申立書……………四三六

◎訴訟費用擔保取消ノ申立書……………四三七

◎訴訟上救助ノ申立書……………四三七

◎訴訟上ノ救助ニ關シ申立人ノ資産證明書……………四三八

◎辯護士附添命令ノ上申書……………四三九

第四章 訴訟手續

◎辯論併合ノ上申書……………四三九

◎辯論再開ノ上申書……………四三九

◎訴訟記録閱覽申請書……………四四〇

◎訴訟記録ノ正本(謄本、抄本)交付請求書……………四四〇

- 訴訟ニ關スル事項ノ證明書交付請求書……………四四〇
- 期日指定ノ申立書……………四四一
- 期日變更ノ申請書……………四四一
- 送達受取場所(受取人)届書……………四四一
- 公示送達ノ申立書……………四四二
- 判決更正ノ申立書(其一)……………四四二
- 判決更正ノ申立書(其二)……………四四三
- 裁判ヲ脱漏シタル請求ノ部分ニ付テノ口頭辯論期日指定ノ申立書……………四四三
- 訴訟費用ニ付テノ裁判申立書……………四四三
- 假執行宣言ノ申立書……………四四四
- 假執行ヲ免ルル旨ノ宣言ノ申立書……………四四四
- 假執行ノ宣言ニ基キ被告カ給付シタルモノノ返還ヲ命セラレタキ旨ノ申立書……………四四五
- 裁判所書記ノ處分ニ對スル異議申立書……………四四五
- 訴訟手續受繼申立書……………四四五
- 訴訟手續ノ中止上申書……………四四六

離籍ニ因ル一家創立届ノ例 (戸主ノ指定シタル場所ニ居所ヲ轉ズベキ旨ノ催告ニ應ゼザルニ因リ 離籍セラレタル者ノ一家創立届、其ノ本籍地即チ創立地ノ例ヲ示ス、届出期間十日内、戸一三九、四三、四七、四八、五二、施四三、民七四九、七四二)

離籍ニ因ル一家創立届 (其三)

離籍者 本籍地 戸主 何 某
 所在 右父某 母某何男 何 某
 離籍セラレタル者 何 某
 右何戸主ノ指定シタル場所ニ居所ヲ轉スヘキ旨ノ催告ニ應セス何年何月何日離籍ニ因リ何市何區何町何番地ニ一家ヲ創立ス
 右離籍ニ因ル一家創立届出候也
 年 月 日 届出人 一家創立者 何 某
 何市何區長 何 某殿 何年何月何日生 何 某

(注意) 本例ハ離籍届セラレタル者カ其ノ所在地ニ一家ヲ創立セル例ナリ

○復籍拒絶

復籍拒絶届ノ例 (家族ガ戸主ノ同意ヲ得ズシテ婚姻ヲ爲シタル

第一類 民事 戸籍 戸籍法 復籍拒絶

ニ因ル場合、本籍地ニ届出ノ例ヲ示ス、届出期間婚姻ノ日ヨリ一个年内、戸一四一、四三、四七、四八、民七五〇)

復籍拒絶届 (其一)

復籍ヲ拒マルベキ者 本籍地 戸主弟某妻 何 某
 右某戸主某ノ同意ヲ得ズシテ何市何區何町何丁目何番地何某ト婚姻ヲ爲シタルニ因リ復籍拒絶
 右復籍拒絶届出候也
 年 月 日 本籍地 届出人 復籍拒絶者 戸主 何 某
 何市何區長 何 某殿 何年何月何日生 何 某

(注意) 復籍拒絶ノ原因記載中ニ再ヒ本籍ヲ記載セルハ重復ニ涉ルノ嫌アルモ戸籍記載ノ便宜ニ依リタルモノナリ、婚姻ニ因リ他家ニ入りタル者ガ本例ノ如ク復籍ヲ拒マルトキハ離婚ノ場合ニ於テ一家ヲ創立ス

復籍拒絶届ノ例 (家族ガ戸主ノ同意ヲ得ズシテ養子縁組ヲ爲シタルニ因ル場合、本籍地ニ届出ノ例ヲ示ス、届出期間 縁組ノ日ヨリ一个年内、戸一四一、四三、四七、四八、民七五〇)

復籍拒絶届 (其二)

本籍地 戸主某弟某養子 何 某
 復籍ヲ拒マルベキ者 何 某

右某戸主某ノ同意ヲ得スシテ何縣何郡何村大字何番地
何某ト養子縁組ヲ爲シタルニ因リ復籍拒絶
右復籍拒絶届出候也

年 月 日
住所
届出人 復籍拒絶者 戸主 何 某
何年何月何日生
何市何區長 何 某殿
(注意) 養子縁組ニ因リテ他家ニ入りタル者カ本例ノ
如ク復籍ヲ拒マルトキハ離縁ノ場合ニ於テ一家ヲ創立
ス

復籍拒絶届ノ例 (家族カ戸主ノ同意ヲ得ズシテ「婿」養子縁組ヲ
爲シタルニ因ル場合、本籍地ニ届出ノ例ヲ示ス、届出期間縁組又ハ婚
姻ノ日ヨリ一箇年内、戸一四一、四三、四七、民七五〇)

復籍拒絶届 (其三)
本籍地 戸主某養子(及長女某夫)
復籍ヲ拒マルベキ者 何 某
右某戸主某ノ同意ヲ得スシテ何市何區何町何丁目何番
地何某ト養子縁組(及某長女某ト婚姻)ヲ爲シタルニ因
リ復籍拒絶
右復籍拒絶届出候也
年 月 日

本籍地
届出人 復籍拒絶者 戸主 何 某
何年何月何日生
何市長 何 某殿

復籍拒絶届ノ例 (家族カ實家ノ戸主ノ同意ヲ得ズシテ養家ヨリ
更ニ養子縁組ニ因リ他家ニ入ル場合ノ實家ノ戸主ノ復籍拒絶届、其ノ
本籍地ニ届出ノ例ヲ示ス、届出期間一箇年内、戸一四一、四三、四七、
四八、民七四一、養家戸主ノ同意ヲ得ザリシ場合モ之ニ準ズベシ)

復籍拒絶届 (其四)
本籍地 戸主某養子
復籍ヲ拒マルベキ者 何 某
右某實家(又ハ前養家)戸主ノ同意ヲ得スシテ何市何區
何町何番地何某ト養子縁組ヲ爲シタルニ因リ復籍拒絶
右復籍拒絶届出候也
年 月 日
本籍地
届出人 復籍拒絶者 實家(又ハ
養家)戸主 何 某
何縣何郡何町長 何 某殿
何年何月何日生
(注意) 本例ニ於テハ同意セザリシモノトシテノ例ヲ
示シタリ

復籍拒絶ニ因ル一家創立届ノ例 (復籍拒絶ニ因リ一家ヲ創

立シタル者カ離婚ノ届書ニ其ノ場所ヲ記載セザリシ爲爲ス一家創立
届、其ノ本籍地即チ創立前ノ本籍地ニ届出ノ例ヲ示ス、届出期間十日
内、戸一四二、四三、四七、四八、民七四二)

復籍拒絶ニ因ル一家創立届 (其一)
本籍地 戸主
復籍拒絶者 何 某
本籍地 戸主某妻 何 某
所在 父亡何某 母亡某何女 某

一家創立者
右某戸主某ノ同意ヲ得スシテ何市何區何町何丁目何番
地何某ト婚姻ヲ爲シタルニ因リ何年何月何日復籍ヲ拒
絶セラレ離婚ニ因リ何市何區何町何番地ニ一家ヲ創立
ス

右復籍拒絶ニ因ル一家創立届出候也
年 月 日

届出人 一家創立者 何 某
何年何月何日生
何市何區長 何 某殿
(注意) 離婚届ニ一家創立ノ場所ヲ記載スルトキハ本
例ノ届出ヲ要セス、離婚届ニ之ヲ記載セサル場合ニ於
テ始メテ本例ノ届出ヲ要ス、一家創立者ノ本籍トシテ
創立ノ場合ヲ創立者ノ届書ト爲ス例ナキニ非サルカ如
第一類 民事 戸籍 戸籍法 復籍拒絶

キモ若シ然ルトキハ届書ノ上ニ於テ創立前ノ本籍ヲ知
ルコトヲ得サルニ依リ本例ニハ創立前ノ本籍ヲ届書ニ
シタリ、創立者ハ新ニ氏ヲ定ムルコトヲ得ルモ本例ハ
婚家ノ氏ヲ用ヒタル例ヲ示セリ

復籍拒絶ニ因ル一家創立届ノ例 (復籍拒絶ニ因リ一家ヲ創
立シタル者カ離婚ノ届書ニ其ノ場所ヲ記載セザリシ爲爲ス一家創立
届、其ノ所在地ニ届出ノ例ヲ示ス、届出期間十日内、戸一四二、四三、
四七、四八、五二、民七四二)

復籍拒絶ニ因ル一家創立届 (其二)
本籍地 戸主
復籍拒絶者 何 某
本籍地 戸主何某養子 何 某
所在 父亡某 母亡某何男 某

一家創立者
右某戸主某ノ同意ヲ得スシテ何縣何郡何村大字何番地
何某ト養子縁組ヲ爲シタルニ因リ何年何月何日復籍ヲ
拒絶セラレ離婚ニ因リ何市何區何町何番地ニ一家ヲ創
立ス

右復籍拒絶ニ因ル一家創立届出候也
年 月 日

届出人 一家創立者 何 某
何年何月何日生

何市何區長 何 某殿 何年何月何日生

(注意) 本例ハ創立届ヲ爲ス例ヲ示シタリ、本例ハ一家創立者ガ新ナル氏何々ヲ稱シタル例ヲ示ス、此ノ他ハ離籍ニ因ル一家創立届ヲ參看スヘシ

復籍拒絶ニ因ル一家創立届ノ例 (培養子縁組ニ因リ養家ニ入りタル者ガ復籍ヲ拒絶セラレ離縁ニ因リテ一家ヲ創立シ、妻之ニ隨ヒテ其ノ家ニ入ル場合ノ例ヲ示ス、届出期間十日内、戸一四二、四三、四七、四八、民七四二、復籍拒絶届)

復籍拒絶ニ因ル一家創立届 (其三)

本籍地 戸主 何 某

復籍拒絶者 何 某

本籍地 戸主何某養子 何 某

父某、母某何男 何 某

一家創立者 父某、母某何女 何 某

一家創立者ニ隨ヒテ創 何年何月何日生

立、家ニ入ルベキ者 右某妻何某

右某戸主某ノ同意ヲ得スシテ何市何區何町何丁目何番地何某ト子縁組ヲ爲シ(及戸主某長女某ト婚姻ヲ爲シ)タルニ因リ何年何月何日復籍ヲ拒絶セラレ離縁ニ

地ニ一家ヲ創立ス

右復籍拒絶ニ因ル一家創立届出候也

年月日

届出人 一家創立者

何 某殿 何年何月何日生

何市何區長 何 某殿

(注意) 本例ノ一家創立者ハ實家ノ氏ヲ襲ヒタル例ヲ示ス、前養家ノ戸主ヨリ復籍ヲ拒絶セラレ一家ヲ創立スル場合モ本例ニ準スヘシ、此ノ他前號ノ注意參看

廢家

廢家届ノ例 (廢家者ノ本籍地ニ届出ノ例ヲ示ス、届出期間ナシ、戸一四三、四三、四七、四八、民七六二)

廢家届 (其一)

何市何區何町何番地 戸主 何 某

廢家者 何市何區何町何番地 何 某

廢家者ノ入ルベキ家ノ戸主 何 某

右廢家某ハ家督相續ニ因リテ戸主ト爲リタル者ニ非ス

右廢家届出候也

年月日

届出人 廢家者 何 某殿

第一類 民事 戸籍 戸籍法 廢家

因リ何市何區何町何番地ニ一家ヲ創立ス 右復籍拒絶ニ因ル一家創立届出候也

年月日

届出人 一家創立者

何 某殿 何年何月何日生

本例ハ離縁ノミニシテ離婚ナカリシモノトシ妻カ夫ニ隨ヒ創立ノ家ニ入ル例ヲ示シタリ、此ノ他ハ前號書式ノ注意參看

復籍拒絶ニ因ル一家創立届ノ例 (養家ヨリ更ニ養子縁組ニ因リ他家ニ入りタル者ガ戸主ノ同意ヲ得ザリシ爲戸主ガ復籍ノ拒絶ヲ爲シタル場合、一家創立届ノ例、創立者ノ所在地ニ届出ノ例ヲ示ス、届出期間十日内、戸一四二、四三、四七、四八、民七四二)

復籍拒絶ニ因ル一家創立届 (其四)

本籍地 戸主 何 某

復籍拒絶者 何 某

本籍地 戸主何某養子 何 某

父某、母某何男 何 某

一家創立者 何年何月何日生

右某實家戸主某ノ同意ヲ得スシテ養家ヨリ更ニ何市何區何町何番地何某ト養子縁組ヲ爲シタルニ因リ何年何月何日復籍ヲ拒絶セラレ離縁ニ因リ何市何區何町何番

何市何區長 何 某殿

何年何月何日生

(注意) 本例ノ廢家届ト同時ニ他家ニ入ルヘキ届出ヲ爲スコトヲ要ス、猶本例ハ分家ヲ廢シ養子縁組ニ因リ他家ニ入ル場合ヲ想像ス

廢家届ノ例 (廢家者ノ所在地ニ届出ノ例ヲ示ス、届出期間ナシ、戸一四三、四三、四七、四八、民七六二)

廢家届 (其二)

何市何區何町何番地 戸主 何 某

廢家者 何市何區何町何番地 何 某

廢家者ノ入ルベキ家ノ戸主 何 某

右廢家者某ハ家督相續ニ因リテ戸主ト爲リタル者ニ非ス

右廢家届出候也

年月日

届出人 廢家者 何 某殿

何市何區長 何 某殿

何年何月何日生

分家ヲ廢シテ他家ヲ相續スル場合ヲ想像ス

廢家届ノ例 (廢家者ノ本籍地ニ届出ノ例ヲ示ス、届出期間ナシ、戸一四三、四三、四七、四八、民七六二)

廢家届 (其三)

何市何區何町何番地 戸主

廢家者

何市何區何町何丁目何番地

廢家者ノ入ルベキ家ノ戸主

右廢家者某ハ家督相續ニ因リテ戸主ト爲リタル者ニ非ス

右廢家届出候也

年月日

届出人 廢家者

何市何區區長 何 某殿

何年何月何日生

(注意) 前二號ノ注意參看、本例ハ分家戸主カ其ノ家ヲ廢シテ本家ヲ再興スル場合ヲ想像ス

廢家届ノ例 (廢家者ノ寄留地ニ届出ノ例ヲ示ス、届出期間ナシ、戸一四三、四三、四七、四八、施四三、民七六二)

廢家届 (其四)

何縣何郡何町何番地 戸主

寄留地 何市何區何町何番地

廢家者

何縣何郡何町大字何町何番地

廢家者ノ入ルベキ家ノ戸主

右廢家者某ハ相續ニ因リテ戸主ト爲リタル者ニ非ス

右廢家届出候也

年月日

届出人 廢家者

何市何區區長 何 某殿

何年何月何日生

廢家届ノ例 (同上)

廢家届 (其五)

何縣何郡何村何番地 戸主

寄留地 何市何區何町何番地

廢家者

何市何區何町何番地

廢家者ノ入ルベキ家ノ戸主

右廢家許可裁判ノ謄本ヲ添附シ届出候也

年月日

届出人 廢家者

何市何區區長 何 某殿

何年何月何日生

(注意) 本例ハ家督相續ニ因リテ戸主ト爲リタル者カ裁判所ノ許可ヲ得テ廢家シタル例ナリ、故ニ「家督相

◎絶家

續ニ因リテ戸主ト爲リタル者ニ非サルコトノ記載ヲ爲スヘカラス、猶本例ハ家督相續ヲ爲シタル家ヲ廢シ他家ニ入籍スル場合ヲ想像ス此ノ他前號ノ注意參看

絶家ニ因ル一家創立届ノ例 (絶家ノ家族數名アルトキハ各自ニ一家ヲ創立スルモノナリ、本例ハ其ノ一人ノ一家創立届ノ例ヲ示シ次號書式ハ他ノ一人ノ創立届ノ例ヲ示ス、届出期間十日内、戸一四四、四三、四七、四八、五二、民七六四)

絶家ニ因ル一家創立届 (其一)

何市何區何町何番地

所在 何市何區何町何番地

絶家ノ戸主

父某、母某何男

一家創立者 右某弟

右某戸主死亡家督相續人ナキ爲何年何月何日絶家ニ因

リ何市何區何町何番地ニ一家ヲ創立ス

右絶家ニ因ル一家創立届出候也

年月日

届出人 一家創立者

何市何區區長 何 某殿

何年何月何日生

第一類 民事 戶籍 戶籍法 絶家

絶家ニ因ル一家創立届ノ例 (同上他ノ一人ノ創立届ノ例ヲ示ス、以下同上)

絶家ニ因ル一家創立届 (其二)

何市何區何町何番地

絶家ノ戸主

父某、母某何女

一家創立者 右某ノ姉

右某戸主死亡家督相續人ナキ爲何年何月何日絶家ニ因

リ何市何區何町何番地ニ一家ヲ創立ス

右絶家ニ因ル一家創立届出候也

年月日

届出人 一家創立者

何市何區區長 何 某殿

何年何月何日生

(注意) 前號書式ノ注意參看

絶家ニ因ル一家創立届ノ例 (一家創立者ノ妻子ガ創立者ニ

隨ヒテ創立ノ家ニ入ル例ヲ示ス、届出期間十日内、戸一四四、四三、

絶家ニ因ル一家創立届 (其三)

何市何區何町何番地
 絶家ノ戸主 何 某
 父某、母某何男 何 某
 一家創立者 右某弟 何 某
 右某、母某何女 何 某
 一家創立者ニ隨ヒテ 何年何月何日生 某
 其ノ家ニ入ルベキ者 右某妻 何年何月何日生 某
 同 何某長男 何年何月何日生 某
 同 右何某長女 何年何月何日生 某
 右何某戸主何某死亡家督相續人ナキ爲何年何月何日生
 家ニ因リ何市何區何町何番地ニ一家ヲ創立ス
 右某、某、某一家創立者ニ隨ヒテ其ノ家ニ入ル右絶家
 ニ因ル一家創立届出候也
 年 月 日

届出人 一家創立者 何 某
 何市何區長 何 某殿
 何年何月何日生 某
 (注意) 一家創立ノ場所ハ創立者ノ肩書ニスル例ナキ
 ニ非サルモ本例ハ絶家ノ原因ト共ニ記載スルヲ適當ト

認メ其ノ例ヲ示シタリ

◎分家

分家届ノ例 (成年者(本家戸主ノ子)單身分家シ本籍地ニ届出ノ例
 ナ示ス、届出期間ナシ、戸一四五、四三、四七、四八、民七四三)
 分家届 (其一)
 何市何區何町何番地 何 某
 本家ノ戸主 何 某
 本籍、本家ノ戸主ニ同シ 何 某
 父右某、母某何男 何 某
 分家者 何 某
 右某何市何區何町何番地ニ分家ス
 右分家届出候也
 年 月 日

届出人 分家者 何 某
 何市何區長 何 某殿
 何年何月何日生 何 某
 同意者 本家ノ戸主 何 某
 何年何月何日生 何 某
 (注意) 分家スベキ場所ハ分家者ノ本籍トシテ其ノ肩
 書ト爲ス例ナキニ非サルモ本例ハ届出ノ當時ハ猶本籍

ハ本家ノ地ニ在ルモノトシ之ヲ肩書トセス別ニ分家ス
 ヘキ場所トシテ之ヲ記シタリ本例ハ養子縁組届前ニ分
 家シタル場合ヲ想像セルモノナリ、戸主カ届書ニ同意
 ノ附記ヲ爲ササルトキハ次號書式ノ同意證書ヲ作り届
 書ニ添附スベシ
 分家同意證書ノ例 (戸五八、民七四三)

分家同意證書

分家ヲ爲スベキ者 戸主某何男 何 某
 右分家ヲ爲スコトニ同意ス
 何市何區何町何番地 何 某
 同意者 戸主 何 某
 何年何月何日生 何 某

(注意) 特ニ本例ノ證書ヲ作ラス前號書式ノ如ク届書
 ニ同意ノ旨ヲ附記スルモ妨ケナシ

分家届ノ例 (未成年者(本家戸主ノ子)ノ單身分家、本籍地ニ届出
 ノ例ヲ示ス、届出期間ナシ、戸一四五、四三、四七、四八、四九、民
 七四三)

分家届 (其二)

何市何區何町何番地 何 某
 本家ノ戸主 何 某
 本籍、本家ノ戸主ニ同シ 何 某
 第一類 民事 戸籍 戸籍法 分家

父右某、母某何男 何 某
 分家者 何 某
 右某何市何區何町何番地ニ分家ス
 右分家届出候也
 年 月 日
 届出人 分家者 何 某
 何市何區長 何 某殿
 何年何月何日生 何 某
 同意者 本家ノ戸主及
 親權ヲ行フ父 何 某
 何年何月何日生 何 某
 (注意) 前號書式ノ注意參看

分家届 (其三)

何市何區何町何丁目何番地 何 某
 本家ノ戸主 何 某
 本籍、本家ノ戸主ニ同シ 何 某
 所在地 何 某
 父某、母某何男 何 某
 分家者 右某弟 何 某

何市何區何町何番地
父何某、母某長女
分家者ニ隨ヒテ其ノ家ニ入ルベキ者 右某妻 某

右某何市何區何町何番地ニ分家ス
右某妻某ニ隨ヒテ其ノ入ルヘキ家ニ入ル
右分家届出候也
年月日
届出人 分家者 何 某◎
何年何月何日生

何市何區長 何 某殿
右分家ニ同意ス
同意者 本家ノ戸主 何 某◎
何年何月何日生

分家届ノ例 (成年者ニ妻及子ノ隨フ分家、本籍地ニ届出ノ例ヲ示ス、届出期間ナシ、戸一四五、四三、四七、四八、民七四三、七四五、七四三、二項)

分家届 (其四)
何市何區何町何番地
本家ノ戸主 何 某
本籍、本家ノ戸主ニ同シ
父某、母某何男

◎廢絶家再興

廢(絶)家再興届ノ例 (戸主ガ其ノ家ヲ廢シテ本家ヲ再興スル場合、其ノ本籍地ニ届出ノ例ヲ示ス、届出期間ナシ、戸一四六、四三、四七、四八、五四、民七四三)

廢(絶)家再興届 (其一)
何市何區何町何番地
再興者ノ家ノ本家(分家又ハ同家) 何 某
廢(絶)家ノ戸主 何市何區何町何番地 父某、母某何男 何 某
再興者 何 某

右某ノ家何年何月何日廢(絶)家
右其ノ家ヲ廢シテ右廢(絶)家ヲ再興ス
右廢(絶)家再興届出候也
年月日
届出人 再興者 何 某◎
何年何月何日生

廢(絶)家再興届ノ例 (戸主ガ創立ノ家ヲ廢シテ親族ノ家ヲ再興スル場合、其ノ所在地ニ届出ノ例ヲ示ス、届出期間ナシ、戸一四六、四三、四七、四八、五二、五四、民七四二)

第一類 民事 戶籍 戶籍法 廢絶家再興

分家者 右某弟 何 某
何府縣何郡何町何番地
父何某、母某長女
分家者ニ隨ヒテ其ノ家ニ入ルベキ者 右某妻 何 某
何年何月何日生

父右某、母某
同 右某長男 何 某
何年何月何日生

右某何市何區何町何番地ニ分家ス
右某妻某長男某ニ隨ヒテ其ノ入ルヘキ家ニ入ル
右分家届出候也
年月日
届出人 分家者 何 某◎
何年何月何日生

何市何區長 何某殿
右分家ニ同意ス
同意者 本家ノ戸主 何 某◎
何年何月何日生

右分家ノ家族ト爲ルコトニ同意ス
同意者 分家者ノ長男 何 某◎
(注意) 分家ノ直系卑屬カ十五年未滿ナルトキハ其ノ同意ヲ要セス、此ノ他前號ノ注意ヲ參看

廢(絶)家再興届 (其二)

何市何區何町何番地
再興者ノ兄ノ家 何 某
廢(絶)家ノ戸主 何市何區何町何番地 戸主 何 某
所在 何市何區何町何番地 父某、母某何男 何 某
再興者 右某弟 何 某

右某ノ家何年何月何日廢(絶)家
右某其ノ家ヲ廢シテ右廢(絶)家ヲ再興ス
右廢(絶)家再興届出候也
年月日
届出人 再興者 何 某◎
何年何月何日生

廢(絶)家再興届ノ例 (戸主ガ分家ヲ廢シテ本家ヲ再興、妻之ニ隨ヒテ其ノ家ニ入ル場合、本籍地ニ届出ノ例ヲ示ス、届出期間ナシ、戸一四六、四三、四七、四八、五二、五四、民七四三、七四五)

廢(絶)家再興届 (其三)
何市何區何町何丁目何番地
再興者ノ家ノ本家 何 某
廢(絶)家ノ戸主 何市何區何町何番地 戸主 何 某

再興者 父某、母某何男
 右某弟 何 某
 父何某、母某何女
 再興者ニ隨ヒテ其ノ家ニ入ルベキ者 右某妻 某
 何年何月何日生

右某ノ家何年何月何日廢(絶)家
 右某其ノ家ヲ廢シテ右廢(絶)家ヲ再興ス
 右某妻某ニ隨ヒテ其ノ入ルベキ家ニ入ル
 右廢(絶)家再興届出候也
 年 月 日

届出人 再興者 何 某◎
 何年何月何日生
 何市何區長 何 某殿

廢(絶)家再興届ノ例 (家族ガ親族ノ家ヲ再興シ妻之ニ隨ヒテ其ノ家ニ入ル場合、其ノ本籍地ニ届出ノ例ヲ示ス、届出期間ナシ、戸一四三、四七、四八、五四、民七四三、七四五)

廢(絶)家再興届 (其四)
 何市何區何町何番地
 再興者ノ伯父ノ家
 廢(絶)家ノ戸主 何 某
 何市何區何町何番地 戸主某何男
 父某、母某

再興者 右某甥 何 某
 父何某、母某何女
 再興者ニ隨ヒテ其ノ家ニ入ルベキ者 右某妻 某 子
 何年何月何日生

右某ノ家何年何月何日廢(絶)家
 右某妻子某ニ隨ヒテ其ノ入ルベキ家ニ入ル
 右廢(絶)家再興届出候也
 年 月 日

届出人 再興者 何 某◎
 何年何月何日生
 何市何區長 何 某殿
 同意者 再興者家ノ戸主 何 某◎

廢(絶)家再興届ノ例 (家族 未成年者)ガ親族ノ家ヲ再興スル場合、本籍地ニ届出ノ例ヲ示ス、届出期間ナシ、戸一四六、四三、四七、四八、四九、五四、民七四三)

廢(絶)家再興届 (其五)
 何市何區何町何番地
 再興者ノ祖父ノ家
 廢(絶)家ノ戸主 何 某
 何市何區何町何番地 戸主某弟

父某、母某何男
 再興者 右某孫 何 某
 何年何月何日生
 右某ノ家何年何月何日廢(絶)家
 右廢(絶)家再興届出候也
 年 月 日

右某未成年ナルニ因リ親權ヲ行フ父
 届出人 何 某◎
 何年何月何日生
 何市何區長 何 某殿
 同意者 再興者ノ家ノ戸主 何 某◎
 同意者 再興者ノ親權ヲ行フ父 何 某◎

◎國籍ノ得喪

國籍喪失届ノ例 (日本ノ國籍離脱ニ因ル場合ノ例ヲ示ス、届出期間一个月内、戸一五〇、一五一、四三、四七、四八、國籍法二〇ノ二)

國籍喪失届 (其一)
 何市何區何町何番地 戸主某何男
 國籍喪失者 何 某

第一類 民事 戶籍 戶籍法 國籍ノ得喪

右何年何月何日ノ國籍離脱ノ許可ニ因リ何年何月何日(許可書ノ日附)翌日ヨリ起算シ三十日ヲ經過シタル日)國籍喪失新ニ某國ノ國籍ヲ取得ス
 右國籍喪失陸海軍ノ現役ニ服シタルコト(又ハ之ニ服スル義務ナキコト若ハ日本ノ官職ヲ失ヒタルコト)ヲ證スヘキ書面ヲ添附シ届出候也
 年 月 日

届出人 戸主 何 某◎
 何年何月何日生
 何市何區長 何 某殿
 (注意) 本例ノ國籍喪失者ノ國籍離脱許可申請書ニ付テハ國籍法ノ部ノ書式參看
 國籍喪失届ノ例 (日本ノ女ガ外國人ト婚姻ヲ爲シタルニ因ル場合ノ例ヲ示ス、届出期間一个月内、戸一五〇、四三、四七、四八、國籍法一八)

國籍喪失届 (其二)

何市何區何町何番地 戸主某何女
 國籍喪失者 何 某
 右某國人何某ト婚姻ヲ爲シタルニ因リ何年何月何日
 籍喪失新ニ同國籍ヲ取得ス
 右國籍喪失届出候也
 年 月 日

届出人 戸主 何 某
何市何區長 何 某殿
何年何月何日生

國籍喪失届ノ例 (日本人が其ノ志望ニ依リ外國ノ國籍ヲ取得シタルニ因ル場合、妻之ニ隨ヒ國籍喪失ノ例ヲ示ス、届出期間一個月内戸一五一、一五〇、四三、四七、四八、國籍法二〇、二二、二二)

國籍喪失届 (其三)

何市何區何町何番地 戸主 何 某
國籍喪失者 何 某
同 右某妻 何 某
右某自己ノ志望ニ因リ某國ノ國籍ヲ取得シタル爲何年何月何日國籍喪失 何 某
右某妻戸主ニ隨ヒ某國ノ國籍ヲ取得シタル爲同日國籍喪失 何 某
右國籍喪失陸海軍ノ現役ニ服シタルコト(又ハ之ニ服スル義務ナキコト若ハ日本ノ官職ヲ失ヒタルコト)ヲ證スヘキ書面ヲ添附シ届出候也
年月日 何 某
届出人 右某長男 何 某
家督相続人 何 某
何市何區長 何 某殿
何年何月何日生

(注意) 本例ノ國籍喪失者ガ更ニ國籍ヲ回復スル許可申請ニ付テハ國籍法ノ部ノ書式參看

國籍回復届ノ例 (婚姻ニ因リ日本ノ國籍ヲ喪ヒタル者ノ婚姻ノ解消ニ因リ國籍回復ノ場合ノ例ヲ示ス、届出期間許可ノ日ヨリ十日内戸一五二、四三、四七、四八、國籍法二五)

國籍回復届 (其一)

國籍回復前ノ國籍何府何街何番地 何市何區町番地 戸主某何女 何 某
國籍回復者 何 某
右何年何月何日何國人ト婚姻ヲ爲シ國籍喪失ノ處何年何月何日許可ニ因リ國籍回復 何 某
右國籍回復許可書ノ謄本ヲ添附シ届出候也
年月日 何 某
届出人 國籍回復者 何 某
何市何區長 何 某殿
何年何月何日生
國籍回復前ノ國籍何府何街何番地 何市何區何町何丁目何番地 何 某
國籍回復届ノ例 (自己ノ志望ニ因リ國籍ヲ喪失シタル者ノ國籍回復及妻ノ之ニ隨ヒ國籍回復ノ例ヲ示ス、届出期間許可ノ日ヨリ十日内、戸一五二、四三、四七、四八、五四、國籍法二六)

國籍回復届 (其二)

國籍回復者 何 某
同 右某妻 何 某
父某、母某何女 何 某
何年何月何日生

右某自己ノ志望ニ依リ何年何月何日國籍喪失ノ處何年何月何日許可ニ因リ國籍回復 何 某
右某妻夫ニ隨ヒ同日國籍喪失ノ處夫ニ隨ヒ同日許可ニ因リ國籍回復 何 某
右國籍回復許可ノ謄本ヲ添附シ届出候也
年月日 何 某
届出人 國籍回復者 何 某
何市何區長 何 某殿
何年何月何日生

(注意) 本例ハ國籍喪失者カ國籍ヲ回復シタル場合ヲ想像ス

氏名族稱變更、襲爵

氏名變更届ノ例 (氏復舊ニ因リ氏變更届、本籍地ニ届出ノ例ヲ示ス、届出期間十日内、戸一五三、四三、四七、四八、五八、明治五年二三五號同九年五號布告)

氏變更届

何市何區何町何丁目何番地 戸主 何 某
第一類 民事 戶籍 戶籍法 氏名族稱變更、襲爵

變更前ノ氏 何 某
變更シタル氏 何 某
右何年何月何日附氏復舊許可 何 某
右氏變更許可書ノ謄本ヲ添附シ届出候也
年月日 何 某
届出人 氏變更者 何 某
何市何區長 何 某殿
何年何月何日生

名變更届

氏名變更届ノ例 (名變更届、所在地ニ届出ノ例ヲ示ス、届出期間十日内、戸一五三、四三、四七、四八、五二、五八、明治五年二三五號同九年五號布告)
變更前ノ名 何 某
變更シタル名 何 某
右何年何月何日變更許可 何 某
右名變更許可書ノ謄本ヲ添附シ届出候也
年月日 何 某
届出人 名變更者 何 某
何市何區長 何 某殿
何年何月何日生

族稱變更届ノ例 (新ニ華族ニ列セラレタルニ因ル場合、本籍地ニ届出ノ例ヲ示ス、届出期間十日内、戸一五四、四三、四七、四八、五八、華族令一三)

族稱變更届 (其一)

何市何區何町何番地 戸主 某
新ニ華族ニ列セラレタル者 何 某
舊族稱 士族(又ハ平民)
新族稱 華族

右何年何月何日附辭令ヲ以テ華族ニ列セラル
右族稱變更辭令書ノ謄本ヲ添附シ届出候也

年月日

届出人 新ニ華族ニ列セラレタル者

何 某

何市何區區長 何 某殿 何年何月何日生

(注意) 戸主ニ非サル者ガ爵ヲ授ケラレタルトキハ一家ヲ創立スベク本例ノ届出ヲ要セズ

族稱變更届ノ例 (士族ニ編入セラレタルニ因ル場合、所在地ニ届出ノ例ヲ示ス、届出期間十日内、戸一五四、四三、四七、四八、五二、五八)

族稱變更届 (其二)

何市何町何番地 戸主 何 某殿
所在地

士族ニ編入セラレタル者 何 某

舊族稱 平民

新族稱 士族

右何年何月何日附士族編入許可

右族稱變更許可書ノ謄本ヲ添附シ届出候也

年月日

届出人 士族ニ編入セラレタル者

何 某

何市何區區長 何 某殿 何年何月何日生

襲爵届ノ例 (所在地ニ届出ノ例ヲ示ス、届出期間十日内、戸一五五、四三、四七、四八、五二、五八、華族令九、一〇、明治三一年宮内省甲第四號達)

襲爵届

何市何區何町何番地

所在地 戸主某家督相續人

襲爵者 何 某

右何年何月何日附辭令ニ因リ襲爵

右襲爵辭令書ノ謄本ヲ添附シ届出候也

年月日

届出人 襲爵者

何 某

何市何區區長 何 某殿 何年何月何日生

族稱喪失届ノ例 (華族ノ族稱喪失、本籍地ニ届出ノ例ヲ示ス、届出期間十日内、戸一五六、四三、四七、四八、華族令二二、二四、二六)

族稱喪失届 (其一)

何市何區何町何番地 戸主某何男
族稱喪失者 何 某

右失行ニ因リ何年何月何日華族ノ族稱ヲ除カル

右族稱喪失届出候也

年月日

届出人 戸主 何 某

何市何區區長 何 某殿 何年何月何日生

族稱喪失届ノ例 (士族ノ族稱喪失、所在地ニ届出ノ例ヲ示ス、届出期間十日内、戸一五六、四三、四七、四八、五二、五八)

族稱喪失届 (其二)

何市何區何町何番地 戸主 何 某
所在地

族稱喪失者 何 某

右族稱返上ノ請願許可ニ因リ何年何月何日士族ノ族稱

喪失

右族稱喪失許可書ノ謄本ヲ添附シ届出候也

第一類 民事 戸籍 戸籍法 轉籍及就籍

年月日

届出人 族稱喪失者

何 某

何市何區區長 何 某殿 何年何月何日生

◎轉籍及就籍

轉籍届ノ例 (同一市町村ニ於ケル轉籍、本籍地ニ届出ノ例ヲ示ス、届出期間ナシ、戸一五八、一五九、四三、四七、四八、四九、五二)

轉籍届 (其一)

本籍地

新本籍地

右轉籍届出候也

年月日

所在地

届出人 戸主 何 某

何市何區區長 何 某殿 何年何月何日生

轉籍届ノ例 (同一市町村内ニ於ケル轉籍、所在地(同時ニ寄留地ノ場合)ニ届出ノ例ヲ示ス、届出期間ナシ、戸一五八、一五九、四三、四七、四九、五二、施四三)

轉籍届 (其二)

本籍地

右轉籍届出候也
新本籍地
年月日

寄留地
何市何區何町何丁目何番地
何市何區區長 何 某殿
何市何區區長 何 某殿
(注意) 所在地ニ届出ヅル場合ニ其ノ所在地方寄留地ナルトキハ本例ノ如ク寄留地ト記スベシ(施四三)

轉籍届ノ例(他市町村へノ轉籍、本籍地ニ届出ノ例ヲ示ス、届出期間ナシ、戸一五八、一五九、四三、四七、四八、四九、五二、五八)
轉籍届(其三)

本籍 何市何區何町何丁目何番地
新本籍 何市何區何町何番地
右轉籍戶籍ノ謄本ヲ添附シ届出候也
年月日

所在 何市何區何町何丁目何番地
届出人 戶主 何 某殿
何市何區區長 何 某殿
何年何月何日生

轉籍届ノ例(他市町村へノ轉籍、轉籍地ニ届出ノ例ヲ示ス、届出期間ナシ、戸一五八、一五九、四三、四七、四八、四九、五二、五八)

轉籍届(其四)

本籍地 何市何區何町何丁目何番地
新本籍地 何市何區何町何番地
右轉籍戶籍謄本ヲ添附シ届出候也
年月日
所在 何市何區何町何丁目何番地
届出人 戶主 何 某殿
何市何區區長 何 某殿
何年何月何日生

轉籍届ノ例(他市町村へノ轉籍、所在地ニ届出ノ例ヲ示ス、届出期間ナシ、戸一五八、一五九、四三、四七、四八、四九、五二、五八、施四三)
轉籍届(其五)

本籍地 何市何區何町何丁目何番地
新本籍 何市何區何町何番地
右轉籍戶籍ノ謄本ヲ添附シ届出候也
年月日

所在 何市何區何町何丁目何番地
届出人 戶主 何 某殿
何市何區區長 何 某殿
何年何月何日生

(注意) 所在地方寄留地ナルトキハ「所在」ヲ「寄留地」ト記スベシ

就籍許可申請書ノ例(戶主就籍許可申請ノ例ヲ示ス、戸一六〇、一六一、本例ノ許可裁判ニ因ル就籍届ニ付テハ次號ノ書式參看)
就籍許可申請(其一)

本籍ヲ有セズ
所在 何市何區何町何丁目何番地
申請人 何 某
申請ノ趣旨
右申請人ノ何市何區何町何丁目何番地ニ戶主トシテ就籍スルコトノ許可ヲ求ム

申請ノ原因タル事實
右申請人ハ戶主父某。母某ノ何男ナル處父母共ニ從來本籍ヲ有セザリシ爲何年何月何日申請人出生ノ際ニ於テ其ノ出生ノ届出ヲ爲サズ爲ニ申請人モ亦今日マデ本籍ヲ有セズ然ルニ右父某ハ何年何月何日、母某ハ何年何月何日共ニ死亡シ而シテ申請人出生ノ際ノ同居者、分娩ニ立會ヒタル醫師、産婆、分娩ヲ介抱シタル者ノ存否モ亦之ヲ知ルコト能ハズ從テ今日ニ於テ申請人ノ届出義務アル者現存セズ遂ニ出生ノ届出ヲ爲スニ由ナシ然レドモ申請人ハ右戶主某ノ何男ニシテ某ハ既ニ死亡シタルガ故ニ茲ニ戶主トシテ而シテ右何市何區何町何丁目何番地ニ就籍セントシ其ノ届出ヲ爲ス爲戶籍法第六十條ニ依リ其ノ許可ヲ求ムル爲申請ニ及ビタリ

立證方法

第一類 民事 戶籍 戶籍法 轉籍及就籍

一 親族住所何某ノ證明書(又ハ供述)ニ因リ右事實ヲ證ス
添附書類
一 親族何某ノ證明書
年月日
右 申請人 何 某
何市何區區長 何 某殿

就籍届ノ例(許可裁判ニ因ル戶主自己ノ就籍、就籍地ニ届出ノ例ヲ示ス、届出期間許可ノ裁判ヨリ十日内、戸一六〇、一六一、一六二、四三、四七、四八、四九、就籍許可申請書ニ付テハ前號ノ書式參看)
就籍届(其一)

何市何區何町何丁目何番地
前戶主何某、母某何男
就籍者 戶主 何 某
何年何月何日生

右某何年何月何日前戶主某ノ死亡ニ因リ家督相續同日戶主ト爲ル
右何年何月何日附何區裁判所ノ裁判ニ因リ就籍許可
右就籍許可裁判ノ謄本ヲ添附シ届出候也
年月日

届出人 就籍ノ裁判ヲ得タル者 何 某殿
何市何區區長 何 某殿

(注意) 本例ハ戸主ニ付テ一般ニ戸籍ニ記載スル事項ヲ記シタル例ヲ示シタルモ此ノ他猶第十八條ニ依リ戸籍ニ記載ヲ要スル事項アルトキハ悉ク之ヲ記載スルコトヲ要ス、一戸内ノ數人就籍スルトキハ其ノ各自ニ届出ヲ爲スコトヲ要ス、家族ノ就籍届ニ付テハ次號ノ書式參看

就籍許可申請書ノ例 (家族ノ就籍許可申請ノ例ヲ示ス、戸一六〇、一六一、本例ノ許可裁判ニ因ル就籍届ニ付テハ次號ノ書式參看、猶婚姻届本籍ヲ有スルニ至リタル届出ノ書式參看)

就籍許可申請 (其二)

本籍ヲ有セズ
所在地

何 某

申請ノ趣旨

右申請人ノ何市何區何町何番地戸主何某ノ弟トシテ就籍スルコトノ許可ヲ求ム

申請ノ原因タル事實

右申請人ハ前記何市何區何町何番地戸主何某ノ父亡某ノ何男ニシテ戸主某ノ弟ナル處如何ナル事由ニ基ケルカ明ナラズト雖前記某ノ前戸主父亡某ノ戸籍ニモ記載ナク亦從テ現戸主某ノ戸籍ニモ記載ナク全ク本籍ヲ有セサルモノト爲シアリ而シテ今日ニ於テハ出生ノ届出義務者ナル者悉ク現存セズ(又ハ

明ナラザルヲ以テ)本籍ヲ有セザル原因カ出生ノ届漏ニ在リトスルモ出生ノ届出ヲ爲スニ由ナシ然レドモ申請人ハ前記現戸主某ノ弟ナルヲ以テ同人ノ家族トシテ同人ノ本籍ニ就籍セントシ其ノ届出ヲ爲ス爲戸籍法第六十條ニ依リ其ノ許可ヲ求ムル爲本申請ニ及ビタリ

立證方法

- 一 戸籍及除籍ノ謄本ヲ以テ本籍ナキコトヲ證ス
- 二 現戸主某ノ供述ヲ以テ其ノ弟タルコトヲ證ス
- 三 何々

添附書類

- 一 戸籍謄本
- 二 除籍謄本

年月日

壹通
壹通

右

申請人

何 某

某

何區裁判所監督判事

何 某

就籍届ノ例 (許可裁判ニ因ル家族(戸主ノ弟)ノ就籍、就籍地ニ届出ノ例ヲ示ス、届出期間十日内、戸一六〇、一六一、一六二、四三、四四、四七、四八、就籍許可申請書ニ付テハ前號ノ書式參看、猶婚姻届本籍ヲ有スルニ至リタル届出ノ書式參看)

就籍届 (其二)

何市何區何町何番地

右何年何月何日附何地方裁判所ノ裁判確定ニ因リ就籍
右就籍判決ノ謄本ヲ添附シ届出候也

年月日

何市何區何町何番地

右某ノ親權ヲ行フ母

届出人

就籍ノ裁判
ヲ得タル者

何 某

某

何年何月何日生

何市何區區長

何 某

◎戸籍ノ訂正

戸籍訂正許可申請書ノ例 (戸籍ノ記載ニ錯誤アルコトヲ發見シタル場合ニ其ノ訂正ノ許可ヲ裁判所ニ申請スル書面ノ例、父ヨリ出生子ノ出生ノ時ヲ訂正スル申請ノ例ヲ示ス、戸一六四、此ノ許可裁判ニ基ク戸籍訂正申請書ニ付テハ次號ノ書式參看)

戸籍訂正許可申請 (其一)

何市何區何町何丁目何番地

申請人

何 某

某

申請ノ趣旨

何市何區何町何丁目何番地戸主何某戸籍申請人ノ何男某ノ戸籍ニ記載セル出生ノ欄何年何月何日トアルヲ何年何月何日ト訂正スルコトノ許可ヲ求ム

父亡某、母亡某何男
就籍者 戸主某弟 何 某
何年何月何日生

就籍許可ノ裁判ヲ得タル某届出ヲ爲サザルニ因リ

届出人 戸主

何 某

某

何年何月何日生

何市何區區長

何 某

(注意) 前々號ノ書式注意參看

就籍届ノ例 (確定判決ニ因ル家族(戸主ノ庶子)ノ就籍、届出人ノ所在地ニ届出ノ例ヲ示ス、届出期間十日内、戸一六三、一六〇、一六一、四三、四七、四八、四九、五二)

就籍届 (其三)

何市何區何町何丁目何番地

所在地 何市何區何町何番地

父何某、母何某

就籍者 戸主某庶子

何男 何 某

何年何月何日生

右某何市何區何町何番地戸主何某何女某子私生子何年何月何日父某ノ認知ニ因リ其ノ家族ト爲ル

第一類 民事 戸籍 戸籍法 戸籍ノ訂正

申請ノ原因タル事實

右申請人長男某何ハ何年何月何日ニ出生シタルニ拘ラズ其ノ出生届出ニ方リ誤テ届出ニ何年何月何日ニ出生ト記載シタルヲ以テ戸籍ニモ亦同一ニ記載シアリ(又ハ何年何月何日ニ出生シ當時其ノ如ク届出ヲ爲シタルニ拘ラズ戸籍ニハ何年何月何日ニ出生ト記載シアリ)然レドモ右ハ全ク届書記載ノ錯誤(又ハ戸籍記載ノ錯誤)ヨリ延テ戸籍ノ記載ニ錯誤ヲ生ジタルモノナルニ因リ之ガ訂正ヲ當該市町村長ニ申請スル爲茲ニ其ノ訂正許可ノ申請ニ及ビタリ

立證方法

- 一 戸籍ノ謄本ヲ以テ戸籍ノ現在ノ記載ヲ證ス
- 二 書證産婆何某ノ證明書及證人介抱人何某ノ供述ヲ以テ眞實ナル出生ノ時ヲ證ス

添附書類

- 一 戸籍謄本 壹通
- 二 産婆何某ノ證明書 壹通

申請人 何 某
 何區裁判所監督判事 何 某殿

戸籍訂正申請書ノ例(戸籍ノ記載ニ錯誤アルコトヲ發見シタル場合ニ爲ス戸籍訂正申請書ノ例、出生子ノ出生ノ時ヲ訂正スル申請ノ

例ヲ示ス、申請期間一个月内、戸一六六、一六八、四三、四七、四八、五八、裁判所ニ爲スベキ戸籍訂正許可申請書ニ付テハ前號ノ書式參看)

戸籍訂正申請(其二)

何市何區何町何丁目何番地
 戸主某 長男 何 某
 右某ノ戸籍出生ノ欄ノ記載ヲ何年何月何日ト訂正スルコト

右何年何月何日附何區裁判ニ因リ許可
 右戸籍訂正許可裁判ノ謄本ヲ添附シ申請候也

申請人 何 某
 何市何區區長 何 某殿
 何年何月何日生

戸籍訂正許可申請書ノ例(戸籍ノ記載ニ錯誤アルコトヲ發見シタル場合ニ其ノ訂正ノ許可ヲ裁判所ニ申請スル書面ノ例、父母トノ續柄何男ヲ長男ト訂正スル場合、本人ヨリ申請スル例ヲ示ス、戸一六四、此ノ許可裁判ニ基ク戸籍訂正申請書ニ付テハ次號ノ書式參看)

戸籍訂正許可申請(其二)

何縣何郡何町何番地
 申請人 何 某
 申請ノ趣旨

何縣何郡何町何番地戸主何某戸籍中右申請人ノ戸籍戸主トノ續柄欄ニ二男トアルヲ長男ト訂正スルコトノ許可ヲ求ム

申請ノ原因タル事實

右申請人ハ申請人ノ戸主ニシテ且父タル何某及母某トノ間ニ生レタル最初ノ嫡出男子即チ長男ナル處其ノ出生届ニ方リ誤テ届書ニ二男ト記載シタル爲戸籍ニモ亦二男ト記載シアリ、(又ハ最初ノ嫡出男子即チ長男ニシテ其ノ出生届モ亦其ノ如ク爲シタルニ拘ラズ戸籍ニハ二男ト記載シアリ、其ノ他何々)然レバ右ハ全ク届書記載ノ錯誤(又ハ戸籍記載ノ錯誤)ヨリ延テ戸籍ノ記載ニ錯誤ヲ生ジタルモノナルニ因リ之ガ訂正ヲ當該市町村長ニ申請スル爲茲ニ其ノ訂正許可ノ申請ニ及ビタリ

立證方法

- 一 戸籍ノ謄本ヲ以テ戸籍ノ現在ノ記載ヲ證ス
- 二 人證住所何某、何某及何某ノ供述ヲ以テ申請人ノ長男ナルコトヲ證ス

添附書類

- 一 戸籍謄本 壹通

申請人 何 某
 何區裁判所監督判事 何 某殿

戸籍訂正申請書ノ例(戸籍ノ記載ニ錯誤アルコトヲ發見シタル

第一類 民事 戸籍 戸籍法 戸籍ノ訂正

場合ニ爲ス戸籍訂正申請書ノ例、二男ヲ何男ト訂正スル申請、本人ヨリ所在地ニ爲ス例ヲ示ス、申請期間一个月内、戸一六六、一六八、四三、四七、四八、五八、裁判所ニ爲スベキ戸籍訂正許可申請書ニ付テハ前號ノ書式參看)

戸籍訂正申請(其二)
 何縣何郡何町大字何番地
 所在地 何市何區何町何番地
 戸主某 長男 何 某
 右某ノ戸籍中其ノ戸主及父母トノ續柄ヲ長男ト訂正スルコト

右何年何月何日附何區裁判所ノ裁判ニ因リ許可
 右戸籍訂正許可裁判ノ謄本ヲ添附シ申請候也

申請人 何 某
 何市何區區長 何 某殿
 何年何月何日生

戸籍訂正 申請書ノ例(戸籍ノ記載ニ錯誤アルコトヲ發見シタル場合ニ爲ス例、複本籍ヲ有スル者一方ノ戸籍ヲ除籍スル爲申請スル例ヲ示ス、戸一六四、此ノ許可裁判ニ基ク戸籍訂正申請書ニ付テハ次號ノ書式參看)

戸籍訂正許可申請(其三)

何市何區何町何丁目何番地
 申請人 何 某

申請ノ趣旨

何市何區何町何丁目何番地何某ノ戸籍ヲ除籍スルコトノ戸籍訂正ノ許可ヲ求ム

申請ノ原因タル事實

右申請人ハ現ニ別紙戸籍謄本ノ如ク何市何區何町何丁目何番地ニ戸主トシテ本籍ヲ有スルニ拘ラズ猶同市何區何丁目何番地ニモ亦本籍ヲ有セリ蓋シ申請人ハ元何町何丁目何番地ニ分家戸主タリシモ何年何月何日之ヲ廢シ何區何町何丁目何番地ノ本家ニ入り相續戸主ト爲リタルモノナレバ右廢家ノ當時錯誤ニ因リ單ニ本家ニ入籍ノ手續ノミ遂行セラレ廢家除籍ノ手續ニ付テハ之ヲ遂行セラレザリシ爲遂ニ兩地ニ本籍ヲ有スルニ至レルモノト信ズ然レドモ右ノ如ク申請人ガ何町何丁目何番地ノ分家ヲ廢シ何區何町何丁目何番地ノ本家ニ入り相續ヲ爲シタルコトハ別紙戸籍謄本ノ如クニシテ要スルニ錯誤ニ因リ何區何町何丁目何番地ニ複本籍ヲ有スルニ至リタルモノナレバ(又ハ何々ノ事由ニ因リ)何區長ニ對シ其ノ除籍ヲ爲ス爲ノ戸籍ノ戸籍訂正ヲ申請スル必要ヲ生ジ戸籍法第六十四條ニ依リ茲ニ右戸籍訂正許可ノ申請ニ及ビタリ

立證方法

- 一 何區長ノ作成セル戸籍謄本ヲ以テ何區何町何丁目何番地ニ現ニ本籍ヲ有スルコトヲ證ス
- 二 何區長ノ作成セル戸籍謄本ヲ以テ何區何町何丁目何番地ニモ亦現ニ本籍ヲ有スルコトヲ證ス

地ニモ亦現ニ本籍ヲ有スルコト及其ノ戸籍ノ除籍セラレベキコトノ正當ナルコトヲ證ス

添附書類

- 一 何區長作成ノ戸籍謄本
- 一 何區長作成ノ戸籍謄本

年 月 日

右

申請人

何

某

何區裁判所監督判事

何

某

戸籍訂正申請書ノ例

(戸籍ノ記載ニ錯誤アルコトヲ發見シタル場合ニ爲ス申請書ノ例、複本籍ヲ有スル者ガ一方ノ戸籍ヲ除籍スル爲其ノ除籍地ニ申請スル例ヲ示ス、届出期間一ヶ月内、戸一六六、一六八、四三、四七、四八、五八、裁判所ニ爲スベキ戸籍訂正許可申請書ニ付テハ前號ノ書式參看)

戸籍訂正申請 (其三)

何市何區何町何丁目何番地

戸主

何

某

右某ノ何市何區何町何丁目何番地ノ戸籍ヲ除籍スルコト

右何年何月何日附ノ何區裁判所ノ裁判ニ因リ許可

右戸籍訂正許可裁判ノ謄本ヲ添附シ申請候也

年 月 日

何市何區何町何丁目何番地

申請人

何

某

○抗 告

何市何區長 何

某殿

何年何月何日生

戸籍事件ニ付市町村長ノ處分ヲ不當トスル 抗告書ノ

例(一般的記載例ヲ示ス、抗告期間ナシ、戸一六九、一七〇、抗告ノ理由アリトシ又ハ理由ナシトシ市町村長ガ爲ス通知書及意見書ニ付テハ後ノ各其ノ書式參看)

戸籍事件ニ付市町村長ノ處分ヲ不當トスル

抗告狀 (其一)

住 所

抗告人

何

某

抗告ノ原因タル事實及理由

右抗告人ハ何年何月何日市町村長ニ對シ何々ノ届出(又ハ申請)ヲ爲ス爲本狀添附ノ何々届出(又ハ申請)書ヲ提出シタルニ何々市町村長ハ右届出(又ハ申請)ニ對シ何々ノ理由ニ因リ届出(又ハ申請)ノ受理ヲ爲スコトヲ得ズトシ何年何月何日日本狀添附ノ届出(又ハ申請)ノ受理ノ證明書ノ如ク之ヲ受理ヲ拒ミタリ然レドモ右ハ何々ノ理由ニ因リ市町村長ハ當然之ヲ受理スベキモノナルニ之ヲ受理ヲ拒ミタルハ不法ナリト信ズルヲ以テ戸籍法第六十九條及第七十條ニ依リ右何々市町村長ノ右ノ處分ニ對シ茲ニ抗告ニ及ビタリ

抗告ノ趣旨

何々市町村長ニ對シ何年何月何日抗告人ノ爲シタル何々ノ届出(又ハ申請)ヲ受理スベキコトヲ命ゼラルル決定ヲ求ム

添附書類

- 一 何々市町村長ニ提出シタル何々届書(又ハ申請書)何通
- 二 何々市町村長ノ届出(又ハ申請)ノ受理ノ證明書 壹通

年 月 日

右

抗告人

何

某

何區裁判所監督判事

何

某

同上ノ例 (具體的ニ記載シ猶一例ヲ示ス)

戸籍事件ニ付市町村長ノ處分ヲ不當トスル

抗告狀 (其二)

住 所

抗告人

何

某

抗告ノ原因タル事實及理由

右抗告人ハ戸主某ノ同意ヲ得分家ヲ爲ス爲何年何月何日何市何區長ニ對シ本狀添附ノ分家届書ヲ以テ届出ヲ爲シタルニ同區長ハ抗告人ハ未成年者ニシテ且分家ノ届出ハ届出ニ因リ效力ヲ生ズベキモノニシテ單純ノ事實ニ關スルモノニ非ザルガ故ニ未成年者自ラ之ヲ届出ヲ爲スコトヲ得ズ戸籍法第四十九條第一項本文ニ依リ親權ヲ行フ者又ハ後見人ニ於テ届出ヲ爲

サザル可カラザルモノトシ本狀添附ノ届出不受理ノ證明書ノ如ク之ガ受理ヲ拒ミタリ然レドモ抗告人ハ未成年者タルコトハ相違ナキモ戸籍法第四十九條第一項本文ニハ「届出ヲ爲スベキ者ガ未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ親權ヲ行フ者又ハ後見人ヲ以テ届出義務者トス」トアリ、然ルニ分家ノ届出ハ何區長モ亦解スル如ク届出ニ因リ效力ヲ生ズル届出ニシテ義務トシテ爲スベキモノニ非ザルガ故ニ其ノ届出ノ義務者ナルモノアルベキノ理ナク從テ右戸籍法第四十九條第一項本文ノ規定ハ右ノ場合ニ適用スベキモノニ非ザルコトハ疑ヲ容ルルノ餘地ナク亦從テ假令分家ノ届出ガ單純ノ事實ニ關スルモノニ非ズトスルモ未成年者自ラ届出ヲ爲シ得ベキモノタルハ明ニシテ何區長ハ當然之ヲ受理スベキモノナルニ之ガ受理ヲ拒ミタルハ不法ナリト信ズルヲ以テ戸籍法第六十九條及第七十條ニ依リ右何區長ノ届出不受理ノ處分ニ對シ茲ニ抗告ニ及ビタリ

抗告ノ趣旨
何市何區長ニ對シ何年何月何日抗告人ノ爲シタル分家ノ届出ヲ受理スベキコトヲ命ゼラルル決定ヲ求ム

- 添附書類
- 一 何區長ニ提出シタル分家届出書
 - 二 何區長ノ届出不受理ノ證明書
- 年 月 日
- 壹通
壹通

右
抗告人 何 某殿
何區裁判所監督判事 何 某殿

抗告ニ關スル種類ノ送付ヲ受ケタル市町村長ガ抗告ヲ理由アリト認メタルトキ其ノ處分ヲ變更シテ抗告人ニ通知スル通知書ノ例（一般的記載例ヲ示ス、戸一七二、抗告狀ニ付テハ前二號ノ書式參看）

戸籍事件ニ付テノ抗告ニ因ル處分變更通知書（其一）

何年何月何日日本職ノ爲シタル何々届出（又ハ申請）不受理ノ處分（又ハ何々ノ處分）ニ對シ何年何月何日何區裁判所ニ爲シタル抗告ハ理由アリト認メ左ノ如ク處分ヲ變更ス

一 何々
右及通知候也

年 月 日
何市町村長 何 某殿

同上ノ例（具體的ニ記載シ猶一例ヲ示ス）

戸籍事件ニ付テノ抗告ニ因ル處分變更通知書（其二）

何年何月何日日本職ノ爲シタル分家届出不受理ノ處分ニ對シ何

同上ノ例（具體的ニ記載シ猶一例ヲ示ス）

戸籍事件ニ付テノ抗告ニ因ル處分變更通知書（其四）

何年何月何日右抗告人ニ對シ本職ノ爲シタル分家ノ届出不受理ノ處分ニ付右抗告人ヨリ爲シタル御應何年何月何日何區裁判所ニ爲シタル抗告ハ理由アリト認メ左ノ如ク處分ヲ變更ヲ爲シタリ

一 右抗告人ノ分家届出ハ之ヲ受理スベシ
右及通知候也

年 月 日
何市何區長 何 某殿

市町村長ガ抗告ヲ理由ナシト認メタルトキハ書類ヲ裁判所ニ返還スル書面ノ例（返還期間五日内、戸一七二、此ノ書面ニ附スベキ意見書ニ付テハ次號ノ書式參看）

戸籍事件ニ付テノ抗告ニ關スル書類返還書

何年何月何日右抗告人ニ對シ本職ノ爲シタル何々届出（又ハ申請）不受理ノ處分（又ハ何々ノ處分）ニ付右抗告人ヨリ爲シタル御應何年何月何日何區裁判所ニ爲シタル書類何年何月何日送付ヲ受ケタル處右抗告ハ理由ナシト認ムルヲ以テ意見ヲ附シ右書類及返還候也

年何月何日何區裁判所ニ爲シタル抗告ハ理由アリト認メ左ノ如ク處分ヲ變更ス

一 右分家ノ届出ハ之ヲ受理スベシ
右及通知候也

年 月 日
何市何區長 何 某殿

同上市町村長ガ裁判所ニ對シテ爲ス通知書ノ例（一般的記載ノ例ヲ示ス、戸一七二、前々號ノ書式參看）
戸籍事件ニ付テノ抗告ニ因ル處分變更通知書（其三）

何年何月何日右抗告人ニ對シ本職ノ爲シタル何々届出（又ハ申請）不受理ノ處分（又ハ何々ノ處分）ニ付右抗告人ヨリ爲シタル御應何年何月何日何區裁判所ニ爲シタル抗告ハ理由アリト認メ左ノ如ク處分ヲ變更ヲ爲シタリ

一 何々
右及通知候也

年 月 日
何市町村長 何 某殿
何區裁判所監督判事 何 某殿

年月日

何市町村長
何區裁判所監督判事 何

何 某殿

某〇

抗告ニ關スル書類ノ送付ヲ受ケタル市町村長ガ抗告
ヲ理由ナシト認メ裁判所ニ返還スベキ書類ニ附スル
意見書ノ例（一般的記載例ヲ示ス、戸一七二）

戸籍事件ニ付テノ抗告ニ對スル意見書（其一）

抗告人

何

某

何年何月何日右抗告人ニ對シ本職ノ爲シタル何々届出（又ハ
申請）不受理ノ處分（又ハ何々ノ處分）ニ付右抗告人ヨリ爲
シタル御廳何年何號抗告事件ノ抗告ニ對スル意見左ノ如
シ

抗告ハ理由ナキモノト認ム

理由

……故ニ抗告人ノ爲シタル右届出（又ハ申請其ノ他
何々）ハ之ヲ受理スベカラザルハ當然ニシテ本職ガ其ノ受理
ヲ拒ミタルハ毫モ不法ニ非ズト信ズ

年月日

何市町村長

何

某〇

何區裁判所監督判事 何

某殿

三五六

同上ノ例（具體的ニ記載シ猶一例ヲ示ス）

戸籍事件ニ付テノ抗告ニ對スル意見書（其二）

抗告人

何

某

何年何月何日右抗告人ニ對シ本職ノ爲シタル分家ノ届出不受
理ノ處分ニ付右抗告人ヨリ爲シタル御廳何年何號抗告事件
ノ抗告ニ對スル意見左ノ如シ

抗告ハ理由ナキモノト認ム

理由

戸籍法第四十九條第一項ニハ「届出ヲ爲スヘキ者カ未成年者
又ハ禁治産者ナルトキハ親權ヲ行フ者又ハ後見人ヲ以テ届出
義務者トス但シ出生、死亡其他單純ノ事實ニ關スル届出ハ未
成年者又ハ禁治産者モ亦之ヲ爲スコトヲ得」トアリ、故ニ届
出ヲ爲スベキ者カ未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ苟モ出
生、死亡等單純ノ事實ニ關スル届出ニ非ザルモノハ原則トシ
テ總テ親權ヲ行フ者又ハ後見人ニ於テ届出ヲ爲スベキモノタ
ルハ明ナリ其ノ右法文ニ「届出義務者トス」トアルガ故ニ義
務トシテ届出ヲ爲スベキモノニ限リ親權ヲ行フ者又ハ後見人
ヲ以テ届出人ト爲シタルモノノ如シト雖是唯其ノ語ヲ重クシ
タルニ止マリ「届出ヲ爲スベキ者カ未成年者又ハ禁治産者ナ
ルトキハ親權ヲ行フ者又ハ後見人ヲ以テ届出人トス」ト謂
ヘル意ニ過ギズシテ必ズシモ義務トシテ爲スベキ届出ニ限リ
親權ヲ行フ者又ハ後見人ヲ以テ届出人トスト謂ヘル意ニ非ズ

若シ義務トシテ爲スベキ届出ノ場合ニ限リ親權ヲ行フ者又ハ
後見人ヲ以テ届出人ト爲スト謂ヘル意ナリトセバ其ノ初ニ於
テ「義務トシテ爲スベキ届出ニ付届出ヲ爲スベキ者カ未成年
者又ハ禁治産者ナルトキハ云々」ト規定スベキ筈ナルニ唯單
ニ「届出ヲ爲スベキ者カ未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ」
ト謂ヒ何等義務トシテ爲スベキ届出ノ場合ニ限リ親權ヲ行フ
者又ハ後見人ヲ以テ届出義務者トスル旨ノ制限ノ認ムベキモ
ノナキニ徴スルモ亦同條第一項本文ノ規定ハ苟モ、出生、死
亡等單純ノ事實ニ關スルモノニ非ザル届出ハ其ノ届出ヲ爲ス
ベキ者カ未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ一切親權ヲ行フ者
又ハ後見人ヲ以テ届出人ト爲スノ意タルコトヲ知ルニ足ル、
而シテ本件抗告人ノ爲シタル分家ノ届出ハ届出ニ因リテ效力
ヲ生ズベキモノニシテ單純ノ事實ニ關スル届出ニ非ザルガ故
ニ其ノ届出人ガ本件ノ如ク未成年者ナル場合ニ於テハ親權ヲ
行フ者又ハ後見人ヨリ届出ヲ爲サザル可カラザルハ當然ニシ
テ之ニ反シ未成年者自ラ爲シタル本件分家ノ届出ハ不合法ニ
シテ本職ガ其ノ届出ノ受理ヲ拒ミタルモ亦固ヨリ當然ナリ然
レバ本件抗告人ノ抗告ハ其ノ理由ナキモノト認メザルベカラ
ズ

年月日

何市何區長 何

某〇

何區裁判所監督判事 何

某殿

第一類 民事 戸籍 戸籍法 抗告

戸籍ニ關聯スル各種訴狀ノ例（戸籍ノ訂正ハ其ノ戸籍訂正
ノ結果親族法及相続法上利害ノ影響ヲ被ル者ガ其ノ訂正申請ニ異
議ナキ場合ニ限リ戸籍法第六十四條ニ依リ戸籍訂正許可申請ノ形
式ニ依ルコトヲ得レドモ若シ是等ノ利害ノ影響ヲ被ル者ニ於テ異
議アル場合ニハ訴訟ノ形式ニ依ラザルベカラズ、左ニ身分關係ノ確
認、身分關係不存在ノ確認、身分登記抹消ニ關スル二三ノ訴狀ノ例ヲ
示ス）

戸籍ニ關聯スル各種ノ訴

（當事者ノ記載、訴ノ目的ノ記載、請求ノ原因ノ記載、證據
方法並添附書類ノ記載例ハ一般訴狀ノ例ニ倣ヒ記載スベシ）

（其一）

身分關係確認事件

請求ノ趣旨（イ）

被告ハ原告ノ弟タルコトヲ確認ス、訴訟費用ハ被告ノ負擔ト
ストノ判決相成度候也（戸一六七）

請求ノ趣旨（ロ）

原告ハ被告ノ參男トシテ被告ノ家族タルコトヲ確認ス、訴訟
費用ハ被告ノ負擔トストノ判決相成度候也（民七三二、戸一
六二）

請求ノ趣旨（ハ）

原告ハ亡何某ト其ノ妻何某トノ間ニ出生シタル嫡出子タルコ
トヲ確認ス、訴訟費用ハ被告ノ負擔トストノ判決相成度候也

三五七

追テ右期間内ニ手續無之ニ於テハ過料ニ處セララルコトアルヘキニ付及注意候
年月日

本籍(所在) 何市町村長 氏 名印

届出(申請)追完催告状ノ書式

(戸籍法施行細則附録)

附録第十二號 第二

追完催告状

何年何月何日何々届ハ何々ノ欠缺アル爲戸籍ノ記載ヲ爲スコト能ハザルニ付何月何日迄ニ追完可相成此段及催告候也
追テ右期間内ニ追完ノ手續無之ニ於テハ過料ニ處セララルコトアルヘキニ付及注意候
年月日

本籍(所在) 何市町村長 氏 名印

届出(申請)第二回以後ノ催告状ノ書式

(戸籍法施行細則附録)

附録第十二號 第三

催告状(第二回以後)

何年何月何日附ヲ以テ何月何日迄ニ何々届(申請)(又ハ其追完)ヲ爲スベキ旨及催告候處未タ其手續無之ニ付來ル何月何日迄ニ右届出(申請)(又ハ其ノ追完)可相成更ニ及催告候也

追テ右期間内ニ手續無之ニ於テハ過料ニ處セララルコトアルベキニ付及注意候
年月日

本籍(所在) 何市町村長 氏 名印

寄 留

寄留法(大正三年三月三十日法律第二七號)

寄留手續令(大正三年一〇月二七日勅令第二二六號)

寄留簿閲覧請求

(令四、此ノ書式ハ戸籍簿ノ閲覧請求ノ書式ニ準ズベシ)

寄留簿ノ謄本、抄本交付請求

(令四、此ノ書式ハ戸籍ノ謄本、抄本交付請求ノ書式ニ準ズベシ)

寄留ニ關スル口頭届出陳述書ノ筆記

(令二九、此ノ書式ハ戸籍ニ關スル口頭届出ノ陳述筆記ノ例ニ準ジ下ニ掲グル各届出ニ依リ之ヲ作ルベシ)

寄留ニ關スル届書ノ代署、捺印

(令三〇、此ノ書式ハ戸籍ニ關スル届出ノ代署、捺印ノ例ニ準ズベシ)

住所寄留届ノ例

(戸主及家族ガ寄留地ニ家屋ヲ有シ且一世帯ヲ爲ス同時寄留ノ例ヲ示ス、即チ何縣本籍ノ者ガ何市ニ家屋ヲ有シ其ノ家屋ニ一世帯ノ住所ヲ持タルカ如キ場合ノ例ナリ、寄留者ガ戸主又

第一類 民事 寄留 寄留法 寄留手續令

ハ家族ニシテ寄留地ニ家屋ヲ有セザルトキハ次號書式ノ例ニ依ル、届出期間十四日内、法一、令一、五、二四、二六、二八、三一)

住所寄留届 (其一)

本籍地	族稱	
寄留住所	職業	何 某
寄留者	戸主	何 某
同	妻	無業 某
同	長男	何年何月何日生 某
同	二男	何年何月何日生 某

右何年何月何日寄留

右住所寄留届出候也

年月日

届出人 世帯主 家主 何 某印

(注意) (一)華士族ノ稱ハ之ヲ有スルトキニ限り記載シ
(二)寄留者中配偶者アル者アルトキハ其ノ配偶者ノ氏名ヲ記載スベシ寄留者ガ家主ナルトキハ承諾書ノ添附ヲ要セズ右ノ如ク届出人ノ下ニ「家主」ト記載スベシ

住所寄留届ノ例 (前號ノ場合ニ於テ妻以下ノ家族ノミ同時寄留ノ例ヲ示ス、但シ妻ガ世帯主ニシテ家屋ヲ有セザル場合ヲ想像ス、例ヘバ前號書式ノ妻子ノミガ本籍ヨリ何地ニ一戸ノ家ヲ借受ケ之ニ一世帯ノ住所ヲ有シタルガ如キ場合ノ例ナリ、戸主ト雖家屋ヲ有セザルトキハ亦本例ニ依ル、前號ノ書式參看、届出期間十四日内、法一、令一、五、二四、二六、二八、三一)

住所寄留届 (其二)

本籍地 族稱
寄留住所地
寄留者 戸主 某某妻 職業 何 某
同 長男 何年何月何日生
同 二男 何年何月何日生
何年何月何日生 某

右何年何月何日寄留
右住所寄留家主ノ承諾書ヲ添附シ届出候也
年月日

届出人 世帯主 何 某
何市何區長 何 某殿
(注意) (一)華士族ノ稱ハ之ヲ有スルトキニ限り記載スベシ(二)家主ノ承諾書ハ次號ノ書式參看

前號書式ノ寄留届ニ添附スベキ家主又ハ家屋管理人ノ承諾書ノ例 (前號ノ書式參看、令五、五、三一)

寄留承諾書

本籍地 族稱
寄留住所地
寄留者 世帯主 何 某
右寄留ヲ承諾ス
年月日

何市何區何町何丁目何番地
承諾者 家主(又ハ家屋管理人) 何 某
(注意) (一)特ニ本例ノ承諾書ヲ作ラズ寄留届ニ承諾ノ旨ヲ附記スルモ妨ゲナシ、附記ハ下ノ諸例參看(二)但シ前例ノ如ク世帯主ノ寄留ニ非ズシテ單ニ世帯ニ屬スル者ニ關スル届出ニハ承諾書又ハ承諾ノ附記ヲ要セズ

住所寄留届ノ例 (單獨寄留ノ例ヲ示ス但シ寄留者ガ寄留地ニ家屋ヲ有スル場合ヲ想像ス、家屋ヲ有セザルトキハ次ノ書式ノ例ニ依ル、前三號ノ書式參看、届出期間十四日内、法一、令五、二四、二六、二八、三一)

住所寄留届 (其三)

本籍何縣何郡何町何番地 族稱
寄留住所地

寄留者 戸主 職業 何 某
右配偶者 妻 何年何月何日生 某

右何年何月何日寄留
右住所寄留届出候也
年月日

届出人 家主 何 某
何市何區長 何 某殿

住所寄留届 (其四)

本籍地 族稱
寄留住所地
寄留者 戸主 某某 職業 何 某
何男 何年何月何日生

右何年何月何日寄留
右住所寄留届出候也
年月日

届出人 何 某
何市何區長 何 某殿
右寄留ヲ承諾ス
何市何區何町何丁目何番地

承諾者 家主(又ハ家屋管理人) 何 某

第一類 民事 寄留 寄留法 寄留手續令

(注意) 寄留者ニ配偶者アルトキハ其ノ氏名ヲ記載スベシ

住所寄留届ノ例 (世帯ニ屬スル寄留者届出ノ例ヲ示ス、新ニ世帯ニ屬スル寄留者爲シタル場合ヲ想像ス、届出期間十四日内、法一、令一、五、二四、二六、二八、三一)

住所寄留届 (其五)

本籍地 族稱
寄留住所地
寄留者 戸主 某某 職業 何 某
何男 何年何月何日生

右何年何月何日寄留
右住所寄留届出候也
年月日

届出人 世帯主 何 某
何市何區長 何 某殿

(注意) (一)單ニ世帯ニ屬スル者ニ關スル届出ニハ家屋ヲ有セザルトキト雖家主ノ承諾書ヲ要セズ(二)世帯主届出ヲ爲スコト能ハザルトキハ次號ノ例ニ依ルベシ

住所寄留届ノ例 (前號書式ノ場合、世帯主届出ヲ爲スコト能ハザルトキ世帯ヲ管理スル者ヨリ届出ノ例ヲ示ス、前號ノ書式參看)

住所寄留届 (其六)

本籍地 族稱

寄留住所

寄留者 戸主某何男 職業何

某

何年何月何日生

右何年何月何日寄留

右住所寄留届出候也

年月日

世帯主何某届出ヲ爲スコト能ハザルニ因リ

届出人 世帯ヲ管理スル者 何

某

何市何區長 何 某殿

(注意) 前號書式注意ノ(一)參看

住所寄留届ノ例

(寄留所、宿舍其ノ他多數同居ヲ目的トスル場合ノ寄留届出ノ例ヲ示ス、例之バ寄宿舍、旅館、下宿屋ニ於ケル住所寄留者ノ届出ノ如シ、届出期間十四日内、法一、令五、二五、二六、二八、三一)

住所寄留届 (其七)

本籍地

寄留住所 (何々學校宿舍又ハ旅館何々館)

寄留者 戸主某何男 學生 何

某

何年何月何日生

右何年何月何日寄留

右住所寄留届出候也

年月日

届出人 何々學校舎監又ハ旅館何々館管理者 何

某

何市何區長 何 某殿

(注意) (一)寄留者數人アル場合ニ其ノ各本籍方同ジキトキハ一ノ届書ニ其ノ總員ヲ列記シテ届出ヅルコトヲ得ルモ本籍ヲ異ニスルトキハ各員毎ニ各別ニ届出ヲ爲スコトヲ要ス(二)本例ノ届出ニ付テハ家主又ハ家屋管理人ノ承諾書ヲ要セズ(三)寄留者ニ配偶者アルトキハ其ノ氏名ヲ記載スベシ

住所寄留届ノ例

(戸主及家族ガ寄留地ニ家屋ヲ有シ且一世帯ヲ爲ス同時寄留ノ例ヲ示ス、即チ何市本籍ノ者ガ何國何所ニ別荘ヲ有シ住所トセズ一時(九十日以上)保養ノ爲一世帯ノ居所ヲ定メタルガ如キ場合ノ例ナリ、寄留者ガ戸主又ハ家族ニシテ寄留地ニ家屋ヲ有セザルトキ次ノ書式ノ例ニ依ル、届出期間十四日内、法一、令一、五、二四、二六、二八、三一)

住所寄留届 (其八)

本籍地

寄留住所

寄留者 戸主 職業 何

某

何年何月何日生

同 妻 職業

某

同 妻 職業

右住所寄留届出候也

年月日

届出人 世帯主 家主 何

某

何縣何郡何町長 何 某殿

住所寄留届ノ例

(前號ノ場合ニ於テ妻以下ノ家族ノミノ同時寄留ノ例ヲ示ス、但シ長男ガ世帯主ニシテ家屋ヲ有セザル場合ニ想像ス例ヘバ前號書式中ノ妻以下ノミカ何國何所ニ一戸ノ家ヲ借受ケ住所トセズ一時(九十日以上)保養ノ爲一世帯ノ居所ヲ有シタルガ如キ場合ノ例ナリ、戸主ト雖家屋ヲ有セザルトキハ亦本例ニ依ル、前號ノ書式參看、届出期間十四日内、法一、令一、五、二四、二六、二八、三一)

住所寄留届 (其九)

本籍地

寄留住所

寄留者 戸主某長男 職業 何

某

年月日生

第一類 民事 寄留 寄留法 寄留手續令

右住所寄留届出候也

年月日

届出人 世帯主 何

某

何縣何郡何町長 何 某殿

住所寄留届ノ例

(單獨寄留ノ例ヲ示ス前々號書式ノ場合ニ於テ戸主ノミガ單獨ニ住所寄留ヲ爲シタル例、但シ寄留者ガ寄留地ニ家屋ヲ有スル場合ニ想像ス、家屋ヲ有セザルトキハ次號書式ノ式ニ依ル、前三號ノ書式參看、届出期間十四日内、法一、令一、五、二四、二六、二八、三一)

住所寄留届 (其十)

本籍地

寄留住所

寄留者 戸主 職業 何

某

何年何月何日生

同 妻 職業

某

同 妻 職業

寄留者 戶主 職業 何

年月日生 某

右配偶者 妻

某

右何年何月何日寄留

年月日

屆出人 家主 何

某

何縣何郡何町長 何

某殿

居所寄留届ノ例 (單獨寄留ノ例ヲ示ス但シ寄留者ガ寄留地ニ家屋ヲ有セザル場合ヲ想像ス、家屋ヲ有スルトキハ前號ノ書式ニ依ル、猶前四號ノ書式參看、届出期間十四日內、法一、令一、五、二四、二六二八、三一)

居所寄留届 (其四)

本籍地 寄留居所地 寄留者 戶主 某長男 職業 何 年月日生 某

右何年何月何日寄留

年月日

屆出人 何

某殿

何縣何郡何町長 何

某

右居所寄留届出候也

右何年何月何日寄留

年月日

屆出人 何

某殿

何縣何郡何町長 何

某殿

多數同居目的場所ノ居所寄留届ノ例 (此ノ書式ハ住所寄留届「住所」ト代ヘ作ルベシ)

(注意) 世帯主届出ヲ爲スコト能ハザルトキハ世帯ヲ管理スル者ヨリ届出ヲ爲スベシ

右寄留ヲ承諾ス

何縣何郡何町何番地

承諾者 (家主)又ハ家屋管理人) 何

某

居所寄留届ノ例 (世帯ニ屬スル寄留者届出ノ例ヲ示ス新ニ世帯ニ屬スル寄留者爲シタル場合ヲ想像ス、同號ノ書式參看、届出期間十四日內、法一、令一、五、二四、二六、二八、三一)

居所寄留届 (其五)

本籍地 寄留居所地 寄留者 戶主 何女 職業 何

某

年月日生

右何年何月何日寄留

右居所寄留届出候也

年月日

屆出人 世帯主 何

某

何縣何郡何町長 何

某殿

居所寄留届ノ例 (住所寄留者爲シタル者ガ其ノ住所地ヨリ更ニ他所ニ居所寄留ヲ爲ス例ヲ示ス、例之バ何縣本籍ノ者ガ某地ニ住居寄留ヲ爲シ更ニ一時保養ノ爲(九十日以上)何所ニ居所寄留ヲ爲シタル場合ノ如シ、旅館ニ滞在等ノ場合、次號ノ例ニ依ル、届出期間十四日內、法一、令五、二四、二六、二八、三一)

住所外居所寄留届 (其六)

本籍地 族稱

寄留住所地

寄留居所地

寄留者 戶主 職業 何

某

同 妻 職業

某

同 長男 職業

某

同 二男

某

同

某

同

某

同

某

同

某

右何年何月何日寄留

年月日

屆出人 世帯主 何

某

何縣何郡何町長 何

某殿

右居所寄留届出候也

第一類 民事 寄留 寄留法 寄留手續令

何縣何郡何町何番地

承諾者 (家主)又ハ家屋管理人) 何

某

居所寄留届ノ例 (寄留所宿舍其ノ他多數同居目的トスル場屋ノ同時寄留届ノ例ヲ示ス、同號書式ノ場合ニ旅館ニ滞在セル場合ヲ想像ス、寄留所、宿舍ノ場合モ之ニ準ズベシ、届出期間十四日內、法一、令五、二五、二六、二八、三一)

住所外居所寄留届 (其七)

本籍地 族稱

寄留住所地

寄留居所地 何館

寄留者 戶主 職業 何

某

同 妻

某

同 長男

某

同

某

同

某

同

某

右何年何月何日寄留

年月日

屆出人 右何館管理者 何

某

何縣何郡何町何番地

右居所寄留届出候也

三六七

何縣何郡何町長 何 某殿

寄留場所變更屆ノ例 (同一市町村內ニ於テ一世帯同時ニ寄留住所ヲ變更シタル場合ノ例ヲ示ス、届出期間十日内、令三二、二五、二四、二六、三一)

住所寄留場所變更屆 (其二)

原寄留住所
新寄留住所

寄留者 戸主 何

同 妻 某

同 長男 某

同 二男 某

右何年何月何日住所寄留場所變更

右寄留場所變更届出候也

年月日

届出人 世帯主 家主 何
何市何區長 何 某殿

某◎

寄留場所變更屆ノ例 (同一市町村內ニ於テ單獨寄留者ガ寄留住所ヲ變更シタル場合ノ例ヲ示ス、届出期間十日内、令三二、五、二四、二六、三一)

住所寄留場所變更屆 (其二)

原寄留住所
新寄留住所

寄留者 戸主 何

同 妻 某

同 長男 某

同 二男 某

右何年何月何日住所寄留場所變更

右寄留場所變更届出候也

年月日

届出人 世帯主 家主 何
何市何區長 何 某殿

某◎

右何年何月何日住所寄留場所變更
右寄留場所變更届出候也

年月日

届出人 寄留者 何
何市何區長 何 某殿

某◎

右寄留ヲ承諾ス

何市何區何町何番地
承諾者 家主(又ハ家屋管理人) 何

某◎

寄留場所變更屆ノ例 (同一市町村內ニ於テ一世帯同時ニ寄留住所ヲ變更シタル場合ノ例ヲ示ス、届出期間十日内、令三二、五、二四、二六、三一)

住所寄留場所變更屆 (其一)

原寄留住所
新寄留住所

寄留者 戸主 何

同 妻 某

同 長男 某

同 長女 某

右何年何月何日住所寄留場所變更

右寄留場所變更届出候也

年月日

届出人 世帯主 何
何縣何郡何町長 何 某殿

某◎

寄留場所變更屆ノ例 (同一市町村內ニ於テ單獨寄留者ガ寄留住所ヲ變更シタル場合ノ例ヲ示ス、届出期間十日内、令三二、五、二四、二六、三一)

住所寄留場所變更屆 (其二)

原寄留住所
新寄留住所

寄留者 戸主 何

同 妻 某

同 長男 某

同 二男 某

右何年何月何日住所寄留場所變更

右寄留場所變更届出候也

年月日

届出人 世帯主 家主 何
何市何區長 何 某殿

某◎

寄留地變更屆ノ例 (一世帯同時ニ住所寄留地ヲ變更シタル場合ノ例ヲ示ス、届出期間十四日内、令五、二四、二六、二八、三一)

住所寄留地變更屆 (其一)

本籍地
原寄留住所
新寄留住所

寄留者 戸主 職業 何

同 某

第一類 民事 寄留 寄留法 寄留手續令

年月日生

右何年何月何日住所寄留場所變更
右寄留場所變更届出候也

年月日

届出人 寄留者 何
何市何區長 何 某殿

某◎

右寄留ヲ承諾ス

何市何區何町何番地
承諾者 家主(又ハ家屋管理人) 何

某◎

寄留場所變更屆ノ例 (同一市町村內ニ於テ一世帯同時ニ寄留住所ヲ變更シタル場合ノ例ヲ示ス、届出期間十日内、令三二、五、二四、二六、三一)

住所寄留地變更屆 (其二)

本籍地 族稱
原寄留住所
新寄留住所

寄留者 戸主 何

同 某

同 某

同 某

右何年何月何日住所寄留地變更

右寄留地變更届出候也

年月日

届出人 世帯主 何
何縣何郡何町長 何 某殿

某◎

同 妻 某 ◎
同 長男 某 ◎
同 二男 某 ◎

右何年何月何日住所寄留地變更

右寄留地變更届出候也

年月日

届出人 世帯主 何
何市何區長 何 某殿

某◎

右寄留ヲ承諾ス

何市何區何町何番地
承諾者 家主(又ハ家屋管理人) 何

某◎

寄留地變更屆ノ例 (單獨寄留者住所寄留地ヲ變更シタル場合ノ例ヲ示ス、届出期間十四日内、令五、二四、二六、二八、三一)

住所寄留地變更屆 (其二)

本籍地 族稱
原寄留住所
新寄留住所

寄留者 戸主 何

同 某

年月日生

右配偶者妻某子右何年何月何日住所寄留地變更
右住所寄留地變更屆出候也
年月日

何市何區長 何 某殿 何 某◎
右寄留ヲ承諾ス 何市何區何町何番地 承諾者 家主(又ハ家屋管理人) 何 某◎

寄留地變更屆ノ例 (單獨寄留者本籍外居所寄留地ヲ變更シタル場合ノ例ヲ示ス、屆出期間十四日內、令五、二四、二六、二八、三一)
本籍外居所寄留地變更屆 (其一)

本籍地 原寄留居所地 新寄留居所地 寄留者 職業 何 某 年月日生
右配偶者 妻 某 年月日生
右何年何月何日居所寄留地變更
右居所寄留地變更屆出候也
年月日 屆出人 何 某◎

何縣何郡何町長 何 某殿 三七〇
右寄留ヲ承諾ス 何縣何郡何町何番地 承諾者 家主(又ハ家屋管理人) 何 某◎

寄留地變更屆ノ例 (一世帯同時ニ住所外居所寄留地ヲ變更シタル場合ノ例ヲ示ス、屆出期間十四日內、令五、二四、二六、二八、三一)

住所外居所寄留地變更屆 (其二)
本籍地 族稱 寄留居所地 原寄留居所 新寄留居所 寄留者 戶主 職業 何 某 年月日生
同 妻 某 年月日生
同 長男 某 年月日生
同 二男 某 年月日生
右何年何月何日居所寄留地變更
右寄留地變更屆出候也

年月日

屆出人 世帯主 何 某◎
何縣何郡何町長 何 某殿

寄留住所居所變更屆ノ例 (單獨ニシテ且住所ノミチ有スル者ガ其ノ住所ヲ居所ニ變更シタル場合ノ例ヲ示ス、屆出期間十日內、令三五、五、二四、二六、二八)
寄留住所居所變更屆 (其一)
寄留住所地 右何年何月何日寄留住所ヲ居所ニ變更
右寄留住所ヲ居所ニ變更屆出候也
年月日 屆出人 寄留者 何 某◎
何市何區長 何 某殿

寄留住所居所變更屆ノ例 (居所ノミチ有スル者ガ一世帯同時ニ其ノ居所ヲ住所ニ變更スル場合ノ例ヲ示ス、屆出期間十日內、令三五、五、二四、二六、二八)

寄留住所居所變更屆 (其二)

寄留居所地 第一類 民事 寄留 寄留手續令法

寄留者 何 某

右何年何月何日寄留居所ヲ住所ニ變更
右寄留居所ヲ住所ニ變更屆出候也
年月日 屆出人 世帯主 何 某◎
何縣何郡何町長 何 某殿

寄留住所居所變更屆ノ例 (住所及居所ヲ有スル者ガ一世帯同時ニ其ノ住所ヲ居所ニ、居所ヲ住所ニ交互變更スル場合ノ例ヲ示ス、屆出期間十日內、令三五、五、二四、二六、二八)

寄留住所居所變更屆 (其三)

寄留住所地 寄留居所地 寄留者 戶主 何 某
同 妻 某
同 長男 某
同 二男 某
右何年何月何日寄留居所ヲ住所ニ居所ニ變更
右寄留住所居所變更屆出候也
年月日

届出人 世帯主 何

何縣何郡何町長 何 某殿 何

寄留住所居所變更届ノ例 (同上)

寄留住所居所變更届 (其四)

寄留住所地 寄留住所地

寄留者 戸主 何

同 妻 何

同 長男 何

同 二男 何

同 某

右何年何月何日寄留住所ヲ居所ニ居所ヲ住所ニ變更
右寄留住所居所變更届出候也

年月日

届出人 世帯主 何

何市何區區長 何 某殿 何

寄留簿記載事項變更届ノ例 (世帯主及世帯ニ屬スル寄留者)

職業ヲ變更シタル場合世帯主ヨリ届出ノ例ヲ示ス、届出期間十日内、
令三六、五、二四、二六、二八、三一)

寄留簿記載事項變更届

寄留住所地

寄留者 職業 何

同 同 何

同 同 何

同 同 何

何市長 何 某殿

寄留者復歸届ノ例 (一世帯ヲ有スル者ガ同時ニ居所ヨリ住所ニ
復歸スル場合ノ例ヲ示ス、届出期間十日内、令三三、五、二四、二六、
二八)

寄留者復歸届 (其二)

寄留住所地 何市何區何町何番地

寄留者 届主 何 某

同 妻 何 某

同 長男 何 某

同 二男 何 某

右何年何月何日寄留住所ニ復歸

右寄留者復歸届出候也

年月日

届出人 世帯主 何 某

何市何區區長 何 某殿

寄留復歸届ノ例 (一世帯ヲ有スル者ガ同時ニ住所ヨリ本籍ニ復
歸スル場合ノ例ヲ示ス、届出期間十日内、令三三、五、二四、二六、
二八)

寄留者復歸届 (其三)

何縣何郡何町何番地

寄留者 戸主 何 族稱

同 妻 何 某

第一類 民事 寄留 寄留法 寄留手續令

三七二

右何年何月何日某ノ職業官吏ヲ會社員ニ某ノ職業會社
員ヲ無業ニ變更ス

右寄留簿記載事項變更届出候也

年月日

届出人 世帯主 何 某

何市何區區長 何 某殿

(注意) (一)寄留者ガ世帯ニ屬セザルトキ即チ單獨寄留
者ナルトキハ自ラ届出ツベシ(二)變更ヲ生ジタル事項ガ
戸籍ニ記載スベキモノナルトキ、寄留所ノ變更、本籍又
ハ住所ヘノ復歸、寄留地退居、住所居所ノ變更ナルトキ
又ハ行政區劃、土地ノ名稱又ハ地番號ノ變更ナルトキハ
此ノ届出ヲ要セズ

寄留者復歸届ノ例 (單獨ニシテ且本籍外ニ居所ノミチ有スル者
ガ本籍ニ復歸シタル場合ノ例ヲ示ス、届出期間十日内、令三三、五、
二四、二六、二八)

寄留者復歸届 (其一)

本籍地 何市何町何番地

寄留者 何 某

右何年何月何日日本籍ニ復歸

右寄留者復歸届出候也

年月日

届出人 何 某

同 長男 何 某

同 二男 何 某

右何年何月何日日本籍ニ復歸

右寄留復歸届出候也

年月日

届出人 世帯主 何 某

何縣何郡何町長 何 某殿

寄留地退居届ノ例 (即チ寄留者ガ新ニ寄留ノ場所ヲ定メズシテ
住所又ハ居所ノ寄留地ヲ退居シ若ハ朝鮮、臺灣、樺太、關東州又ハ外
國ニ居住スル目的ヲ以テ寄留地ヲ退居シタルトキ豫メ届出ツル例、令
三四、五、二四、二六、二八)

寄留者退居届 (其一)

寄留住所(又
ハ寄留居所) 何市何區何町何番地

寄留者 何 某

右何年何月何日新ニ寄留ノ場所ヲ定メズ(又ハ朝鮮、
臺灣、樺太、關東州若ハ外國ニ居住スル目的ヲ以テ)
寄留地退居

右寄留地退居届出候也

年月日

届出人 何 某

何市何區區長 何 某殿

三七三

寄留退居届ノ例 (即チ寄留者ガ寄留ノ場所ヲ退居シタル後二十日内ニ原寄留地ノ市町村長ヨリ、寄留簿記載ノ通知ヲ受ケザルトキ世帯主、場屋ノ管理者、原寄留地ノ家主又ハ家屋ノ管理人ヨリ爾後十日内ニ原寄留地ニ退居ノ届出ヲ爲ス、市町村長ヨリ通知ナク學校舎監、旅館、下宿屋等ノ管理者ヨリ退居ノ届出ヲ爲ス例ヲ示ス、令二二、三七、五、二六、二八、三一)

寄留者退居届 (其二)

寄留住所(又ハ何市何區何町何番地何々學校ハ寄留住所) 宿舍又ハ旅館何々館

寄留者

何

某

右何年何月何日退居、退居先不明(退居先不明ノ場合)
右何年何月何日何市何區何町何番地何館ニ退居(退居先知レタル場合)

右寄留者退居届出候也

年月日

届出人

何々學校舎監又ハ旅館何々館管理者

何

某

何市何區長

某殿

寄留簿記載例

(寄留手續細則附録)

附録第五號記載例

新ナル寄留

一 何年何月何日寄留何月何日届出

住所外寄留

二 何年何月何日何區何町何番地ヨリ住所外寄留何月何日届出

(居所寄留簿ノ記載)

三 何年何月何日何區何町何番地ニ住所外寄留同月何日届出

(住所寄留簿ノ記載)

寄留地變更

四 何年何月何日何區ヨリ轉寄留何月何日届出

(新寄留地ノ寄留簿ノ記載)

五 何年何月何日何區ニ轉寄留何月何日届出ニ因リ抹消

(原寄留地ノ寄留簿ノ記載)

六 何年何月何日何區何町八番地ニ轉寄留何月何日届出ニ因リ更正(抹消)

(括弧内ノ記載ハ同一用紙ニ寄留者ヲ列記シタル場合ニ限ル)

七 何年何月何日何町何番地ヨリ轉寄留何月何日届出

(新寄留所ノ寄留簿ノ記載)

住所居所ノ變更

八 何年何月何日住所(居所)ヲ居所(住所)ニ變更何月何日届出ニ因リ移記

(住所(居所)寄留簿ノ記載)

第二

催告狀(第二回以後)

何年何月何日附ヲ以テ何月何日迄ニ何々ノ届出ヲ爲スベキ旨及催告候處未ダ其ノ手續無之ニ付來ル何月何日迄ニ右届出可相成更ニ及催告候也

追テ右期間内ニ手續無之ニ於テハ過料ニ處セララルコトアルベキニ付及注意候

年月日

住所(居所)

何市長

氏

名

第三

催告狀(手續令附則末項ノ場合)

寄留簿ノ整理上必要有之候條左記ノ事項ニ付來ル何年何月何日迄ニ届出可相成此段及催告候也

一 何々

一 何々

追テ右期間内ニ手續無之ニ於テハ過料ニ處セララルコトアルベキニ付及注意候

年月日

寄留ノ場所

何市長

氏

名

住所(居所)

何市長

名

氏 名殿

第一類 民事 寄留 寄留法 寄留手續令

國籍法施行規則(大正三年一月一七日)

外國人ノ歸化許可申請書ノ例

歸化許可ノ申請

原國籍 何國何府何街何番
現住所 何市何區何町何番地
申請人 何 某
年月日生

右某國ニ歸化致度候ニ付許可相成度國籍法第七條第二項ニ依リ御許可ニ要スル條件左ニ列舉シ別紙其ノ條件ヲ證スル書面ヲ添附シ此段申請候也

- 一、右何年何月何日某國ニ渡來シ引續キ今日ニ至ルマデ前記ノ場所ニ住所ヲ有シ即チ五年以上某國ニ住所ヲ有スル者ナリ
- 二、何年何月何日生即チ滿二十年以上ニシテ本國法何々ニ依リ能力ヲ有スル者ナリ
- 三、某國ニ渡來後ハ勿論其ノ前ト雖曾テ刑罰ヲ受ケタルコトナク即チ品行端正ナリ
- 四、某國ニ於テ財產何々ヲ有シ即チ獨立ノ生計ヲ營ムニ足ルベキ資産ヲ有スル者ナリ(又ハ右何々ハ何業ニシテ一年收入何程即チ獨立ノ生計ヲ營ムニ足ルベキ技能ヲ有スルモノナリ)

別紙證明書類ヲ添附シ此段申請候也

年月日

右

內務大臣 何 某 殿
(注意)本例ハ戶籍法ノ部ノ國籍喪失者ガ國籍ノ回復許可ヲ申請スル場合ヲ想像ス

國籍回復許可申請書ノ例(自己ノ志望ニ依リ國籍ヲ喪ヒタル者ガ日本ニ住所ヲ有スルトキ、國籍回復ノ許可ヲ申請スル場合ノ例ヲ示ス、法二六)

國籍回復許可ノ申請

原國籍 何國府街何番
現住所 何市何區何町何丁目何番地
申請人 何 某
年月日生

申請人 右某妻

年月日生

右申請人何某ハ自己ノ志望ニ依リ某國ノ國籍ヲ取得シタル爲何年何月何日某國ノ國籍ヲ喪ヒ、同妻某ハ夫某ニ隨ヒ某國ノ國籍ヲ取得シタル爲同日某國ノ國籍ヲ喪ヒタル處右二名共何年何月何日ヨリ前記ノ場所ニ住所ヲ有シ候ニ付國籍回復ノ許可相成度國籍法第二十六條ニ依リ別紙證明書類ヲ添附シ此段

第一類 民事 國籍 國籍ノ離脱ニ關スル件

五、某國ノ國籍ノ取得ニ因リ本國法ニ依リ其ノ國籍ヲ失フベキモノナリ

年月日

右

內務大臣 何 某 殿
(注意)本申請ハ地方廳ヲ經由スベシ
申請人 何 某
年月日生

國籍回復許可ノ申請

(法二〇ノ二、此ノ書式ハ下ノ國籍離脱ニ關スル件中ニ掲グ)

國籍回復許可申請書ノ例(婚姻ニ依リ某國ノ國籍ヲ喪ヒタル者ガ婚姻解消後某國ニ住所ヲ有スルトキ國籍回復ノ許可ヲ申請スル場合ノ例ヲ示ス、法二五)

國籍回復許可ノ申請

原國籍 何國何府何街何番
現住所 何市何區何町何番地
申請人 何 某
年月日生

右申請人ハ某國人何某ト婚姻ヲ爲シタルニ依リ何年何月何日某國ノ國籍ヲ喪ヒタル處夫何某ハ何年何月何日死亡シ婚姻ハ解消シ而シテ右申請人ハ何年何月何日ヨリ前記ノ場所ニ住所ヲ有シ候ニ付國籍ノ回復許可相成度國籍法第二十五條ニ依リ

申請候也

年月日

右

內務大臣 何 某 殿
(注意)本例ハ戶籍法ノ部ノ國籍喪失者ガ國籍ノ回復ヲ申請スル場合ヲ想像ス

國籍ノ離脱ニ關スル件(大正五年七月)

外國ニ於テ生レタルニ因リテ其ノ國ノ國籍ヲ取得シタル日本人ガ其ノ國ニ住所ヲ有スルトキ日本ノ國籍離脱ノ許可ヲ申請スル書面ノ例(國籍法二〇條ノ二、省令八號第一條)

國籍離脱許可ノ申請

原籍 何市何區何町何番地
現住所 何國府街何番
申請人 戶主某何男 何 某
年月日生

右申請人ハ何年何月何日何國某所ニ於テ生マレ而シテ之ニ因リテ何國ノ國籍ヲ取得シ現ニ前記住地ニ住所ヲ有シ候ニ付何國ノ國籍離脱ノ允許相成度國籍法第二十條ノ二及大正五年內

務省令第八號第一條ニ依リ左記事項ヲ具シ別紙書類ヲ添附シ此ノ段申請候也

一 出生以來何國ニ來リタル年度數及毎回ノ滞在期間

何國ニ來リタル年度數 何回

第一回 何年何月何日ヨリ何年何月何日迄 何日間

第二回 何年何月何日ヨリ何年何月何日迄 何日間

一 父母ガ本人ノ出生シタル國ニ居住ヲ初メタル年

何年何月何日

一 本人ト共ニ居住スル親族ノ氏名及其ノ續柄

父 何 某

母 何 某

兄 何 某

添附書類

一 戶籍謄本

一 出生シタル某國官憲何々ノ出生證明書

一 法定代理人何某ノ同意書(本人ガ滿十五年以上ノ未成

者若ハ禁治產者ナルトキ)

一 親族會ノ同意書(繼父、繼母又ハ後見人ガ申請又ハ同意ヲ爲ストキ)

一 陸海軍ノ現役ニ服シタルコト(又ハ之ニ服スル義務ナ

キコトヲ證スルニ足ル文書何々)(本人ガ滿十七年以上ノ

男子ナルトキ)

年月日

右

三七八

內務大臣 何 某殿

何 某殿

(注意)本申請ハ國籍ノ離脱ヲ爲ス者ガ十五年未滿ナルトキハ法定代理人ヨリ爲シ、滿十五年以上ノ未成者又ハ禁治產者ナルトキハ法定代理人ノ同意ヲ得、繼父母、嫡母又ハ後見人ガ爲ストキ又ハ同意ヲ爲スニハ親族會ノ同意ヲ得其ノ國ニ駐在スル何國ノ大使、公使又ハ領事ヲ經ルコトヲ要ス

第二類 商 事

商 號

商號ノ登記ヲ爲シタル者ガ不正ノ競争ノ目的ヲ以テ同一ノ商號ヲ使用スル者ニ對シ其ノ使用ヲ止ムベキコトヲ請求スル書面ノ例(市町村若ハ營業ヲ異ニスル場合ノ例ヲ示ス)(商二〇)

同一(又ハ類似)ノ商號使用廢止請求書(其一)

何府縣何郡市町村番地ニ於テ何々業ノ爲貴下ガ使用セラルル商號何々ハ拙者ガ何府縣何郡市町村番地ニ於テ何々營業ニ使用スル爲何年何月何日何々登記所ニ於テ登記ヲ受ケタル商號ニ有之(又ハ商號ト類似ノ商號ニ有之)然ルニ貴下ガ之ヲ使用セラルルハ假令市町村ヲ異ニスルモ(又ハ營業ヲ異ニスルモ)全ク不正ノ競争ノ目的ニ出デタルモノト信ズベキ證據有之而シテ不正ノ競争ノ目的ヲ以テ同一(又ハ類似)ノ商號ヲ使用スル者ニ對シテハ假令市町村ヲ異ニスルト又ハ營業ヲ異ニスルトヲ問ハズ商法第二十條第一項ニ依リ之ガ使用ヲ止ムベキコトノ請求ヲ爲シ得ベキヲ以テ以後右商號ノ使用ヲ止メラレ度此段及請求候也

追テ若シ此ノ請求ニ應ゼズ猶右商號ヲ使用セラルルニ於テハ裁判上右ノ請求可致且損害ノ賠償ヲモ併セテ請求致可此

第二類 商事 商法及附屬法規 商號

段爲念申添候也

年月日

住 所

何

某殿

何 某殿

同上(市町村及營業ヲ同フスル場合ノ例ヲ示ス)(商二〇、二項)

同一商號使用廢止請求書(其二)

何市町村何番地ニ於テ何々業ノ爲貴下ガ使用セラルル商號何々ハ拙者ガ同市町村何番地ニ於テ同一營業ニ使用スル爲何年何月何日何々登記所ニ於テ登記ヲ受ケタル商號ニ有之然ルニ貴下ガ同市町村内ニ於テ殊ニ同一營業ノ爲ニ之ヲ使用セラルルハ商法第二十條第二項ニ依リ不正ノ競争ノ目的ヲ以テ之ヲ使用スルモノト推定スベク而シテ不正ノ競争ノ目的ヲ以テ同一ノ商號ヲ使用スル者ニ對シテハ右商法第二十條第二項ニ依リ之ガ使用ヲ止ムベキコトノ請求ヲ爲シ得ベキヲ以テ以後右商號ノ使用ヲ止メラレ度此段及請求候也

追テ若シ此ノ請求ニ應ゼズ猶右商號ヲ使用セラルルニ於テハ裁判上其ノ使用禁止ノ請求可致且損害賠償ノ請求ヲモ可致候此段爲念申添候也

年月日

住 所

何

某殿

何 某殿

三七九

商號ノ登記ヲ爲シタル者ガ不正ノ競争ノ目的ヲ以テ
同一(又ハ類似)ノ商號ヲ使用スル者ニ對シ其ノ使用
ヲ止ムベキコトヲ裁判所ニ請求スル訴狀ノ例(市町村
又ハ營業ヲ異ニスル場合ノ例ヲ示ス、(正副各一))

同一(又ハ類似)商號使用廢止請求ノ訴(其一)

住所 族稱 職業 何 某
原告 何 某
住所 族稱 職業 何 某
被告 何 某

訴ノ目的

被告ニ對シ何々ト稱スル商號ヲ使用禁止ヲ求ムルコト

此ノ訴訟物ノ價額金何圓也(改民訟二二、二項參照)

請求ノ原因

原告ハ何府縣何郡市町村番地ニ於テ營業ム原告ノ營業何々ニ付
何年何月何日何區裁判所何出張所ニ於テ何々ト稱スル商號ノ
登記ヲ爲シ爾來之ヲ使用シ來レリ然ルニ被告ハ其ノ後何年何
月何日ヨリ何府縣何郡市町村番地ニ於テ何々營業ノ爲ニ原告
ノ商號ト同一ナル何々ト唱フル商號ヲ使用セリ是レ假令營業
所ニ於テ其ノ市町村ヲ異ニシ若ハ營業ニ於テ相同ジカラズト
スルモ被告ガ原告ト同一商號ヲ使用スルトキハ何々ノ理由ニ
因リテ原告ノ營業ニ非常ノ影響ヲ及ボスモノニシテ結局被告
ガ右商號ヲ使用スルハ全ク不正ノ競争ノ目的ニ出デタルモノ

右商號ノ使用ニ因リテ原告ニ生ゼシメタル損害金何圓ノ賠償

請求ノ原因

原告ハ何府縣何郡市町村番地ニ於テ營業ム原告ノ營業何々ニ付
何年何月何日何區裁判所何出張所ニ於テ何々ト稱スル商號ノ
登記ヲ爲シ爾來之ヲ使用シ來レリ然ルニ被告ハ其ノ後何年何
月何日頃ヨリ原告ノ營業所ト同市町村ナル何郡市町村番地ニ
於テ原告ト同一營業ナル何々營業ニ付故ラニ右原告使用ノ商
號ト同一ナル何々ト稱スル商號ヲ使用セリ想フニ被告ニシテ
單ニ良好ナル商號ヲ選用セントセバ必ズ原告ト同一商號ナル
コトヲ要セズ他ニ數多之アルニ拘ラズ故ラニ同一商號ヲ選定
シ殊ニ市町村ヲ同フシ又其ノ營業ヲ同フスルニ更ニ原告ト同
一ノ商號ヲ附スルハ全ク不正ノ競争ノ目的ニ出デタルモノナ
ルコト明ナルノミナラズ商法第二十條第二項ニ依レバ同市町
村内ニ於テ同一ノ營業ノ爲ニ他人ノ登記シタル商號ヲ使用ス
ル者ハ不正ノ競争ノ目的ヲ以テ之ヲ使用スルモノト推定スト
アルヲ以テ被告ハ當然不正競争ノ目的ニ出デタルモノト推定
セラルベク依テ原告ハ被告ニ對シ右商號ノ使用ヲ止ムベキコ
トヲ數次請求シタルモノニ應ゼザルノミナラズ被告ガ右商號
ヲ使用シタル爲原告ニ於テ何々ノ損害ヲ生ジタルヲ以テ之ヲ
賠償スベキコトヲ請求シタルモノ是亦應ゼザルニ依リ茲ニ右商
號ノ使用ヲ止ムベキコト及其ノ使用ニ因リテ生ジタル損害ノ
賠償ヲ請求スル爲本訴ヲ提起シタル次第ナリ

ナリ依テ被告ニ對シ右商號ノ使用ヲ止ムベキコトヲ數次請求
シタルモ被告ハ之ニ應ゼザルニ付商法第二十條ニ依リ被告ニ
對シ右商號ノ使用禁止ヲ請求スル爲茲ニ本訴ヲ提起シノリ

請求ノ趣旨

被告ハ原告ノ商號ト同一ナル何々ト稱セル商號ヲ使用スベカ
ラズ、訴訟費用ハ被告ノ負擔トストノ判決相成度候也

證據方法及附屬書類ノ表示

- 一 商號登記簿謄本
- 一 被告ガ原告ト同一商號ヲ使用スルコトノ證明書 壹通

年月日 原告 何 某
何地方裁判所監督判事 何 某殿

同上(同市町村ニ於テ同一營業ニ付同一商號ヲ使用シタル場合ノ例
ヲ示ス、(正副各一))

同一(又ハ類似)商號使用廢止及損害賠償
請求ノ訴(其二)

住所 族稱 職業 何 某
原告 何 某
住所 族稱 職業 何 某
被告 何 某

訴ノ目的

被告ガ何々ト稱スル商號ヲ使用スルヲ止ムベキコト及被告ガ

請求ノ趣旨

被告ハ原告ノ商號ト同一ナル何々ト稱スル商號ヲ使用ヲ廢止
スベシ且其ノ使用ニ因リテ生ジタル損害金何圓ヲ原告ニ賠償
スベシ、訴訟費用ハ被告ノ負擔トストノ判決相成度候也

證據方法及附屬書類ノ表示

- 一 商號登記簿謄本 壹通
- 一 被告ガ原告ト同一商號ヲ使用スルコトノ證明書 壹通
- 一 右商號ノ使用ニ因リテ生ジタル損害ノ證明何々 壹通

年月日 原告 何 某
何地方裁判所長判事 何 某殿

(注意)一、本號訴狀ニ於テ損害賠償ノ代ハリニ謝罪廣告
ヲ請求スル場合ニハ其ノ請求ノ趣旨ヲ左ノ如クスベシ

請求ノ趣旨

被告ハ何々ナル商號ノ使用ヲ廢止スベシ
被告ハ東京市ニ於テ發行スル報知及日ノ二新聞紙上ニ
名義ハ二號本文ハ三號ノ各活字ヲ以テ引續キ二回左記ノ
謝罪廣告ヲ爲スベシ

謝罪廣告

拙者儀東京市ニ於テ昭和何年何月何日以降貴殿ノ商號
ト同一ナル何々ト稱スル商號ヲ以テ貴店ノ商品ト同種
ノ商品ヲ販賣シ貴殿ノ信用ヲ毀損シタル段誠ニ申譯無

之候就テハ右商號ヲ廢止シ決シテ使用致間敷爰ニ謝罪仕候也

訴訟費用ハ被告ノ負擔トストノ判決相成度候也
二、營業禁止ノ請求ヲ爲ス場合ニハ其ノ請求趣旨ハ左ノ如クスベシ

請求ノ趣旨

被告ハ何々市ニ於テ昭和何年何月何日ヨリ向フ貳拾个年間原告ト同一營業ナル何々ノ販賣業ヲ爲スベカラズ、訴訟費用ハ被告ノ負擔トストノ判決相成度候也

三、營業ノ廢業届ノ請求ヲ爲ス場合例ヘバ原告ガ待合業ノ讓受人ニシテ讓渡人ガ廢業届ヲ爲サザル間ハ同一場所ニ於テ營業許可ヲ得ル能ハザル等ノ事例ヲ假想シテ讓渡人ヲ被告トシテ提起スル訴狀ノ場合ニ其ノ請求ノ趣旨ハ左ノ如クスベシ

請求ノ趣旨

被告ハ何市何區何町何番地ニ於テ「雪ノ家」ナル家號ヲ以テ經營スル待合業ニ付何地警察署ニ對シ何年何月何日ニ之ガ廢業ヲ爲シタル旨ノ届出ヲ爲スベシ、訴訟費用ハ被告ノ負擔トストノ決相成度候也

商號讓渡契約書ノ例 (單ニ商號ノミ讓渡シタル場合ノ例ヲ示ス商二)

商號讓渡契約書

三八二

住 所 讓渡人 何 某
住 所 讓受人 何 某

右當事者間ニ於テ何商號讓渡ニ關シ左ノ契約ヲ締結ス

第一條 讓渡人何某ハ其ノ使用ニ係ル何年何月何日何區裁判所何出張所何市何區商號登記簿第何號ニ登記セル商號何々ヲ代金何圓ヲ以テ讓受人何某ニ讓渡シ讓受人何某ハ之ヲ讓受ケタリ

第二條 前條ノ代金ハ此ノ契約締結ト共ニ讓受人ヨリ直ニ讓渡人ニ支拂ヒ讓渡人ハ直ニ之ヲ收受セリ

第三條 讓渡人ハ第一條ノ讓渡ニ付同一市町村內ニ於テ同一營業ノ爲右讓渡ニ係ル商號ト同一若ハ類似ノ商號ヲ登記若ハ使用セズ其他如何ナル場合ニ於テモ不正ノ競争ノ目的ヲ以テ同一又ハ類似ノ商號ヲ登記若ハ使用セザルコトヲ約セリ

右契約ヲ證スル爲此ノ證書ヲ作り各署名捺印シ各其ノ一本ヲ保存ス

年 月 日 右 何 何 某 某
何 何 某 某

同上在來書式ノ例ヲ示ス

商號讓渡證書

何市何區商號登記簿第何號登記

一 商號 何々

此ノ讓渡代金何圓也

右商號ハ拙者ニ於テ何々營業ノ爲何年何月何日何區裁判所ニ於テ登記ヲ受ケ使用致シ來リタルモノナル處今般前記代金ヲ以テ貴下ニ讓渡シ代金正ニ受取候事確實也就テハ今後拙者ニ於テ同一市町村內ニ於テ同一營業ノ爲右商號ト同一又ハ類似ノ商號ヲ登記又ハ使用不致ハ勿論其ノ他如何ナル場合ニ於テモ不正ノ競争ノ目的ヲ以テ同一又ハ類似ノ商號ハ誓テ登記又ハ使用致中間敷依テ讓渡證書差入置候也

年 月 日 住 所 讓渡人 何 某
住 所 讓受人 何 某

營業讓渡契約書ノ例 (單ニ營業ノミ讓渡シタル場合ノ例ヲ示ス商二三、二二)

營業讓渡契約書

住 所 讓渡人 何 某
住 所 讓受人 何 某

第二類 商事 商法及附屬法規 商號

住 所 讓受人 何 某

右當事者間ニ於テ營業讓渡ニ關シ左ノ契約ヲ締結ス

第一條 讓渡人何某ハ何府縣何郡市町村番地ニ於テ營ム何々營業ヲ代金何圓ヲ以テ讓受人何某ニ讓渡シ讓受人何某ハ之ヲ讓受ケタリ

第二條 讓渡人ハ前條ノ讓渡ニ付同府縣內ニ於テ參拾年間同一ノ營業ヲ爲サザルベキコト及其ノ他如何ナル場合ニ於テモ不正ノ競争ノ目的ヲ以テ同一ノ營業ヲ爲サザルベキコトヲ特約セリ

第三條 第一條ノ代金ハ此ノ契約締結ト共ニ讓受人ヨリ直ニ讓渡人ニ支拂ヒ讓渡人ハ之ヲ收受セリ

右契約ヲ證スル爲此ノ證書ヲ作り各署名捺印シ各其ノ一本ヲ保存ス

年 月 日 右 何 何 某 某
何 何 某 某

三八三

商業使用人

支配人選任契約書ノ例(商二九、營業使用人ノ選任ニ付テハ從來多クハ使用人ヨリ證書ヲ差入ルルノ例ニシテ其ノ事項ノ如キモ亦一定シ難シト雖試ニ契約書トシテ其ノ概要ヲ示ス、其ノ事項ノ如キハ場合ニ依リ宜キニ從テ規定スベシ)

支配人選任契約書

住所 職業 本人 何 某(甲)
住所 職業 支配人 何 某(乙)

右當事者間ニ於テ支配人ノ選任ニ關シ左ノ契約ヲ締結ス

第一條 右主人何某(甲)ハ其ノ本店ニ於テ何業ヲ營マシムル爲右何某(乙)ヲ其ノ支配人ニ選任シ何某(乙)ハ之ヲ承諾セリ

第二條 主人何某(甲)ハ支配人何某(乙)ニ俸給トシテ壹ヶ月金何圓ヲ毎月末日ニ於テ之ヲ給ス

第三條 主人何某(甲)ハ支配人何某(乙)ニ前條俸給ノ外純益即チ營業上ノ收入ヨリ一切ノ費用ヲ控除シタル殘額ニ付左ノ割合ヲ以テ配當金ヲ給ス

- 一、純益何圓ヨリ何圓マデハ其ノ何分ノ若干
二、同何圓ヨリ何圓マデハ其ノ何分ノ若干

三、同何圓ヨリ何圓マデハ其ノ何分ノ若干

四、同何圓ヲ超ユルトキハ何圓ヲ超ユル毎ニ若干ヲ加フ前項ノ配當金ハ毎決算期決算済ノ上之ヲ給ス

第四條 支配人ハ主人ノ指揮ニ從ヒ誠實勤勉ヲ旨トシ主人ノ營業一切ニ付其ノ事務ニ從事ス

第五條 支配人ハ主人ニ代ハリ其ノ營業ニ關スル一切ノ裁判上又ハ裁判外ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有シ及番頭手代其ノ他ノ使用人ヲ選任又ハ解任スル權限ヲ有ス但シ左ノ場合ニ於テハ主人ノ許諾ヲ得ルコトヲ要ス

- 一、營業上重要ナル事項
二、主人ニ利害關係ノ重大ナル事項
三、何々

第六條 支配人ハ正當ノ事由アル場合ノ外主人ノ許諾アルニ非ザレバ其ノ業ヲ廢スルコトヲ得ズ

第七條 支配人ハ營業上ノ費用及營業所ニ出勤中ノ食費ヲ除クノ外其ノ食料、住居、衣服、疾病其ノ他一切ノ費用ヲ自ラ負擔ス

第八條 支配人ニ於テ此ノ契約ニ違反シ又ハ品行不良其ノ他不正ノ行爲アルトキハ主人ハ何時ニテモ之ヲ解雇スルコトヲ得

第九條 各當事者ハ正當ノ事由アルトキハ何時ニテモ解約ヲ爲スコトヲ得

右契約ヲ證スル爲此ノ證書ヲ作り各署名捺印シ各其ノ一本ヲ保存ス

年月日

右 何 何 某(甲) 某(乙)

商業使用人雇傭契約書

(商三〇、三三、三五此ノ書式ハ前號及第一類民法雇傭ノ書式ニ準ジ作ルベシ)

代理商

代理商契約書ノ例(商三六以下)

代理商契約書

住所 本人 何 某(甲)
住所 本人 代理商 何 某(乙)

右當事者間ニ於テ代理商ニ關シ左ノ契約ヲ締結ス

第一條 右本人何某(甲)ハ何某(乙)ニ何年何月何日ヨリ何年何月何日マデ代理商トシテ甲ノ營業タル西陣織物ノ販賣ヲ爲スコトヲ委任シ(乙)ハ之ヲ承諾セリ

前項ノ期間ハ之ヲ更新スルコトヲ得

第二條 此ノ契約ニ依リ本人何某(甲)ヨリ代理商何某(乙)ニ販賣ヲ委託スベキ織物ノ種類及壹年間ノ數量ハ左ノ如シ

- 一、何々 何百反以上何百反マデ
二、何々 何百反以上何百反マデ

第三條 本人何某(甲)ハ前條ニ掲ゲタル織物ヲ其ノ必要ト認ムルトキ(又ハ何々ノトキ)ニ於テ代理商何某(乙)ニ送付スベシ

第四條 本人何某(甲)ハ前條ノ送付ヲ爲スベキ代理商何某(乙)ニ對シ其ノ送付シタル織物ヲ販賣スベキ代價ヲ指示スベシ

第五條 代理商何某(乙)ハ本人何某(甲)ヨリ送付ヲ受ケタル織物ヲ其ノ指定セル代價ヲ以テ速ニ販賣スベシ

第六條 代理商何某(乙)ハ其ノ委託ヲ受ケタル織物ノ販賣方法ニ付テハ總テ自己ノ意思ヲ以テ之ヲ決定スルノ權ヲ有ス

第七條 代理商何某(乙)ハ委託ヲ受ケタル織物ヲ販賣シタルトキハ遲滞ナク之ヲ本人何某(甲)ニ通知スベシ

第八條 代理商何某(乙)ハ毎月末日ニ於テ販賣ヲ爲シタル織物ノ代金ヲ本人何某(甲)ニ支拂フベシ

第九條 代理商何某(乙)ハ織物ノ販賣ニ關スル一切ノ費用ヲ負擔ス

第十條 本人何某(甲)ハ其ノ委託ニ因リ代理商何某(乙)ガ販賣シタル織物ニ付左ノ區別ニ依リ何某(乙)ニ對シ報酬ヲ給ス

- 一、何々何反ニ付 金何圓
- 二、何々何反ニ付 金何圓

第十一條 前條ノ報酬ハ毎月末日ニ於テ本人何某(甲)ヨリ代理商何某(乙)ニ支拂フベシ但シ本人何某(甲)ハ代理商何某(乙)ガ第八條ニ依リ織物ノ代金ヲ支拂フトキニ於テ其ノ金額ニ充ツルマデ之ト相殺スルコトヲ得又代理商何某(乙)ガ代金ノ支拂ヲ爲サザルトキハ本人何某(甲)ハ其ノ支拂ヲ爲スニ至ルマデ報酬ノ支拂ヲ爲サザルコトヲ得

第十二條 代理商何某(乙)ノ管理セル場所ニ現存セザル織物ハ代金及報酬ノ支拂ニ付既ニ販賣シタルモノト看做ス

第十三條 代理商何某(乙)ハ此ノ契約ニ從ヒ善良ナル管理者ノ注意ヲ以テ委託事務ヲ處理スル義務ヲ負ヒ且織物ヲ保管スベキ場合ニ於テハ自己ノ財産ニ於ケルト同一ノ注意ヲ爲ス責ニ任ズ

第十四條 代理商何某(乙)ハ本人何某(甲)ノ許諾ヲ受クルニ非ザレバ自己又ハ第三者ノ爲ニ本人何某(甲)ノ營業ノ部類ニ屬スル商行爲ヲ爲シ又ハ同種ノ營業ヲ目的トスル會社ノ

無限責任社員ト爲ルコトヲ得ズ(此ノ規定ハ商法第三十八條ニ規定セルヲ以テ之ヲ揭ゲザルモ可ナリ)

右契約ヲ證スル爲此ノ證書ヲ作り各署名捺印シ各其ノ一本ヲ保存ス

年月日 右

(注意) 此ノ他委託物ノ返還契約ノ解除等宜キニ從テ定ムベク猶商法代理商及民法委任ノ規定ヲ參看スベシ

代理商ガ商行爲ノ代理又ハ媒介ヲ爲シタルトキ本人ニ發スベキ通知書ノ例(商三七)

商行爲代理通知書 (其一)

何年月何日ノ代理商契約ニ依リ左ノ通り代理行爲致候

- 一 代理行爲ノ日 何年月何日
- 一 代理行爲ノ目的 何々
- 一 代理行爲ノ施行 何々(取扱ヲ記載ス)
- 一 代理行爲ノ相手方 何府縣何郡市町村番地 何某

右商法第三十七條(又ハ代理商契約第何條)ニ依リ及御通知候也

年月日

住所	代理商	何	某
本人	何	某	殿

同上(委託販賣ノ場合ニ於ケル例ヲ示ス)

商行爲代理通知書 (其二)

何年月何日ノ織物委託販賣契約ニ依リ何年月何日左ノ通り販賣致候

- 一、何々縞 何拾反 金何圓替
- 此ノ代金何圓
- 一、何々縞 何拾反 金何圓替
- 此ノ代金何圓

合計 織物何拾反 代金何圓

右何府縣何郡市町村番地何某ニ販賣

右織物何拾反中何々何反ハ本日引渡濟殘リ何反ハ何年月何日引渡ノ約

代金何圓中金何圓ハ本日受取濟殘リ金何圓ハ何年月何日受取ノ約

右商法第三十七條(又ハ織物委託販賣契約書第何條)ニ依リ及御通知候也

第二類 商事 商法及附屬法規 代理商

年月日	住所	代理商	何	某
	職業	何	某	殿
	本人	何	某	殿

代理商ガ自己又ハ第三者ノ爲本人ノ營業ノ部類ニ屬スル商行爲ヲ爲シ又ハ同種ノ營業ヲ目的トスル會社ノ無限責任社員ト爲ルコトニ付テノ本人ノ許諾書ノ例(商三八)

代理商ノ商行爲ニ關スル許諾書

何年月何日ノ商行爲代理契約(又ハ物品委託販賣契約)ニ依リ拙者ノ爲代理商トシテ商行爲ノ代理(又ハ媒介)中貴下ニ於テ貴下又ハ第三者ノ爲ニ拙者ノ營業ノ部類ニ屬スル商行爲ヲ爲シ又ハ同種ノ營業ヲ目的トスル會社ノ無限責任社員ト爲ルコトヲ許諾致候也

年月日	住所	本人	何	某
	職業	何	某	殿
	代理商	何	某	殿

代理商契約ニ付當事者ガ期間ヲ定メザリシトキ二個

月前ニ豫告ヲ爲シテ其ノ契約ノ解除ヲ爲ス豫告書ノ例 (此ノ豫告ハ當事者ノ執レヨリモ爲スコトヲ得、商四〇、次號ノ書式參看)

代理商契約解除豫告書

何年何月何日貴下ト代理商契約(又ハ物品委託販賣契約)致候處右契約ニ付テハ其ノ期間ヲ定メズ而シテ拙者ニ於テハ今般右契約ヲ解除スルノ必要有之ニ付商法第四十條第一項ノ規定ニ依リ該契約ヲ解除致度即チ茲ニ同規定ニ依リ右解除ノ豫告致候也

年月日

住 所

本人(又ハ代理商) 何 某〇

住 所

代理商(又ハ本人) 何 某殿

前號豫告ヲ爲シタル後契約ノ解除ヲ通知スル書面ノ例 (商四〇、民五四〇、前號ノ書式參看)

代理商契約解除通知書 (其一)

何年何月何日貴下ト締結致候代理商契約(又ハ物品委託販賣契約)ハ解除致度旨二个月前タル何年何月何日ニ於テ商法第四十條第一項ノ規定ニ依リ豫告致候處今日ニ於テハ右豫告ヨリ既ニ二个月ヲ経過致候ニ付右何年何月何日ノ代理商契約

ハ解除致候此段及御通知候也

三三八

年月日

住 所

本人(又ハ代理商) 何 某〇

住 所

代理商(又ハ本人) 何 某殿

代理商契約ニ付期間ヲ定メタルト否ヲ問ハズ已ムコトヲ得ザル事由アルトキ契約ノ解除ヲ爲ス通知書ノ例 (此ノ解除ハ當事者ノ執レヨリモ爲スコトヲ得、商四〇)

代理商契約解除通知書 (其二)

何年何月何日貴下ト代理商契約(又ハ物品委託販賣契約)致候處先般來拙者何々ノ病氣ニ罹リ醫師ノ勸告ニ依リ其ノ義務ヲ全ク廢止セザル可カラザルニ至リ(又ハ何々ノ事由ニ因リ)到底契約ノ履行ヲ爲スコト能ハズ右ハ商法第四十條ノ已ムコトヲ得ザル事由ナルニ因リ茲ニ商法同條ノ規定ニ依リ右何年何月何日ノ代理商契約(又ハ物品委託販賣契約)ハ解除致候民法第五百四十條ニ依リ此段及御通知候也

年月日

住 所

本人(又ハ代理商) 何 某〇

住 所

代理商(又ハ本人) 何 某殿

會 社

合名會社

〇設立(定款)

合名會社定款ノ例 (商四九、五〇)

合名會社定款 (其一)

(會社ノ定款ヲ立案スルニ二法アリ一ハ商法ニ規定セル事項ハ一切定款ニ掲ゲズ之ヲ商法ニ委ヌルモノニシテ二ハ商法ニ規定セル事項ト雖猶一々之ヲ定款ニ掲グルモノ是ナリ、前者ハ最モ法律のニシテ當ヲ得タルモノナリト雖商法ノ規定ヲ熟知セザル者ニ於テハ商法ノ規定ト對照スルニ非ザレバ明瞭ニ會得セラレザルコトアリ後者ハ商法ニ對照スルノ煩ナシト雖商法ニ規定セル事項ヲ一々定款ニ掲ゲ無用ノ規定ヲ重ネテ定款ノ條項ヲ多カラシムルノ弊アリ、二者一得一失アリト雖前者ハ固ヨリ法律のナルガ故ニ先ヅ之ヲ本號ニ掲ゲ次號ニ於テ後者ノ例ヲ示スベシ本號ニ示スモノハ其ノ規定ノ順序モ專ラ商法ノ規定ニ倣ヘリ)

何々合名會社定款

第一章 總 則

第一條 本社ハ次章ニ規定スル目的ノ爲ニ設立スル合名會社トス

第二類 商事 商法及附屬法規 會社

第二章 目的

第二條 本社ハ何々ノ業ヲ營ムコトヲ目的トス

第三章 名稱

第三條 本社ノ商號ヲ何々合名會社(又ハ合名會社何々)ト稱ス

第四章

本店及支店ノ所在地

第四條 本社ノ本店ヲ何府縣何郡市町村ニ置キ支店ヲ何府縣何郡市町村ニ置ク

(注意) 以上四章ノ分類ハ商法第五十條ノ規定ニ從ヒタルモノナルモ四箇條ヲ一章中ニ規定シ次號書式ノ如ク第一章總則トスルモ可ナリ第四章ノ本店及支店ノ所在地ト謂フハ番地ニ非ズシテ市町村ヲ謂フモノナレドモ番地マデ定ムルモ妨ゲナシ

第五章 社員及出資

第五條 社員ノ氏名、住所及其ノ出資ノ種類、價格、評價ノ標準左ノ如シ

一金何圓	何府縣何郡市町村番地	何	某
一何金圓	何府縣何郡市町村番地	何	某
何府縣何郡市町村番地			
一宅地何百坪	何府縣何郡市町村番地	何	某
此ノ價格金何圓			
一勞務	何府縣何郡市町村番地	何	某

三八九

但シ社員タル間會社ノ何々ヲ爲スコト
此ノ評價ノ標準一ヶ月金何圓

一信用 何府縣何郡市町村番地 何 某
但シ右何某方社員タルコトノ信用
此ノ標價ノ標準一ヶ月金何圓

(注意) 此ノ他出資ノ拂込時期、方法、拂込ヲ怠リタル場
合ニ於ケル利息ノ支拂、損害ノ賠償等ニ付特ニ定ムルモ
ノアルトキハ本條ニ次キ規定スベシ猶本條ニ付テハ第一
類民事ノ部民法組合契約書第五條ヲ參看スベシ

第六條 本社ノ業務ハ業務執行社員之ヲ執行ス
第七條 業務執行社員ハ何名トシ總社員ノ同意ヲ以テ社員中
ヨリ之ヲ選任ス(又ハ社員何某ヲ以テ業務執行社員トス)

第八條 業務執行社員ノ任期ハ何年トス但シ任期滿了ノ後再
選スルコトヲ妨グズ
第九條 業務執行社員ノ報酬ハ社員ノ過半數ヲ以テ別ニ之ヲ
定ム

第十條 業務執行社員ハ會社ヲ代表ス(又ハ共同シテ會社ヲ
代表ス)
第七章 計算
第十一條 營業年度ハ毎年何月何日ニ始リ何年何月何日ニ終
ル

第十二條 業務執行社員ハ營業年度ノ終リニ於テ計算ヲ爲シ
但シ社員タル間會社ノ何々ヲ爲スコト
此ノ評價ノ標準一ヶ月金何圓

左ニ掲グル書類ヲ社員ニ提出シテ其ノ承認ヲ求ムルコトヲ
要ス

- 一 財産目錄
- 二 貸借對照表
- 三 營業報告書
- 四 損益計算書
- 五 利益ノ配當ニ關スル議案

第十三條 業務執行社員ハ前條ノ時期外ト雖會社ノ業務又ハ
財産ニ關スル重要ナル事項ハ之ヲ社員ニ報告スルコトヲ要
ス

第十四條 各社員ノ損益分配ノ割合ハ第五條ニ掲ゲタル出資
額ニ依ル

第八章 社員ノ退社

第十五條 社員ハ商法第六十九條第二號乃至第六號ニ掲ゲタ
ル事由ノ外左ノ事由ニ因リテ退社ス
一 何々
二 何々

第十六條 勞務又ハ信用ヲ以テ出資ノ目的ト爲シタル社員ハ
退社ノ場合ニ於テ其ノ拂戻ヲ受クルコトヲ得ズ
(注意) 此ノ規定ハ商法ト反對ノ規定ヲ示ス商法第七十一
條ト同趣旨ナルトキハ特ニ此ノ規定ヲ要セズ

第九章 解散

何々合名會社定款

第一章 總則

第一條 本社ハ次條ニ規定スル目的ノ爲ニ設立スル合名會社
トス

第二條 本社ハ何々ノ業ヲ營ムコトヲ目的トス

第三條 本社ノ商號ヲ何々合名會社(又ハ合名會社何々)ト
稱ス

第四條 本社ノ本店及支店ノ所在地左ノ如シ
一 本店 何府縣何郡市町村
二 支店 何府縣何郡市町村

(注意) 以上四箇條ヲ各章ニ區分スルコト前號書式ノ如ク
スルモ可ナリ前號ノ書式及注意參看

第二章 社員及出資

第五條 社員ノ氏名、住所、出資ノ種類、價格、評價ノ標準
左ノ如シ
一金何圓 何府縣何郡市町村番地 何 某(甲)
一金何圓 何府縣何郡市町村番地 何 某(乙)
一何々(機械、器具、商品何々等)
此ノ價格金何圓

何府縣何郡市町村番地 何 某(丙)
一債權金何圓但シ何某(丁)方債務者何某ニ對スル何々債
權、辨濟期何年何月何日

合名會社定款ノ例(商四九、五〇、商法ニ規定シタル事項ナモ
定款中ニ掲ケタルモノヲ示ス、前號書式首頭ノ說明參看)

合名會社定款 (其二)

第二類 商事 商法及附屬法規 會社

Table with 2 columns: 年月日 and 何. Rows contain placeholder names like 某甲, 某乙, 某甲, 某乙, 某甲, 某乙.

此ノ價格金何圓

何府縣何郡市町村番地 何 某(丁)

一 勞務但シ社員タル間會社ノ何々ヲ爲スコト
此ノ評價ノ標準一個月金何圓

何府縣何郡市町村番地 何 某(戊)

一 信用但シ何某社員タルコトノ信用
此ノ評價ノ標準一今年金何圓

何府縣何郡市町村番地 何 某(己)

第六條 金錢ヲ以テ出資ノ目的ト爲シタル者ハ定款作成ノ日ヨリ何日ノ期間内ニ其ノ拂込ヲ爲スコトヲ要ス

何々(機械、器具、商品其ノ他何々)ヲ以テ出資ノ目的ト爲シタル者ハ定款作成ノ日ヨリ何日ノ期間内ニ其ノ引渡ヲ爲スコトヲ要ス

勞務ヲ以テ出資ノ目的ト爲シタル者ハ定款作成ノ日ヨリ何日ノ期間内ニ其ノ勞務ニ著手スルコトヲ要ス

(注意) 出資ノ時期ハ各便宜ニ依リ定ムベシ茲ニハ其ノ一例ヲ示ス

第七條 金錢ヲ以テ出資ノ目的ト爲シタル場合ニ於テ社員ガ其ノ出資ヲ爲スコトヲ怠リタルトキハ其ノ利息ヲ拂フ外猶損害ノ賠償ヲ爲スコトヲ要ス(民法第六六九條參看)
何々(機械、器具、商品何々)等ヲ以テ出資ノ目的ト爲シタル場合ニ於テ其ノ出資ヲ爲スコトヲ怠リタルトキハ第五

條ニ規定セル其ノ價格ニ對スル利息ヲ拂フ外猶損害ノ賠償ヲ爲スコトヲ要ス

債權ヲ以テ出資ノ目的ト爲シタル場合ニ於テ債務者ガ辨濟期ニ辨濟ヲ爲サザルトキハ社員ハ其ノ辨濟ノ責ニ任ズ此ノ場合ニ於テハ其ノ利息ヲ拂フ外猶損害ノ賠償ヲ爲スコトヲ要ス(商法第五五條參看)

勞務ヲ以テ出資ノ目的ト爲シタル場合ニ於テ其ノ出資ヲ爲スコトヲ怠リタルトキハ第五條ニ規定セル其ノ評價ノ標準ヲ以テ會社ノ存立期間ニ應ジテ清算シタル金額ニ對シ出資ヲ怠リタル日數ニ從ヒテ利息ヲ拂ヒ猶損害ノ賠償ヲ爲スコトヲ要ス

(注意) 出資ノ履行ニ付テモ猶實際ノ便宜ニ依リ規定スベシ茲ニハ單ニ其ノ一例ヲ示ス

第八條 社員ハ他ノ社員ノ承諾ヲ得ズシテ其ノ持分ノ全部又ハ一部ヲ他人ニ讓渡スコトヲ得ズ之ニ反シタル行爲ハ之ヲ以テ會社ニ對抗スルコトヲ得ズ(商法第五九條參看)

第九條 社員ハ他ノ社員ノ承諾アルニ非ザレバ自己又ハ第三者ノ爲ニ會社ノ營業ノ部類ニ屬スル商行ヲ爲シ又ハ同種ノ營業ヲ目的トスル他ノ會社ノ無限責任社員ト爲ルコトヲ得ズ

社員ガ前項ノ規定ニ反シテ自己ノ爲ニ商行ヲ爲シタルトキハ他ノ社員ハ過半数ノ決議ニ依リ之ヲ以テ會社ノ爲ニ爲

シタルモノト看做スコトヲ得(同第六〇條參看)

第十條 會社財産ヲ以テ會社ノ債務ヲ完済スルコト能ハザルトキハ各社員連帶シテ其ノ辨濟ノ責ニ任ズ(同第六三條參看)

第十一條 設立ノ後會社ニ加入シタル社員ハ其ノ加入前ニ生ジタル會社ノ債務ニ付テモ亦責任ヲ負フ(同第六四條參看)

第三章 業務ノ執行及會社ノ代表

第十二條 本社ノ業務ハ業務執行社員之ヲ執行ス

第十三條 業務執行社員ハ何名トシ總社員ノ同意ヲ以テ社員中ヨリ之ヲ選任ス(又ハ社員何某ヲ以テ業務執行社員トス)

第十四條 業務執行社員ノ任期ハ何年トス但シ任期滿了ノ後再選スルコトヲ妨ゲズ

第十五條 業務執行社員ニ選任セラレタル社員ハ正當ノ事由アルニ非ザレバ辭任ヲ爲スコトヲ得ズ又任期中辭任セララルコトナシ

正當ノ事由ニ因リテ辭任ヲ爲スニハ他ノ社員ノ一致アルコトヲ要ス(民法第六七二條參看)

(注意) 以上本章ノ規定ハ社員中ヨリ特ニ業務執行社員ヲ選任スル場合ノ例ヲ示シタルモノナリ若シ特ニ之ヲ選任セズ各社員ガ業務ヲ執行スルトキハ右數條ノ規定ヲ要セズ

第十六條 業務ノ執行ハ業務執行社員ノ過半数ヲ以テ之ヲ決

ス 會社ノ常務ハ前項ノ規定ニ拘ラズ各業務執行社員之ヲ專行スルコトヲ得但シ其ノ結了前ニ他ノ業務執行社員ガ異議ヲ述べタルトキハ此ノ限ニ在ラズ(同第六七〇條參看)

第十七條 業務執行社員ハ委任ノ本旨ニ從ヒ善良ナル管理者ノ注意ヲ以テ其ノ事務ヲ處理スル義務ヲ負フ(同第六四四條參看)

第十八條 業務執行社員ハ社員ノ請求アルトキハ何時ニテモ業務及會社財産ノ狀況ヲ報告スルコトヲ要ス(同第六四五條參看)

第十九條 業務執行社員ハ義務ヲ處理スルニ當リ受取リタル金錢其ノ他ノ物ヲ會社ニ引渡スコトヲ要ス其ノ收取シタル果實亦同ジ

業務執行社員ガ會社ノ爲ニ自己ノ名ヲ以テ取得シタル權利アルトキハ之ヲ會社ニ移轉スルコトヲ要ス(同六四六條參看)

第二十條 業務執行社員ガ會社ニ引渡スベキ金額又ハ其ノ利益ノ爲ニ用ユベキ金額ヲ自己ノ爲ニ消費シタルトキハ其ノ消費シタル日以後ノ利息ヲ拂フコトヲ要ス猶損害アリタルトキハ其ノ賠償ノ責ニ任ズ(同第六四七條參看)

第二十一條 會社ノ業務ヲ處理スルニ付費用ヲ要スルトキハ業務執行社員ハ會社ヲシテ其ノ前拂ヲ爲サシムルコトヲ得

(同第六四九條參看)

第二十二條 業務執行社員が業務ヲ處理スルニ必要ト認ムベキ費用ヲ出シタルトキハ會社ニ對シテ其ノ費用及支出ノ日以後ニ於ケル其ノ利息ノ償還ヲ請求スルコトヲ得
業務執行社員が業務ヲ處理スル爲自己ニ過失ナクシテ損害ヲ受ケタルトキハ會社ニ對シテ其ノ賠償ヲ請求スルコトヲ得 (同第六五〇條參看)

第二十三條 業務執行社員ノ報酬ハ社員ノ過半数ノ決議ヲ以テ別ニ之ヲ定ム (同第六四八條參看)

第二十四條 支配人ノ選任及解任ハ社員ノ過半数ヲ以テ之ヲ決ス (商法第五七條參看)

第二十五條 定款ノ變更其ノ他會社ノ目的ノ範圍内ニ在ラザル行爲ヲ爲スニハ總社員ノ同意アルコトヲ要ス

第二十六條 各社員ハ何時ニテモ業務及會社財産ノ狀況ヲ検査スルコトヲ得 (民法第六七三條參看)

第二十七條 業務執行社員ハ會社ヲ代表ス (又ハ會社ヲ代表スベキ社員ハ總社員ノ同意ヲ以テ之ヲ定ム若ハ會社ヲ代表スベキ社員ハ何某トス又ハ社員何某及ビ何某ハ共同シテ會社ヲ代表ス)

第二十八條 會社ヲ代表スベキ社員ハ會社ノ營業ニ關スル一切ノ裁判上又ハ裁判外ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有ス (同第六二條參看)

第三十四條 已ムコトヲ得ザル事由アルトキハ各社員ハ何時ニテモ退社ヲ爲スコトヲ得 (商法第六八條參看)

第三十五條 前條ノ場合ノ外社員ハ左ノ事由ニ因リテ退社ス (同第六九條參看)

- 一 總社員ノ同意
- 二 死亡
- 三 破産
- 四 禁治産
- 五 除名
- 六 何々

第三十六條 社員ノ除名ハ左ノ場合ニ限り他ノ社員ノ一致ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得但シ業務執行社員ハ除名セラレタル社員ニ其ノ旨ヲ通知スルコトヲ要ス (同第七〇條參看)

- 一 社員が出資ヲ爲スコト能ハザルトキ又ハ催告ヲ受ケタル後相當ノ期間内ニ出資ヲ爲サザルトキ
- 二 社員が第九條第一項ノ規定ニ違反シタルトキ
- 三 業務執行社員が會社ノ業務ヲ執行シ又ハ會社ヲ代表スルニ當リ會社ニ對シテ不正ノ行爲ヲ爲シタルトキ
- 四 業務執行社員ニ非ザル社員が業務ノ執行ニ干與シタルトキ
- 五 其ノ他社員が重要ナル義務ヲ盡サザルトキ

第三十七條 退社員ニ對シテハ會社ハ退社當時ニ於ケル會社

第二類 商事 商法及附屬法規 會社

第四章 計算

第二十九條 營業年度ハ毎年何月何日ニ始リ何月何日ニ終ル (又ハ毎年何月何日及何月ヲ以テ配當期トス)

第三十條 業務執行社員ハ營業年度ノ終リ (又ハ配當期) ニ於テ左ニ掲グル書類ヲ社員ニ提出シテ其ノ承認ヲ求ムルコトヲ要ス

- 一 財産目錄
- 二 貸借對照表
- 三 營業報告書
- 四 損益計算書
- 五 利益ノ配當ニ關スル議案

第三十一條 會社ハ其ノ出資總額ノ四分ノ一ニ達スルマデハ利益ヲ配當スル毎ニ準備金トシテ其ノ利益ノ二十分ノ一以上ヲ積立ツルモノトス (商法第一九四條參看)

第三十二條 會社ハ損失ヲ填補シ且前條ニ定メタル準備金ヲ控除シタル後ニ非ザレバ利益ノ配當ヲ爲スコトヲ得ズ (同第六七、一九五條參看)

(注意) 右二條ハ株式會社ニ於ケル規定ナルモ合名會社ニ於テ之ヲ規定スルモ妨ゲナシ
第三十三條 各社員ノ損益分配ノ割合ハ第五條ニ掲ゲタル出資額ニ依ル

第五章 社員ノ退社

財産ノ割合ニ依リ其ノ持分ヲ拂戻スモノトス

退社當時ニ於テ未ダ結了セザル事項ニ付テハ其ノ結了後ニ計算ヲ爲スコトヲ得 (民法第六八一條參看)

第三十八條 退社員ハ勞務又ハ信用ヲ以テ出資ノ目的ト爲シタルトキト雖其ノ持分ノ拂戻ヲ受クルコトヲ得 (商法第七一條參看)

第三十九條 退社員ノ持分ハ其ノ出資ノ種類如何ヲ問ハズ金錢ヲ以テ之ヲ拂戻スコトヲ得 (民法第六八一條參看)

第四十條 退社員ハ本店ノ所在地ニ於テ退社ノ登記ヲ爲ス前ニ生ジタル會社ノ債務ニ付責任ヲ負フ此ノ責任ハ登記後二年ヲ經過シタルトキハ消滅ス

前項ノ規定ハ他ノ社員ノ承諾ヲ得テ持分ヲ讓渡シタル社員ニ之ヲ準用ス

第六章 解散

第四十一條 會社ノ存立時期ハ此ノ定款作成ノ日ヨリ何十年 (又ハ何年何月何日マデ) トス

第四十二條 會社ハ左ノ事由ニ因リテ解散ス (商法第七四條參看)

- 一 前條ニ定メタル存立時期ノ滿了
- 二 會社ノ目的タル事業ノ成功又ハ其ノ成功ノ不能
- 三 總社員ノ同意
- 四 會社ノ合併

- 五 社員ガ一人ト爲リタルコト
- 六 會社ノ破産
- 七 裁判所ノ命令
- 八 何々

第四十三條 前條第一號ノ場合ニ於テハ社員ノ全部又ハ一部ヲ以テ會社ヲ繼續スルコトヲ得但シ同意ヲ爲サザリシ社員ハ退社ヲ爲シタルモノト看做ス(同第七五條參看)

第四十四條 會社ガ合併ヲ爲スニハ總社員ノ同意アルコトヲ要ス(同第七十七條參看)

第七章 清算

第四十五條 會社解散ノ場合ニ於ケル會社財産ノ處分方法ハ總社員ノ同意ヲ以テ之ヲ定ム但シ合併及破産ノ場合ヲ除外テ外次條及商法ノ規定ニ依リ總社員又ハ其ノ選任シタル者ニ於テ清算ヲ爲スコトヲ妨グズ(商法第八五、八七條參看)

前項但書ノ場合ニ於ケル清算人ノ選任及解任ハ社員ノ過半数ヲ以テ之ヲ決ス(商法八七條參看)

第四十六條 殘餘財産ハ各社員ノ出資額ニ應ジテ之ヲ分配ス右何々合名會社設立ノ爲商法第四十九條及第五十條ニ依リ此ノ定款ヲ作り各社員左ニ署名ス

年月日

何	何	何
某	某	某
某	某	某

何 何 何
某 某 某
某 某 某

○會社ノ内部關係

合名會社ノ業務執行社員選任決議書ノ例(商五六、業務執行社員ハ社員ノ同意ヲ以テ之ヲ選任スル旨定款ニ規定アル場合ニ於ケル決議書ノ例ヲ示ス)

業務執行社員選任決議書

何年何月何日何所ニ於テ何々合名會社業務執行社員ノ選任ニ關シ總社員ノ同意ヲ以テ左ノ事項ヲ決議ス

- 一、社員何某ヲ業務執行社員ニ選任ス
- 二、前項業務執行社員ノ任期ハ何年トス
- 三、第一項業務執行社員ニハ一年間何圓ノ報酬ヲ給ス

右決議ヲ明確ナラシムル爲總社員左ニ署名ス

年月日

同	同	同
何	何	何
某	某	某
某	某	某

(注意) 此ノ例ハ任期及報酬ヲ合併セテ決議シタル例ヲ示ス、業務執行社員ヲ併セテ會社ヲ代表スベキ社員トシテ選任セントスルトキハ「業務執行社員」ノ下ニ「及會社

ヲ代表スベキ社員」ノ文字ヲ加フベシ

合名會社業務執行社員解任決議書ノ例(商五四、正當ノ事由ニ因リ他ノ社員ノ一致ヲ以テ解任スル場合ノ例ヲ示ス、民六七二二項)

業務執行社員解任決議書

何年何月何日何所ニ於テ何々合名會社執行社員何某ノ解任ニ關シ他ノ社員ノ一致ヲ以テ左ノ事項ヲ決議ス

- 一 何々合名會社社員何某ニハ何々ノ事由アリ其ノ事由ハ正當ノ事由ト認ムルヲ以テ何々合名會社ノ業務執行社員ヲ解任ス

右決議ヲ明確ナラシムル爲他ノ社員左ニ署名ス

年月日

何	何	何
某	某	某
某	某	某

(注意) 代表社員ヲ兼ネタル者ヲ解任スルトキハ前號注意ノ如ク「執行社員」ノ下ニ「及會社ヲ代表スベキ社員」ノ文字ヲ加フベク又同時ニ其ノ後任者ヲ選任スルトキハ前號ニ準ジ併セテ之ヲ規定スベシ

合名會社ノ社員ガ業務執行社員ニ對シ業務執行處理

ノ狀況ノ報告ヲ求ムル請求書ノ例(商五四、民六七一、六四五)

業務處理ノ狀況報告請求書

何々合名會社何年何月何日ヨリ何年何月何日ニ至ル業務處理ノ狀況御報告相成度商法第五十四條及民法第六百七十一條、同第六百四十五條ニ依リ此段及請求候也

年月日

何	何	何
某	某	某

合名會社支配人選任決議書ノ例(商五七)

合名會社支配人選任決議書

何年何月何日何所ニ於テ何々合名會社支配人ノ選任ニ關シ社員何人ニ對スル何人ノ過半数ヲ以テ左ノ通り決議ス

- 一 左ニ掲グル者ヲ何々合名會社ノ支配人ニ選任ス
何府縣何郡市町村番地 何 某
- 二 右支配人ニハ報酬トシテ一ヶ月金何圓ヲ給ス

右決議ヲ明確ナラシムル爲社員左ニ署名ス

年月日

何	何	何
某	某	某
某	某	某

合名會社支配人選任決議書ノ例(商五七)

同 同 何 何 某 某

合名會社ノ社員ガ前號ノ承諾ヲ得ズシテ前號ノ商行
爲シタルトキ他ノ社員ノ過半數ノ決議ニ依リ之
ヲ會社ノ爲ニ爲シタルモノト看做ス決議書ノ例(商六
〇)

合名會社社員ノ商行爲ヲ會社ノ爲ニ
爲シタルモノト看做ス決議書

當合名會社社員何某方何年何月何日(又ハ何年何月何日ヨリ
何月何日マデニ於テ)自己ノ爲(又ハ何府縣何郡市町村番地
何某ノ爲)何府縣何郡市町村番地何某ニ對シ爲シタル何々ノ
行爲ハ當會社ノ他ノ社員ノ承諾ヲ得ズ當會社ノ營業ノ部類ニ
屬スル商行爲ヲ爲シタルモノナルヲ以テ商法第六十條第二項
ニ依リ何年何月何日何所ニ於テ他ノ社員何人ニ對スル何人ノ
過半數ヲ以テ左ノ通り決議ス

當合名會社社員何某方何年何月何日(又ハ何年何月何日ヨ
リ何月何日マデ)自己ノ爲(又ハ何府縣何郡市町村番地何
某ノ爲)何府縣何郡市町村番地何某ニ對シ爲シタル何々ノ
行爲ハ之ヲ當合名會社ノ爲ニ爲シタルモノト看做ス
右決議ヲ明確ナラシムル爲社員左ニ署名ス

何々合名會社社員 何 某

年月日

同 同 同 何 何 何 某 某 某

會社ノ外部關係

會社ヲ代表スベキ社員選任決議書

(商六一、六二、此ノ書式ハ業務執行社員選任決議書ニ關ス
ル書式ニ準ジ作ルベシ、代表社員ノ代理權ニ加ヘタル制限
ハ善意ノ第三者ニハ對抗スルコトヲ得ズト雖其ノ制限ヲ爲
シタルトキハ此ノ決議書ニ規定シ猶之ヲ代表社員ニ示スベ
シ)

合名會社ノ財産ヲ以テ會社ノ債務ヲ完済スルコト能
ハザルトキ其ノ債權者ガ社員ニ對シ辨濟ヲ請求スル
訴狀ノ例(商六三)(正一、副ハ被告ノ數ニ應ズ)

合名會社ノ債務辨濟請求ノ訴

住所 族稱 職業 原告 何 某
住所 族稱 職業 被告 何 某
住所 族稱 職業 何々合名會社社員 何 某
住所 族稱 職業 何々合名會社社員 何 某

訟費用ハ被告ノ負擔トストノ判決相成度候也

證據方法及附屬書類ノ表示

- 一 何々合名會社ニ對スル判決正本 壹通
- 一 何々合名會社ニ對スル差押調書 壹通
- 一 何々合名會社登記簿謄本 壹通

年月日

原告 何 某

何地方裁判所長(何區裁判所監督)判事何某殿

合名會社ガ損失ヲ填補セズシテ利益ノ配當ヲ爲シタ
ルトキ會社ノ債權者ガ其ノ返還ヲ請求スル訴狀ノ例
(商六七)(正一、副二)

配當利益金返還請求ノ訴

住所 族稱 職業 原告 何 某
住所 族稱 職業 被告 何 某
住所 族稱 職業 何々合名會社社員 何 某
住所 族稱 職業 何々合名會社社員 何 某

請求ノ趣旨

被告等ハ連帶シテ原告ニ對シ金何圓及何年何月何日ヨリ本件
債務完済ニ至ル迄年何々ノ割合ニ依リ利息ヲ支拂フベシ、訴

訴ノ目的

原告ガ何々合名會社ニ對シテ有シタル何々債權金何圓及利息
金何圓ヲ被告等ニ於テ連帶シテ原告ニ辨濟スルコト

請求ノ原因

被告何某外何名ハ何々合名會社ノ社員ニシテ原告ハ其ノ何々
合名會社ニ對シ何年何月何日ニ於テ返濟期限何年何月何日、
利息金何圓ニ付一ヶ年金何圓ノ割合ノ約ヲ以テ元金何圓ヲ貸
渡シタル處右何々合名會社ハ期限ニ至ルモ返濟ヲ爲サズ依テ
原告ハ何々合名會社ニ對シ右元利金請求ノ訴ヲ起シ何年何月
何日何裁判所ニ於テ原告ノ勝訴ニ歸シタルモノ何々合名會社ハ
猶辨濟ヲ爲サザルニ付何年何月何日同會社ニ對シ強制執行ヲ
爲シタルニ差押フベキ財産ナク即チ會社財産ヲ以テ會社ノ債
務ヲ完済スルコト能ハザルニ至レリ然ルニ被告等ハ右何々合
名會社ノ社員ニシテ商法第六十三條ニ依リ連帶シテ辨濟ヲ爲
スベキ責任アルモノナルヲ以テ茲ニ原告ハ右被告等ニ對シ其
ノ請求ヲ爲ス爲右商法ノ規定ニ依リ本訴ヲ提起シタル次第ナ
リ

訴ノ目的

被告等が何年月何日何々合名會社ヨリ利益ノ配當トシテ受ケタル金額ヲ同會社ニ返還スベキコト

請求ノ原因

被告等ハ何々合名會社ノ社員ニシテ被告等ガ出資セル同會社ノ出資總額ハ定款及登記ニ依リテ之ヲ見ルニ金何圓ニシテ然モ全額既ニ拂込濟ナリ然レバ同會社ノ會社財産ガ右出資總額ヨリ減少セルトキハ即チ會社ハ損失ヲ蒙レルモノニシテ商法第六十七條ニ依リ其ノ損失ヲ填補シタル後ニ非ザレバ利益ノ配當ヲ爲スコトヲ得ザルモノナリ然ルニ何年月何日被告社員等ニ於テ利益ノ分配ヲ爲シタル何年月何日ヨリ何月ニ至ル何期利益分配表及貸借對照表ヲ見ルニ然モ會社財産ハ出資總額ニ對シ不足ニシテ從テ損失ヲ被レルコト何圓ナルニ拘ラズ同會社ハ其ノ損失ヲ填補セズ而シテ利益金何圓ヲ被告何某ニ金何圓、何某ニ金何圓、何某ニ金何圓ヲ分配シ被告等ハ各何年月何日ニ於テ之ヲ收受セリ是レ商法第六十七條第一項ノ規定ニ反スルモノニシテ原告ハ右何々會社ニ對シ金何圓ノ何々債權ヲ有スル債權者ナルヲ以テ商法同條第一項ニ依リ被告等ヲシテ各其ノ收受シタル金額ヲ會社ニ返還セシムル權利ヲ有スルモノナリ依テ被告等ニ對シ之ガ返還ヲ請求スル爲茲ニ本訴ヲ提起シタリ

請求ノ趣旨

被告何某ハ金何圓ヲ、被告何某ハ金何圓ヲ被告何某ハ金何圓ヲ何々合名會社ニ返還スベシ、訴訟費用ハ被告ノ負擔トストノ判決相成度候也

證據方法及附屬書類ノ表示

- 一 何々合名會社定款 壹通
- 一 同登記簿謄本 壹通
- 一 同第何期利益分配表 壹通
- 一 同第何期貸借對照表 壹通
- 一 原告ノ債權ヲ證スル何々 壹通

年月日

原告 何

某

何地方裁判所長(何區裁判所監督)判事何某殿

〇社員ノ退社

合名會社ノ定款ヲ以テ會社ノ存立時期ヲ定メザリシトキ又ハ或社員ノ終身間會社ノ存續スベキコトヲ定メタルトキ社員ガ六个月前ニ豫告ヲ爲シテ退社ヲ爲ス書面ノ例(商六八、一項、次號ノ書式參看)

合名會社社員退社豫告書

拙者儀貴合名會社社員ニ有之候處貴會社ノ定款ニ於テ會社ノ存立時期ヲ定メタルモノ無之ニ付(又ハ貴會社ノ定款ニ於テ社員何某ノ終身間會社ノ存續スベキコト定メタルニ付)拙者

ノ例(商六八、二項)

合名會社社員退社通知書(其二)

拙者儀是迄貴合名會社社員ニ有之候處今般何々ノ事故發生致シ此ノ事故ハ商法第六十八條ニ所謂已ムコトヲ得ザル事由ニシテ何時ニテモ退社ヲ爲スコトヲ得ルモノニ有之候間今般退社致候ニ付持分拂戻相成度此段御通知旁及請求候也

年月日

何々合名會社社員 何

某

業務執行社員 何

某殿

合名會社ノ社員ガ退社ヲ爲スニ付總社員ノ同意ヲ求ムル請求書ノ例(商六九、二號)

合名會社社員退社同意ノ請求書(其一)

拙者儀貴合名會社ノ社員ニ有之候處今般何々ノ事由ニ因リ退社致度總社員ノ御同意ヲ求メ候間御同意相成度此段請求候也

年月日

何々合名會社社員 何

某

業務執行社員 何

某殿

(注意) 總社員連名又ハ各社員各別ニ求ムルモ妨ゲナシ、猶次號ノ書式參看

ハ商法第六十八條ニ依リ六个月前ニ豫告ヲ爲シ營業年度ノ終ニ於テ退社ヲ爲スコトヲ得ル者ニ有之就テハ來ル何年月何日即チ營業年度ノ終ニ於テ退社致候間其ノ六个月前タル今日ニ於テ此段豫告致置候也

年月日

何々合名會社社員 何

某

業務執行社員 何

某殿

同上營業年度ノ終ニ於テ退社ヲ爲ス通知書ノ例(商六八、一項、前號ノ書式參看)

合名會社社員退社通知書(其一)

拙者儀今般營業年度ノ終ニ於テ貴會社ヲ退社可致旨商法第六十八條ノ規定ニ依リ六个月前タル何年月何日ヲ以テ及豫告置候處本日ハ即チ營業年度ノ終ニ該當致候間茲ニ退社致度候ニ付持分御拂戻相成度此段御通知旁及請求候也

年月日

何々合名會社社員 何

某

業務執行社員 何

某殿

合名會社ノ社員ガ存立時期ノ定アルト否トヲ問ハズ已ムコトヲ得ザル事由アルトキ退社ヲ爲ス通知書

同上ノ例(商六九、二號)

合名會社社員退社同意ノ請求書(其二)

拙者儀貴合名會社ノ社員ニ有之候處今般何々ノ事由ニ因リ退社致度總社員ノ同意ヲ求メ候間總社員御招集相成候カ若ハ其ノ他同意ヲ得ル手續可然御取計相成度此段及御依頼候也

年月日 何々合名會社社員 何 某殿
住 所 何々合名會社社員 何 某殿

合名會社社員ノ除名決議書ノ例(商七〇、次ノ二號ノ書式參看)

合名會社社員除名決議書

何年何月何日何所ニ於テ何々合名會社社員何某ノ除名ニ關シ他ノ社員ノ一致ヲ以テ左ノ通り決議ス
何々合名會社社員何某ハ何年何月何日作成ノ定款ニ依リ金何圓ノ出資ヲ爲スベキ義務ヲ負擔シタルニ拘ラズ何々ノ事由ニ因リ出資ヲ爲スコト能ハザルニ至リタルヲ以テ(又ハ出資ヲ爲スベキ義務ヲ負擔シタルニ拘ラズ催告ヲ受ケタル後相當ノ期間内ニ出資ヲ爲サザルヲ以テ此ノ他除名ノ事由ヲ記ス)商法第七十條ニ依リ何々合名會社ノ社員ヨリ除名ス
右決議ヲ明確ナラシムル爲社員左ニ署名ス

四〇四

年月日

何々合名會社社員 何 某殿
同 何 某殿
同 何 某殿

合名會社社員除名通知書ノ例(商七〇)

合名會社社員除名通知書(其一)

何年何月何日貴下ヲ除キ何々合名會社ノ他ノ社員ノ一致ヲ以テ別紙決議書騰本ノ通り貴下ヲ何々合名會社ノ社員ヨリ除名致候間商法第七十條ニ依リ此段及通知候也

年月日 何々合名會社社員 何 某殿
住 所 何々合名會社社員 何 某殿
何 某殿
同 何 某殿
同 何 某殿

(注意) 別紙決議書ハ前號ノ書式參看

同上ノ例

合名會社社員除名通知書(其二)

貴下是迄何々合名會社ノ社員タル處定款ニ依リ金何圓ノ出資ヲ爲スベキ義務ヲ負ヒタルニ拘ラズ何々ノ事由ニ因リ出資ヲ爲スコト能ハザルニ至リ候ニ付(又ハ義務ヲ負ヒタルニ拘ラ

○解散

合名會社解散決議書ノ例(總社員ノ同意ヲ以テ解散ヲ決議シタル場合ノ例ヲ示ス、商七四)

合名會社解散決議書(其一)

何年何月何日何所ニ於テ何々合名會社總社員ノ同意ヲ以テ何々合名會社ヲ解散スルコトヲ決議ス
右決議ヲ明確ナラシムル爲總社員左ニ署名ス

年月日 何々合名會社社員 何 某殿
同 何 某殿
同 何 某殿
同 何 某殿

同上ノ例

合名會社解散決議書(其二)

何年何月何日何所ニ於テ何々合名會社ノ解散ニ關シ總社員ノ同意ヲ以テ左ノ通り決議ス
何々合名會社ハ何年何月何日解散ス
右決議ヲ明確ナラシムル爲總社員左ニ署名ス

ズ催告ヲ受ケタル後相當ノ期間内ニ出資ヲ爲サザルニ因リ其ノ他ノ除名事由ヲ記ス)商法第七十條及定款第何條ニ依リ他ノ社員ノ一致ヲ以テ貴下ヲ社員ヨリ除名致候間商法ノ規定ニ依リ此段及通知候也

年月日 何々合名會社社員 何 某殿
同 何 某殿
同 何 某殿
何々合名會社社員 何 某殿

合名會社ノ商號中ニ退社員ノ氏又ハ氏名ヲ用キタルトキ退社員ガ其ノ使用ヲ止ムベキコトヲ請求スル書面ノ例(商七二)

合名會社ノ商號ニ氏名使用ヲ止ムル請求書

貴合名會社ノ商號中ニ「何々」トアルハ拙者ノ氏(又ハ氏名)ヲ使用シタルモノニ有之候處拙者ハ何年何月何日貴會社ヲ退社致候ニ付右商號中「何々」トアル拙者ノ氏(又ハ氏名)ハ以後使用ヲ止メラレ度商法第七十二條ニ依リ此段及請求候也

年月日 住 所 何々合名會社 業務執行社員 何 某殿
何 某殿

第二類 商事 商法及附屬法規 會社

其ノ本店及支店ノ所在地ニ於テ其ノ會社解散ノ登記ヲ爲スベキコトヲ約セリ
右契約ヲ證スル爲此ノ證書ヲ作り各署名捺印シ各其ノ一本ヲ保存ス

何々合名會社(甲)法定代理人代表社員
(又ハ單ニ代理人)
何々合名會社(乙)法定代理人代表社員
(又ハ單ニ代理人)

何 某
何 某

合名會社合併決議書ノ例 (商七七、合併ニ因リ存続スル會社
〔甲〕ガ合併ノ決議ヲ爲ス場合ノ例ヲ示ス、但シ合併ニ因リ解散スル會社〔乙〕ノ社員ガ合併後存続スル會社〔甲〕ノ社員ト爲ル場合ヲ想像ス、次號ノ書式參看)

合名會社合併決議書

何年何月何日何所ニ於テ何々合名會社(甲)ト何々合名會社(乙)トノ合併ニ關シ何々合名會社(甲)總社員ノ同意ヲ以テ左ノ事項ヲ決議ス

- 一、何々合名會社(甲)ハ何々合名會社(乙)ヲ合併シテ之ヲ解散セシメ其ノ營業權、現存ノ財産其ノ他總テノ權利義務ヲ承繼シ猶存続ス但シ何々合名會社(乙)ノ社員ハ合併ニ因リ存続スル會社(甲)ノ社員ト爲ル

何年何月何日何所ニ於テ何々合名會社(乙)ト何々合名會社(甲)トノ合併ニ關シ何々合名會社(乙)總社員ノ同意ヲ以テ左ノ事項ヲ決議ス

- 一、何々合名會社(乙)ハ何々合名會社(甲)ト合併シ其ノ營業權、現存ノ財産其ノ他總テノ權利義務ヲ承繼シ猶存続ス但シ何々合名會社(甲)ノ社員ハ合併ニ因リ存続スル會社(乙)ノ社員ト爲ル
- 二、何々合名會社(乙)ノ營業權、現存ノ財産其ノ他總テノ權利義務ヲ合シテ金何萬圓ト評價シ之ヲ其ノ各社員ノ出資額ニ應ジテ分割シ其ノ金額ヲ以テ之ヲ合併後存続スル會社ニ於ケル何々合名會社(乙)ノ社員タリシ各社員ノ持分トス(但シ各社員ノ持分ノ額ヲ列記スルモヨシ)
- 三、何々合名會社(甲)ニ付テモ前項ノ規定ヲ準用シ合併後存続スル會社ニ於ケル何々合名會社(甲)ノ社員タリシ各社員ノ持分ヲ定ム但シ何々合名會社(甲)ノ營業權、現存ノ財産其ノ他總テノ權利義務ハ金何萬圓ト評價ス
- 四、前三項ノ事項ノ實行ニ關スル行爲ヲ爲スコトヲ社員何某(又ハ業務執行社員代表社員何某)ニ委任シ之ニ必要ナル一切ノ權限ヲ授與ス

何々合名會社(乙)社員 何 某
何々合名會社(甲)社員 何 某

二、何々合名會社(甲)ノ營業權、現存ノ財産其ノ他總テノ權利義務ヲ合シテ金何萬圓ト評價シ之ヲ其ノ各社員ノ出資額ニ應ジテ分割シ其ノ金額ヲ以テ之ヲ合併後存続スル會社ニ於ケル何々合名會社(甲)ノ社員タリシ各社員ノ持分トス

三、何々合名會社(乙)ニ付テモ前項ノ規定ヲ準用シ合併後存続スル會社ニ於ケル何々合名會社(乙)ノ社員タリシ各社員ノ持分ヲ定ム但シ何々合名會社(乙)ノ營業權、現存ノ財産其ノ他總テノ權利義務ハ金何萬圓ト評價ス

四、前三項ノ事項ノ實行ニ關スル行爲ヲ爲スコトヲ社員何某(又ハ業務執行社員代表社員何某)ニ委任シ之ニ必要ナル一切ノ權限ヲ授與ス

何々合名會社(甲)社員 何 某
何々合名會社(乙)社員 何 某

同上(合併ニ因リ解散スル會社(乙)ガ合併ノ決議ヲ爲ス場合ノ例ヲ示ス、但シ合併ニ因リ解散スル會社(乙)ノ社員ガ合併後存続スル會社(甲)ノ社員ト爲ル場合ヲ想像ス、前號ノ書式參看)

合名會社合併決議書

何年何月何日何所ニ於テ何々合名會社(甲)ト何々合名會社(乙)トノ合併ニ關シ何々合名會社(甲)總社員ノ同意ヲ以テ左ノ事項ヲ決議ス

合名會社合併契約書ノ例 (甲會社ト乙會社ガ合併ノ契約ヲ爲ス場合ノ例ヲ示ス、但シ合併ニ因リ解散スル會社(乙)ノ社員ガ合併後存続スル會社(甲)ノ社員ト爲ル場合ヲ想像ス、前々號及前號ノ書式參看)

住所(事務所所在地) 何々合名會社(甲) 何 某
當事者 何々合名會社(甲) 何 某
右法定代理人代表社員 何 某
(又ハ單ニ右代理人) 何 某
住所(本店所在地) 何々合名會社(乙) 何 某
當事者 何々合名會社(乙) 何 某
右法定代理人代表社員 何 某
(又ハ單ニ右代理人) 何 某

右當事者間ニ於テ其ノ合併ヲ爲スニ付左ノ契約ヲ締結ス

一、何々合名會社(甲)ハ何々合名會社(乙)ヲ合併シ此ノ契約締結ノトキニ於ケル何々合名會社(乙)ノ營業權、現存ノ財産其ノ他總テノ權利義務ヲ承繼ス

二、何々合名會社(乙)ハ何々合名會社(甲)ニ對シ前項ニ掲ゲタル其ノ營業權、現存ノ財産其ノ他總テノ權利義務ヲ

此ノ訴訟物ノ價額金何圓也(改民訴二二、二項參看)
請求ノ原因

原告ハ被告何名ト共ニ何年何月何日作成ノ定款ニ依リ何々合
名會社ヲ設立シタル處被告等ハ互ニ通謀シテ會社ノ業務執行
ニ多ク專斷ノ所置ヲ爲シ且業務ヲ不整ニシ自己ノ私利ヲ圖ル
コトヲ發見シタルヲ以テ屢帳簿ノ檢閲ヲ請求シタルモ之ニ應
ズ益不正ノ行爲ヲ爲サントシ到底會社ヲ存續シ置クベカラ
ザルヲ以テ更ニ屢會社ヲ解散ヲ請求シタルモ目下猶存續期間
中ニ在ルノ故ヲ以テ之ニ應ズ然レドモ右事實ノ如キハ商法
第八十三條ニ所謂已ムコトヲ得ザル事由ナルヲ以テ存續期間
ノ如何ニ拘ラズ被告等ニ對シ會社ノ解散ヲ求ムル爲前商法
ノ規定ニ依リ本訴ヲ提起シタリ

請求ノ趣旨

何々合名會社ヲ解散ス、訴訟費用ハ被告等ノ負擔トストノ判
決相成度候也

一 證據方法及附屬書類ノ表示

一 何々合名會社登記簿本

壹通

一 何々

年月日 原告 何 某

何地方裁判所長判事 何 某殿

合名會社組織變更決議書ノ例(合名會社在來ノ社員ヲ以テ其

四一四

合名會社組織變更決議書(其一)

ノ組織ヲ變更シテ合資會社ト爲ス決議書ノ例ヲ示ス、商八三ノ二)
何年何月何日何所ニ於テ何々合名會社ノ組織變更ニ關シ總社
員ノ同意ヲ以テ左ノ事項ヲ決議ス

一、何々合名會社ハ現在ノ社員ヲ以テ其ノ組織ヲ變更シテ
之ヲ合資會社ト爲ス

二、社員何某ハ合名會社ニ於ケル出資額ヲ以テ合資會社ニ
於ケル有限責任社員トス

(又ハ社員何某及何某ノ合名會社ニ於ケル出資額ヲ左ノ如ク
變更シテ之ヲ合資會社ニ於ケル有限責任社員トス)

一金何圓

何府縣何郡何市町村番地

一宅地 何坪

此ノ價格金何圓

(注意)社員ガ出資ヲ増加スル場合ニ於テ合資會社ノ成立
ト同時ニ之ヲ履行シ又ハ之ヲ合資會社ノ定款ニ掲グルヲ
煩ナリトセバ履行方法ヲモ此ノ決議書ニ規定スルモ可ナ
リ

三、合資會社ノ定款ハ總社員ノ同意ヲ以テ別ニ之ヲ定ム

四、社員ノ權利義務ハ合資會社成立ノトキヨリ總テ其ノ定
款ノ定ムル所ニ依リ合名會社ニ於ケルモノニ付テハ合資
會社成立ノトキマデ總テ合名會社ノ定款及從來ノ決議ニ

依ル

(注意)此ノ規定ナキモ當然此ノ規定ト同一ノ結果ヲ來ス
ベキモ明確ナルコトヲ期スル爲右ノ如ク規定スルモ可ナ
リ

五、何々

(注意)右ノ外必要トスル事項ヲ掲グベシ

右決議ヲ明確ナラシムル爲總社員左ニ署名ス

何々合名會社社員	何	某
同	何	某
同	何	某
同	何	某
同	何	某
同	何	某
同	何	某
同	何	某

同上(新ニ有限責任社員ヲ加入セシメテ合名會社ノ組織ヲ變更シテ
合資會社ト爲ス決議書ノ例ヲ示ス、商八三ノ四)

合名會社組織變更決議書

何年何月何日何所ニ於テ何々合名會社ノ組織變更ニ關シ總社
員ノ同意ヲ以テ左ノ事項ヲ決議ス

一、何々合名會社ハ次項ニ掲グル者ヲ加入セシメテ其ノ組
織ヲ變更シテ之ヲ合資會社ト爲ス

二、合資會社ニ新ニ加入セシムベキ者及其ノ出資額、責任
左ノ如シ

一金何圓 有限 何府縣何郡何市町村番地 何 某

第二類 商事 商法及附屬法規 會社

四一五

合名會社組織變更異議申出公告

何々合名會社ハ何年何月何日其ノ總社員ノ同意ニ依リ其ノ組
織ヲ變更シテ合資會社ト爲スコトヲ決議シタルニ因リ右合名
會社ノ債權者ニシテ右組織變更ニ異議アル者ハ何年何月何日
(二ヶ月ヲ下ラザル期間)マデニ申出デラルベシ若シ右ノ期間
内ニ異議ヲ述ベザルトキハ組織變更ヲ承認シタルモノト看做
サルベシ右商法第八十三條ノ二第二項及第七十八條第二項ニ

三、(以下前號書式ニ示シタル所ニ依リ適宜ニ規定スベシ)

右決議ヲ明確ナラシムル爲總社員左ニ署名ス

何々合名會社社員

何

何

何 某
何 某
何 某
何 某
何 某
何 某
何 某
何 某

何 某

何 某

何府縣何郡何市町村番地 何 某

一宅地何坪有限 何府縣何郡何市町村番地 何 某

此ノ價格金何圓

何 某
何 某
何 某
何 某
何 某
何 某
何 某
何 某

何 某
何 某
何 某
何 某
何 某
何 某
何 某
何 某

合名會社ガ組織變更ノ決議ヲ爲シタルトキ決議ノ日
ヨリ二週間内ニ其ノ債權者ニ對シ異議アラバ之ヲ述
ブベキ旨ノ公告文ノ例(八三ノ二、七八、前二號ノ書式參看)

合名會社組織變更異議申出公告

何々合名會社ハ何年何月何日其ノ總社員ノ同意ニ依リ其ノ組
織ヲ變更シテ合資會社ト爲スコトヲ決議シタルニ因リ右合名
會社ノ債權者ニシテ右組織變更ニ異議アル者ハ何年何月何日
(二ヶ月ヲ下ラザル期間)マデニ申出デラルベシ若シ右ノ期間
内ニ異議ヲ述ベザルトキハ組織變更ヲ承認シタルモノト看做
サルベシ右商法第八十三條ノ二第二項及第七十八條第二項ニ

四一五

依り公告ス

年月日 何々合名會社代表社員 何 某
合名會社ガ組織變更ノ決議ヲ爲シタルトキ決議ノ日ヨリ二週間内ニ知レタル各債權者ニ對シ異議アラバ之ヲ述ベベキ旨ヲ催告スル書面ノ例(商八三ノ二、七八、前三號ノ書式參看)

合名會社組織變更異議申出催告書

何々合名會社ハ何年何月何日其ノ總社員ノ同意ニ依リ其ノ組織ヲ變更シテ合資會社ト爲スコトヲ決議シタルニ因リ右組織變更ニ異議アラバ何年何月何日(二个月ヲ下ラザル期間)マデニ申出相成度若シ右ノ期間内ニ異議ヲ述ベザルトキハ組織變更ヲ承認シタルモノト看做サルベシ右商法第八十三條ノ第二項及第七十八條第二項ニ依リ及催告候也
年月日

債權者 何 何 某
何々合名會社代表社員 何 某

合名會社ノ組織變更ニ異議アラバ申出ツベキ旨ノ公告又ハ催告ニ對シ債權者ヨリ異議ヲ申述ブル書面ノ例(商八三ノ二、七九、前二號ノ書式參看)

合名會社組織變更異議申述書

貴合名會社ハ何年何月何日ノ總社員ノ同意ヲ以テ其ノ組織ヲ

年月日	何々合名會社社員	何	某
	同	何	某
	同	何	某
	同	何	某
	同	何	某
	同	何	某

合名會社解散ノ場合ニ於テ會社財産ノ處分方法ヲ定款又ハ總社員ノ同意ヲ以テ定メタルトキ債權者ニ對シ異議アラバ述ベベキ旨ノ公告文ノ例(商八五、二項、七八、二項、七九)

合名會社解散會社財産處分ニ對シ異議申出公告

何々合名會社ハ何々ノ事由ニ因リ何年何月何日解散シタルヲ以テ會社財産ハ定款ニ定メタル左ノ規定(又ハ總社員ノ同意ヲ以テ定メタル左ノ規定)ニ依リ處分スベキニ付右會社ノ債權者ニシテ之ニ異議アル者ハ何年何月何日マデ(二个月以上ノ期間タルコトヲ要ス)ニ申出デラルベシ若シ右期間内ニ申出ナキトキハ右處分方法ヲ承認シタルモノト看做サルベシ
會社財産處分ニ關スル定款(又ハ總社員ノ決議)ノ規定

- 一 何々
- 二 何々

第二類 商事 商法及附屬法規 會社

四一六

變更シテ合資會社ト爲スニ對シ異議アラバ申出ツベキ旨公告(又ハ催告)相成候處拙者ハ貴會社ニ對シ何々ノ債權ヲ有スル者ニシテ而シテ右組織變更ニ對シテハ異議有之候ニ付右組織變更相成候ニ付テハ拙者ノ債權ニ對シ辨濟相成度(又ハ拙者ノ債權ニ對シ相當ノ擔保ヲ供セラレ度)何年何月何日ノ異議申出ノ公告(又ハ催告)ニ依リ右異議申述候也
住 所

年月日 債權者 何 某

何々合名會社代表社員 何 某

○清算

合名會社解散ノ場合ニ於テ總社員ノ同意ヲ以テ會社財産ノ處分方法ヲ定ムル決議書ノ例(商八五)

合名會社解散ノ場合財産處分決議書

何々合名會社ハ何年何月何日何々ノ事由ニ因リ解散シタルヲ以テ何年何月何日何所ニ於テ總社員ノ同意ヲ以テ會社財産ノ處分方法左ノ通り決議ス
一、會社ニ現存セル財産其ノ他總テノ權利義務ヲ合シ代價金何圓ヲ以テ何々會社又ハ何某ニ賣渡スコト
二、前項ノ代金ハ之ヲ出資額ニ應ジ各社員ニ分配スルコト
三、何々
右決議ヲ明確ナラシムル爲總社員左ニ署名ス

右商法第八十五條第二項及同第七十八條第二項ニ依リ公告ス
年月日 何々合名會社 代表社員 何 某

同上ノ場合知レタル債權者ニ各別ニ催告スル書面ノ例(商八五、二項、七八、二項、七九)

合名會社解散會社財産處分ニ對シ異議申出催告

何々合名會社ハ何々ノ事由ニ因リ何年何月何日解散シタルヲ以テ會社財産ハ定款ニ定メタル左ノ規定(又ハ總社員ノ同意ヲ以テ定メタル左ノ規定)ニ依リ處分可致ニ付之ニ對シ異議アラバ何年何月何日マデ(二个月以上ノ期間タルコトヲ要ス)ニ申出相成度若シ右期間内ニ申出ナキトキハ右處分方法ヲ承認シタルモノト看做サルベシ右商法第八十五條第二項及同第七十八條第二項ニ依リ此段及催告候也
會社財産處分ニ關スル定款(又ハ總社員ノ決議)ノ規定

- 一 何々
- 一 何々

年月日 何々合名會社 代表社員 何 某

四一七

住所

債權者 何 某殿

前二號ノ公告又ハ催告ニ對スル債權者ノ異議申述書ノ例(商八五、二項、七八、七九)

合名會社解散會社財産處分ニ對スル異議ノ申述書

何々合名會社ハ何年何月何日解散シ會社財産ハ定款ニ定メタル規定(又ハ總社員ノ同意ヲ以テ定メタル規定)ニ依リ處分可相成旨ニ候處右處分方法ニ付テハ拙者ハ異議有之候ニ付拙者ノ債權ニ對シテハ辨濟相成度商法第八十五條第二項及第七十九條第二項ニ依リ異議申述候也

年月日 住所 債權者 何 某殿

合名會社ノ清算人選任決議書ノ例(商八七、解散ノ決議ト共ニ選任ヲ爲ス例ヲ示ス)

何年何月何日何所ニ於テ何々合名會社ノ解散及清算人ノ解散及清算人ノ選任ニ關シ總社員ノ同意ヲ以テ左ノ通り決議ス
一、何々合名會社ハ何年何月何日解散ス
一、何々合名會社ノ清算人トシテ左ノ三名ヲ選任ス

合名會社清算人選任決議書 (其一)

代表ス

(注意) 本項ノ規定ナキトキハ清算人ハ各自ニ會社ヲ代表ス
ス商法第九十三條ノ二及第六十一條參看
二、何々(清算人ニ對スル報酬其ノ他必要ノ事項アラバ規定スベシ)

右決議ヲ明確ナラシムル爲社員左ニ署名ス

何々合名會社社員 何 某殿 (以下同上署名)

合名會社清算人選任申請

(商八八、七四、五號、非一三六以下、此ノ書式ハ非訟事件手續法ノ部ニ掲ケ)

合名會社ノ清算中ニ會社ノ財産ガ其ノ債務ヲ完済スルニ不足ナルコト分明ナルニ至リタルトキ清算人ヨリ破産宣告ノ請求ヲ爲ス申立書ノ例(商九一、四項、民八一、破一三三、一三八)

合名會社清算人ノ破産宣告ノ申立

住所 (本店所在地) 何々合名會社
右法律上代表者清算人 何 某殿
申立人 何 某殿
同上 何 某殿
申立人 何 某殿

四一八

何府縣何郡何市町村番地 何 某殿
何府縣何郡何市町村番地 何 某殿
何府縣何郡何市町村番地 何 某殿

右決議ヲ明確ナラシムル爲總社員左ニ署名ス

何々合名會社社員 何 某殿

(注意) 清算人選任ノミノ決議ナルトキハ定款ニ別段ノ定メナキ場合ニ限り社員ノ過半数ヲ以テ決スルコトヲ得

同上(清算人選任ノミノ決議及清算人が共同シテ會社ヲ代表スベキ旨ヲ定ムル例ヲ示ス、商八七、九三ノ二)

合名會社清算人選任決議書 (其二)

何年何月何日何所ニ於テ何々合名會社ノ清算人ノ選任ニ關シ社員ノ過半数ヲ以テ左ノ通り決議ス
一、何々合名會社ノ清算人トシテ左ノ三名ヲ選任ス
何府縣何郡何市町村番地 何 某殿
何府縣何郡何市町村番地 何 某殿
何府縣何郡何市町村番地 何 某殿
二、清算人何某ハ會社ヲ代表ス(又ハ清算人何某及何某ハ共同シテ會社ヲ代表ス若ハ清算人ハ全員共同シテ會社ヲ

同上

破産申立ノ事由

右何々合名會社ハ何々ノ事由ニ因リ何年何月何日解散シ申立人等ハ社員ノ選任ニ因リ其ノ清算人トシテ何年何月何日就職シ爾來清算事務ニ從事シ會社ノ債權、債務其ノ他會社財産ヲ調査シタルニ別紙貸借對照表ノ如ク債務ガ會社財産ニ超過スルコト金何圓ニシテ會社財産ヲ以テ會社ノ債務ヲ完済シ能ハザルコト分明ナルニ至リタルヲ以テ即チ商法第九十一條第四項及民法第八十一條第一項ニ依リ茲ニ右何々合名會社ニ對シ破産宣告ノ申立ヲ爲ス次第ナリ

申立ノ趣旨 何々合名會社ニ對シ破産ノ宣告相成度候也

附屬書類ノ表示
一 貸借對照表 壹通
一 財産ノ概況ヲ示スベキ書面 壹通
一 債權者及債務者ノ一覽表 壹通

年月日 何 某殿
何 某殿
何 某殿
何區裁判所監督判事 何 某殿

合名會社ノ社員ガ選任シタル清算人解任決議書ノ例
(商九六)

合名會社清算人解任決議書

何年月何日何所ニ於テ何々合名會社ノ社員ノ選任シタル清算人ノ解任ニ關シ何名ニ對スル何名ノ過半数ヲ以テ左ノ通り決議ス

何々合名會社清算人何某ヲ解任ス

右決議ヲ明確ナラシムル爲社員左ニ署名ス

何々合名會社社員	何	某
同	何	某
同	何	某
同	何	某
同	何	某
同	何	某

合名會社ノ清算人ノ任務カ終了シタルトキ計算ヲ爲シテ各社員ノ承認ヲ求ムル要求書ノ例(商九八)

合名會社清算人任務終了承認要求書

何々合名會社清算人ノ任務何年月何日終了シタルニ因リ直ニ計算ヲ爲シタル處別紙計算書ノ通りニ有之候ニ付御承認相成度商法第九十八條第一項ニ依リ此段及請求候也

住所(本店所在地)何々合名會社
清算事務所

四二〇

年月日

住所

何々合名會社社員 何 某殿
(注意) 計算書ハ別紙トシテ適宜ニ作ルベシ

清算終了ノ計算ニ對スル異議申述書ノ例(商九八、二項)

清算終了ノ計算ニ對スル異議申述書

何々合名會社清算人ノ任務終了ニ因リ何年月何日附ヲ以テ承認ヲ請求セラレタル計算ニ對シ左記ノ事項ニ關シ異議有之候條商法第九十八條第二項ニ依リ此段申述候也

一 何々

年月日	住所	何々合名會社社員	何	某
同	同	何	何	某
同	同	何	何	某
同	同	何	何	某

會社ガ事業ニ着手シタル後社員ガ其ノ設立ノ無効ナルコトヲ發見シタルトキ無効ヲ主張スル訴狀ノ例(商九九ノ二)

合名會社設立無効請求ノ訴

住所 族稱 職業

何々合名會社社員

原告	何	某
住所	何	某
被告	何々合名會社	

訴ノ目的

右被告何々合名會社ノ設立ヲ無効トスルコト

右訴訟物ノ價額金何圓也

請求ノ原因

被告何々合名會社ハ別紙其ノ定款ニ掲グル如ク(何府縣下ニ於テ)何々品製造(又ハ何々品輸出若ハ賣買其ノ他何々)ヲ目的トスルモノニシテ何年月何日設立シ既ニ何年月何日ヨリ其ノ事業ニ着手シ而シテ原告ハ設立當時ヨリ其ノ社員タル者ナリ然ルニ被告會社ノ目的トスル何々品製造(又ハ輸出若ハ賣買其ノ他何々)ハ既ニ被告會社設立前ニ於テ政府(又ハ何府縣下)ニ於テ之ヲ禁止セラレアリテ之ヲ爲スコトヲ得ザルモノニシテ原告ハ設立當時全ク其ノ禁止ノ事實ヲ知ラズ社員ト爲リタリ然モ會社ノ目的ニシテ既ニ禁止セラレアルモノナル以上會社ノ設立ハ無効ナルコト勿論ナリ依テ茲ニ被告會社ノ設立ノ無効ナルコトノ判決ヲ請フ爲本訴ノ提起ニ及ビタル次第ナリ

請求ノ趣旨

被告何々合名會社ノ設立ヲ無効トス、訴訟費用ハ被告ノ負擔トストノ判決相成度候也

證據方法及附屬書類ノ表示

- 一 何々合名會社定款
- 一 會社ノ目的タル事業禁止ニ關スル何々
- 一 何々

年月日	住所	原告	何	某
何地方裁判所長判事	何	某殿		
				某

第三類 民事訴訟

民事訴訟法 (明治二十三年四月 法律第二十九號)

改正 (明治三十一年法律第一號、同四十四年同第七二號) 大正一一年同第五四號、同一五年同第六一號)

第一編 總則

第一章 裁判所

管轄

管轄裁判所又ハ裁判所構成法第十三條第二項ノ規定ニ依リ區裁判所ニ代ハルベキ地方裁判所ガ法律上又ハ事實上裁判權ヲ行フコト能ハザルトキ又ハ裁判所ノ管轄區域ガ明確ナラズシテ管轄裁判所ガ定マラザルトキ管轄裁判所ノ指定ヲ申請スル書面ノ例 (右申請ハ關係アル直近上級裁判所ニ提出スルモノトス、民訴二四)

管轄裁判所指定ノ申立書

住所 族稱 職業 何 某 右申立人ヨリ住所何々何某ニ對シ何府縣何郡市町村大字字番地山林 (又ハ何々)ニ關スル何々ノ訴訟ヲ提起セントセン處右山林ハ何區裁判所ト何區裁判所トノ管轄ニ跨リ何レヲ管轄

裁判所ト爲スベキカ明確ナラザルニ付民事訴訟法第二十四條ニ依リ右管轄裁判所ノ御指定相成度此段及申立候也

疏明書類

一 目的物ノ所在ヲ證スル登記簿ノ謄本

壹通

年月日

右

申立人

何

某殿

何地方裁判所所長判事

何

某殿

(注意) 管轄裁判所指定ノ申立ニ對スル決定ニ對シテハ不服ノ申立ヲ許サズ

當事者ハ第一審ニ限り合意ニ依リ管轄裁判所ヲ定ムルコトヲ得右合意證書ノ例 (但シ其ノ合意ハ一定ノ法律ニ基ク訴訟ニ關シ且書面ヲ以テ之ヲ爲スニ非ザレバ其ノ效ナシ、民訴二五)

管轄裁判所ニ付テノ合意證書 (其一)

昭和何年何月何日附ニテ下記當事者間ニ締結シタル何々ノ契約 (又ハ何々ノ件)ニ關スル訴訟ハ當事者ノ孰レヨリ提起スル場合ニ於テモ何地方 (區) 裁判所ヲ以テ其ノ管轄裁判所ト可致コトニ付合意候也

年月日

住所

何々

何

某殿

住所

何々

何

某殿

同上 (或契約ノ一條項トシテ合意スル場合ノ例ヲ示ス)

管轄裁判所ニ付テノ合意證書 (其二)

第何條 各當事者ハ本契約ニ關シ訴ヲ提起スル場合ニハ何地方 (區) 裁判所ヲ以テ其ノ管轄裁判所ト爲スベキコトニ合意ス

管轄違ノ抗辯申立書ノ例 (被告ガ第一審裁判所ニ於テ管轄違ノ抗辯ヲ提出セズシテ本案ノ辯論ヲ爲シ又ハ準備手續ニ於テ申述ヲ爲シタルトキハ其ノ裁判所ハ其ノ訴訟ニ付管轄權ヲ有スルコトトナル但シ專屬管轄ノ定アルモノハ別ナリ、民訴二六) (正、副各一)

管轄違ノ抗辯ノ申立書

住所 族稱 職業 原告 何 某 住所 族稱 職業 被告 何 某 右當事者間御應昭和何年 (何) 第何號何々請求事件ニ付被告ヨリ管轄違ノ抗辯ヲ爲スコト左ノ如シ 抗辯ノ理由タル事實 原告ハ本件債務ノ履行地ハ何市ナリトシ御應ニ本訴ヲ提起シタルドモ原告ガ本訴ニ引用スル何々契約書ニ依レバ本件債務ハ訴外何某方ニ於テ履行スベキ旨ノ特約アリ而シテ右何某ハ本訴提起ノ日ニ先ダツコト一个月前ニ前住所ヲ引拂ヒ何府縣何郡市町村番地ニ移轉セルヲ以テ何市ハ本件債務ノ履行地ト

云フヲ得ズ然ルニ原告ガ本件ヲ御應ニ提起シタルハ管轄違ナルヲ以テ右抗辯申立候也

疏明書類

一 寄留簿謄本

壹通

一 住居ニ關スル警察署證明書

壹通

年月日

右

被告

何

某殿

何地方裁判所第何民事部

何

某殿

某殿

(注意) 本號抗辯ハ準備手續前ニ提出スル準備書面ニ於テ申立ツルモノ可ナリ

管轄ニ關スル事項ノ證據調ハ凡テ裁判所ノ職權調査ニ屬スルヲ以テ若シ該事項ニ付證人ノ訊問ヲ必要トスル場合ハ證人訊問ノ申立ノ形式ニ依リ之ヲ請求スルヲ得ズ、故ニ證人タルベキ者ヲ裁判所ニ同伴シ其ノ者ニ付訊問アラバ證據明ナル旨ノ上申ヲ爲シ裁判所ノ自由裁量ニ依リ之ガ證據調ノ爲ノ訊問ヲ促スベシ右申立書ノ例 (民訴二八)

管轄ニ關スル事項ニ付證人訊問上申書

申立人 (原告) 何 某 右申立人ト被告何某間御應昭 and 何年 (何) 第何號何々事件ニ付

左記ノ者ヲ御訊問御取調アラバ被告ノ中立ツルガ如キ本件訴訟ガ管轄達ナルノ事實ナキ旨判明可致且證人タルベキ者ハ裁判所ニ出頭致居候條此段及上申候也

年月日 右 證人 何 某
何地方裁判所第何民事部 何 某殿
(何區裁判所第何民事掛) 判事 何 某殿

裁判所ハ其ノ管轄ニ屬スル事件ト雖『著シキ損害又ハ遲滞ヲ避クル爲必要アリト認ムルトキ』ハ申立ニ因リ其ノ訴訟ノ一部又ハ全部ヲ他ノ管轄裁判所ニ移送スルコトヲ得右申立書ノ例(民訴三一)

訴訟移送ノ申立書

住所 族稱 職業 原告 何 某
住所 族稱 職業 被告 何 某

右當事者間御應昭何年(何)第何號何々事件ハ御應ニ於テ御審理ヲ受クルニ於テハ何々ノ理由ニ因リ不測ノ損害ヲ蒙ムルコトナキヲ保シ難ク(又ハ何々ノ理由ニ因リ遲滞ヲ避クルコトヲ得ズ然モ本訴訟ハ速ニ御審理ヲ得ザレバ訴訟ノ目的ヲ達

第三十六條ニ依リ茲ニ除斥申立候也

年月日 原告(又ハ被告) 何 某
何地方裁判所第何民事部 何 某殿
(何區裁判所第何民事掛) 判事 何 某殿
(注意) 除斥又ハ忌避ヲ理由アリトスル決定ニ對シテハ不服ノ申立ヲ許サズ、除斥原因ハ申立ノ日ヨリ三日以内ニ疏明スベシ

判事ニ付裁判ノ公正ヲ妨グベキ事情アルトキ當事者ヨリ之ヲ忌避スル申立書ノ例(民訴三七、三八)

判事忌避申立書

住所 族稱 職業 原告 何 某
住所 族稱 職業 被告 何 某

右當事者間御應昭何年(何)第何號何々事件ハ判事何某ノ擔任ヲ以テ口頭辯論中ノ處右判事何某ト被告(又ハ原告)何某トハ元來同縣人ニシテ且同窓ノ學友タリシ最モ親密ノ間柄ナルヲ以テ人情ノ自然トシテ訴ヲ審理上偏頗ノ恐レアルノミナラズ現ニ何年何月何日被告(又ハ原告)ガ爲シタル最モ必要ナル何々ノ證據ノ申出ヲ却下シタルガ如キ全ク偏頗ノ處置ト信ジ候ニ付(又ハ何々ノ理由ニ因リ)民事訴訟法第三十七

スルヲ得ザル事情有之)候ニ付民事訴訟法第三十一條ニ依リ本訴ノ何々ノ部分(又ハ全部)ヲ何地方區裁判所ニ御移送ノ御決定相成度此段及申立候也

年月日 原告 何 某
何地方裁判所第何民事部 何 某殿
(何區裁判所第何民事掛) 判事 何 某殿
(注意) 移送ノ申立ヲ却下シタル裁判ニ對シテハ不服ノ申立ヲ許サズ

裁判所職員ノ除斥忌避及回避

裁判所職員ニ對シ除斥ノ申立ヲ爲ス例(此ノ申立ハ判事所屬ノ裁判所ニ提出スルモノトス、民訴三五、三六、三八)

判事除斥ノ申立書

住所 族稱 職業 原告 何 某
住所 族稱 職業 被告 何 某

右當事者間御應昭何年(何)第何號何々事件ハ判事何某、何某ノ擔任ヲ以テ口頭辯論中ノ處判事何某ノ婦何某ハ原告(又ハ被告)ノ何々タル親族ナルヲ以テ右判事何某ハ民事訴訟法第三十五條第二號ニ依リ右訴訟事件ニ關シテハ法律上其ノ職務ノ執行ヨリ除斥セラレベキモノナルニ付同法第三十五條及

條ニ依リ茲ニ忌避申立候也

年月日 原告(又ハ被告) 何 某
何地方裁判所第何民事部 何 某殿
(何區裁判所第何民事掛) 判事 何 某殿
(注意) 裁判所書記ニ對シ除斥、忌避ノ申立ヲ爲ス場合ノ書式ノ例モ本號並前號ニ依ルモノトス、前號注意參看

第二章 當事者

當事者能力及訴訟能力

法定代理人ナキ場合又ハ法定代理人ガ代理權ヲ行フコト能ハザル場合ニ訴訟無能力者ニ對シ訴訟行爲ヲ爲サントスル者ガ特別代理人ノ選任ヲ申請スル書面ノ例(民訴五六)

特別代理人選任ノ申請書

住所 族稱 職業 申請人 何 某

右申請人ハ何府縣何郡市町村番地何某ニ對シ何々請求ノ爲當裁判所ニ訴訟ヲ提起セントシタル處(又ハ何年何月何日何々請求ノ訴訟ヲ提起シタル處)右何某ハ突然發狂シ療養中ニシテ訴訟無能力者ト爲リ未ダ其ノ法定代理人無之然モ其ノ選定アルマデ訴訟ヲ遲滞セシムルトキハ訴訟ノ目的物損敗シ(又

ハ何々ノ理由ニ因リ)危害ヲ生ズルノ恐レ有之依テ民事訴訟法第五十六條ニ依リ右事件ノ爲何某ノ特別代理人任命相成度同條ノ規定ニ依リ此段申請候也

附屬書類ノ表示

- 一 何某ノ戸籍謄本 壹通
- 一 醫師何某ノ診斷書 壹通

年月日 申請人 何 某(甲)
何地方裁判所長(何區裁判所監督)判事何 某(殿)

法定代理人ノ代理權ノ消滅ハ之ヲ訴訟ノ相手方ニ通知スルニ非ザレバ其ノ效ナシ右通知書ノ例(民訴五七)(正、副各一)

法定代理人ノ代理權消滅通知書

原告 何 某
被告 未成年者 何 某
右法定代理人 何 某
右當事者間御應昭和何年(何)第何號何々事件ニ付被告ハ法定代理人ニ於テ訴訟進行中ノ處右何某儀昭和何年何月何日何々ノ理由ニ因リ代理權消滅致候條民事訴訟法第五十七條ニ依リ此段及通知候也

右被告未成年者
法定代理人(後見人)

年月日

何地方裁判所第何民事部 判事 何 某(殿)
(何區裁判所第何民事掛)

(注意)(一)本號通知ハ訴訟當事者タル本人ヨリ爲ス場合モ同様書式トス(二)本號通知ニ關スル規定ハ特別代理人、民事訴訟法第四十七條ノ規定ニ依ル多數當事者ノ訴訟ノ代表者、法人ニ非ザル社團又ハ財團ノ代表者若ハ代理人ニモ準用スルモノトス右書式ハ孰レモ本號ニ準ジ作成スベシ

共同訴訟

共同訴訟ノ例(民訴五九)(正一、副ハ被告ノ數ニ應ズ)

共同訴訟(其一)

賣掛代金請求ノ訴

住所	族稱	職業
原告	何	某
住所	族稱	職業
被告	何	某
住所	族稱	職業
被告	何	某

訴ノ目的

原告ハ被告ニ對シ賣掛代金ノ請求ヲ爲スヲ本訴ノ目的トス此ノ訴訟物ノ價額合計金何圓也

請求ノ原因

原告ハ白米商ニシテ被告等ハ得意先ナリ而シテ原告ハ被告何某ニ對シテハ昭和何年何月ヨリ被告何某ニ對シテハ昭和何年何月ヨリ夫々白米ヲ供給シ白米代金ハ孰レモ各月末拂ノ約ナリ然ルニ被告何某ハ昭和何年何月ヨリ同年何月ニ至ル迄供給シタル米何程ニ對スル代金何圓ヲ被告何某ハ昭和何年何月ヨリ同年何月ニ至ル迄供給シタル白米何程ニ對スル代金何圓ヲ孰レモ支拂ヲ爲サザルヲ以テ已ムヲ得ズ本訴請求ニ及ビタル次第ナリ

請求ノ趣旨

被告何某ハ金何圓及右ニ對スル昭和何年何月何日ヨリ完済ニ至ル迄、被告何某ハ金何圓及右ニ對スル昭和何年何月何日ヨリ完済ニ至ル迄各年六分ノ割合ニ依ル金額ヲ原告ニ對シ支拂フベシ、訴訟費用ハ被告等ノ負擔トストノ判決アランコトヲ求ム

證據方法

白米取引帳ヲ以テ立證可致候

添附書類

- 一 白米取引式帳寫 壹通
- 右訴訟提起候也

年月日 原告 何 某(甲)

何地方裁判所長(何區裁判所監督)判事何 某(殿)

(注意)本號ハ共同訴訟ノ一例ニ過ギズ原告ガ共同ナル場合モ本號ニ準ジ作ルベシ、又他ノ共同訴訟タルベキ場合ノ例ハ次號書式參看セラレタシ

他人間ノ訴訟ノ目的ノ全部又ハ一部ヲ自己ノ爲ニ請求スル者ハ其ノ訴訟ノ繫屬中當事者雙方ヲ共同被告トシテ第一審ノ受訴裁判所ニ訴ヲ提起スルコトヲ得右共同訴訟ノ例(民訴六〇)(正一、副ハ被告ノ數ニ應ズ)

共同訴訟(其二)

訴狀

住所	族稱	職業
原告	何	某(甲)
住所	族稱	職業
被告	何	某(乙)
住所	族稱	職業
被告	何	某(丙)

訴ノ目的

被告乙ト被告丙間ノ訴訟ニ係ル何府縣何郡市町村大字番地山林何段何畝何歩ノ上ニ存スル立木何本ノ所有權ノ確認並引渡ヲ求ムルヲ本訴ノ目的トス此ノ訴訟物ノ價額金何圓也

請求ノ原因

原告ハ昭和何年何月何日請求ノ趣旨記載ノ立木ヲ代金何圓ニテ其ノ所有者タル被告丙ヨリ買受ケ既ニ代金ノ支拂ヲ爲シタリ然ルニ被告乙ハ昭和何年何月何日被告丙ヨリ前記山林ヲ立木ト共ニ買受ケタリト爲シ昭和何年何月何日被告丙ニ對シ立木引渡請求訴訟ヲ提起シ目下御廳昭和何年(何)第何號事件トシテ繫續中ナリ然レドモ前記ノ如ク本件ノ立木ハ明ニ原告ノ所有ニ屬スルモノナルヲ以テ本訴ヲ以テ請求ノ趣旨ノ如ク請求ヲ爲ス次第ナリ

請求ノ趣旨

一、被告乙ハ何府縣何郡市町村大字字番地山林何段何畝何歩ノ上ニ存在スル何立木何本ハ原告ノ所有ナルコトヲ確認ス
一、被告丙ハ前項立木ヲ原告ニ引渡スベシ
訴訟費用ハ被告等ノ負擔トストノ判決アランコトヲ求ム

證據方法

一、立木賣渡契約書ヲ以テ立證仕候

添附書類

一 立木契約書寫

右訴訟提起候也

年月日 原告 何 某殿
何地方裁判所長(何區裁判所監督)判事何 某殿

某殿

訴訟參加

訴訟ノ結果ニ付利害關係ヲ有スル第三者ハ其ノ訴訟ノ繫屬中當事者ノ一方ヲ補助スル爲メ訴訟ニ參加スルコトヲ得右訴訟參加ヲ申出ヅル書面ノ例(民訴六四、六五)(正一、副二)

訴訟參加申出書 (其一)

住所 族稱 職業 何 某
原告 何 某
住所 族稱 職業 何 某
被告 何 某
住所 族稱 職業 何 某
訴訟參加申出人 何 某

參加ノ趣旨

右原被告間御廳昭和何年(何)第何號何々事件ノ被告ヲ補助スル爲メ參加致度候

參加ノ理由

本件訴訟ニ於テ若シ被告ノ敗訴スル場合ニハ一、何々(利害關係アル事實關係ヲ記載スルコト)右ノ理由ナルヲ以テ本件被告ヲ補助スル爲メ訴訟參加ノ必要有之候モノナリ

疏明方法

一、何々

右申出候也

右

年月日 訴訟參加申出人 何 某殿

(何地方裁判所第何民事部)判事 何 某殿
(何區裁判所第何民事部)

(注意) 異議ノ申立又ハ上訴ノ提起ニ當リ訴訟參加ヲ爲サントスル者ハ夫々ノ書面ニ訴訟參加ノ趣旨及理由ヲ附記シテ之ヲ爲スベシ

訴訟參加ニ對スル異議申述書ノ例(民訴六六、六七、六八)

(正一、副二)

訴訟參加ニ對スル異議申述書

住所 族稱 職業 何 某
異議申出人(原告) 何 某
住所 族稱 職業 何 某
被告 何 某
住所 族稱 職業 何 某
訴訟參加人 何 某

異議ノ申述

右原被告間御廳昭和何年(何)第何號何々事件ニ付被告ヲ補助スル爲メ昭和何年何月何日右何某ヨリ訴訟參加ノ申出ヲ爲シタル處訴訟參加申出ノ理由タル何々ノ主張ハ(何々ノ理由ナルヲ以テ)之ヲ認メ難ク從テ何某ハ本訴訟ニ利害ノ關係ヲ有ス

第三類 民事 民事訴訟法及附屬法規

ルモノト認ムルヲ得ザルヲ以テ右訴訟參加ニ對シテ異議申述候也

疏明方法

一、何々

年月日 原告 何 某殿
何地方裁判所第何民事部)判事 何 某殿
(何區裁判所第何民事部)

訴訟ノ結果ニ因リテ權利ヲ害セラレタルコトヲ主張スル者又ハ訴訟ノ目的ノ全部又ハ一部ガ自己ノ權利ナルコトヲ主張スル者ハ當事者トシテ訴訟ニ參加スルコトヲ得ルモノトス右申出書ノ例(民訴七一)(正一、副一原告及被告ノ數ニ應ズ)

訴訟參加申出書 (其二)

住所 族稱 職業 何 某
訴訟參加申出人 何 某
住所 族稱 職業 何 某
原告 何 某
住所 族稱 職業 何 某
被告 何 某

訴訟參加ノ目的

右原告何某被告何某間御廳昭和何年(何)第何號何々事件ニ付

原告及被告ヲ相手方トシテ訴訟參加致度候
此ノ訴訟物ノ價額金何圓也

訴訟參加ノ趣旨

- 一、原告ハ訴訟參加人ニ對シ原告ヨリ被告ニ對シ昭和何年何月何日附成立金何圓、辨濟期限昭和何年何月何日、利息一箇月金何圓ナル債權ノ不存在ヲ確認ス
- 一、被告ハ訴訟參加人ニ對シ金何圓及右ニ對シ昭和何年何月何日ヨリ本件債務完済ニ至ル迄年何分ノ割合ニ依ル金額ヲ支拂フベシ

一、訴訟費用ハ原告及被告ノ負擔トス
右ノ如ク御判決アラントヲ求ム

訴訟參加ノ理由

- 一、本件訴訟ニ於テ原告ハ被告ニ對シ昭和何年何月何日成立元金何圓、辨濟期限昭和何年何月何日、利息一箇月金何圓ノ貸金債權ヲ有スト主張シ之ガ裁判ヲ求ムレドモ右債權ハ原告ニ於テ既ニ昭和何年何月何日附ヲ以テ之ヲ訴訟參加人ニ讓渡シ即日原告ヨリ被告ニ對シ債權讓渡ノ通知ヲ發送セルモノニテ爾來本件債權ハ訴訟參加人ニ歸屬セルモノニテ原告ニ於テハ何等ノ請求權ヲ有セザルモノナリ
- 二、本件債務ハ既ニ辨濟期到來セルヲ以テ訴訟參加人ハ被告ニ對シ之ガ支拂ヲ請求シ得ルモノトス依テ原告及被告ニ對シ訴訟參加ノ趣旨ノ如キ請求ニ及ビタルモノナリ

證據方法

一、債權證書、債權讓渡證書及債權讓渡通知書ヲ以テ訴訟參加人ノ主張ヲ立證スルモノナリ
添附書類

一 前記證據方法記載ノ證書
一 何々

右ノ通り訴訟參加申出候也

年 月 日 訴訟參加申出人 何 某殿 某印

(注意) 訴訟參加ハ第一審ニ限ラズ上訴審ニ於テモ之ヲ爲シ得ルモノトス、本號所載ノ設例ハ其ノ一例ニ過ギズ更ニ他ノ場合ノ設例ヲ示サバ左ノ如シ

- 一、破産債權者甲ガ破産管財人乙ニ對シ給付ノ訴ヲ提起シタルニ當リ被告乙ハ原告甲ノ請求ヲ自白セリ此ノ場合他ノ破産債權者丙ハ原告ノ請求ヲ怪シト見テ原告ヲ相手トシテ訴訟參加ヲ申立テ原告ノ請求權不存在確認ヲ求ムル等ノ例ナリ、此ノ訴訟ニ於テ訴訟參加ノ理由アレバ甲丙間ニハ原告ノ請求權ノ不存在ノ確認ノ判決ガ下リ、甲乙間ニハ原告ノ請求棄却ノ判決ガ下ルコトナル
- 二、原告甲ハ被告乙ノ詐欺ニ罹リ乙ヨリ土地ヲ買受ケケル

ハ甲ノ代金支拂義務ノ保證ヲ爲シタリ其ノ後甲ハ乙ノ詐欺ヲ理由トシテ賣買契約ヲ取消シ乙ニ對シ代金債務不存在確認ノ訴訟ヲ提起セリ然ルニ訴訟進行中甲乙共謀シテ丙ヨリ保證債務ヲ履行セシメントシ甲ハ無資力ヲ装ヒ且代金債務不存在ノ請求ヲ拋棄セリ、此ノ時保證人丙ハ乙ヲ相手方トシテ訴訟參加ヲ申立ツルコトヲ得ルナリ若シ訴訟參加ガ理由アリトスレバ甲乙間ニハ代金債務不存在ノ確認判決ガ下リ、乙丙間ニハ保證債務不存在ノ判決ガ下ル

三、株主甲ハ株式会社乙ニ對シ株主總會決議無効ノ訴ヲ提起セリ、然ルニ乙ハ甲ト姪合ヒ甲ノ請求ニ對シ自白ヲ爲セリ、此ノ時他ノ株主丙ハ右ノ決議ハ眞ニ無効ナラザルコトヲ主張シ甲ヲ相手方トシテ訴訟參加ヲ爲シ得ルナリ、若シ參加ガ理由アリトスレバ甲丙間ハ決議無効請求權ノ不存在ノ確認ノ判決トナリ、甲乙間ハ請求棄却ノ判決ガ下ル
以上民事訴訟法第七十一條ノ前段ニ規定セル訴訟ノ結果ニ因リ權利ヲ害セラレタルモノニ該當シ訴訟ノ關係ハ二面關係ナリ

以上ノ設例ニ反シ同條後段ノ場合ノ設例ハ次ノ如シ

一、原告甲ハ所有權ニ基キ被告乙ニ或物件ノ引渡ヲ請求スル訴訟ヲ提起セリ、此ノ時第三者タル丙ハ其ノ物件

ハ自己ノ所有ナリト主張シテ訴訟參加ヲ申立ツルコトヲ得若シ此ノ參加ガ理由アリトスレバ甲乙間ニハ原告ノ請求棄却ノ判決トナリ、甲丙間ニハ丙ノ所有權確認ノ判決トナリ、乙丙間ニハ乙ハ丙ニ對シ物件ノ引渡ヲ命ズル判決トナル

二、原告甲ハ被告乙ヨリ土地ヲ買受ケ登記モ引渡モ受ケザルニ因リ之ニ對シ登記引渡ノ訴訟ヲ提起セリ、然ルニ此ノ訴訟提起前乙ハ第三者タル丙ニ同一土地ヲ賣渡シ(二重賣買)登記ヲ済シタレドモ未ダ引渡ヲ済マサヌ場合ニハ丙ハ甲ト乙間ノ訴訟ニ參加ノ申立ヲ爲シ乙ニハ引渡ヲ求メ、甲ニハ所有權ノ確認ヲ求ムルコトヲ得ル

三、民法第三九五條但書ニ依リ抵當權者甲ガ貸借ノ解除請求ノ訴訟ヲ貸借人乙ヲ被告トシテ提起セリ、此ノ時甲カラ其ノ抵當權ノ讓渡ヲ受ケタル丙ガ參加ヲ爲ス場合ニハ丙ハ甲ニ對シテ抵當權ニ隨伴スル貸借解除請求權ノ存在ノ確認ヲ求メ、乙ニ對シテハ貸借借解除ヲ請求スルコトトナル

民事訴訟法第七十一條ニ依リ自己ノ權利ヲ主張スル爲訴訟ニ參加シタル場合ニ於テハ被參加人ハ相手方ノ承諾ヲ得テ訴訟ヨリ脱退スルヲ得ルモノトス此ノ

申立ヲ爲ス書面ノ例 (民訴七二) (正一、副二)
訴訟参加ニ因ル訴訟脱退申立書

住所 族稱 職業 何 某
 申立人(原告) 何 某
 住所 族稱 職業 何 某
 被告 何 某
 住所 族稱 職業 何 某
 訴訟参加人 何 某
 右當事者間御廳昭和何年(何)第何號何々事件ニ對シ右参加人ニ於テ訴訟参加ノ申出アリタル處被参加人タル原告ニ於テハ本件訴訟ヨリ脱退スルコトニ付被告ノ承諾ヲ得候間本件訴訟ヨリ退脱致度此段及申立候也

年月日 原告 何 某
 何地方裁判所第何民事部 何 某殿
 (何區裁判所第何民事掛) 判事 何 某殿

訴訟ノ繫屬中第三者ガ訴訟ノ目的タル債務ヲ承繼シタルトキハ申立ヲ以テ訴訟ノ引受ヲ爲サシムル旨ノ決定ヲ求ムルコトヲ得右申立書ノ例 (民訴七四) (正一、副二)

訴訟引受ノ申立書

住所 族稱 職業 何 某

原告 何 某
 住所 族稱 職業 何 某
 申立人(被告) 何 某
 住所 族稱 職業 何 某
 訴訟引受人 何 某

右當事者間御廳昭和何年(何)第何號何々請求事件ニ付原告カ被告ニ對シ請求スル所ノ被告ノ何々ノ債務ハ何々ノ事由ニ因リ訴訟引受人何某ニ於テ承繼スルコト相成候ニ付本件訴訟ハ何某ヲシテ引受ケシムル旨ノ御決定相成度民事訴訟法第七十四條ニ依リ此段及申立候也

一、何々 疏明方法
 一、何々 附屬書類

年月日 申立人(被告) 何 某
 何地方裁判所第何民事部 何 某殿
 (某區裁判所第何民事掛) 判事 何 某殿

訴訟ノ目的ガ當事者ノ一方及第三者ニ付合一ニノミ確定スベキ場合ニハ其ノ第三者ハ共同訴訟人トシテ訴訟ニ参加スルコトヲ得右申立書ノ例 (民訴七五) (正一、副二)

訴訟参加(共同訴訟人トシテ)申出書(其四)

(本號書式ハ訴訟参加ニ準ジ作成スベシ)

(注意) 本號申出書ニハ共同訴訟人トシテ訴訟参加スル旨ヲ附加スベシ

訴訟ノ當事者ハ訴訟ノ繫屬中参加ヲ爲スヲ得ル第三者ニ其ノ訴訟ノ告知ヲ爲スコトヲ得告知セントスル者ハ理由及訴訟ノ程度ヲ記載シタル書面ヲ裁判所ニ提出シテ之ヲ爲スモノトス右告知書ノ例 (民訴七七、正一、副二)

訴訟告知書

住所 族稱 職業 何 某(丙)
 被告 何 某

右被告何某(丙)ハ原告何府縣何郡市町村番地何某(乙)ヨリ何府縣何郡市町村大字字番地所在木造瓦葺二階家建坪何坪ノ家屋引渡ノ訴追ヲ受ケ當裁判所何年(何)第何號事件トシテ繫屬シ既ニ何年何月何日第一回ノ口頭辯論ヲ終リ更ニ何年何月何日ヲ以テ辯論續行期日ト定メラレタル處右係爭家屋ハ被告(丙)ガ何年何月何日何府縣何郡市町村番地何某(甲)ヨリ買受ケタルモノニシテ右何某(甲)ハ被告(丙)ニ對シ賣主トシテ擔保ノ責任アリ從テ訴訟ニ於テ若シ被告(丙)ガ敗訴スルトキハ賣主タル右何某(甲)ニ對シ擔保ノ請求ヲ爲シ得ベシト信ズル

ニ因リ右何某(甲)ニ對シ前記ノ訴訟ヲ告知致度民事訴訟法第六十七條ニ依リ訴訟告知書提出候也

年月日 被告 何 某
 何地方裁判所第何民事部 何 某殿
 (何區裁判所第何民事掛) 判事 何 某殿

訴訟代理人及輔佐人

訴訟委任狀 (其一)

何府縣何郡市町村番地何某ヲ以テ訴訟代理人ト爲シ左ニ掲グル行爲ヲ爲ス權限ヲ授與ス

一、自分ヨリ何府縣何郡市町村番地何某ニ對スル請求ノ總テノ訴訟行爲ヲ爲スコト(又ハ原告何府縣何郡市町村番地何某ヨリ自分ニ對スル何々請求事件ノ訴訟行爲ヲ爲スコト)

一、右訴訟代理人何某ニ於テ必要アルトキハ前項ノ行爲ニ付複代理人ヲ任ズルコト(複代理人タルベキ者ヲ制限セント欲スルトキハ「右訴訟代理人何某ニ於テ必要アルトキハ前項ノ行爲ニ付何府縣何郡市町村番地何某ヲ以テ其ノ複代理人ニ任ズルコト」ト記スベシ)

住所

年月日

(注意)法令ニ依リ裁判上ノ行爲ヲ爲スコトヲ得ル代理人ノ外辯護士ニ非ザレバ訴訟代理人タルコトヲ得ズ但シ區裁判所ニ於テハ許可ヲ得テ辯護士ニ非ザル者ヲ訴訟代理人ト爲スコトヲ得、右許可申請書ハ當事者及訴訟ヲ表示シテ何府縣何郡市町村番地何某ヲ自分ノ訴訟代理人タラシメタキニ付許可アリ度旨ヲ記載シテ提出スベシ、尙補佐人許可申請書ヲ参照スベシ

同上

訴訟委任狀 (其二)

拙者儀辯護士 氏ヲ代理人ニ選任シ左ノ權限ヲ委任ス

一、自分ヨリ何府縣何郡市町村番地何某ニ對シ何々請求ノ訴訟ヲ爲ス權限

一、民事訴訟法第八十一條第二項第一號乃至第四號ノ行爲ヲ爲ス特別權限

右訴訟委任狀依而如件

昭和 年 月 日 住所 職業 何 某

委任ノ解除ニ因ル委任消滅通知書ノ例 (民訴八七、五七) (正、副各一)

何地方裁判所第何民事部 何 某殿 (何區裁判所第何民事掛)

輔佐人許可申請書ノ例 (民訴八八)

住所 族稱 職業 原告 何 某 被告 何 某

右當事者間ノ御廳何年(何)第何號何々請求事件ニ付何府縣何郡市町村番地何某ヲ以テ右原告(又ハ被告)何某ノ輔佐人タルコトノ許可相成度民事訴訟法第八十八條ニ依リ此段申請候也

年月日 原告(又ハ被告) 何 某殿 (何地方裁判所第何民事部) 何 某殿 (何區裁判所第何民事掛)

第三章 訴訟費用

訴訟費用ノ負擔

訴訟費用確定決定申立書ノ例 (民訴一〇〇、次號ノ書式參看) (正、副各一)

訴訟費用額確定ノ申立書

第三類 民事 民事訴訟法及附屬法規

訴訟委任解除ニ因ル委任消滅通知書

右當事者間御廳昭和何年(何)第何號何々事件ニ付右辯護士何某ヲシテ被告ノ代理人タラシメシ處昭和何年何月何日右ノ委任ヲ解除シ代理權消滅シタルニ付民事訴訟法第八十七條及第五十七條ニ依リ原告ニ對シ通知ノ爲本書提出候也

年月日

何地方裁判所第何民事部 何 某殿 (何區裁判所第何民事掛)

委任ノ謝絶ニ因ル委任消滅通知書ノ例 (同上)

訴訟委任ノ謝絶ニ因ル委任消滅通知書

御廳何年(何)第何號原告何某被告何某間何々請求事件ニ付原告(又ハ被告)何某ノ委任ニ因リ自分ニ於テ其ノ訴訟代理人タリシ處何年何月何日自分ニ於テ其ノ委任ヲ謝絶シ右委任ハ消滅シタルニ付民事訴訟法第八十七條ニ依リ被告(又ハ原告)ニ對シ通知ノ爲本書提出候也

年月日

原告(又ハ被告)訴訟代理人 何 某殿

住所 族稱 職業 原告 何 某 被告 何 某

右當事者間ノ御廳何年(何)第何號何々請求事件ニ付何年何月何日何裁判所ノ執行力アル判決ニ因リ被告(又ハ原告)何某ニ於テ訴訟費用ノ全部又ハ一部ヲ負擔スベク確定致候ニ付右費用額決定相成度民事訴訟法第百條ニ依リ別紙費用計算書相手方ニ付與スベキ計算書ノ謄本及各箇費用額ノ疏明ニ必要ナル證書ヲ添附シ此段申立候也

年月日 原告(又ハ被告) 何 某殿 (何地方裁判所第何民事部) 何 某殿 (何區裁判所第何民事掛)

前號ノ申立書ニ添附スベキ費用計算書ノ例 (民訴一〇〇)

訴訟費用計算書

住所 族稱 職業 原告 何 某 被告 何 某

右當事者間ノ何裁判所何年(何)第何號何々訴訟事件ニ付被告(又ハ原告)ノ負擔スベキ訴訟費用額ヲ計算スルコト左ノ如シ

- 金何圓 何年何月何日提出訴狀貼附收入印紙代
- 金何錢 同上訴狀何枚認料
- 金何圓 同上訴狀提出ノ爲何裁判所ニ出頭日當
- 金何圓 同上出頭旅費何地ヨリ何裁判所迄里程何里
- 金何錢 同上訴狀送達手數料及旅費
- 金何圓 何年何月何日口頭辯論ノ爲出廷日當
- 金何圓 同上出頭旅費何地ヨリ何裁判所迄里程何里
- 金何圓 證人何某申出書貼附印紙料
- 金何錢 證人何某呼出狀送達料
- 金何錢 判決正本送達手數料及旅費
- 金何錢 何々
- 合計金何圓也

(右ノ合計金額ニ對シ判決ニ因リ被告(又ハ原告)ガ其ノ一部ヲ負擔スベキトキハ「此ノ合計金額ニ對シ判決ニ依リ被告(又ハ原告)ノ負擔スベキ何分ノ若干ハ金何圓何錢」ト附記スベシ)

年月日 原告(又ハ被告) 何 某◎
 (何地方裁判所第何民事部) 判事 何 某殿
 (何區裁判所第何民事掛) 判事 何 某殿
 (注意) 右計算書ハ謄本ヲ添へ且各費用ニ對スル疏明書類ヲ添附スルヲ要ス

法廷ニ於テ和解ヲ爲シタル場合ニ於ケル訴訟費用確定決定申立書ノ例 (訴訟當事者ガ法廷ニ於テ和解ヲ爲シタル場合ニ訴訟費用ノ負擔ニ關シ和解ヲ爲スモ其ノ額ヲ定メザルトキハ訴訟費用確定決定ノ申立ニ因リ其ノ負擔額ヲ定ムルモノトス、民訴一〇三)

訴訟費用(法廷和解ニ基ク)確定決定ノ申立書

(本號申立書ノ書式ハ前々號ニ準ジ作成スベシ)
 (注意) 以上ノ外訴ノ取下等裁判ニ因ラズシテ訴訟ヲ完結シタル場合ニ訴訟費用額ヲ定メ負擔ヲ命ズル旨ノ決定ヲ求ムル申立書モ前號ニ準ジ作成スベシ(民訴一〇四)
 裁判所ガ訴訟費用ノ裁判ヲ脱漏シタル場合ニモ以上民訴一〇四ノ準用ニ依リ訴訟費用額確定決定ノ申立ヲ爲シ得ルモノトス但シ本案ニ付適法ノ控訴アリシトキハ其ノ效ヲ失フモノトス

訴訟費用ノ擔保

訴訟費用擔保提供申立書ノ例(日本ニ住所、事務所又ハ營業所ヲ有セザル者ヨリ訴訟ヲ受ケタル被告ハ原告ニ對シ訴訟費用ノ擔保ヲ提供スベキコトヲ命セラレタキ旨申立ツルコトヲ得、民訴一〇七)

訴訟費用擔保提供申立書

住所 族稱 職業

申立人(被告) 何 某
 原告何某ヨリ右被告ニ對スル御廳昭和何年(何)第何號何々事件ニ付原告何某ハ日本ニ住所(又ハ營業所若ハ事務所)ヲ有セザルコトハ原告提出ノ訴狀ニ依ルモ明瞭ナルニ付原告ニ對シ訴訟費用ノ擔保ヲ提供スベキ旨命セラレ度民事訴訟法第七條ニ依リ此段及申立候也

年月日 右 何 某◎
 (何地方裁判所第何民事部) 判事 何 某殿
 (何區裁判所第何民事掛) 判事 何 某殿

訴訟費用ニ付擔保ヲ提供シタル者ガ擔保提供ノ事由消滅シタルカ或ハ擔保取消ニ付相手方ノ同意ヲ得タルコトヲ證明シテ擔保ノ取消ヲ求ムル爲爲ス申立書ノ例(民訴一一五)

訴訟費用擔保取消ノ申立書

住所 族稱 職業
 假住所
 原告 何 某
 右原告ヨリ被告何某ニ對スル御廳昭和何年(何)第何號何々事件ニ付曩ニ被告ノ申立ニ因リ原告ニ對シ訴訟費用ノ擔保ヲ提供スベキ旨御命令相成直ニ御命令通り擔保提供致置候今般右擔保ノ取消ニ付擔保權利者ノ同意ヲ得(又ハ何々ノ理由ヨリ

擔保ヲ提供スベキ事由消滅)候間右擔保取消ノ御決定相成度民事訴訟法第一百五條ニ依リ此段及申立候也

疏明方法

一、擔保權利者ノ擔保取消ニ付テノ同意證書ヲ以テ證明致候

添附書類 右 壹通

年月日 右 何 某◎
 (何地方裁判所第何民事部) 判事 何 某殿
 (何區裁判所第何民事掛) 判事 何 某殿

訴訟上ノ救助
 訴訟上救助申立書ノ例(民訴一一八、一二九、次號ノ書式參看)

訴訟上救助ノ申立書

住所 族稱 職業
 申立人 何 某
 右申立人ハ何年何月何日火災ニ因リテ其ノ家産一切ヲ失ヒ殊ニ何年ヨリ何々ノ病氣ニ罹リ爾來赤貧洗フガ如ク唯左記訴訟關係ニ表明スル何某ヨリ何々月賦辨濟金ヲ以テ糊口ノ資ト爲スニ過ギズ然ルニ何某ハ月賦金ノ辨濟ヲ爲サザルニ因リ之ニ對シ其ノ請求ノ訴訟ヲ提起セントスルモ貧困前記ノ如クシテ自己及家族ノ必要ナル生活ヲ害スルニ非ザレバ到底訴訟費用

ヲ出スニ由ナク依テ民事訴訟法第十八條ニ依リ第一審及強制執行ノ費用ニ付訴訟上ノ救助ヲ得度左ニ訴訟關係及證據方法ヲ開示シ別紙市長(町村長)ノ證明書ヲ添附シ此段申立候也

訴訟關係ノ表明

右申立人ハ何年何月何日何府縣何郡市町村番地何某ニ對シ當時何分ノ餘資アリシヲ以テ毎月末日何圓宛月賦ニテ辨濟スベク若シ一個月ニテモ滞リタルニ於テハ全額一時ニ返濟スルノ約ヲ以テ金何圓ヲ貸與シタルニ右何某ハ何年何月分マデハ之ヲ辨濟ヲ爲シタルモ何年何月分以後ノ分ニ付テハ催促ヲ爲スモ今日ニ至ルマテ遂ニ其ノ辨濟ヲ爲サズ依テ本申立ニ依リ訴訟上ノ救助ヲ得テ之ヲ請求ヲ爲サントスル次第ニ有之

證據方法ノ開示

右何某ノ月賦返金借用證書ヲ以テ申立人ノ債權ヲ證明致候

年月日

右

申立人

何

某

何地方裁判所長(何區裁判所監督判事)何 某殿

前號ノ救助申立ニ添附スベキ市(町村)長ノ證明書ノ例

訴訟上ノ救助ニ關シ申立人ノ資産證明書

住所 族稱 職業

何

某

右何某方何府縣何郡市町村番地何某ニ對シ月賦金辨濟請求ノ訴訟ヲ提起セントシ訴訟上ノ救助ヲ何裁判所ニ申立テントスルニ關シ右何某ノ身分、職業、財産並家族ノ實況及其ノ納ムベキ直税ノ額ニ付證明ヲ爲スコト左ノ如シ

- 一、身分、職業 右申立人何某ノ身分ハ何府縣何郡市町村番地族稱戸主ニシテ其ノ職業ハ無職業(又ハ何々)ナリ
- 二、財産 申立人ノ財産ハ住宅ハ管内何某ノ所有ニシテ不動産ハ勿論、動産ニ付テモ器具、寢具等日常起居、飲食ノ用ヲ辨ズル物ノ外財産トシテ見ルベキモノナシ
- 三、家族ノ實況 申立人ノ家族ハ其ノ妻(又ハ何々)アレドモ平常他人ノ家ニ雇ハレ其ノ賃銀ヲ以テ辛フジテ自己ノ生活ヲ爲スニ止マリ時トシテ雇主ナキトキハ自己ノ生活ニサヘ困難スルノ狀ニ在リ
- 四、納ムベキ直税ノ額 前記ノ次第ナルヲ以テ直税トシテ納ムベキモノナシ

之ヲ要スルニ右何某ハ訴訟ヲ爲スニ付其ノ費用支拂ノ資力ナキモノト認定ス

年月日

何市町村長

何

訴訟上ノ救助ヲ受ケタル者ノ一時無報酬ニテ辯護士ノ附添ヲ命ゼラレンコトヲ上申スル書面ノ例(民訴一

一九、一三五)

辯護士附添命令ノ上申書

住所 族稱 職業

何

某

右上申人原告(又ハ被告)何某ハ御應何年(何)第何號原告(又ハ被告)何某ニ對スル何々請求事件ニ付何年何月何日(何)第何號決定ヲ以テ訴訟上ノ救助ヲ付與セラレタル處右上申人ハ訴訟手續ニ通ゼズ充分ナル權利伸張(又ハ防禦)ヲ爲スコト能ハズ依テ一時無報酬ヲ以テ辯護士ノ附添ヲ命ゼラルルノ決定相成度此段上申候也

年月日

右

何

某

何地方裁判所第何民事部(何區裁判所第何民事掛)判事 何 某殿

第四章 訴訟手續

口頭辯論

辯論ノ制限、分離又ハ併合ヲ命ズルコトハ裁判所ノ自由裁量ノ範圍ニ屬シ當事者ノ申立ニ因リテ始メテ之ガ決定ヲ爲スモノニ非ザルモ當事者ヨリ之ガ上申ヲ爲スハ之ヲ妨ゲザル所ナリトス右辯論併合ノ上申ヲ爲ス書面ノ例(民訴一三二)

第三類 民事 民事訴訟法及附屬法規

辯論併合ノ上申書

原告 何 某
被告 何 某

右當事者間御應何年(何)第何號何々事件ハ目下御應第何民事部ニ繫屬中ナル御應何年(何)第何號何々事件ト其ノ訴ノ目的全ク同種ニテ且其ノ請求原因モ全ク同一ナル事實關係ニ在ルヲ以テ之ヲ併合ノ上御審理下サラバ雙方ノ當事者間ニ費用ト努力ヲ省キ得ルノ便宜有之モノト信ゼラレ且右各當事者間ニ於テモ異議無之ニ付右訴訟ヲ併合スルノ御命令相成度此段上申候也

年月日

右

原告

何

某

被告

何

某

何地方裁判所第何民事部(何區裁判所第何民事掛)判事 何 某殿

結審スル旨決定セラレタル訴訟ニ付再開ヲ命ゼラレタキ旨ヲ上申スル書面ノ例(民訴一三三)

辯論再開ノ上申書

原告 何 某
被告 何 某

右當事者間御應何年(何)第何號何々事件ハ昭和何年何月何日ノ口頭辯論期日ニ於テ結審スル旨御申渡シ相成候得共何

々ノ點ニ關スル原告ノ主張ヲ立證スベク準備致シ置候處何々ノ事由ニ因リ錯誤ノ爲メサザリシコト後ニ至リ發見致シ候故ニ若シ幸ニシテ本件訴訟ノ辯論再開アラシカ原告ノ本懐之ニ過ギズ候依テ茲ニ辯論再開ノ命アラシコトヲ上申候也

年月日 原告 何 某殿
何地方裁判所第何民事部(何區裁判所第何民事掛)判事 何 某殿

訴訟記録閱覽請求書ノ例(民訴一五一)

訴訟記録閱覽申請書

原告 何 某
被告 何 某

右當事者間御廳昭和何年(何)第何號何々事件ノ訴訟記録閱覽致度騰寫致度候ニ付民事訴訟法第一百五十一條ニ依リ此段請求候也

年月日 原告(被告) 何 某
何地方(區)裁判所第何民事部(掛)書記何 某殿

訴訟記録ノ正本、謄本、抄本ノ交付ヲ裁判所書記ニ請求スル書面ノ例(民訴一五一)

訴訟記録ノ正本(謄本、抄本)交付請求書

年月日 原告 何 某
被告 何 某

右當事者間御廳昭和何年(何)第何號何々事件ニ付昭和何年何月何日言渡サレタル判決ニ基キ被告ニ對スル假執行ノ保證トシテ金何圓ヲ供託シタルコトヲ御證明相成度民事訴訟法第一百五十一條ニ依リ此段請求候也

訴訟ニ關スル事項ノ證明書ヲ裁判所書記ニ請求スル書面ノ例(民訴一五一)

訴訟ニ關スル事項ノ證明書交付請求書

原告 何 某
被告 何 某

右當事者間御廳昭和何年(何)第何號何々事件ニ付昭和何年何月何日言渡サレタル判決ニ基キ被告ニ對スル假執行ノ保證トシテ金何圓ヲ供託シタルコトヲ御證明相成度民事訴訟法第一百五十一條ニ依リ此段請求候也

原告 何 某
被告 何 某

右當事者間御廳昭和何年(何)第何號何々事件ノ訴訟記録中昭和何年何月何日ノ口頭辯論調書ノ正本(又ハ謄本)(若ハ何々ノ部分ニ對スル抄本)御交付相成度民事訴訟法第一百五十一條ニ依リ此段請求候也

年月日 原告(被告) 何 某
何地方(區)裁判所第何民事部(掛)書記何 某殿

(注意) 第三者ヨリ本號請求ヲ爲スニハ利害關係アルコトヲ疏明スルヲ要ス

何地方(區)裁判所第何民事部(掛)書記何 某殿
(注意) 右證明書ハ正本二通ヲ提出シ一通ニ證明ノ奥書ヲ得テ交付ヲ受クルヲ例トス

期日及期間

期日指定申立書ノ例(民訴一五二、三項)

期日指定ノ申立書

原告 何 某
被告 何 某

右當事者間ノ何年(何)第何號何々請求事件ノ口頭論期日指定相成度此段申立候也

年月日 原告(又ハ被告) 何 某
何地方裁判所第何民事部(何區裁判所第何民事掛)判事 何 某殿

口頭辯論ニ於ケル最初ノ期日ハ顯著ナル事由ノ存セザルトキト雖當事者ノ合意アルトキハ其ノ變更ヲ許サルモノトス右變更申請書ノ例(民訴一五二、四項)

期日變更ノ申請書

原告 何 某
被告 何 某

右當事者間御廳昭和何年(何)第何號何々事件ノ最初ノ口頭辯

論期日ヲ昭和何年何月何日ト定メラレタル處右原告(又ハ被告)ニ於テ何々ノ事由有之候ニ付口頭辯論期日ノ變更相成度相手方ノ同意ヲ得此段申請候也

年月日 原告 何 某
原告ノ申請ニ同意ス

原告 何 某
被告 何 某

何地方裁判所第何民事部(何區裁判所第何民事掛)判事 何 某殿

送達

受訴裁判所ノ所在地ニ住所、居所、營業所又ハ事務所ヲ有セザル者ガ其ノ裁判所ノ所在地ニ送達ヲ受クベキ場所又ハ受取人ヲ定メテ之ヲ届出ヅル書面ノ例(民訴三七〇)

送達受取場所(受取人)届書
住所 族稱 職業 原告(被告) 何 某

送達受取場所 何府縣郡市町村番地 何 某
(送達受取人 何府縣郡市町村番地 何 某)

右原告何某被告何某間御廳昭和何年(何)第何號何々事件ニ關スル總テノ送達ハ右送達受取場所(又ハ右送達受取人)へ御

送達相成度民事訴訟法第七十條ニ依リ此段及御届候也

年月日 原告 何 某殿 某◎
何地方(區)裁判所書記 何 某殿

當事者ノ住所、居所其ノ他送達ヲ爲スベキ場所ガ知レザル場合及外國ニ於テ送達ヲ爲ス場合ニ民事訴訟法第七十五條ニ依ルコト能ハザルカ若ハ之ニ依ルモ其ノ效ナシト認ムルトキハ公示送達ノ申立ヲ爲スコトヲ得右申立書ノ例(民訴一七八)

公示送達ノ申立書

住所 族稱 職業 原告 何 某
住所 族稱 職業 被告 何 某

右當事者間御廳昭和何年(何)第何號何々事件ノ訴狀前記被告ニ送達セラレタル處住所知レザル趣ナルヲ以テ更ニ搜索シタルニ居住事務所其ノ他送達ヲ爲スベキ場所ヲ知ルコト能ハザルニ付民事訴訟法第七十八條ニ依リ公示送達相成度此段及申立候也

疏明方法

一 何々

年月日 原告 何 某殿 某◎
何地方裁判所第何民事部(何區裁判所第何民事掛)判事 何 某殿

裁判 判決ニ違算、書損其ノ他之ニ類スル明白ナル誤謬アルトキハ申立ニ因リ其ノ更正ヲ求ムルコトヲ得右申立書ノ例(民訴一九四)

判決更正ノ申立書(其一)

原告 何 某 被告 何 某

右當事者間御廳昭和何年(何)第何號何々事件ノ判決正本昭和何年何月何日送達相成候處其ノ主文中「被告ハ原告ニ對シ金何圓及利息金何圓ヲ支拂フベシ」トアルモ判決理由中説明ニ示ス如ク利息ハ一个月何圓ノ割合ナルヲ以テ昭和何年何月何日ヨリ同年何月何日迄ノ利息ノ總計ハ金何圓ト爲リ隨テ右主文中利息計算額ハ違算ト信ジ候ニ付民事訴訟法第九十四條ニ依リ御更正相成度此段及申立候也

年月日 原告 何 某殿 何地方裁判所第何民事部(何區裁判所第何民事掛)判事 何 某殿

同上

判決更正ノ申立(其二)

原告 何 某 被告 何 某

右當事者間御廳昭和何年(何)第何號何々事件ノ判決正本昭和何年何月何日送達相成候處被告ノ表示ヲ被告何某外一名ト有之候ニ付右「外一名」ノ記載ヲ住所、族稱、職業被告何某ト御更正相成度民事訴訟法第九十四條ニ依リ此ノ段及申立候也

年月日 原告 何 某殿 某◎
何地方裁判所第何民事部(何區裁判所第何民事掛)判事 何 某殿

請求ノ一部ニ付裁判ヲ脱漏シタルトキハ訴訟ハ其ノ請求ノ部分ニ付仍裁判所ニ繫屬スルモノトス此場合ニ右請求ノ部分ニ對シ裁判ノ進行ヲ求ムル爲期日ノ指定ヲ申立ツル書面ノ例(民訴一九五、一項)

裁判ヲ脱漏シタル請求ノ部分ニ付テ

口頭辯論期日指定ノ申立書

原告 何 某 被告 何 某

右當事者間御廳昭和何年(何)第何號何々事件ニ付昭和何年何

年月日 原告 何 某殿 某◎
何地方裁判所第何民事部(何區裁判所第何民事掛)判事 何 某殿

訴訟費用ニ付テノ裁判ヲ脱漏シタル場合ニハ申立ニ因リ訴訟費用ノミニ付テノ裁判ヲ求ムルコトヲ得右申立書ノ例(民訴一九五、二項)

訴訟費用ニ付テノ裁判申立書

原告 何 某 被告 何 某

月何日言渡サレタル判決ノ正本同年何月何日送達相成候處原告ガ本件ニ於テ主張シタル請求中何々ノ部分ニ對スル裁判脱漏致居候ニ付右請求ノ部分ニ對スル裁判相成ル爲口頭辯論期日御指定相成度民事訴訟法第九十五條第一項ニ依リ此段及申立候也

年月日 原告 何 某殿 何地方裁判所第何民事部(何區裁判所第何民事掛)判事 何 某殿

右當事者間御廳昭和何年(何)第何號事件ニ付昭和何年何月何日言渡サレタル判決ノ正本同年何月何日送達相成候處右判決ニハ訴訟費用ニ關スル裁判脱漏致居候ニ付更ニ右ニ對シ裁判相成度民事訴訟法第九十五條第二項ニ依リ此段及申立候也

訴訟費用ニ付テノ裁判申立書

原告 何 某 被告 何 某

右當事者間御廳昭和何年(何)第何號事件ニ付昭和何年何月何日言渡サレタル判決ノ正本同年何月何日送達相成候處右判決ニハ訴訟費用ニ關スル裁判脱漏致居候ニ付更ニ右ニ對シ裁判相成度民事訴訟法第九十五條第二項ニ依リ此段及申立候也

何地方裁判所第何民事部 (何區裁判所第何民事部) 判事 何 某殿
(注意) 本號申立ヲ爲ス際ニハ民事訴訟法第百四條ノ準用ニ依リ費用計算書並其ノ謄本及費用額ノ疏明ニ必要ナル書面ヲ添付スルヲ要ス

財産上ノ請求ニ關スル判決ニ付テハ裁判所ハ必要アリト認ムルトキハ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ擔保ヲ供シ又ハ供セズシテ假執行ノ宣言ヲ爲スコトヲ得ルモノトス右申立書ノ例(民訴一九六、一項)(正、副各一)

假執行宣言ノ申立書

原告 何 某
被告 何 某
右當事者間御應昭何年(何)第何號何々事件ニ對シ原告勝訴ノ場合ニハ擔保ヲ供シ本件判決ハ假ニ執行スルコトヲ得ル旨御宣言相成度民事訴訟法第百九十六條第一項ニ依リ此段及申立候也

年月日 原告 何 某
何地方裁判所第何民事部 (何區裁判所第何民事部) 判事 何 某殿
(注意) 訴訟ノ提起ト同時ニ訴狀中ニテ假執行ノ宣言ヲ求ムル場合ニハ本件判決ニ對シ擔保ヲ條件トスル假執行

ノ宣言相成度候」ト記スベシ

同上ノ場合被申立人ヨリ假執行ヲ免ルルヲ得ル旨ノ宣言ヲ求ムル申立書ノ例(民訴一九六、二項)(正、副各一)

假執行ヲ免ルル旨ノ宣言ノ申立書

原告 何 某
被告 何 某
右當事者間御應昭何年(何)第何號何々事件ニ付原告勝訴ノ判決アリタル場合假執行ノ宣言アルニ於テハ被告ノ蒙ルベキ損害甚大ナルニ付被告ニ於テ擔保ヲ供シ其ノ假執行ヲ免ルルヲ得ル旨ノ御宣言相成度民事訴訟法第百九十六條第二項ニ依リ此段及申立候也

年月日 原告 何 某
何地方裁判所第何民事部 (何區裁判所第何民事部) 判事 何 某殿

假執行ノ宣言ヲ附シタル第一審判決執行ノ結果或給付ヲ爲シタル被告ガ控訴審ニ於テ被告勝訴ノ場合ニ曩ニ給付シタルモノノ返還ヲ命ゼラレタキ旨ノ判決アランコトヲ求ムル申立書ノ例(民訴一九八、二項)(正、副各一)
假執行ノ宣言ニ基キ被告ガ給付シタル

モノノ返還ヲ命ゼラレタキ旨ノ申立書

控訴人 何 某
被控訴人 何 某
右當事者間御應昭何年(何)第何號何々控訴事件ニ付控訴人勝訴ノ御判決相成ル場合ニハ本件第一審ノ假執行ノ宣言ヲ附サレタル判決ニ基キ被告ヨリ原告ニ給付シタル金何圓及假執行ニ因リ被告ノ蒙リタル損害金何圓ヲ被控訴人ハ控訴人ニ支拂フベシト命ゼラレ度民事訴訟法百九十八條第二項ニ依リ此段及申立候也

年月日 控訴人 何 某
何控訴院民事第何部判事 何 某殿
(注意) 本號申立ヲ控訴狀ニ記載スル場合ニハ本號ニ準ジ請求ノ趣旨中ニ記載スベシ

裁判所書記ノ處分ニ對スル異議申立書

住所 族稱 職業 原告 何 某
住所 族稱 職業 被告 何 某
右異議申立人ハ原告何某被告何某間御應昭何年(何)第何號

何々事件ニ付利害關係ヲ有スル者ナルヲ以テ其ノ旨ヲ疏明シ右訴訟記録ノ閱覽請求ヲ爲シタル處御應昭何民事部所屬書記何某ハ異議申立人ニ於テハ本件訴訟ニ利害關係ナシトノ理由ニ依リ閱覽請求ヲ拒絕シタリ然レドモ右ハ何等法定ノ根據ナキ不當ノ處分ナルヲ以テ茲ニ異議申立候也
年月日 原告 何 某
何地方裁判所長(何區裁判所監督)判事何 某殿

訴訟手續受繼申立書

住所 族稱 職業 原告 何 某
住所 族稱 職業 被告 何 某
右當事者間御應昭何年(何)第何號何々請求事件ハ何年何月何日右原告(又ハ被告)何某死亡シタル爲其ノ訴訟手續中斷シタル處右原告(又ハ被告)ノ承繼人タル自分ニ於テ其ノ訴訟手續ノ中斷及中止
原告若ハ被告死亡シ訴訟手續中斷シタル場合其ノ承繼人ガ訴訟手續ヲ受繼スル申立書ノ例(民訴二〇八以下此ノ他ノ中斷シタル訴訟手續ノ受繼ヲ申立ツル場合モ之ニ準ジ作ルベシ)(正、副各一)

訟手續ヲ受繼候ニ付民事訴訟法第二百八條ニ依リ此段及申立候也

年月日

右原告(又ハ被告)何某承繼人

何 某[㊟]

何地方裁判所第何民事部(何區裁判所第何民事掛)判事 何 某殿

(注意)此ノ書面ハ受訴裁判所ニ差出スベク受訴裁判所ハ之ヲ相手方ニ送達スベシ

原告又ハ被告ガ不定期間ノ故障ニ因リ訴訟手續ヲ續行スルコト能ハザルトキ訴訟手續ノ中止ヲ上申スル書面ノ例(民訴二二)

訴訟手續ノ中止上申書

住所 族稱 職業

原告

何 某

住所 族稱 職業

被告

何 某

右當事者間ノ御廳何年(何)第何號何々事件ニ付訴訟手續續行中ノ處右原告(又ハ被告)ノ住所地ハ傳染病流行ノ爲何年何月何々ノ命令ヲ以テ交通ヲ遮斷セラレ訴訟手續ノ續行ヲ爲スヲ得ザルニ因リ右障碍ノ消除スルマデ右事件ノ訴訟手續ノ中止ヲ命ゼラレ度此段上申候也

右

年月日

原告(又ハ被告)何
何地方裁判所第何民事部(何區裁判所第何民事掛)判事 何 某殿

某[㊟]

四四六

昭和八年二月十五日印刷納本濟
昭和八年二月二十日發行

編輯者

東京市杉並區高圓寺四丁目五四九番地

早乙女三郎

發行者

東京市杉並區高圓寺四丁目五四九番地

井上喜一

印刷者

東京市牛込區若松町五十四番地

大杉直次郎

發行所

東京市杉並區高圓寺四丁目五四九番地

大日本行政學會

振替 東京六九五八一番
口座

加除 現行法令大全 第拾四號加
自在 除追錄與付

